

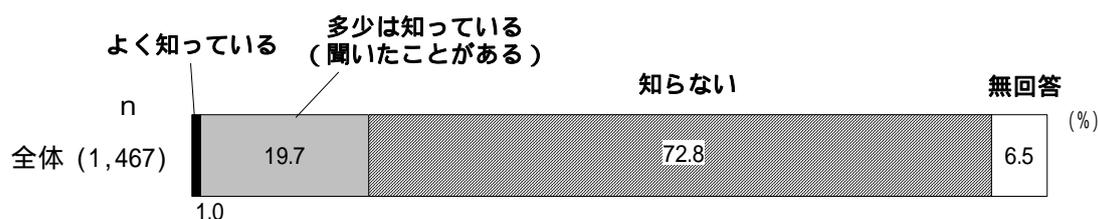
1 健康と福祉について

(1) 「新たな地域福祉像」の認知度

『知っている』は2割。「知らない」が7割を超える

問1 あなたは、平成16年3月に県が策定・公表した「千葉県地域福祉支援計画」で示された「新たな地域福祉像」(誰もが、ありのままに、その人らしく、地域で暮らすことができる)について知っていますか。(は1つ)

<図表1 - 1> 「新たな地域福祉像」の認知度



「新たな地域福祉像」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(1.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(19.7%)を合わせた、『知っている』(20.7%)が2割となっている。一方で、「知らない」(72.8%)は7割を超え最も多い。(図表1 - 1)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『知っている』	「知らない」
平成17年度調査	1,081	21.3	78.0
今回調査	1,467	20.7	72.8

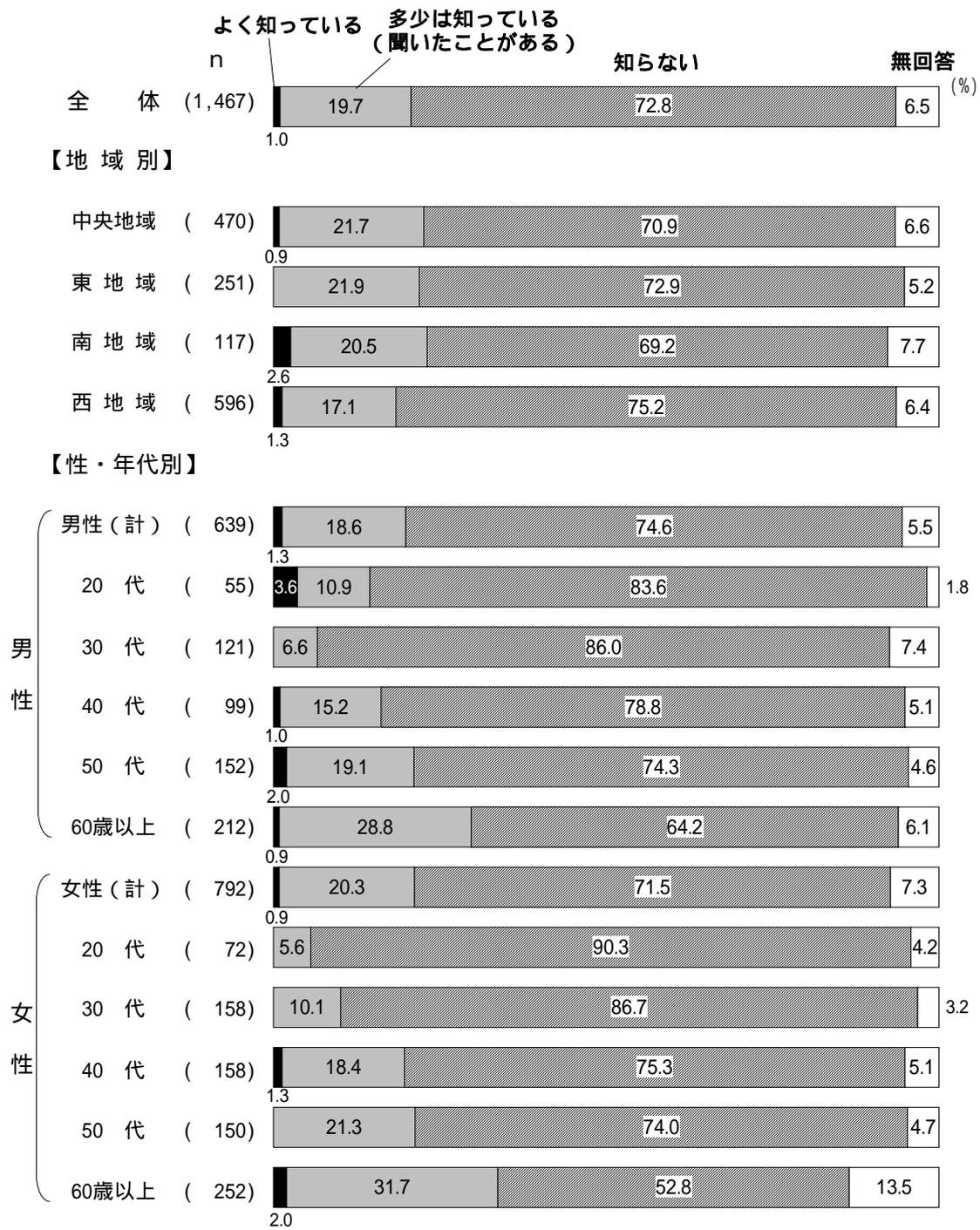
【地域別】

『知っている』に大きな差はないが、“西地域”(18.4%)で約2割と他の地域に比べ低くなっている。(図表1 - 2)

【性・年代別】

『知っている』は、20代以外の全ての年代で女性の方が男性よりも高くなっている。また、男女ともに年代が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられ、60歳以上では3割前後となっている。(図表1 - 2)

<図表1 - 2> 「新たな地域福祉像」の認知度 / 地域別、性・年代別

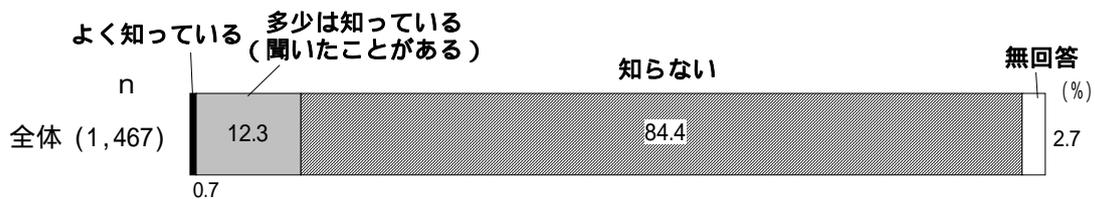


(2) 「健康福祉千葉方式」の認知度

『知っている』が1割台半ば。「知らない」は8割台半ば

問2 あなたは、「千葉県地域福祉支援計画」など各種計画やアクションプランの策定にあたり用いられた「健康福祉千葉方式」(対象者横断的な施策展開と当事者を含めた民間と行政の協働を特徴とした健康福祉施策の推進手法)について知っていますか。(は1つ)

<図表1 - 3> 「健康福祉千葉方式」の認知度



「健康福祉千葉方式」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(0.7%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(12.3%)を合わせた『知っている』(13.0%)は1割台半ばとなっている。一方で、「知らない」(84.4%)は8割台半ばで最も多い。(図表1 - 3)

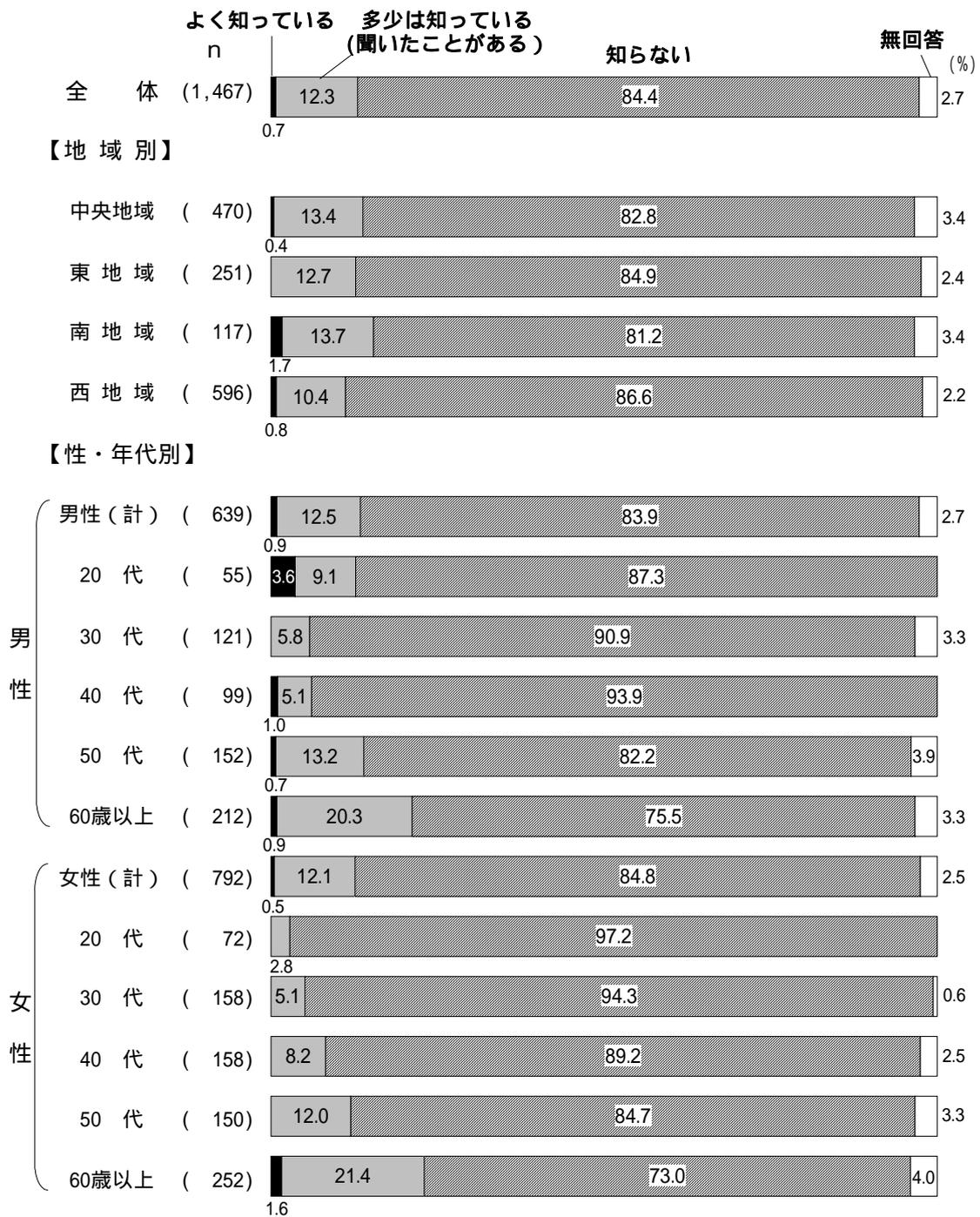
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表1 - 4)

【性・年代別】

『知っている』は男女ともに60歳以上で高く、ともに2割を超える。(図表1 - 4)

<図表1 - 4> 「健康福祉千葉方式」の認知度 / 地域別、性・年代別



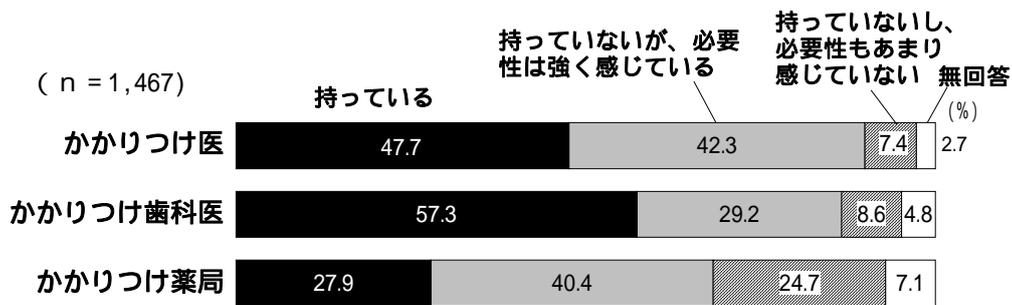
(3) かかりつけ医の有無

かかりつけ歯科医を約6割、かかりつけ医を約5割が持っている

問3 あなたの過去の病歴や体質などを知っていて、気軽に相談に応じてくれるとともに、必要などときには他の専門機関等を紹介してくれる、身近な医師（歯科医・薬局）を、「かかりつけ医（歯科医・薬局）」と呼んでいます。

あなたは、「かかりつけ医（歯科医・薬局）」をお持ちですか。（はそれぞれ1つずつ）

<図表1-5> かかりつけ医の有無



かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は、歯科医（57.3%）で約6割、医師（47.7%）で約5割だが、薬局（27.9%）では約3割である。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は、医師（42.3%）と薬局（40.4%）で4割を超えている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は、薬局（24.7%）で2割台半ばとなっている。（図表1-5）

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

（単位：％）

	n 全体		「持っている」	「持っていないが、必要性は強く感じている」	「持っていないし、必要性もあまり感じていない」
平成17年度調査	1,081	かかりつけ医	49.6	39.3	10.0
今回調査	1,467		47.7	42.3	7.4
平成17年度調査	1,081	かかりつけ 歯科医	55.0	30.2	11.4
今回調査	1,467		57.3	29.2	8.6
平成17年度調査	1,081	かかりつけ薬局	27.1	39.3	26.7
今回調査	1,467		27.9	40.4	24.7

【地域別】

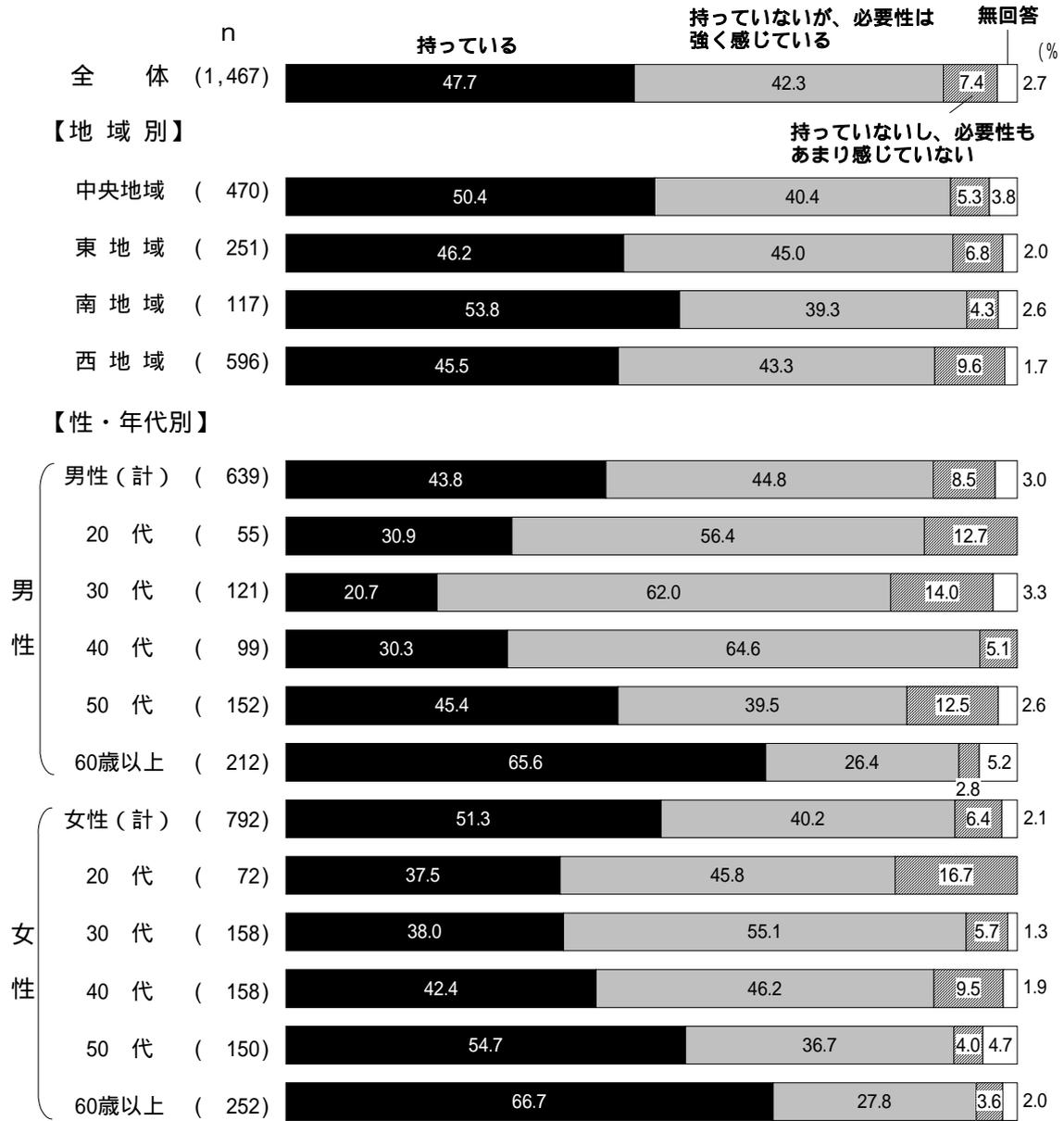
かかりつけ医を「持っている」は、“南地域”（53.8%）で他に比べ高いが、歯科医と薬局は、逆に“南地域”で低くなっている。（図表1-6）

【性・年代別】

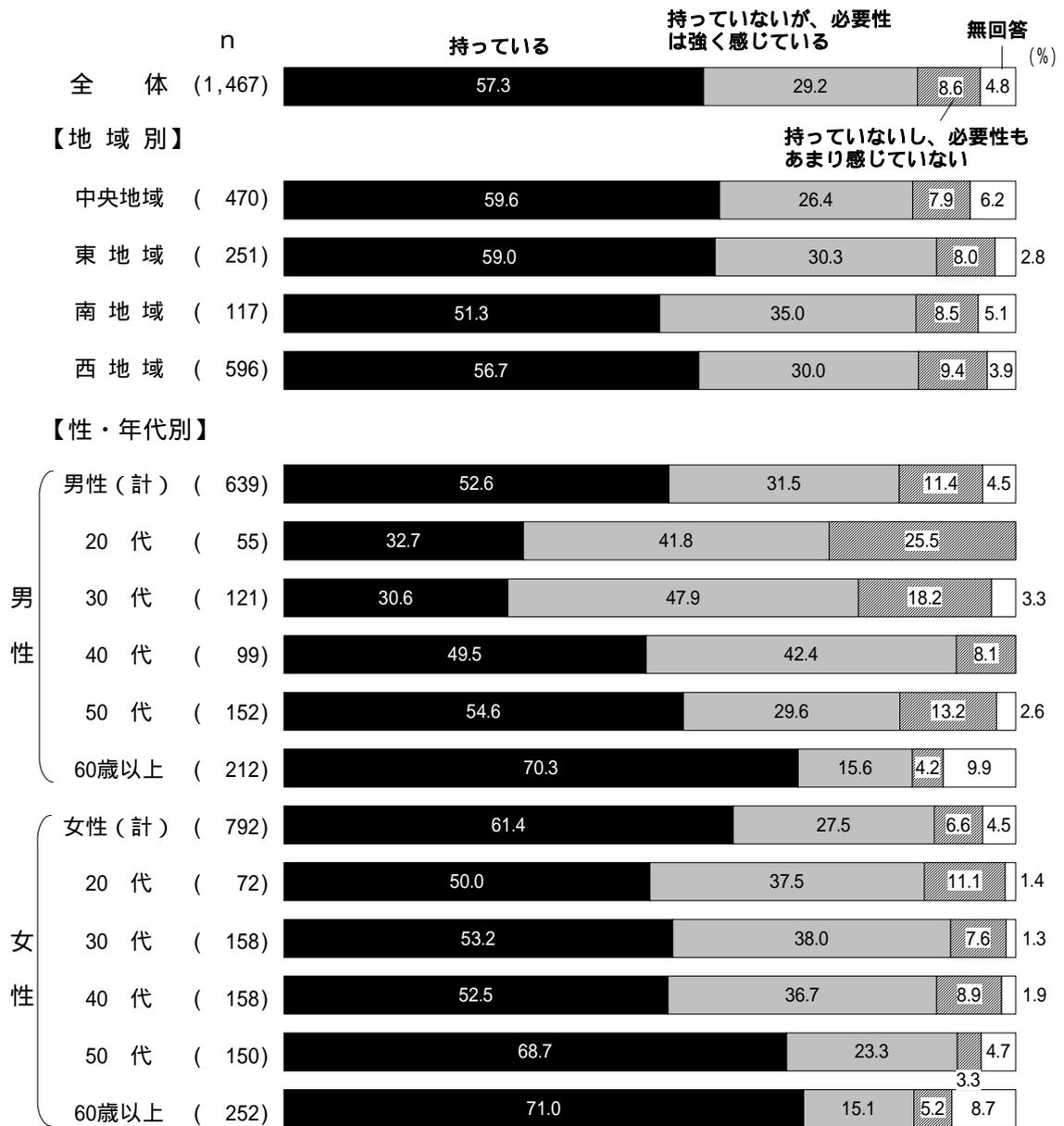
医師、歯科医、薬局いずれの場合も、各年代で女性の方が男性よりも「持っている」が高く、特に、医師では30～40代、歯科医では20～30代において、その年代の性別による差が顕著である。また、男女とも年代が上がるほどかかりつけを持つ割合が高くなっている。（図表1-6）

<図表1 - 6> かかりつけ医の有無/地域別、性・年代別

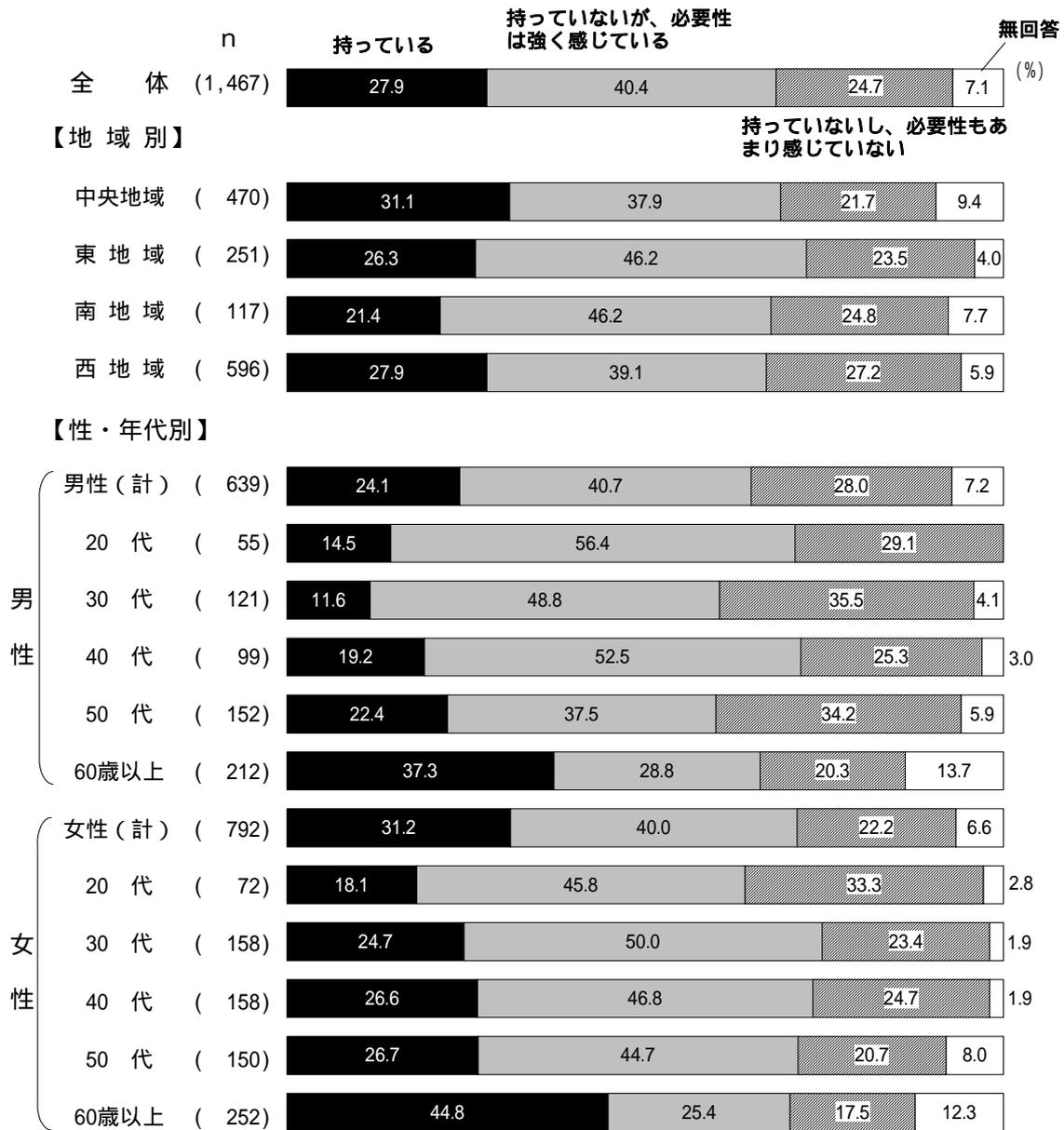
かかりつけ医



かかりつけ歯科医



かかりつけ薬局

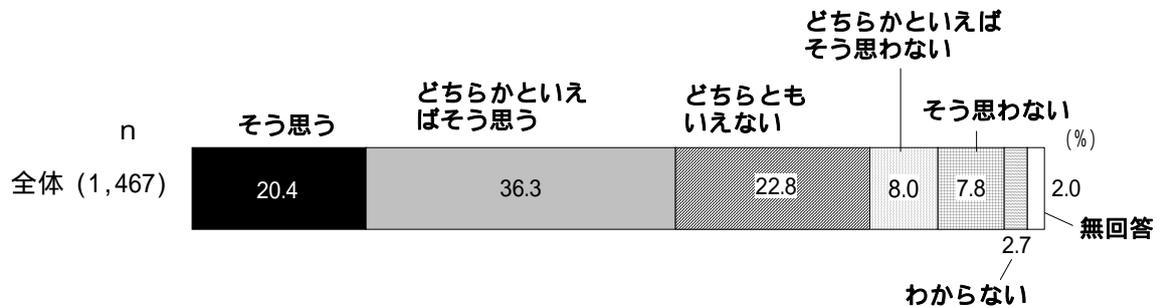


(4) ありのままの姿での生活

『そう思う』が5割台半ば

問4 あなたは、自分がありのままの姿で、地域において明るく楽しく生活していると思いますか。(は1つ)

<図表1 - 7> ありのままの姿での生活



自身がありのままの姿で生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」(20.4%)と「どちらかといえばそう思う」(36.3%)を合わせた『そう思う』(56.7%)が5割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.0%)と「そう思わない」(7.8%)を合わせた『そう思わない』(15.8%)は1割台半ばとなっている。(図表1 - 7)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『そう思う』	『そう思わない』
平成17年度調査	1,081	53.9	15.5
今回調査	1,467	56.7	15.8

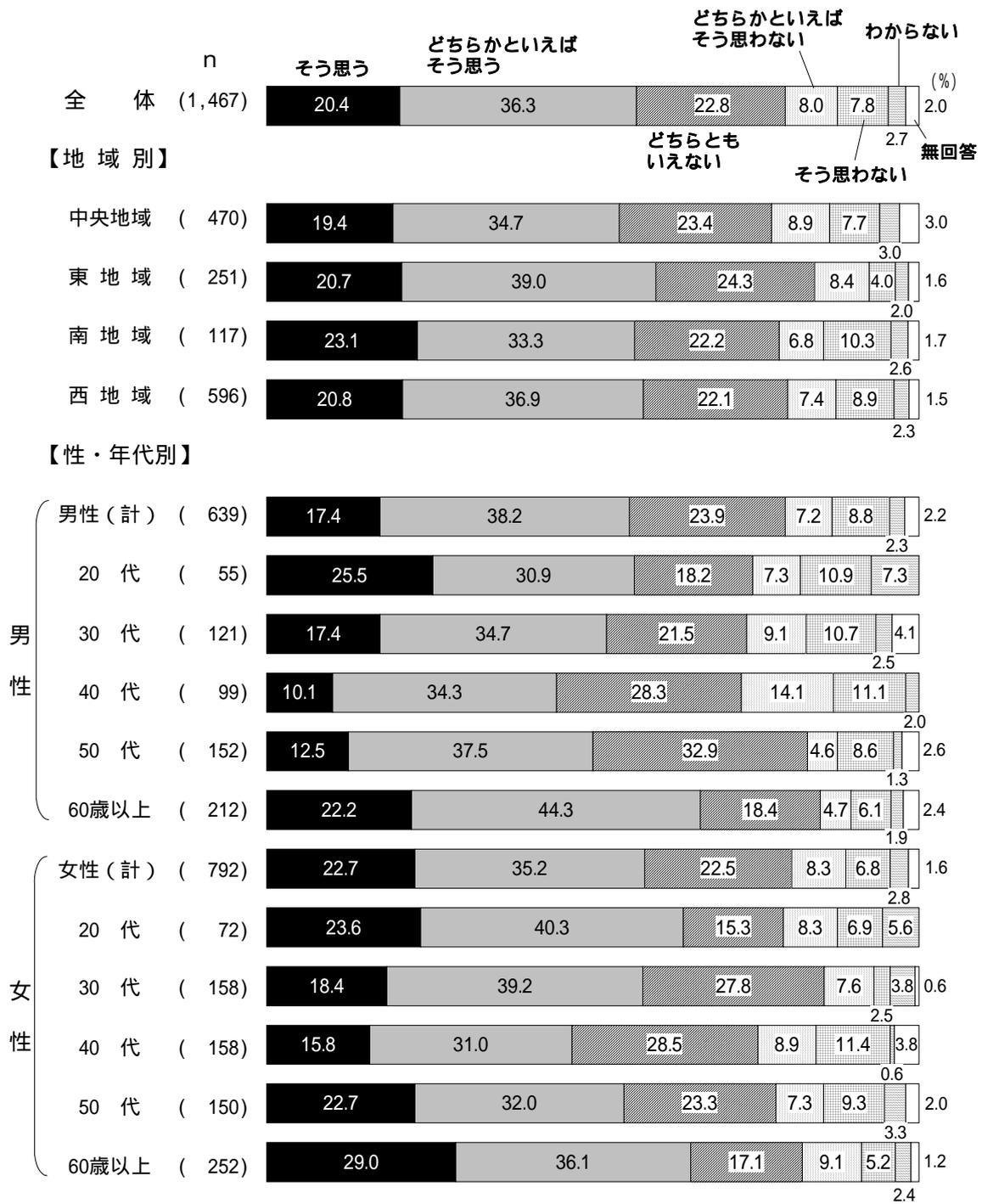
【地域別】

『そう思う』は“東地域”(59.7%)が約6割で、他の地域に比べて最も高くなっている。(図表1 - 8)

【性・年代別】

男女ともそれぞれ40代で『そう思う』が低くなっている。そのため、特に男性の40代は『そう思わない』(25.2%)が2割台半ばで、他の年代に比べて高い。(図表1 - 8)

<図表1 - 8> ありのままの姿での生活 / 地域別、性・年代別

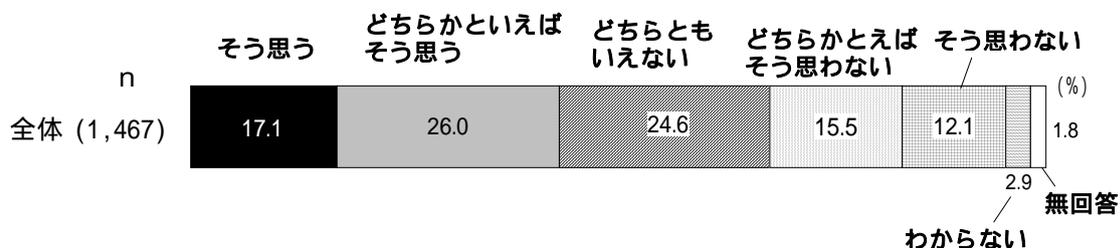


(5) 健康づくりに取り組むことができる環境

『そう思う』が4割台半ば

問5 あなたは、自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思いますか。
(は1つ)

<図表1 - 9> 健康づくりに取り組むことができる環境



自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.1%)と「どちらかといえばそう思う」(26.0%)を合わせた『そう思う』(43.1%)は4割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.5%)と「そう思わない」(12.1%)を合わせた『そう思わない』(27.6%)は約3割である。(図表1 - 9)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『そう思う』	『そう思わない』
平成17年度調査	1,081	42.1	26.1
今回調査	1,467	43.1	27.6

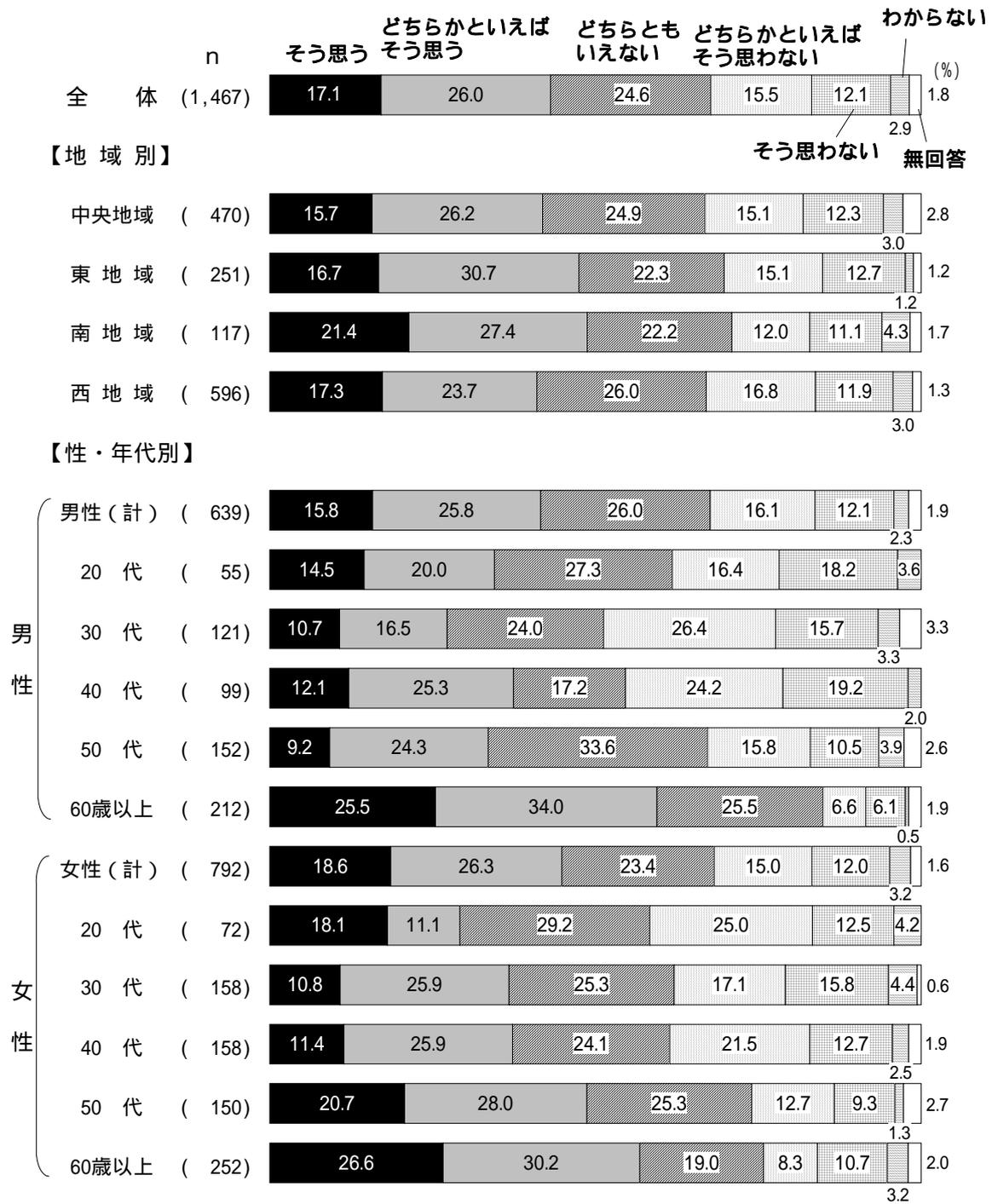
【地域別】

『そう思う』は、“東地域”(47.4%)と“南地域”(48.8%)で約5割と他の地域に比べて高くなっている。(図表1 - 10)

【性・年代別】

『そう思う』は、男性では60歳以上(59.5%)で約6割と高くなっている。女性では年代が上がるほど増加し、60歳以上(56.8%)で5割台半ばとなっている。(図表1 - 10)

<図表1 - 10> 健康づくりに取り組むことができる環境 / 地域別、性・年代別

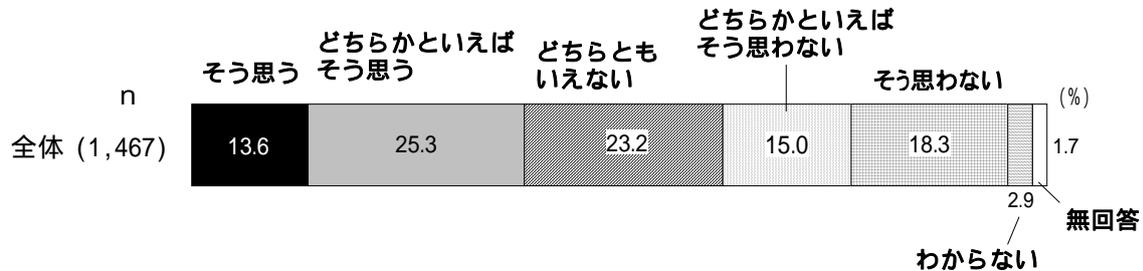


(6) 安心して受診できる医療体制

『そう思う』は約4割

問6 あなたは、自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思いますか。
(は1つ)

<図表1-11> 安心して受診できる医療体制



住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.6%)と「どちらかといえばそう思う」(25.3%)を合わせた『そう思う』(38.9%)は約4割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.0%)と「そう思わない」(18.3%)を合わせた『そう思わない』(33.3%)は3割台半ばとなっている。(図表1-11)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『そう思う』	『そう思わない』
平成17年度調査	1,081	42.4	30.1
今回調査	1,467	38.9	33.3

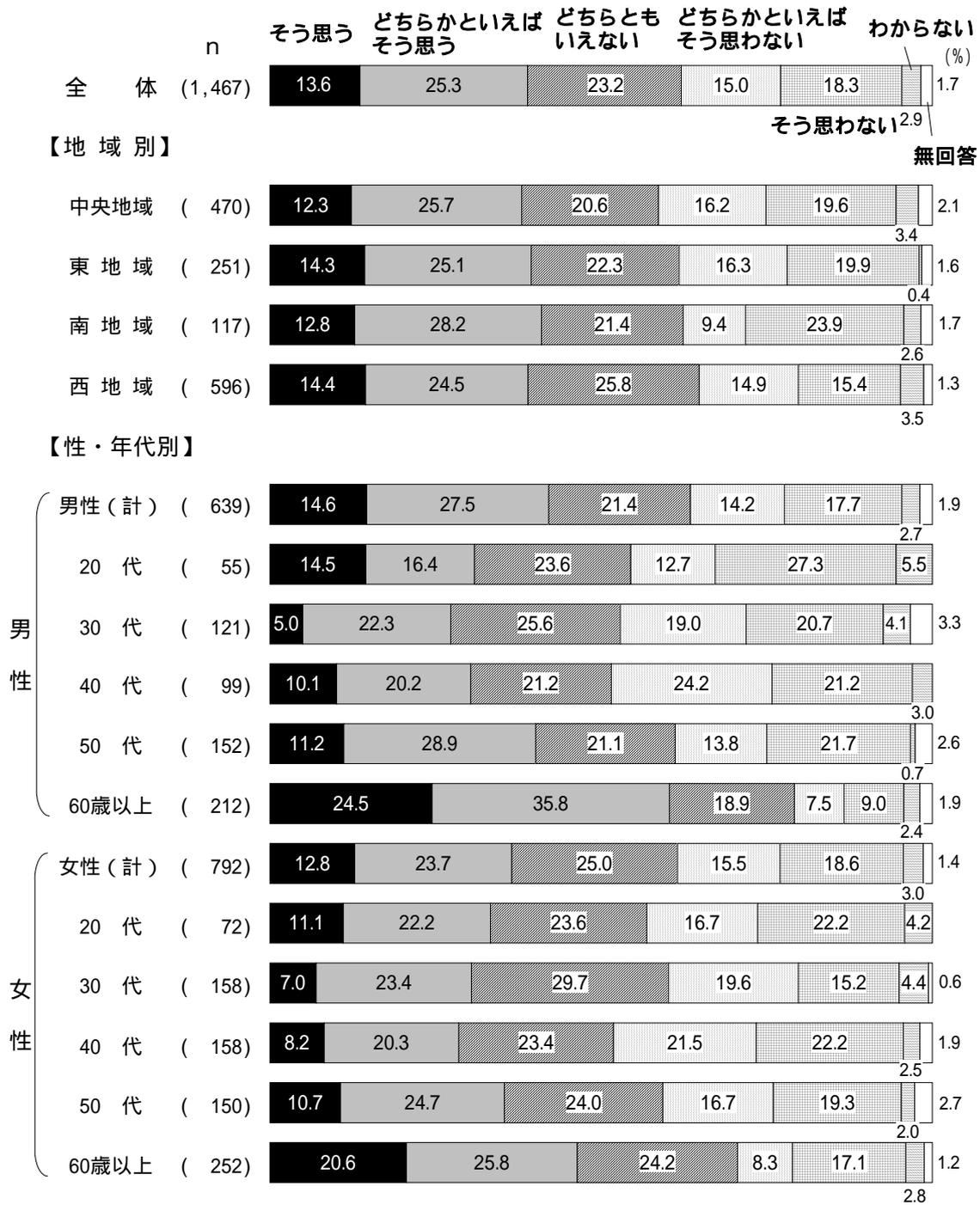
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表1-12)

【性・年代別】

『そう思う』は、男性では30代(27.3%)、女性では40代(28.5%)で落ち込んでいる。男女ともに60歳以上で『そう思う』が高く、特に、男性(60.3%)では6割となっている。(図表1-12)

<図表1 - 12> 安心して受診できる医療体制 / 地域別、性・年代別

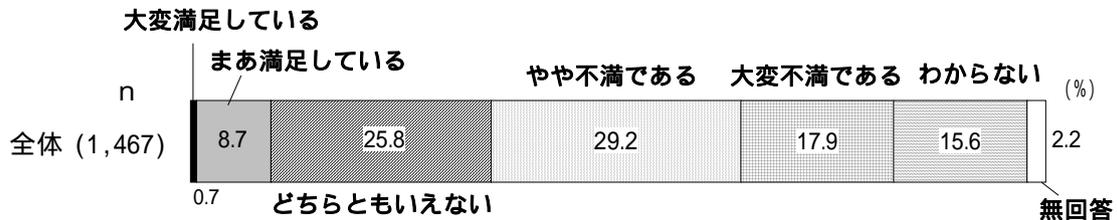


(7) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度

『不満である』が約5割

問7 あなたは、お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について満足していますか。
(は1つ)

<図表1-13> お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度



お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(0.7%)と「まあ満足している」(8.7%)を合わせた『満足している』(9.4%)が約1割となっている。一方、「やや不満である」(29.2%)が約3割、「大変不満である」(17.9%)が約2割で、これらを合わせると、『不満である』(47.1%)は約5割となっている。(図表1-13)

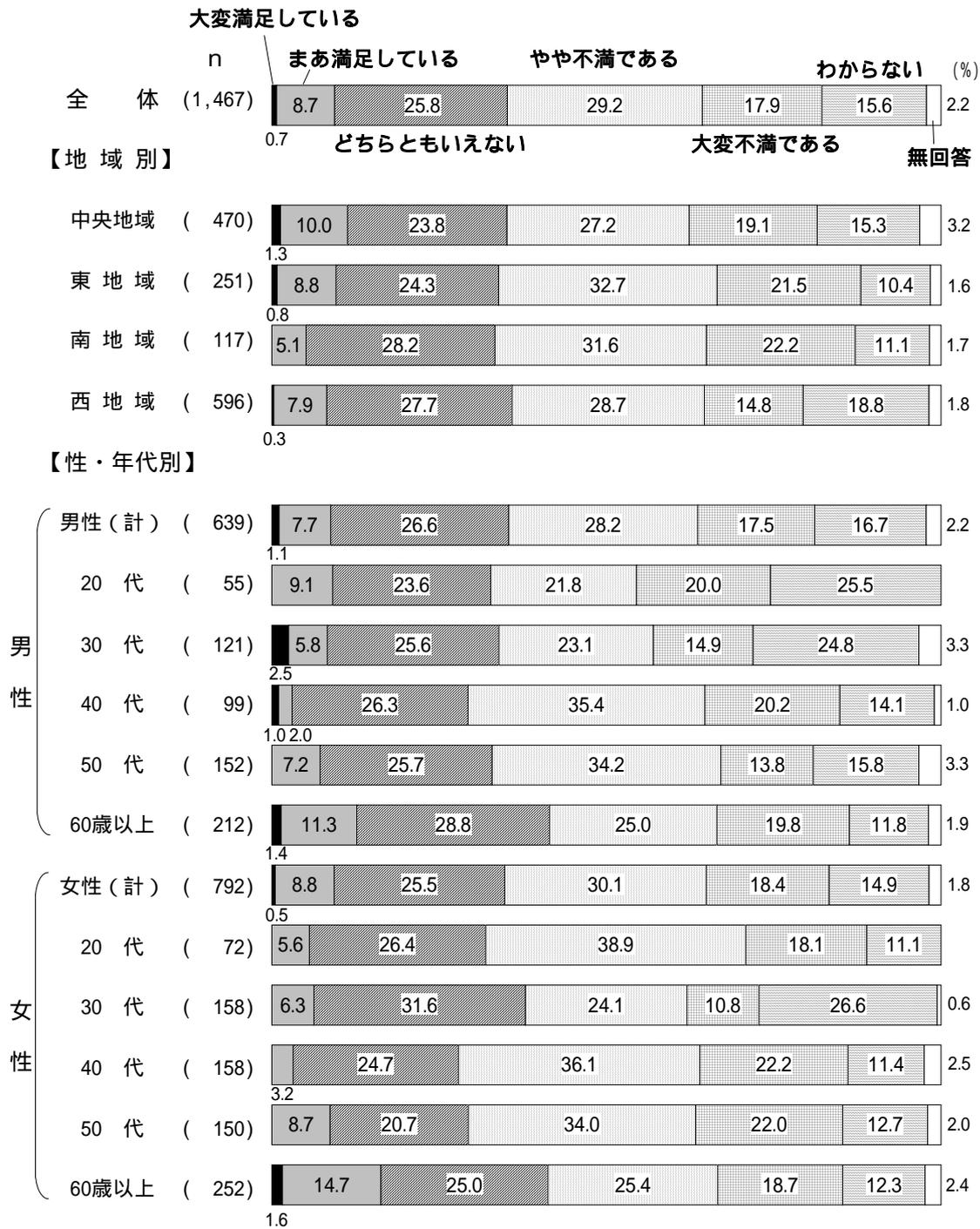
【地域別】

『満足している』で地域による大差はみられないが、『不満である』は“東地域”(54.2%)と“南地域”(53.8%)では5割を超えている。(図表1-14)

【性・年代別】

『満足している』は、男性の60歳以上(12.7%)で1割を超え、女性の60歳以上(16.3%)で1割台半ばと、他の年代に比べてやや高い。一方、『不満である』は、男性の40代(55.6%)、女性の20代(57.0%)、40代(58.3%)、50代(56.0%)で5割を超え高くなっている。(図表1-14)

<図表1 - 14> お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度 / 地域別、性・年代別

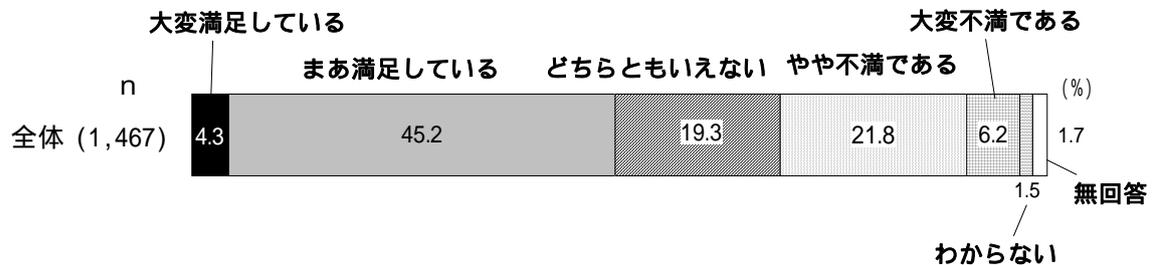


(8) 自分や家族の健康についての満足度

『満足している』が約5割

問8 あなたは、自分や家族の健康について満足していますか。(は1つ)

<図表1 - 15> 自分や家族の健康についての満足度



自分や家族の健康についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.3%)と「まあ満足している」(45.2%)を合わせた『満足している』(49.5%)が約5割となっている。一方、「やや不満である」(21.8%)と「大変不満である」(6.2%)を合わせた『不満である』(28.0%)は約3割である。(図表1 - 15)

〔参考〕平成16年度・平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『満足している』	『不満である』
平成16年度調査	1,433	74.7	12.8
平成17年度調査	1,081	55.0	23.9
今回調査	1,467	49.5	28.0

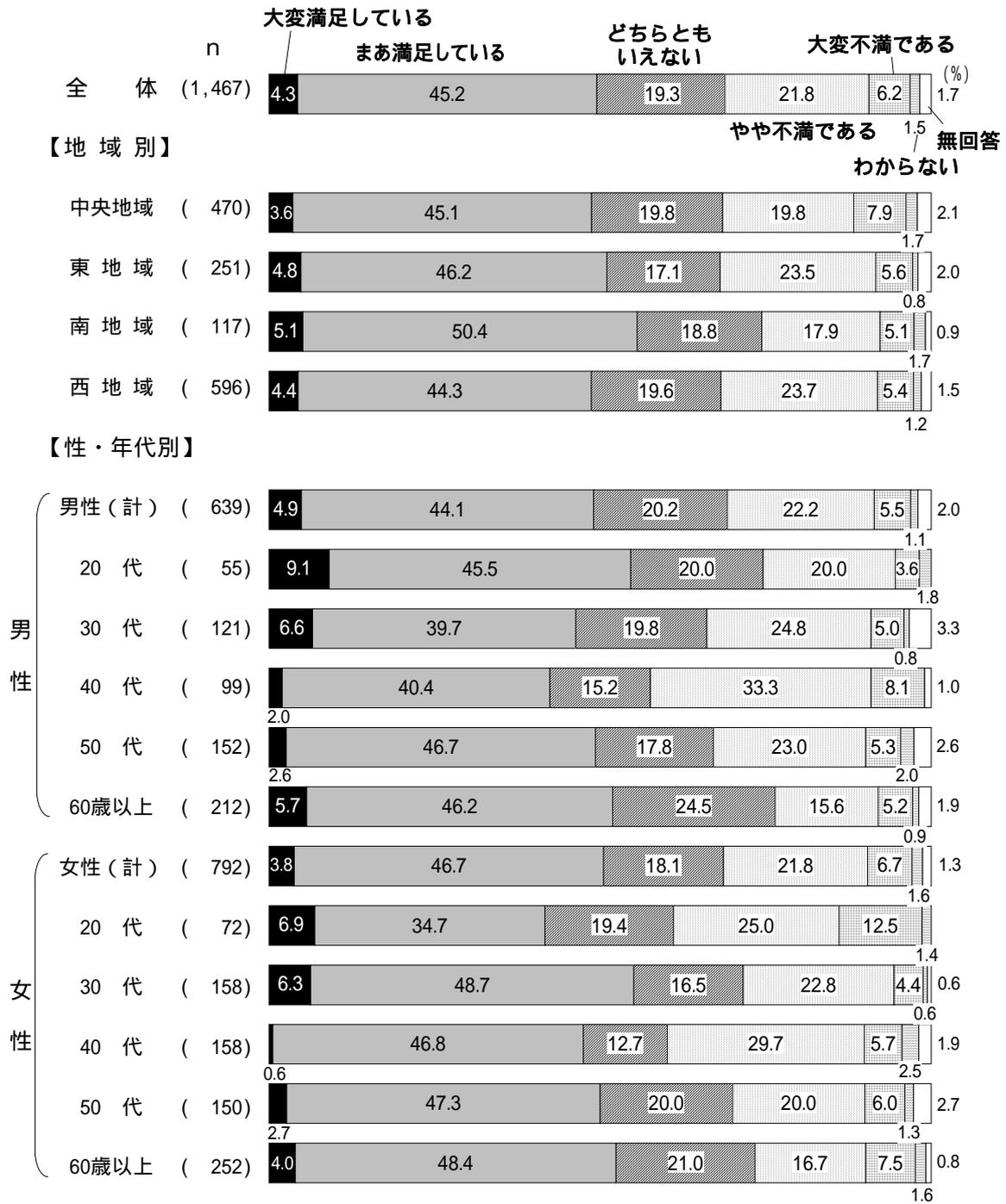
【地域別】

『満足している』は、“南地域”(55.5%)と“東地域”(51.0%)で5割を超えている。(図表1 - 16)

【性・年代別】

『満足している』は、男性40代(42.4%)と女性20代(41.6%)を除く各年代とも4割台半ばから5割台半ばになっている。(図表1 - 16)

<図表1 - 16> 自分や家族の健康についての満足度 / 地域別、性・年代別

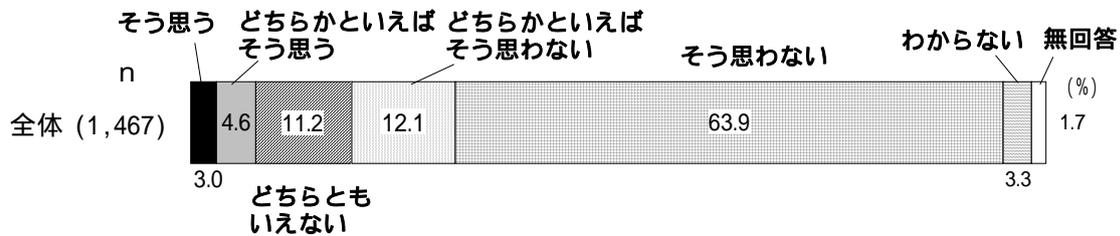


(9) 理不尽な理由による差別等

『そう思う』は約1割

問9 あなたは、自分が日常生活の中で、理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思いますか。(は1つ)

<図表1-17> 理不尽な理由による差別等



自分が理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.0%)と「どちらかといえばそう思う」(4.6%)を合わせた『そう思う』(7.6%)は約1割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.1%)と、最も多い「そう思わない」(63.9%)を合わせた『そう思わない』(76.0%)が7割台半ばとなっている。(図表1-17)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位: %)

	n 全体	『そう思う』	『そう思わない』
平成17年度調査	1,081	6.3	78.9
今回調査	1,467	7.6	76.0

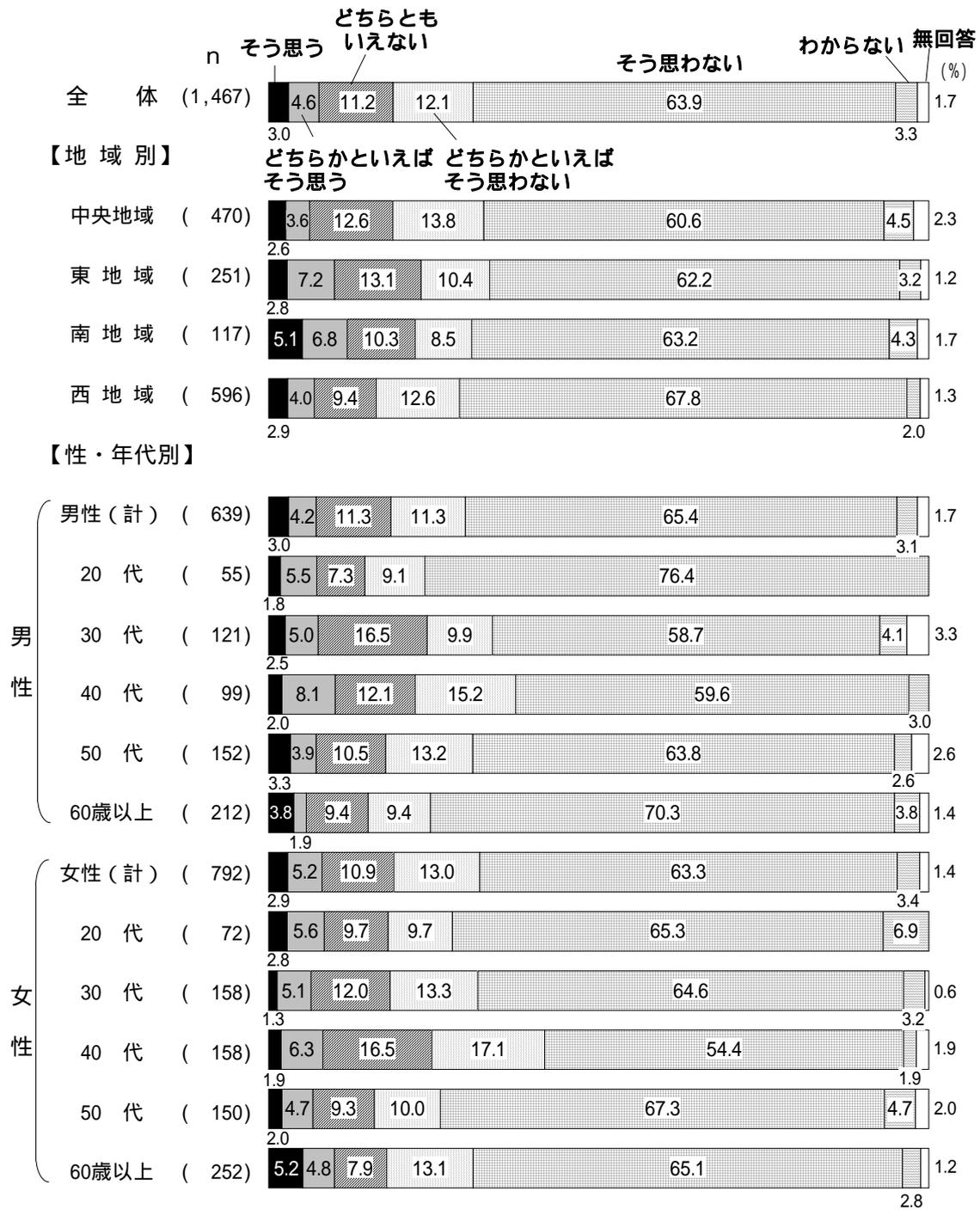
【地域別】

『そう思う』は“南地域”(11.9%)と“東地域”(10.0%)で1割以上となっている。『そう思わない』は“西地域”(80.4%)で唯一8割と高くなっている。(図表1-18)

【性・年代別】

『そう思う』に大きな差はないが、男性40代(10.1%)と女性60歳以上(10.0%)で1割以上とやや高くなっている。(図表1-18)

<図表1 - 18> 理不尽な理由による差別等 / 地域別、性・年代別



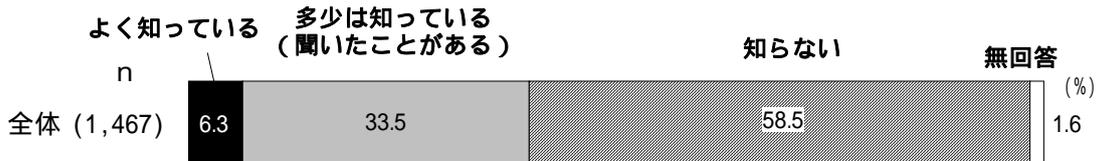
2 千葉県の農産物について

(1) 「ちばエコ農産物」の認知度

『知っている』は約4割

問10 千葉県では、生産者が努力し、農薬と化学肥料の使用を通常の半分以下に減らして栽培した農産物を「ちばエコ農産物」として認証しています。あなたは、「ちばエコ農産物」を知っていますか。(は1つ)

<図表2 - 1> 「ちばエコ農産物」の認知度



「ちばエコ農産物」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(6.3%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(33.5%)を合わせた『知っている』(39.8%)が約4割である。一方、「知らない」(58.5%)は約6割である。(図表2 - 1)

〔参考〕平成15年度・平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『知っている』 (平成15年度調査は 「知っている」のみ)	知らない
平成15年度調査	2,108	19.8	80.2
平成17年度調査	1,081	34.7	64.8
今回調査	1,467	39.8	58.5

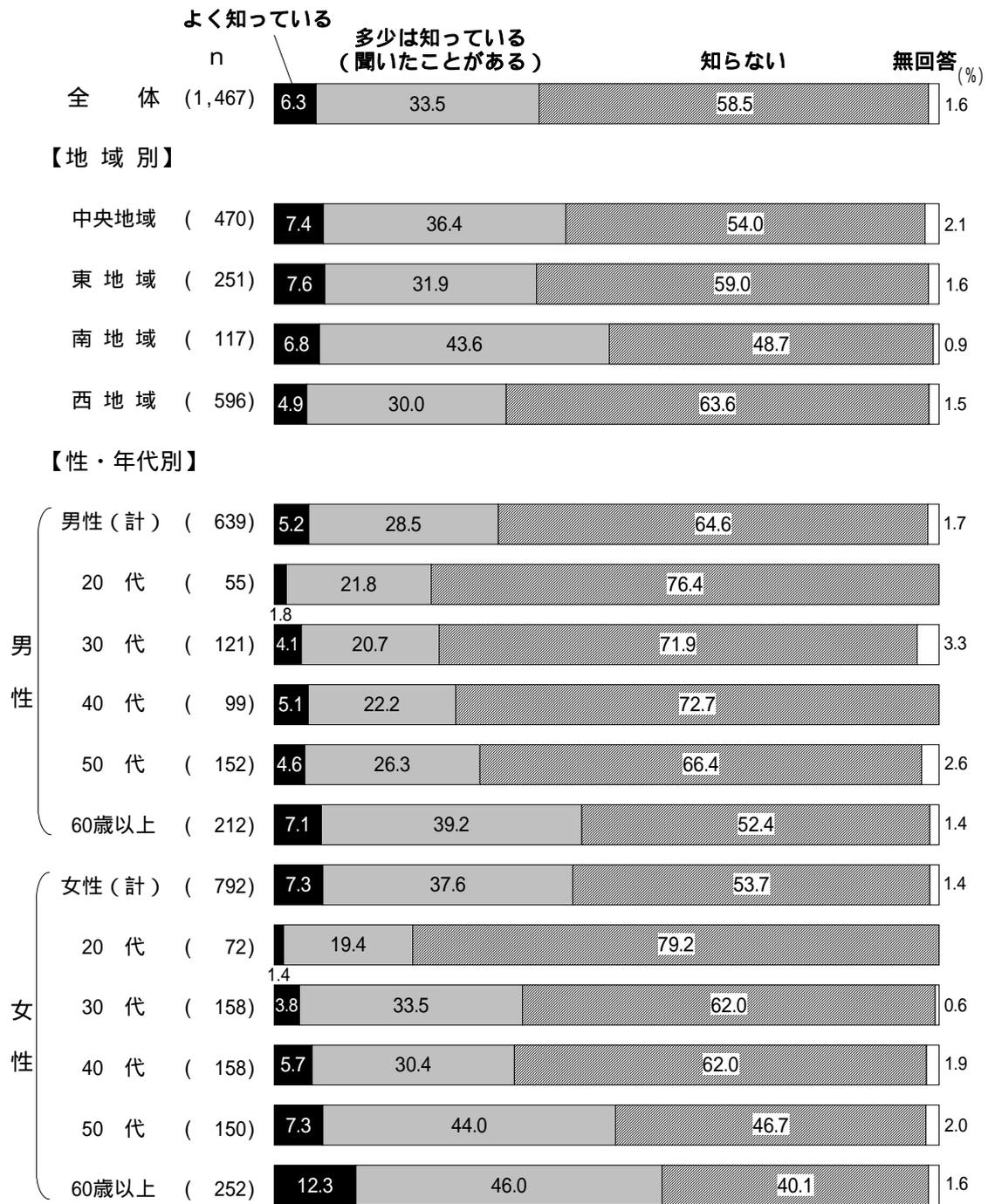
【地域別】

『知っている』は、“南地域”(50.4%)で5割と高いが、“西地域”(34.9%)では3割台半ばにとどまる。(図表2 - 2)

【性・年代別】

『知っている』は、男女ともにおおむね年代が上がるほど増加する傾向がみられ、特に、女性の50歳以上では5割を超える。(図表2 - 2)

<図表2 - 2> 「ちばエコ農産物」の認知度/地域別、性・年代別

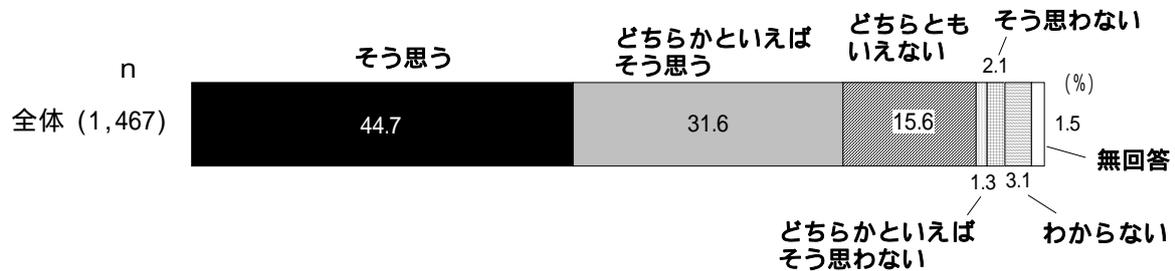


(2) 千葉県農産物の購入意向

『そう思う』が7割台半ば

問11 あなたは、千葉県産農産物を購入したいと思いますか。(は1つ)

<図表2-3> 千葉県農産物の購入意向



千葉県産農産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(44.7%)が4割台半ばで最も多く、「どちらかといえばそう思う」(31.6%)が3割を超える。これらを合わせた『そう思う』(76.3%)は7割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.3%)と「そう思わない」(2.1%)を合わせた『そう思わない』(3.4%)はわずかである。(図表2-3)

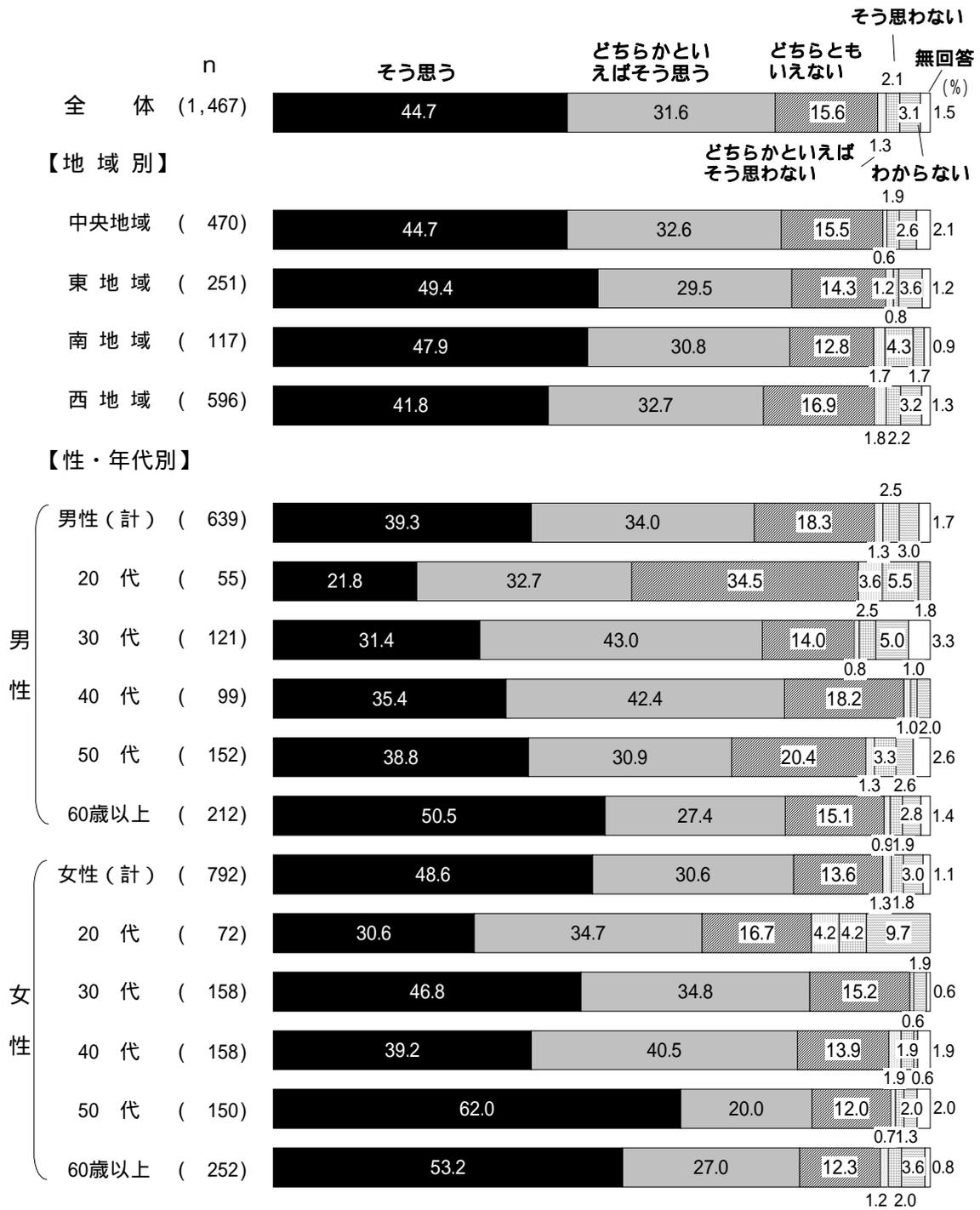
【地域別】

『そう思う』は、全地域で7割を超え、地域による大きな違いはみられない。(図表2-4)

【性・年代別】

『そう思う』が男女ともにそれぞれ20代で低く、特に、男性(54.5%)は唯一6割を下回る。(図表2-4)

<図表2 - 4> 千葉産農産物の購入意向 / 地域別、性・年代別



3 市民活動について

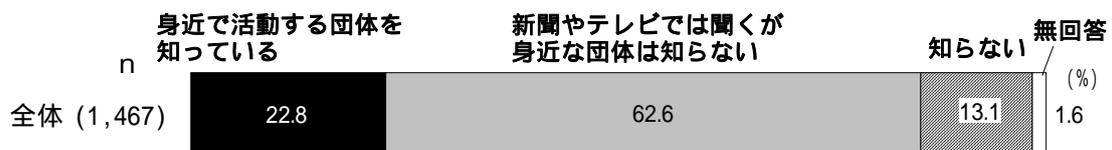
(1) 市民活動団体の認知度

「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」が6割を超える

問12 市民活動団体とは、市民（県民、住民）の自発性に基づき、自立的・継続的に社会的な活動を行う団体のことで、住民活動団体、ボランティア団体、NPOなどとも呼ばれています。また、そのような団体が行う活動を市民活動といいます。

あなたは、市民活動団体を知っていますか。（ は1つ）

<図表3 - 1> 市民活動団体の認知度



市民活動団体の認知度を聞いたところ、「身近で活動する団体を知っている」(22.8%)が2割を超えている。一方、「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」(62.6%)は6割を超え最も多い。「知らない」(13.1%)が1割台半ばとなっている。(図表3 - 1)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	「身近で活動する団体を知っている」	「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」	「知らない」
平成17年度調査	1,081	19.9	59.6	19.2
今回調査	1,467	22.8	62.6	13.1

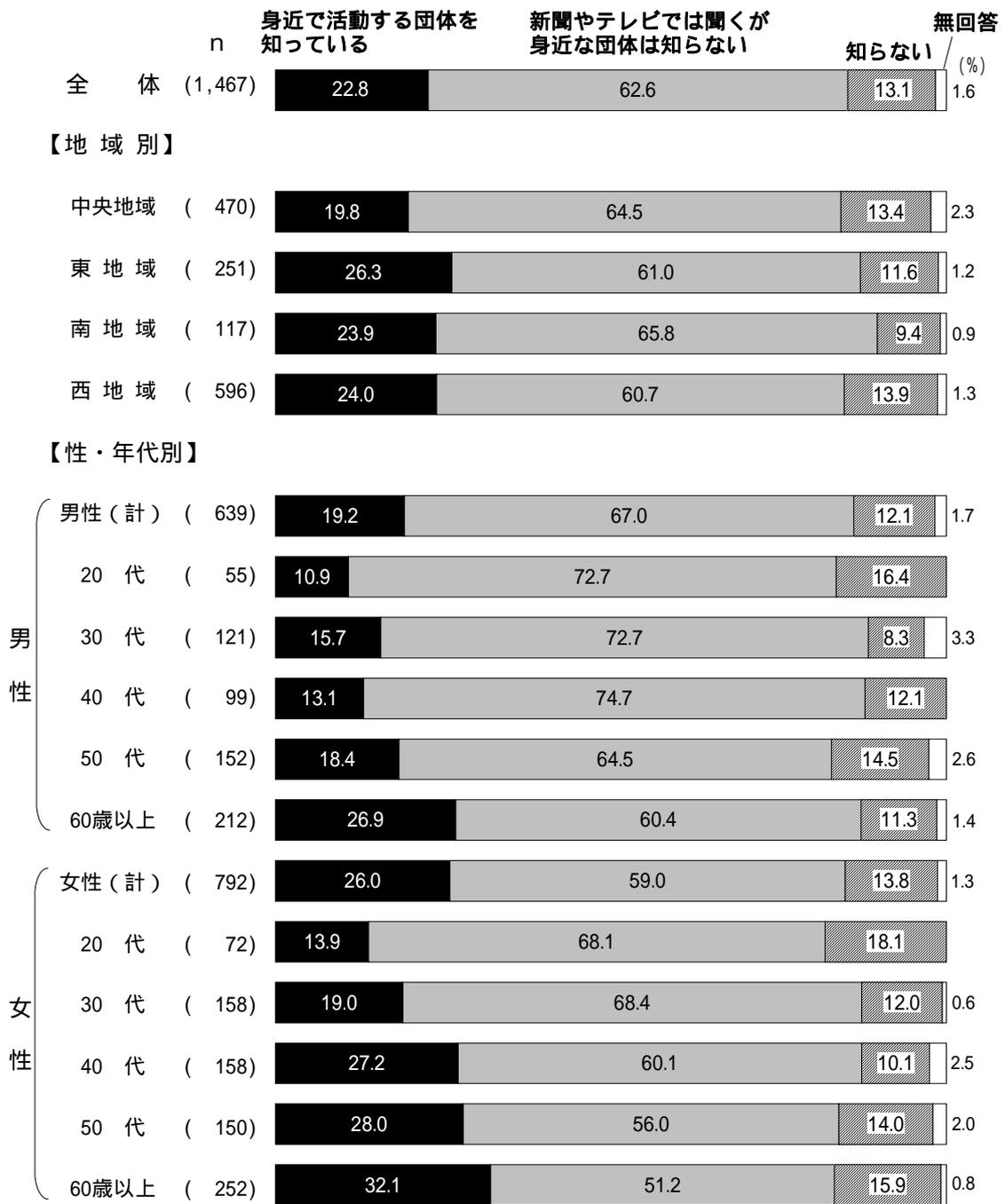
【地域別】

「身近で活動する団体を知っている」は、「東地域」(26.3%)が他地域に比べやや高く、「中央地域」(19.8%)が最も低くなっている。また、「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」は、「中央地域」(64.5%)と「南地域」(65.8%)で6割台半ばと高くなっている。(図表3 - 2)

【性・年代別】

「身近で活動する団体を知っている」は、男女とも年代が上がるほど増加する傾向がみられ、特に、女性の60歳以上(32.1%)は3割を超える。「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」は、男性の20~40代と女性の20~30代で7割前後と高くなっている。(図表3 - 2)

<図表3 - 2> 市民活動団体の認知度 / 地域別、性・年代別

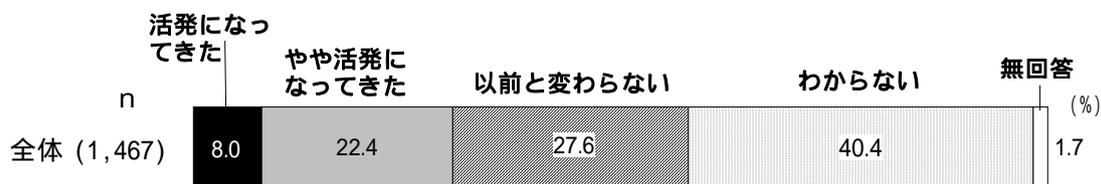


(2) 市民活動の地域での状況

『活発になってきた』が3割

問13 あなたは、市民活動が、地域において以前よりも活発になってきたと思いますか。
(は1つ)

< 図表 3 - 3 > 市民活動の地域での状況



市民活動の地域での状況を聞いたところ、「活発になってきた」(8.0%)と「やや活発になってきた」(22.4%)を合わせた『活発になってきた』(30.4%)が3割となっている。一方、「以前と変わらない」(27.6%)は約3割となっている。なお、「わからない」(40.4%)が4割である。(図表3-3)

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『活発になってきた』	「以前と変わらない」
平成17年度調査	1,081	26.9	25.3
今回調査	1,467	30.4	27.6

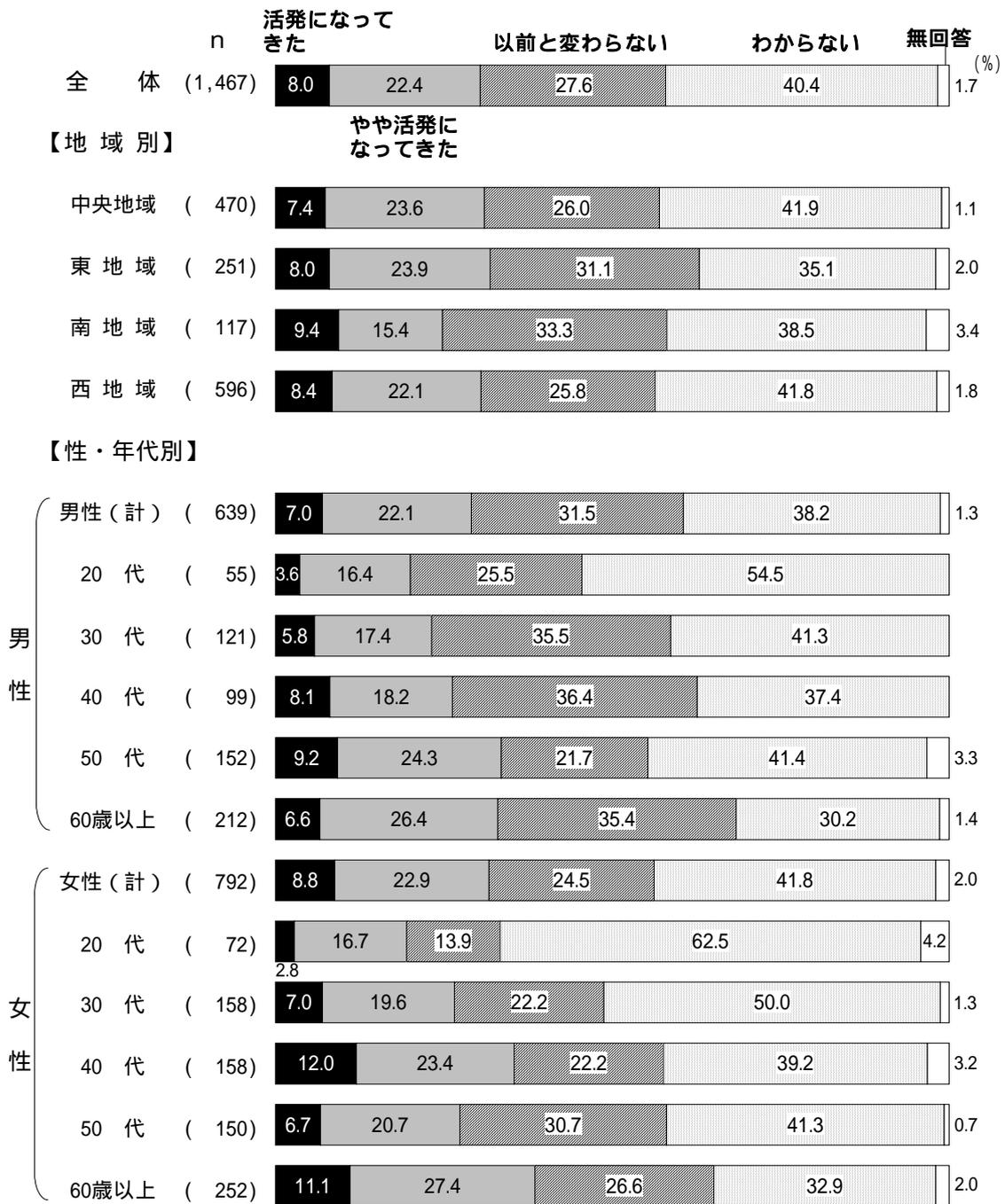
【地域別】

『活発になってきた』は、“南地域”(24.8%)で他の地域より低くなっている。(図表3-4)

【性・年代別】

『活発になってきた』は、おおむね年代が上がるほど増加する傾向がみられる。なお、「わからない」が男性20代(54.5%)、女性の20代(62.5%)と30代(50.0%)で5割以上となっている。(図表3-4)

<図表3 - 4> 市民活動の地域での状況 / 地域別、性・年代別



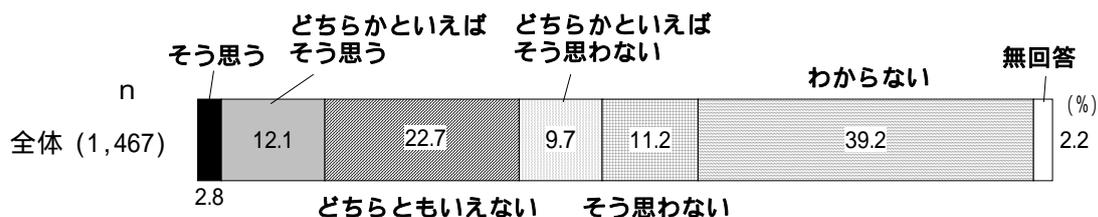
4 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

『そう思う』が1割台半ば。『そう思わない』は2割

問14 千葉県では、県の取り組みが効果的に行われているかを確認するために評価（政策評価）を実施しています。あなたは、この政策評価が、県民の視点に立った県政運営に役立っていると思いますか。（は1つ）

<図表4-1> 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営



政策評価が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」（2.8%）と「どちらかといえばそう思う」（12.1%）を合わせた『そう思う』（14.9%）は1割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.7%）と「そう思わない」（11.2%）を合わせた『そう思わない』（20.9%）は2割となっている。また、「わからない」（39.2%）が約4割である。（図表4-1）

〔参考〕平成17年度の同様の項目による調査結果との比較

（単位：％）

	n 全体	『そう思う』	『そう思わない』
平成17年度調査	1,081	10.8	31.9
今回調査	1,467	14.9	20.9

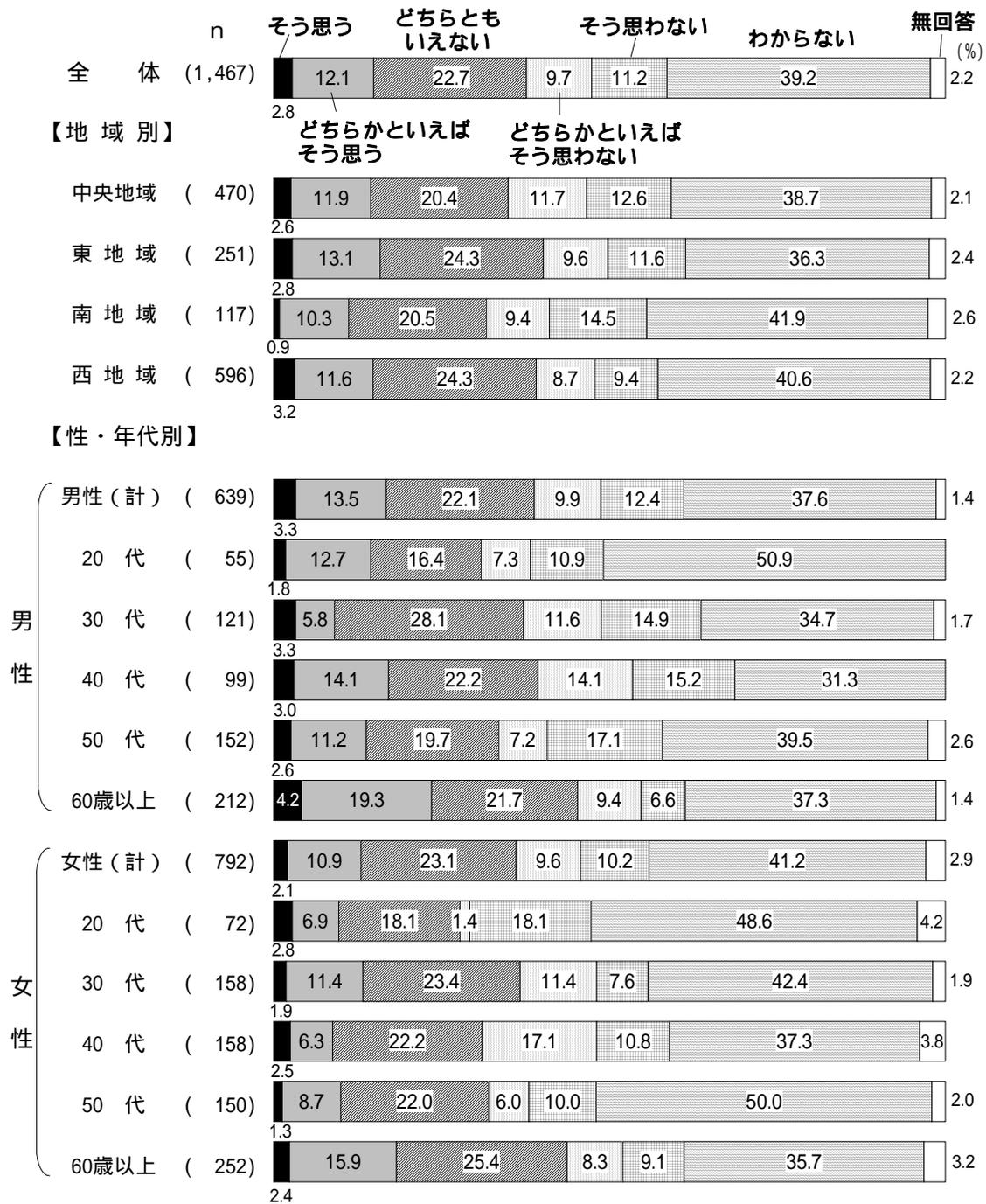
【地域別】

『そう思う』は“南地域”（11.2%）で他地域より低くなっている。一方、『そう思わない』は“中央地域”（24.3%）“南地域”（23.9%）と“東地域”（21.2%）で2割を超えている。（図表4-2）

【性・年代別】

『そう思う』は、男性の60歳以上（23.5%）で2割台半ばと最も高く、次いで、男性の40代（17.1%）と女性の60歳以上（18.3%）で約2割となっている。『そう思わない』は、男性の30代（26.5%）、40代（29.3%）と50代（24.3%）、女性40代（27.9%）で2割を超え高くなっている。（図表4-2）

<図表4 - 2> 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営 / 地域別、性・年代別



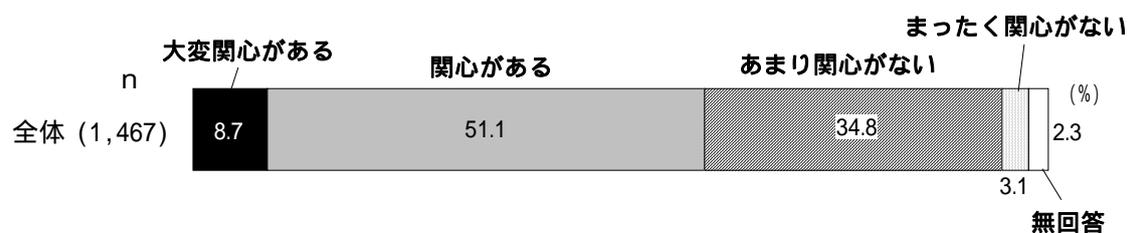
5 広報・広聴活動について

(1) 県の政策や施策などについての関心度

『関心がある』が約6割

問15 あなたは、県の政策や施策などについて関心がありますか。(は1つ)

<図表5 - 1> 県の政策や施策などについての関心度



県の政策や施策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」が8.7%で、「関心がある」(51.1%)が5割を超えており、これらを合わせると、『関心がある』(59.8%)は約6割となっている。一方、「あまり関心がない」が34.8%で「まったく関心がない」が3.1%である。(図表5 - 1)

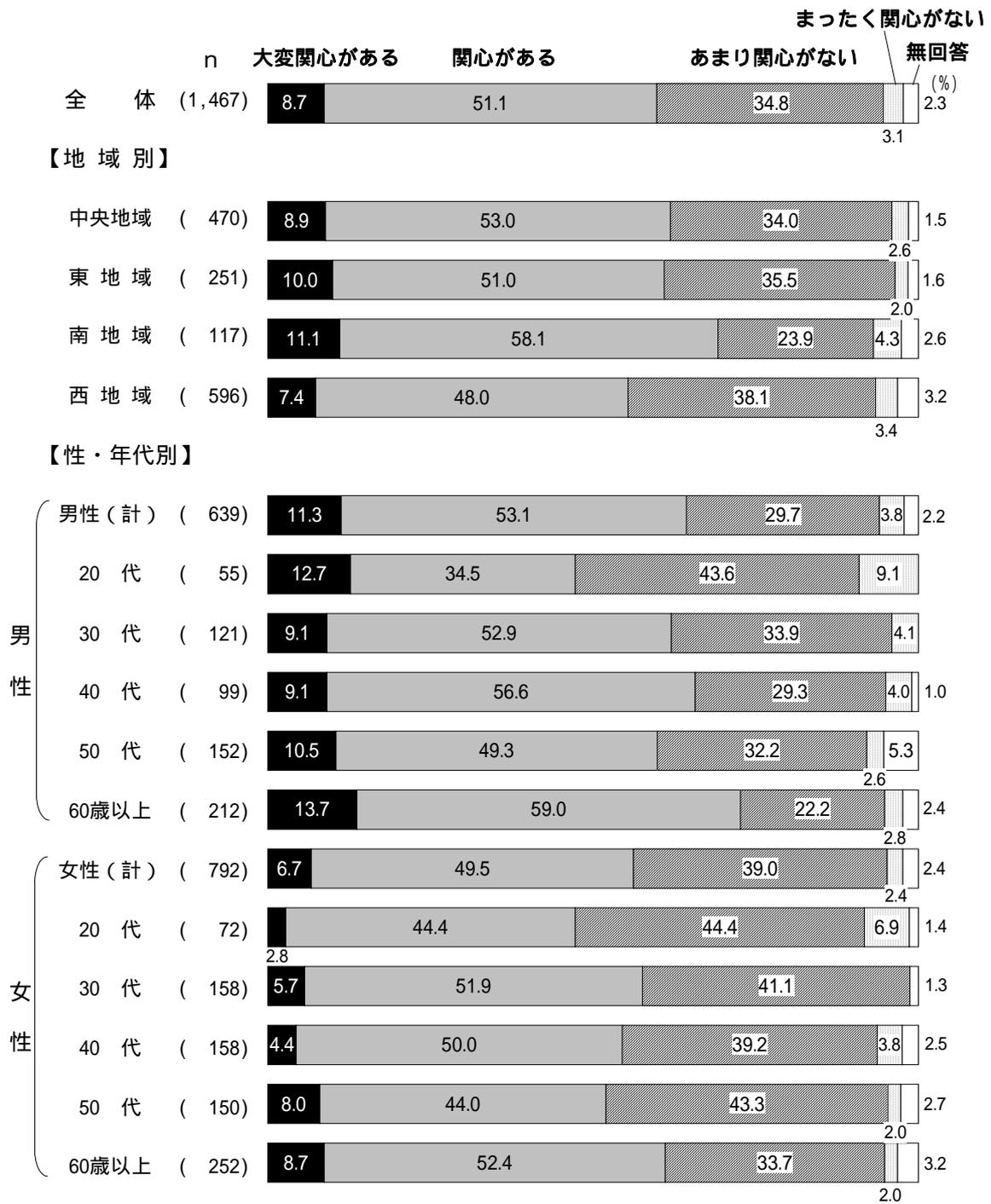
【地域別】

『関心がある』は、“南地域”(69.2%)が約7割と他地域より高く、“西地域”(55.4%)が最も低い。(図表5 - 2)

【性・年代別】

『関心がある』は男女ともに60歳以上で高く、特に、男性(72.7%)では7割を超える。逆に20代では低くなっており、男女ともに5割を下回る。(図表5 - 2)

<図表5 - 2> 県の政策や施策などについての関心度 / 地域別、性・年代別

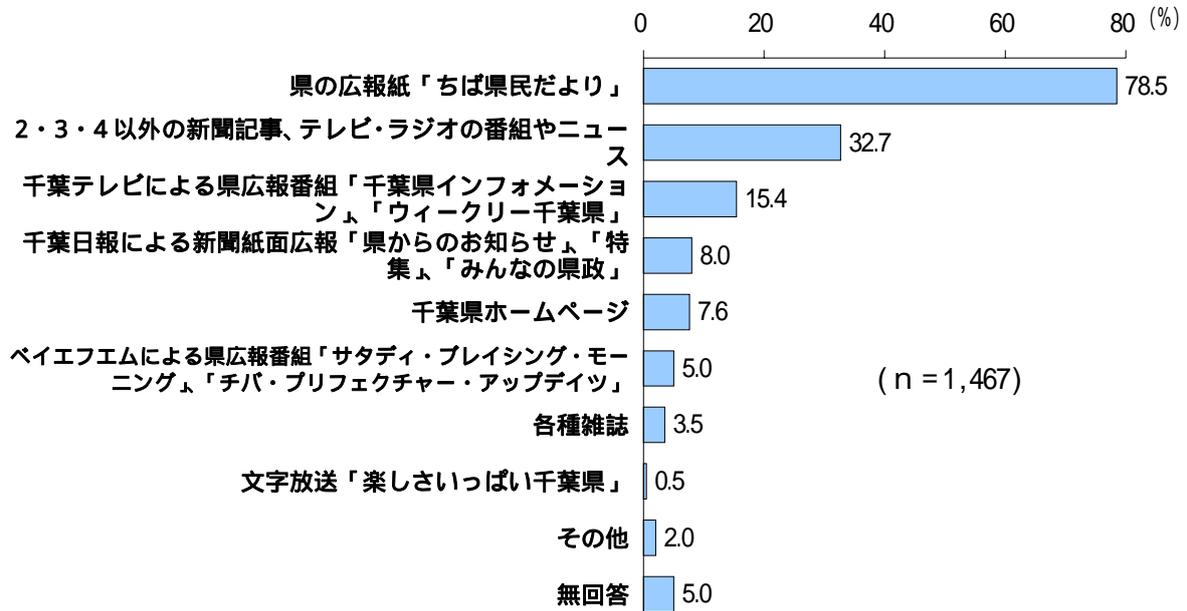


(2) 県政に関する情報を得る手段

「県の広報紙『ちば県民だより』」が約8割

問16 あなたは、県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。(はいいくつでも)

<図表5-3> 県政に関する情報を得る手段(複数回答)



県政に関する情報を得る手段をいくつでも選んでもらったところ、「県の広報紙『ちば県民だより』」(78.5%)が約8割で最も多かった。次いで、「2・3・4以外の新聞記事、テレビ、ラジオの番組やニュース」(32.7%)が3割を超え、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(15.4%)が1割台半ばとなっている。(図表5-3)

(「2・3・4以外の新聞記事、テレビ、ラジオの番組やニュース」における、2・3・4とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、『特集』、『みんなの県政』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、『ウィークリー千葉県』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタディ・プレイング・モーニング」、『チバ・プリフェクチャー・アップデート』を指す)

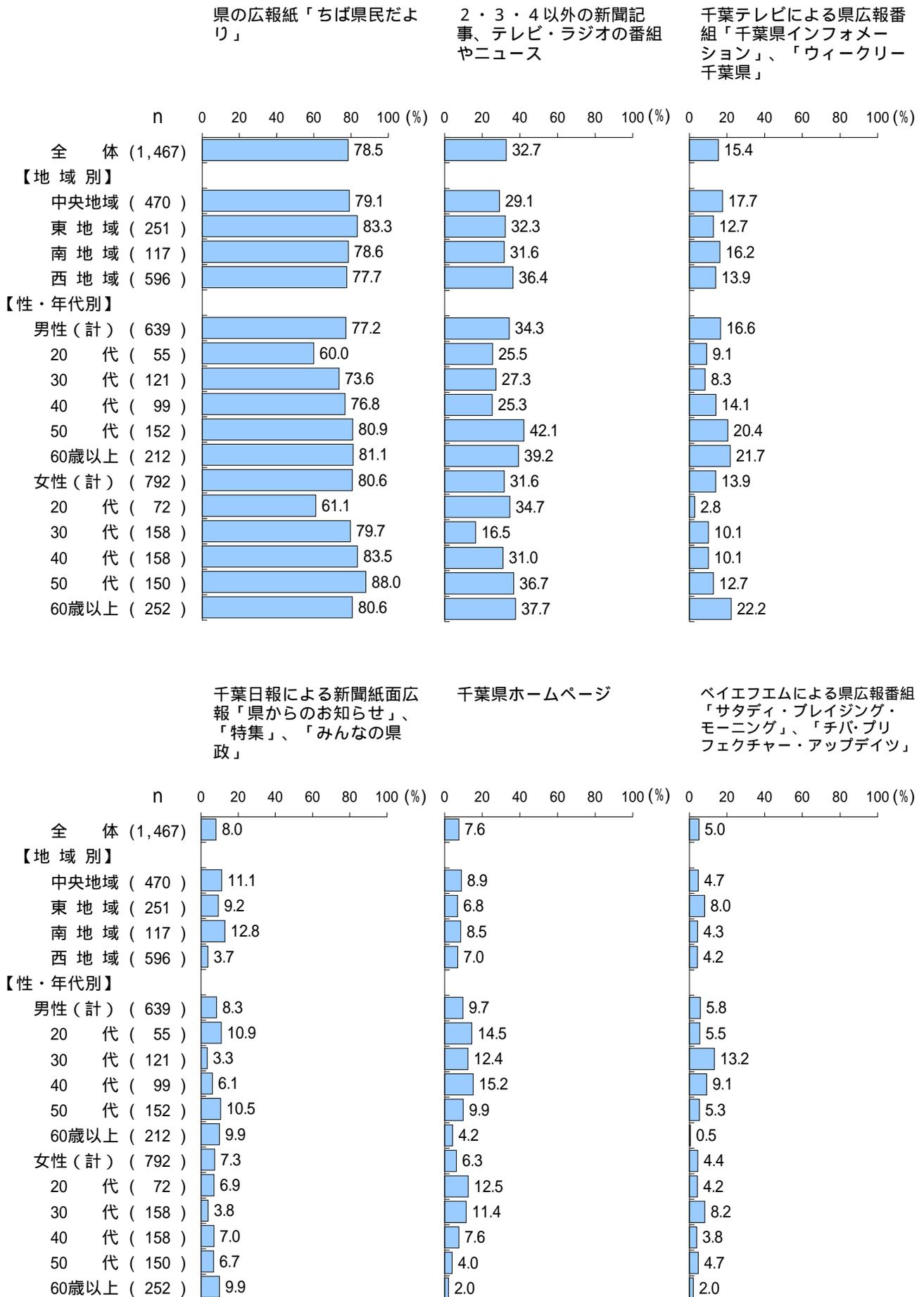
【地域別】

「県の広報紙『ちば県民だより』」は“東地域”(83.3%)が唯一8割台半ばで、「2・3・4以外の新聞記事、テレビ、ラジオの番組やニュース」は、“西地域”(36.4%)で3割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。(図表5-4)

【性・年代別】

「県の広報紙『ちば県民だより』」は男女ともに30歳以上は7割を超えているが、20代で6割となっている。「2・3・4以外の新聞記事、テレビ、ラジオの番組やニュース」は、男性の50歳以上と30代を除く女性が3割以上と高い。「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」は、男性の50歳以上、女性60歳以上で2割を超え他の年代より高い。(図表5-4)

<図表5 - 4> 県政に関する情報を得る手段 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)

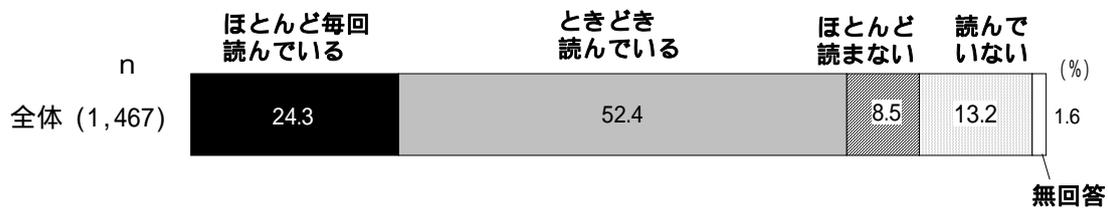


(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

『読んでいる』が7割台半ば

問17 県広報紙「ちば県民だより」を読んでいますか。(は1つ)

<図表5 - 5> 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況



県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(24.3%)は2割台半ばで、「ときどき読んでいる」(52.4%)が5割を超え最も多い。これらを合わせた『読んでいる』(76.7%)は7割台半ばとなっている。一方、「ほとんど読まない」(8.5%)と「読んでいない」(13.2%)を合わせた『読んでいない』(21.7%)は2割を超える。(図表5 - 5)

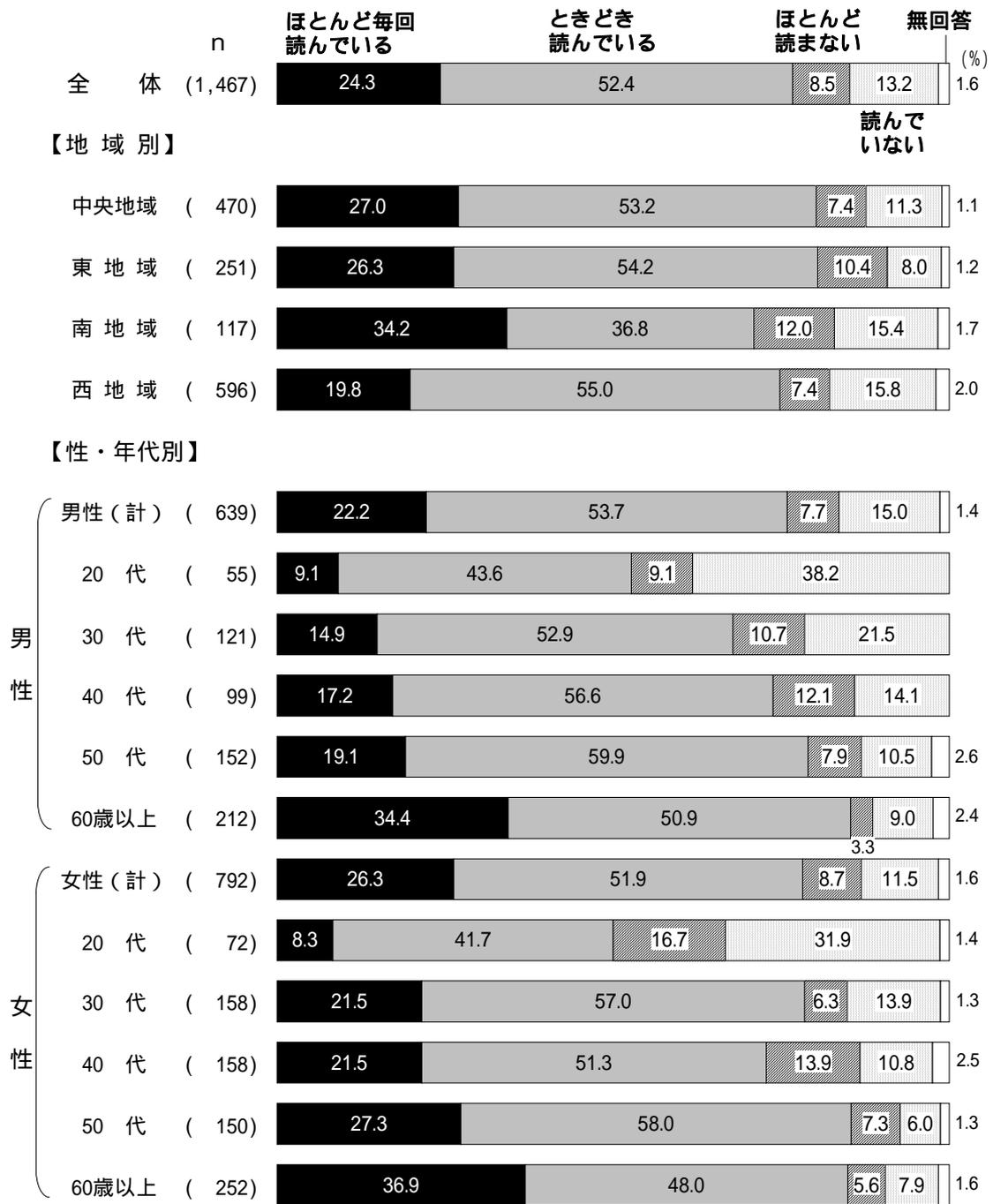
【地域別】

『読んでいる』は、“東地域”(80.5%)と“中央地域”(80.2%)で8割を超え高い。次いで、“西地域”(74.8%)、“南地域”(71.0%)となっている。なお、「ほとんど毎回読んでいる」は、“南地域”(34.2%)が3割台半ばで最も高い。(図表5 - 6)

【性・年代別】

男女とも、年代が上がるほど『読んでいる』が増える傾向にある。なお、20代は男女とも『読んでいない』が約5割となっている。(図表5 - 6)

<図表5 - 6> 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況 / 地域別、性・年代別



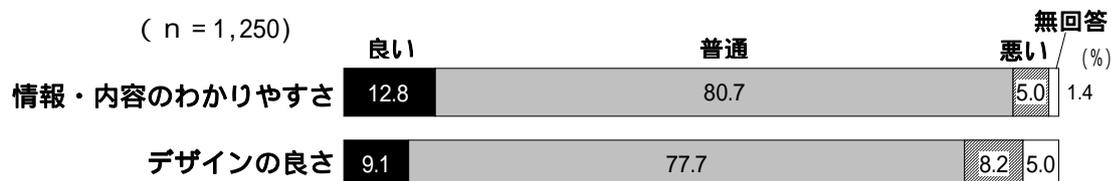
(3 - 1) 「ちば県民だより」の内容について

情報・内容のわかりやすさ、デザインの良さともに「良い」は1割前後

(問17で「1」～「3」のいずれかをお答えの方に)

問17 - 1 県広報紙「ちば県民だより」の内容についておたずねします。(はそれぞれ1つずつ)

< 図表 5 - 7 > 「ちば県民だより」の内容について



問17で「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「ほとんど読まない」と回答した1,250人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、情報・内容のわかりやすさは、「良い」(12.8%)が1割を超え、「普通」(80.7%)が8割となっている。

デザインの良さは、「良い」(9.1%)が約1割で、「普通」(77.7%)が約8割となっている。(図表5 - 7)

【地域別】

情報・内容のわかりやすさは、「良い」が“南地域”(18.6%)で他地域よりやや高く、“西地域”(9.8%)が最も低くなっている。

デザインの良さについては、「良い」が“東地域”(11.4%)で他地域より高く、“西地域”は(7.1%)が最も低かった。(図表5 - 8)

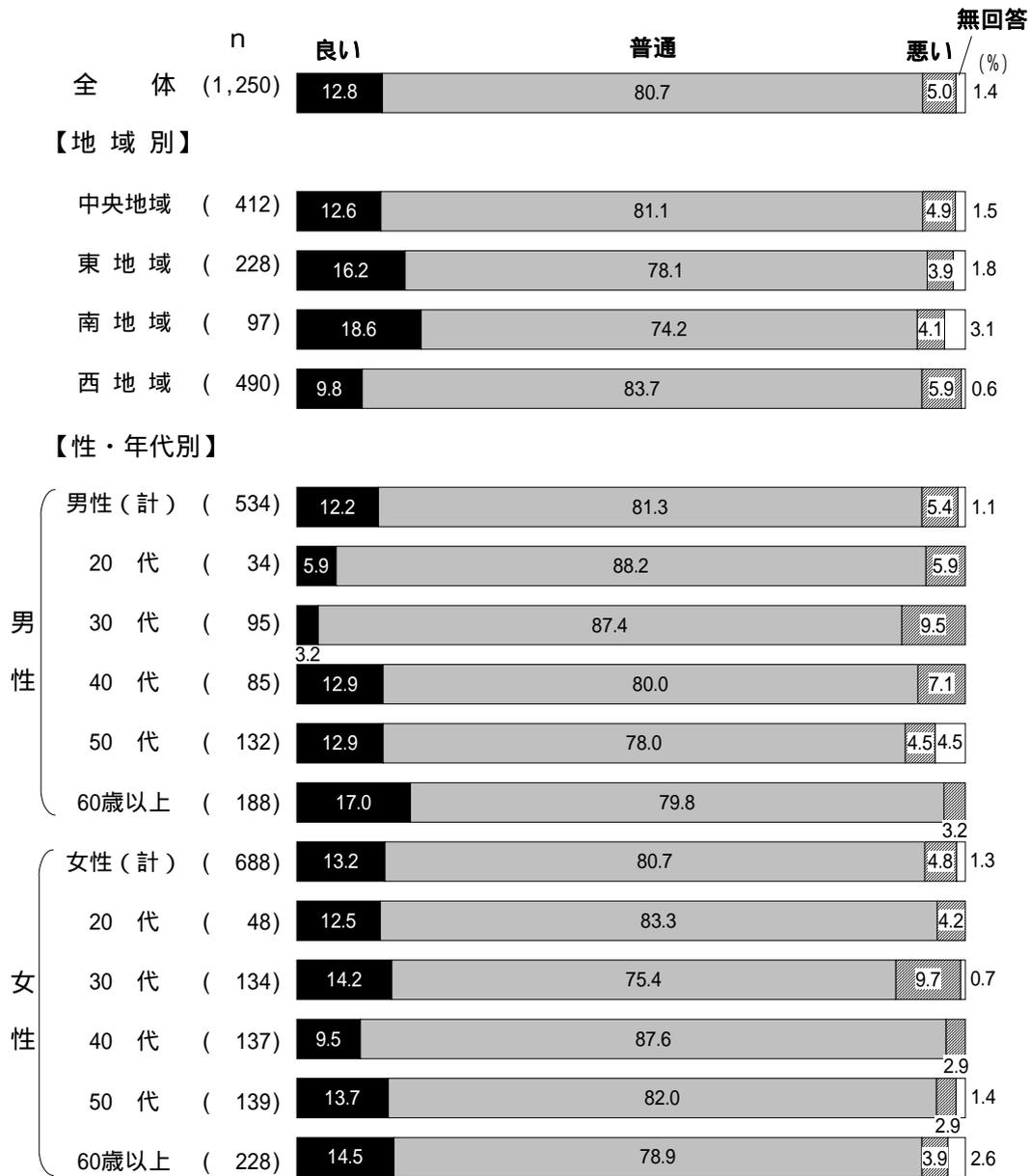
【性・年代別】

情報・内容のわかりやすさが「良い」は、男性60歳以上(17.0%)が最も高く、次いで、女性の60歳以上(14.5%)、30代(14.2%)、50代(13.7%)となっているものの、男性の20代(5.9%)と30代(3.2%)、女性の40代(9.5%)で低くなっている。

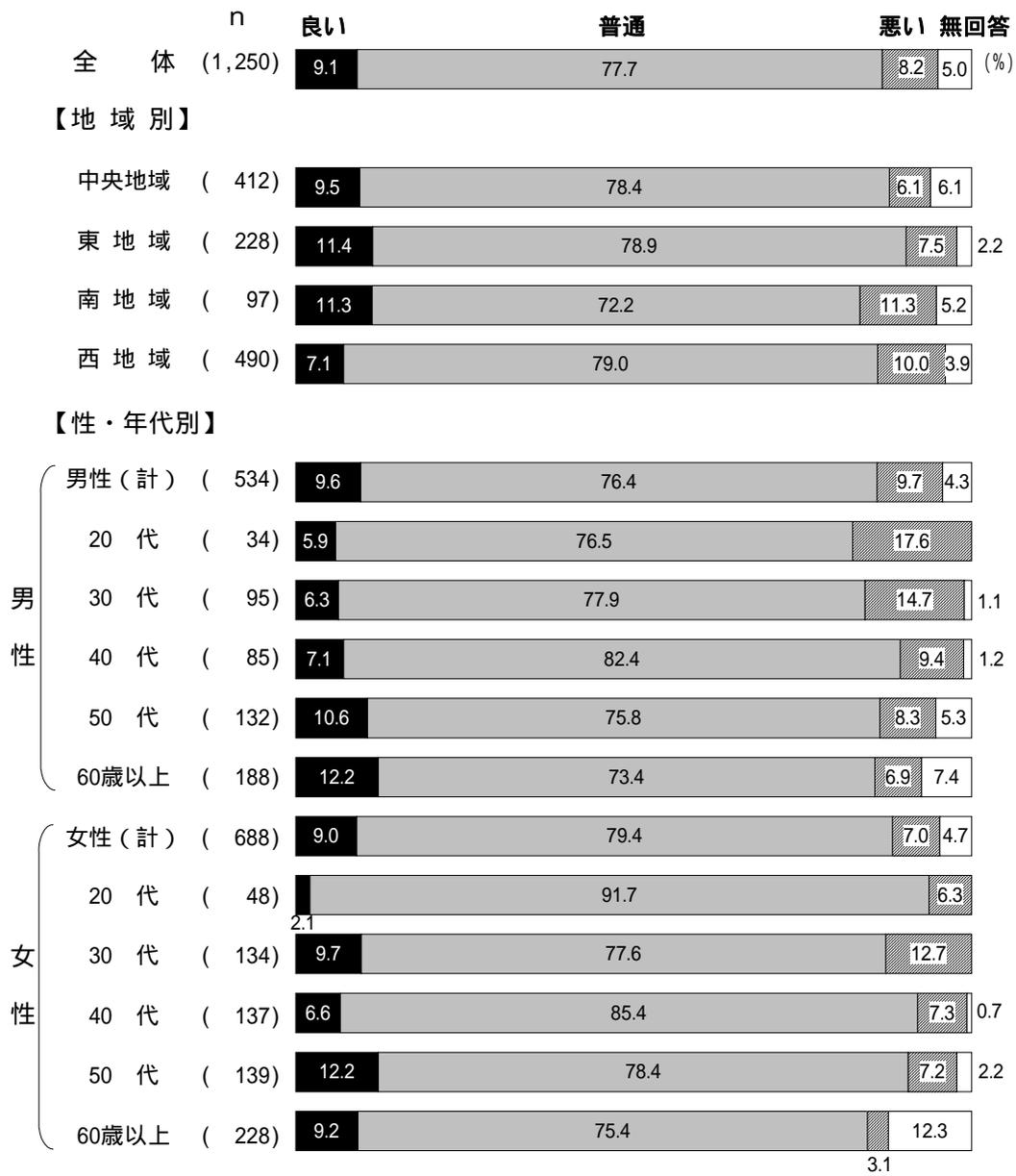
デザインの良さが「良い」は、男性の50歳以上と女性の50代(12.2%)で1割を超えるものの、他の年代は1割未満で、特に女性の20代(2.1%)が低い。逆に、「悪い」は、男性の20代(17.6%)と30代(14.7%)、女性30代(12.7%)で1割を超えている。(図表5 - 8)

<図表5 - 8> 「ちば県民だより」の内容について / 地域別、性・年代別

情報・内容のわかりやすさ



デザインの良さ

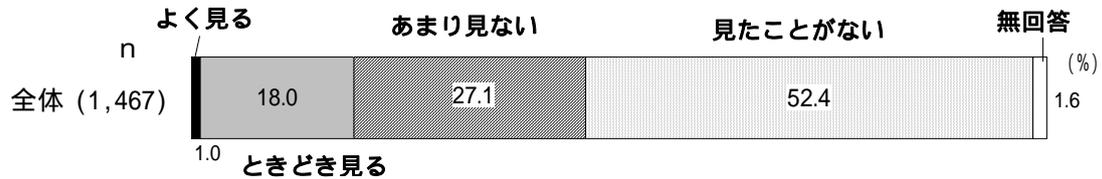


(4) 県の広報番組の視聴状況

『見る』は約2割。「見たことがない」が5割を超える

問18 県では、千葉テレビ放送において、県の広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県」を毎週放送しています。あなたは、これらの番組をどの程度ご覧になっていますか。(は1つ)

<図表5-9> 県の広報番組の視聴状況



県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.0%)と「ときどき見る」(18.0%)を合わせた『見る』(19.0%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(27.1%)が約3割で、「見たことがない」(52.4%)は5割を超え最も多い。(図表5-9)

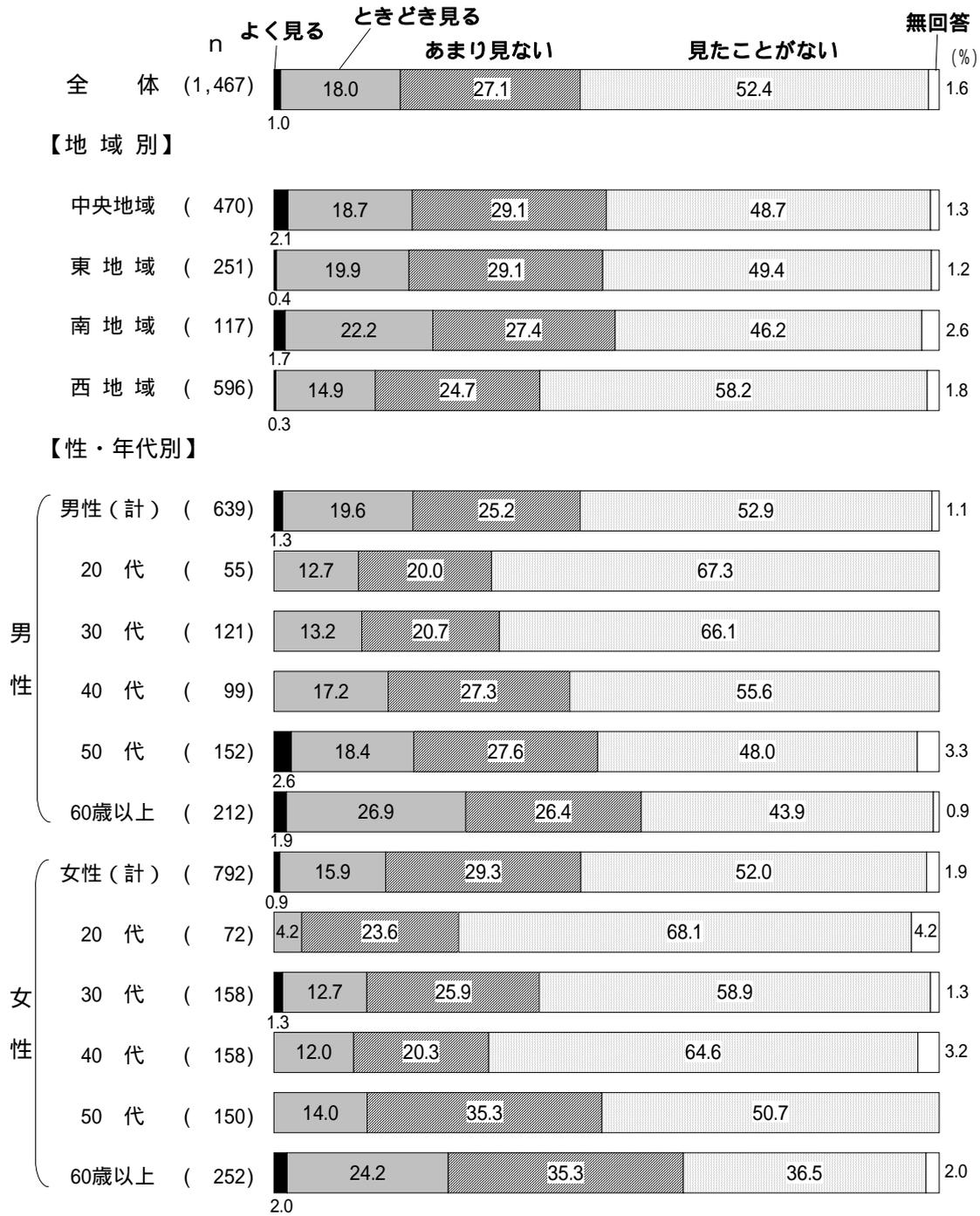
【地域別】

最も『見る』地域は“南地域”(23.9%)で、最も「見たことがない」地域は“西地域”(58.2%)となっている。(図表5-10)

【性・年代別】

男性の50歳以上と女性の60歳以上(26.2%)で、『見る』が2割を超えている。なお、男女とも年代が上がるほど『見る』が高くなる傾向にある。「見たことがない」は、男性の20代(67.3%)と30代(66.1%)、女性の20代(68.1%)と40代(64.6%)で6割を超えている。(図表5-10)

<図表5 - 10> 県の広報番組の視聴状況 / 地域別、性・年代別

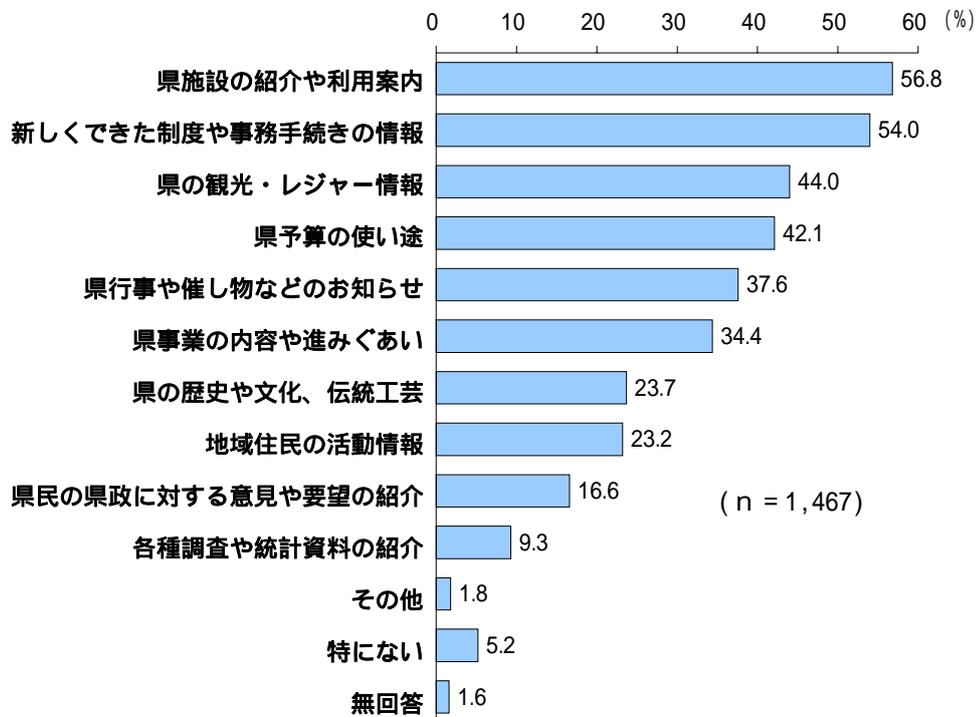


(5) 県の知りたい情報

「県施設の紹介や利用案内」と「新しくできた制度や事務手続きの情報」が5割台半ば

問19 あなたは、県のどのような情報が知りたいですか。(はいくつでも)

< 図表 5 - 11 > 県の知りたい情報 (複数回答)



県について知りたい情報をいくつでも選んでもらったところ、「県施設の紹介や利用案内」(56.8%) と「新しくできた制度や事務手続きの情報」(54.0%) が5割台半ばで高くなっている。次いで、「県の観光・レジャー情報」(44.0%) と「県予算の使い途」(42.1%) が4割を超え、「県行事や催し物などのお知らせ」(37.6%) と「県事業の内容や進みぐあい」(34.4%) が3割を超えている。(図表 5 - 11)

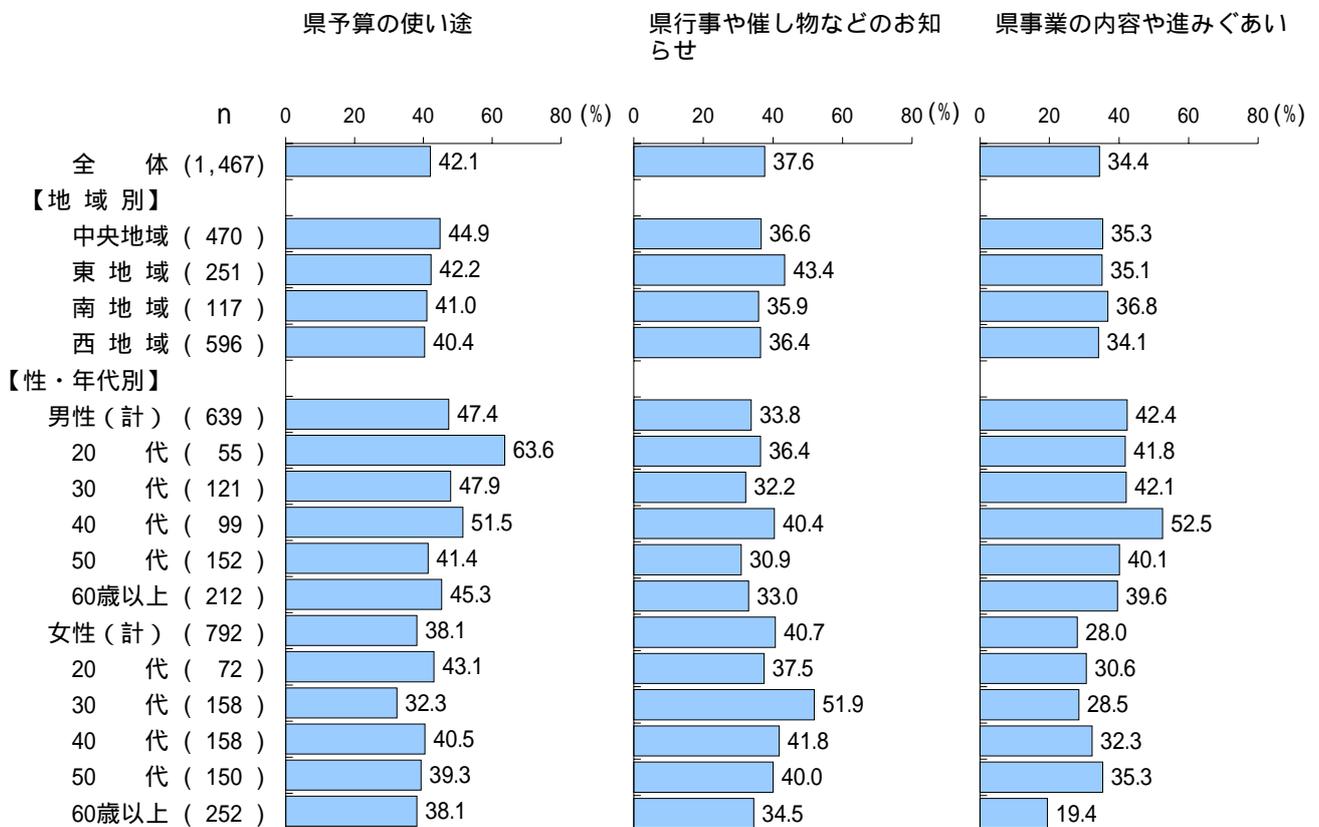
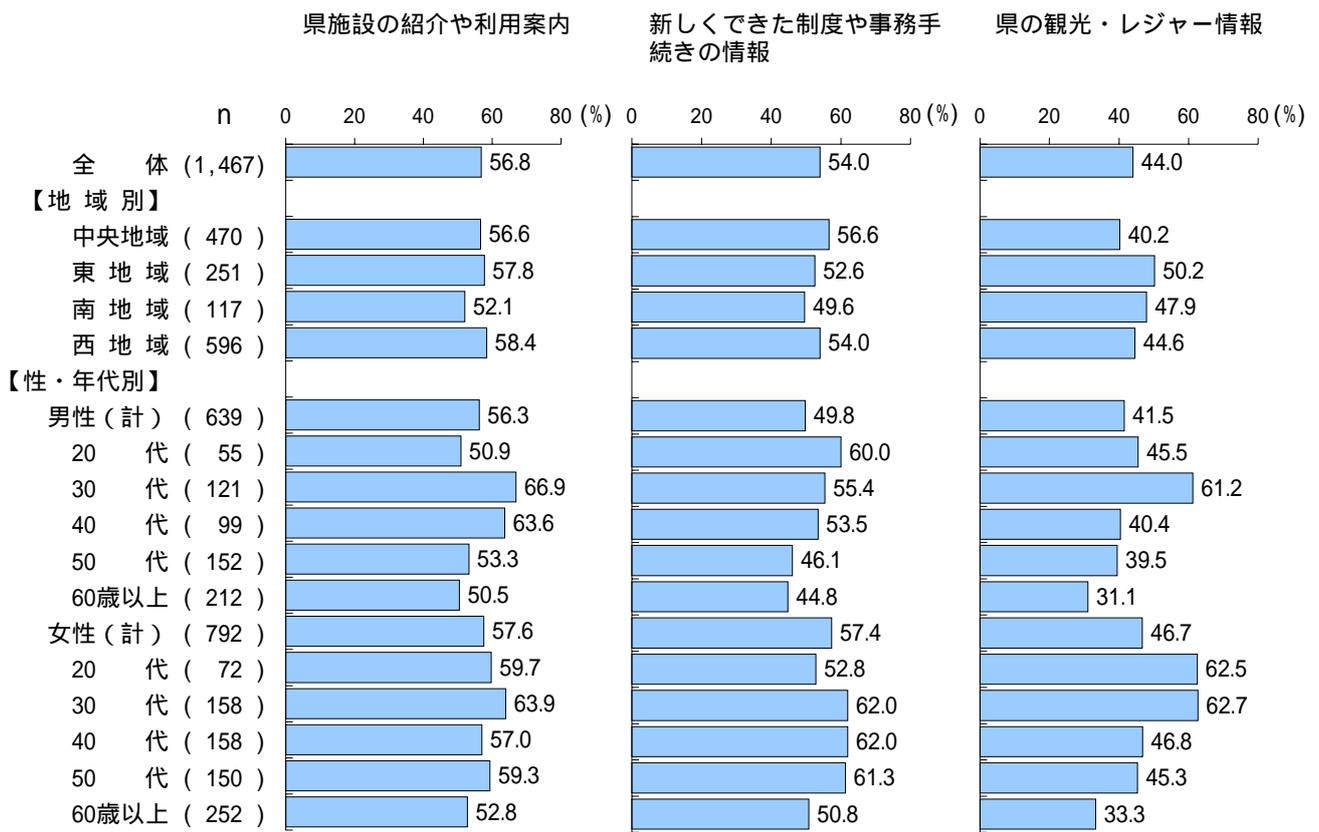
【地域別】

「県施設の紹介や利用案内」と「新しくできた制度や事務手続きの情報」は、地域の差はないが、“南地域”がそれぞれ5割前後で多少低くなっている。「県の観光・レジャー情報」は、“東地域”(50.2%) が5割で最も高く、“中央地域”(40.2%) が4割で低くなっている。「県行事や催し物などのお知らせ」は“東地域”(43.4%) で4割台半ばと最も高い。(図表 5 - 12)

【性・年代別】

「県施設の紹介や利用案内」は、男性の30代(66.9%) と40代(63.6%)、女性の20代から50代が6割前後と高い。「新しくできた制度や事務手続きの情報」は男性の20代(60.0%)、女性の30~50代で6割以上となっている。「県の観光・レジャー情報」は、男性の30代(61.2%)、女性の20代(62.5%) と30代(62.7%) が6割を超えている。また、「県予算の使い途」は男性の20代(63.6%) が目立って高い。「県行事や催し物などのお知らせ」は女性の30代(51.9%) で、「県事業の内容や進みぐあい」は男性の40代(52.5%) で5割を超える。(図表 5 - 12)

<図表5 - 12> 県の知りたい情報 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

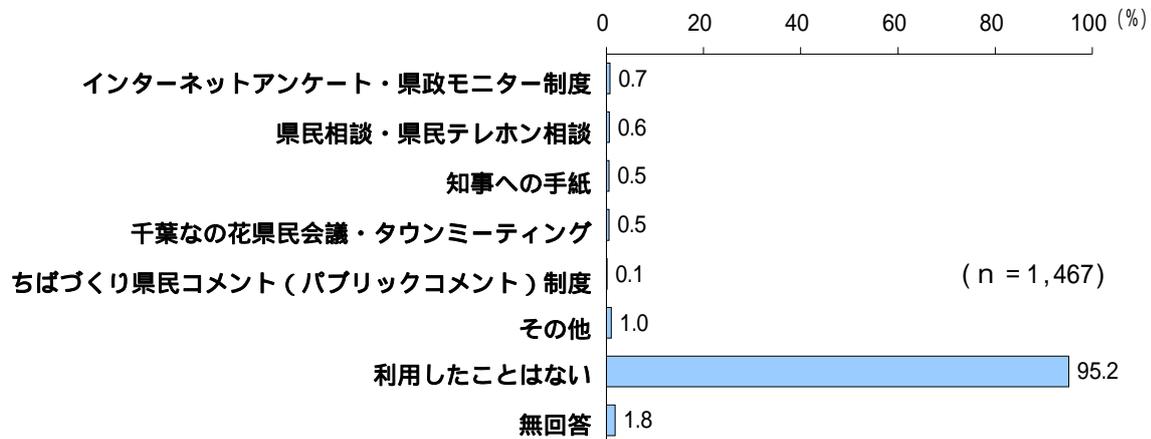


(6) 知事への手紙などで意見を述べた経験

「利用したことがない」が9割台半ば

問20 県では、県民参加型の県政運営に努めています。あなたは、知事への手紙などで意見を述べたことがありますか。(はいいくつでも)

<図表5 - 13> 知事への手紙などで意見を述べた経験 (複数回答)



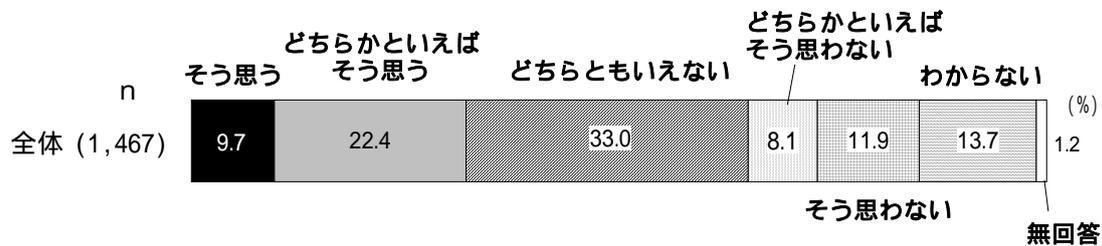
知事への手紙などで意見を述べた経験をいくつでも選んでもらったところ、「利用したことはない」(95.2%)が9割台半ば、利用したことのあるものでは「インターネット・県政モニター制度」が0.7%、「県民相談・県民テレホン相談」が0.6%、「千葉なの花県民会議・タウンミーティング」と「知事への手紙」がそれぞれ0.5%などとなっている。(図表5 - 13)

(7) 県政への意見の反映

『そう思う』が3割を超える

問21 今後、ご自分の意見を積極的に述べ、県政に反映させたいと思いますか。(は1つ)

<図表5 - 14> 県政への意見の反映



自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(9.7%)と「どちらかといえばそう思う」(22.4%)を合わせた『そう思う』(32.1%)は3割を超える。「そう思わない」(11.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(8.1%)を合わせた『そう思わない』(20.0%)は2割である。(図表5 - 14)

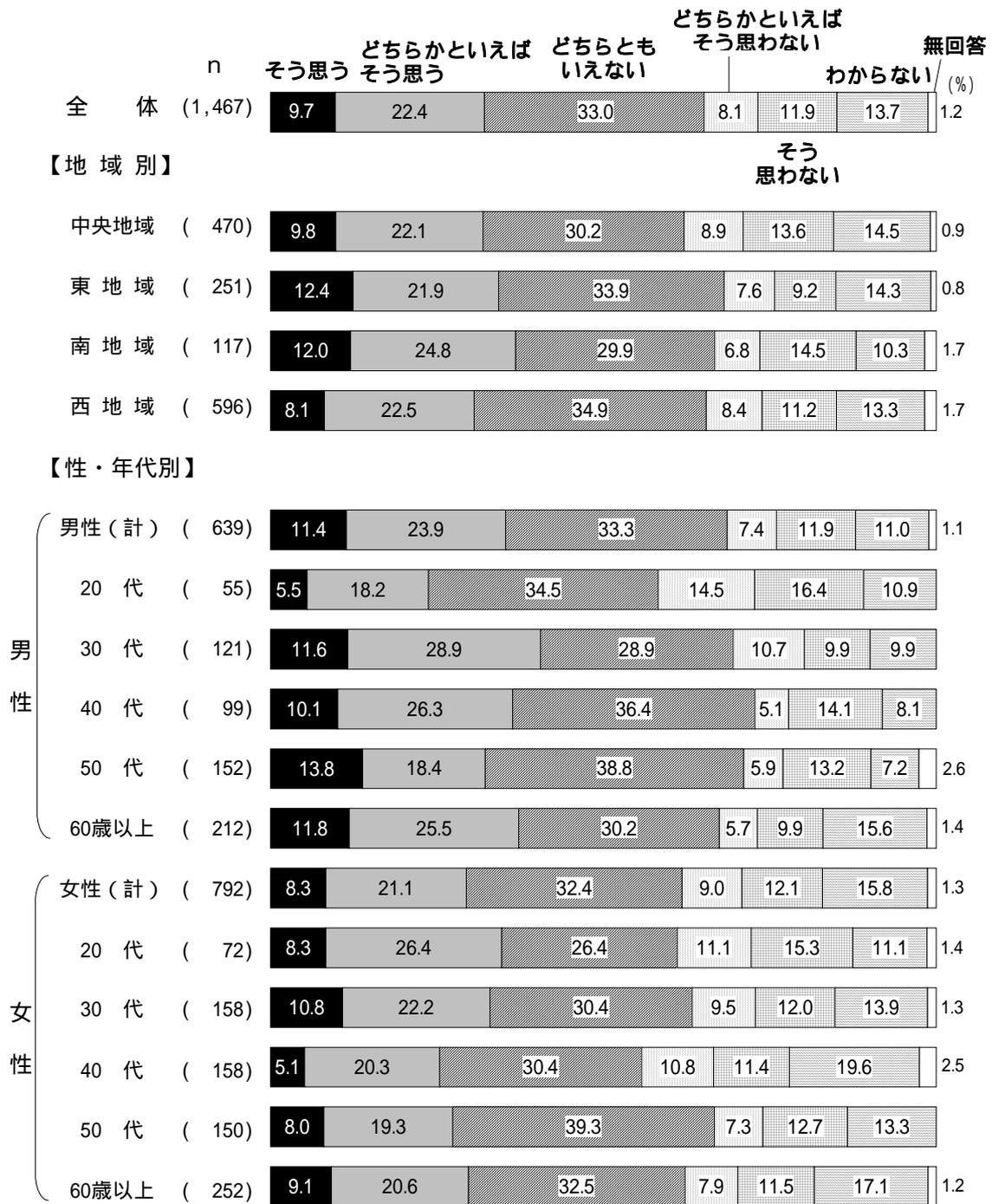
【地域別】

『そう思う』は“南地域”(36.8%)が3割台半ばで最も高く、“西地域”(30.6%)が最も低い。『そう思わない』は“中央地域”(22.5%)と“南地域”(21.3%)で高く2割を超えている。(図表5 - 15)

【性・年代別】

『そう思う』は男性の30代(40.5%)、40代(36.4%)、50代(32.2%)、60歳以上(37.3%)で3割を超えている。逆に、『そう思わない』は男女の20代で高く、特に、男性(30.9%)は3割を超えている。(図表5 - 15)

<図表5 - 15> 県政への意見の反映 / 地域別、性・年代別

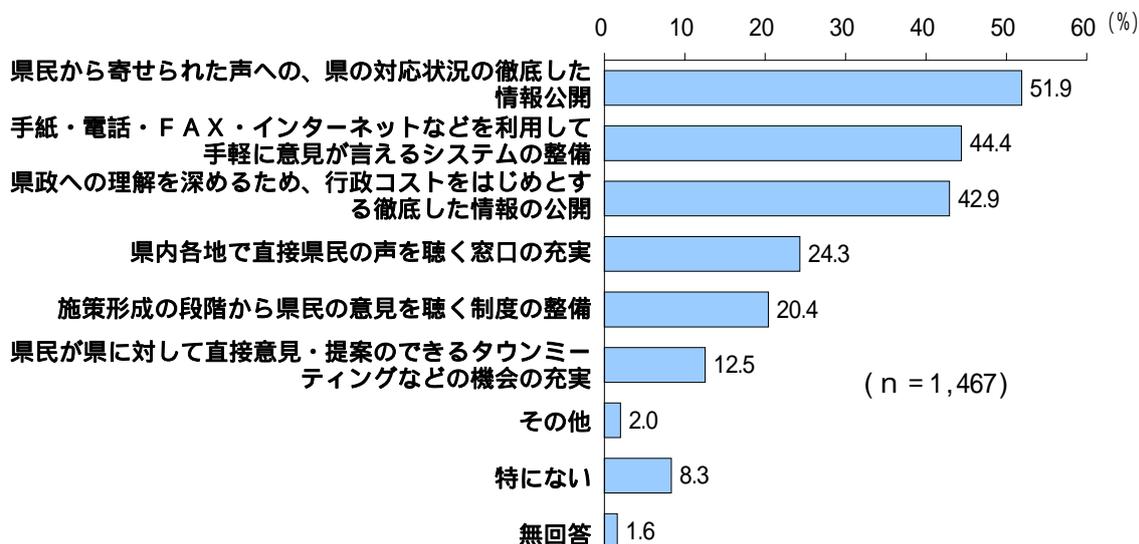


(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」が5割を超える

問22 みなさんが県政に対するご意見を述べやすくするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(は3つまで)

< 図表 5 - 16 > 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと (複数回答)



県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(51.9%) が5割を超え高くなっており、これに「手紙・電話・FAX・インターネットなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの整備」(44.4%) と「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(42.9%) が4割を超え続く。(図表 5 - 16)

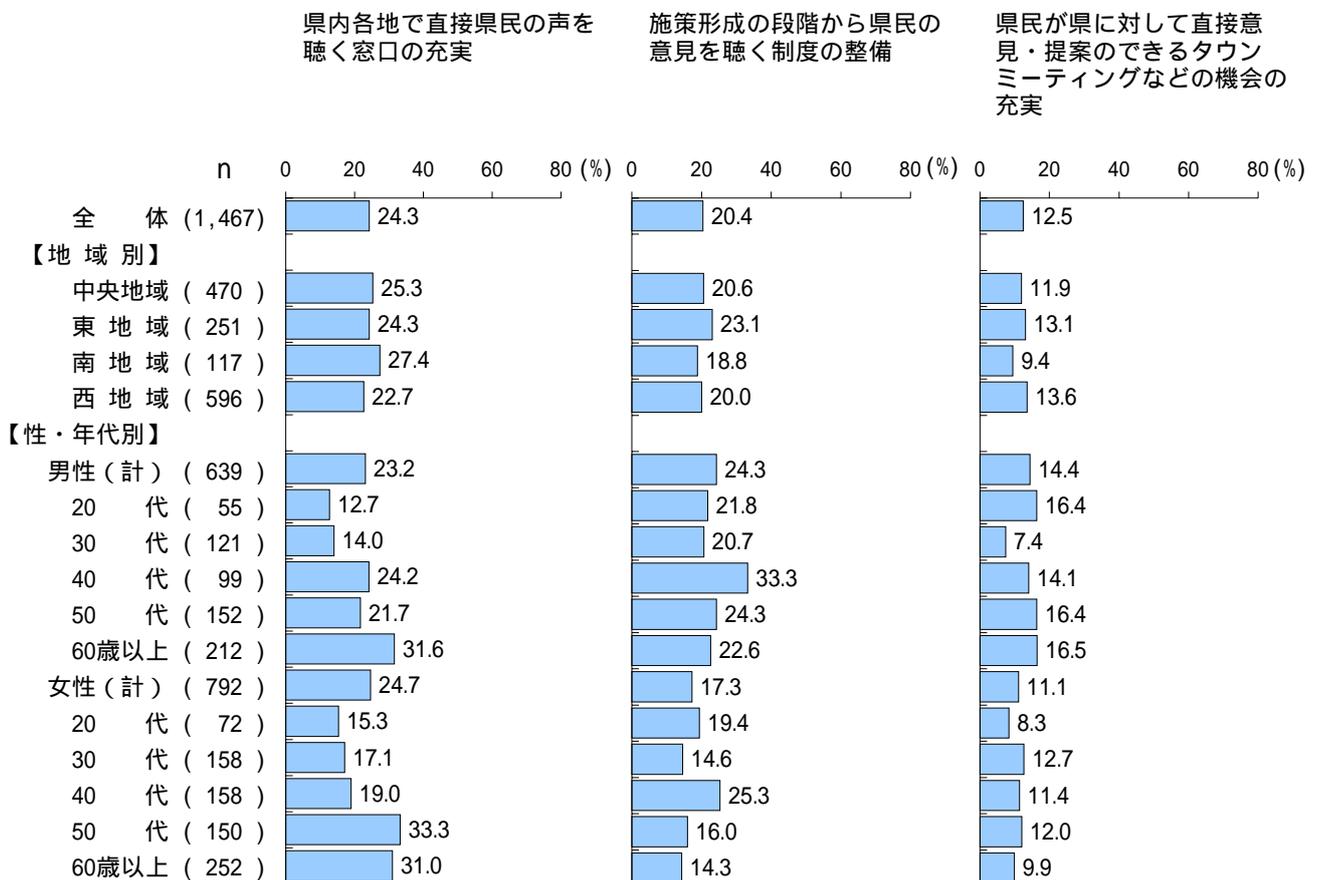
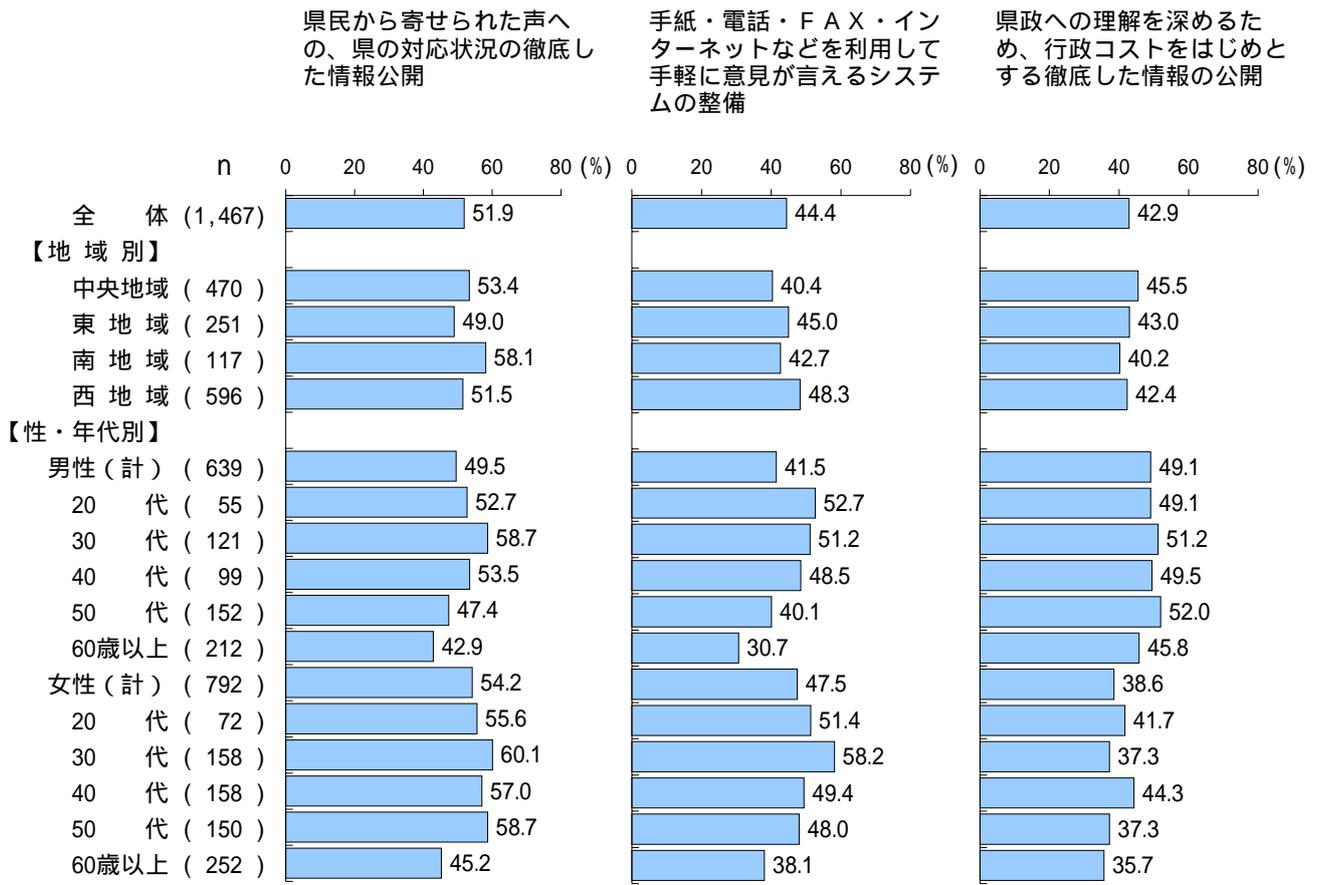
【地域別】

「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」は、「南地域」(58.1%) が最も高く、「東地域」(49.0%) が最も低くなっている。「手紙・電話・FAX・インターネットなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの整備」は、「西地域」(48.3%) が最も高く、「中央地域」(40.4%) が最も低くなっている。(図表 5 - 17)

【性・年代別】

「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」は、男性の30代(58.7%) と女性の30～50代で6割前後と高くなっており、女性の30代は「手紙・電話・FAX・インターネットなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの整備」(58.2%) でも約6割となっている。「県内各地で直接県民の声を聴く窓口の充実」では、男性の60代(31.6%) と女性の50歳以上で3割を超え比較的高くなっている。また、「施策形成の段階から県民の意見を聴く制度の整備」は、男女ともに40代で高く、特に、男性(33.3%) は3割台半ばとなっている。(図表 5 - 17)

<図表5 - 17> 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと / 地域別、性・年代別



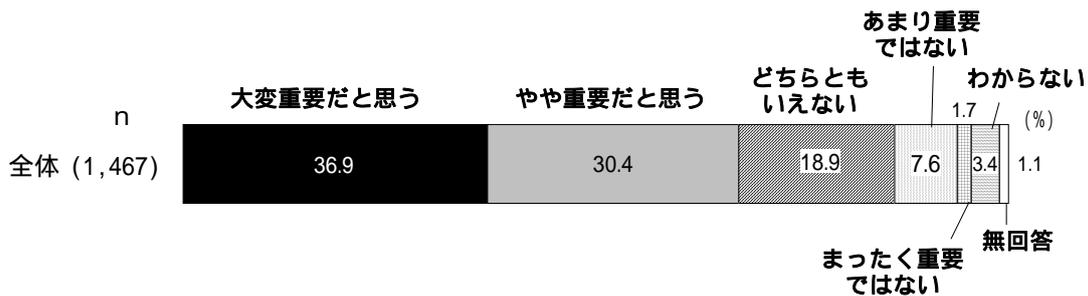
6 国際化について

(1) 外国人とともに暮らしやすい社会を形成することの重要性

『重要だと思う』が約7割、『重要ではない』は約1割

問23 千葉県で暮らす外国人は、永住外国人の他、留学生、国際ビジネスで来日する人々など10万人を超え、県人口の約1.6%をしめています。あなたは、外国人とともに暮らしやすい社会を形成することは重要だと思いますか。(は1つ)

<図表6 - 1> 外国人とともに暮らしやすい社会を形成することの重要性



外国人とともに暮らしやすい社会を形成することの重要性を聞いたところ、「大変重要だと思う」(36.9%)が3割台半ばで最も高く、「やや重要だと思う」(30.4%)と合わせて『重要だと思う』(67.3%)が約7割となっている。一方、「あまり重要ではない」(7.6%)と「まったく重要ではない」(1.7%)を合わせた『重要ではない』(9.3%)は約1割である。(図表6 - 1)

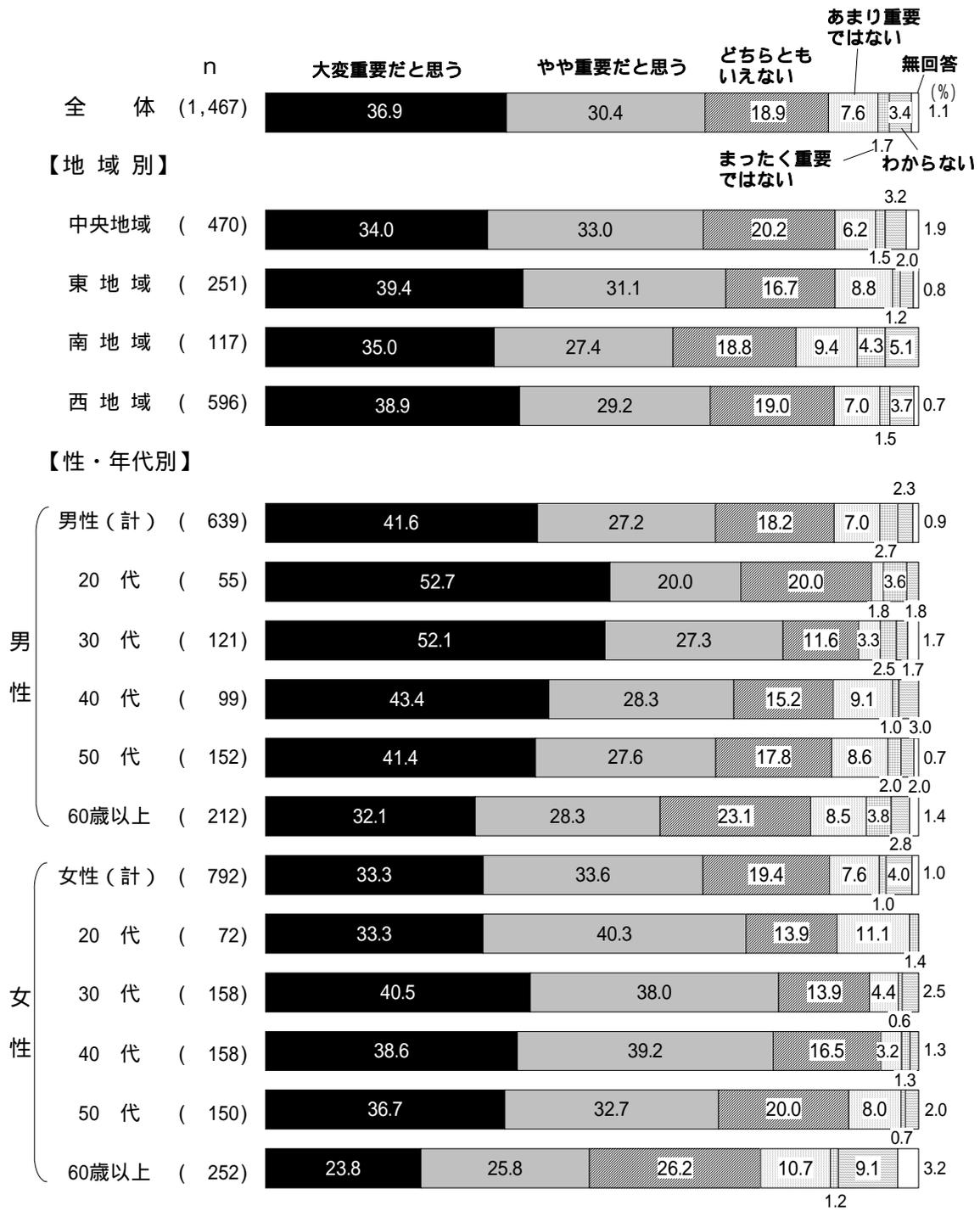
【地域別】

『重要だと思う』は“東地域”(70.5%)で7割となっている。また、“南地域”(62.4%)は他地域に比べ低くなっている。一方、『重要ではない』は“南地域”(13.7%)が高く、“中央地域”(7.7%)と“西地域”(8.5%)では約1割と低くなっている。(図表6 - 2)

【性・年代別】

『重要だと思う』は、男性の30代(79.4%)、女性の30代(78.5%)で約8割となっているが、男女ともそれ以降は、年代が上がるほど減少している。特に女性の60歳以上(49.6%)では約5割となっている。(図表6 - 2)

<図表6 - 2> 外国人とともに暮らしやすい社会を形成することの重要性 / 地域別、性・年代別

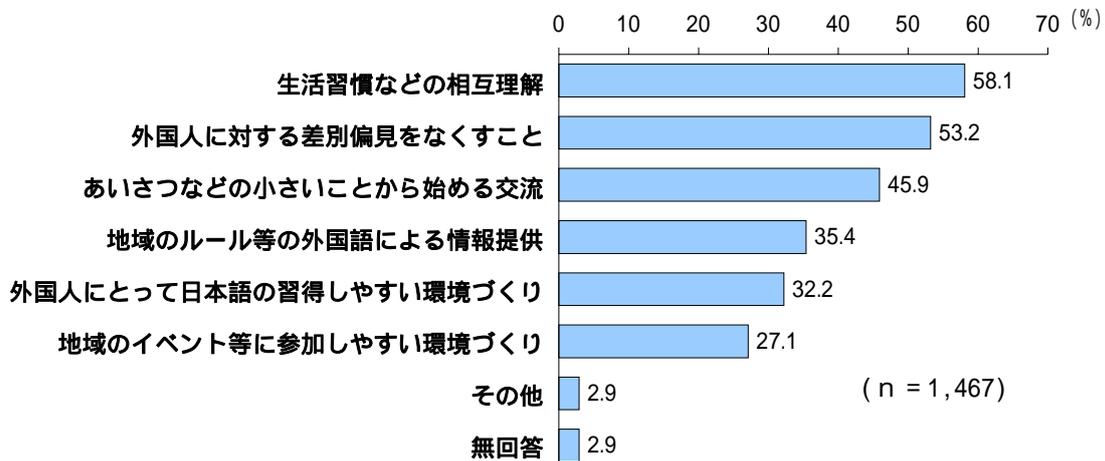


(2) 外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なこと

「生活習慣などの相互理解」が約6割

問24 外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。(はいいくつでも)

<図表6-3> 外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なこと(複数回答)



外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なだと思うことをいくつでも選んでもらったところ、「生活習慣などの相互理解」(58.1%)が約6割で最も高くなっている。次いで、「外国人に対する差別偏見をなくすこと」(53.2%)が5割台半ばである。一方、「地域のイベント等に参加しやすくする環境づくり」(27.1%)は約3割となっている。(図表6-3)

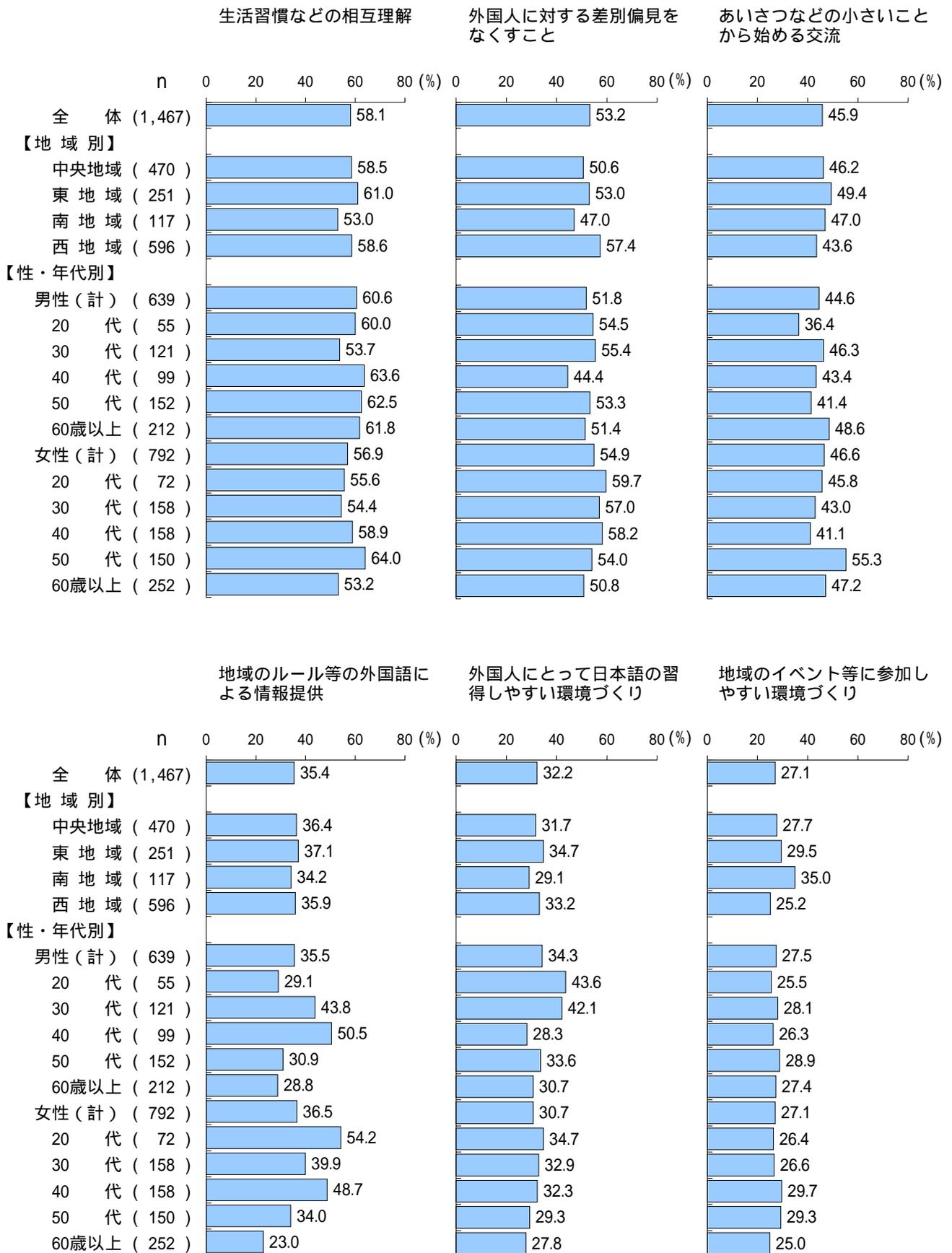
【地域別】

“南地域”は、「生活習慣などの相互理解」(53.0%)、「外国人に対する差別偏見をなくすこと」(47.0%)、「外国人にとって日本語の習得しやすい環境づくり」(29.1%)のいずれにおいても他の地域より低い、「地域のイベント等に参加しやすい環境づくり」(35.0%)では他の地域より高くなっている。(図表6-4)

【性・年代別】

「生活習慣などの相互理解」は、男性の30代を除く年代と女性の50代(64.0%)で6割を超え、「外国人に対する差別偏見をなくすこと」は男性の40代(44.4%)以外は5割を超えている。「あいさつなどの小さいことから始める交流」は女性50代(55.3%)が5割台半ばで高く、男性の20代(36.4%)は3割台半ばと低くなっている。また、「地域のルール等の外国語による情報提供」は男性の40代(50.5%)と女性の20代(54.2%)で5割を超え高く、「外国人にとって日本語の習得しやすい環境づくり」は男性の20代(43.6%)と30代(42.1%)が4割を超える。(図表6-4)

<図表6 - 4> 外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なこと / 地域別、性・年代別

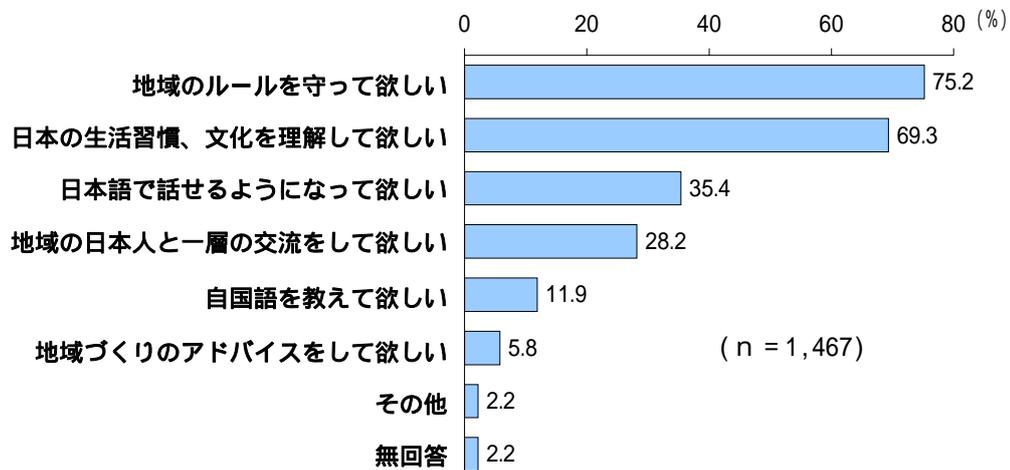


(3) 外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むこと

「地域のルールを守って欲しい」と「日本の生活習慣、文化を理解して欲しい」が突出

問25 あなたは、外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むことは何ですか。
(はいくつでも)

<図表6-5> 外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むこと(複数回答)



外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むことをいくつか選んでもらったところ、「地域のルールを守って欲しい」(75.2%)が7割台半ばで、次いで「日本の生活習慣、文化を理解して欲しい」(69.3%)が約7割と、これら上位2項目が突出している。一方、「日本語で話せるようになって欲しい」(35.4%)が3割台半ばで、「地域の日本人と一層の交流をして欲しい」(28.2%)は約3割にとどまっている。(図表6-5)

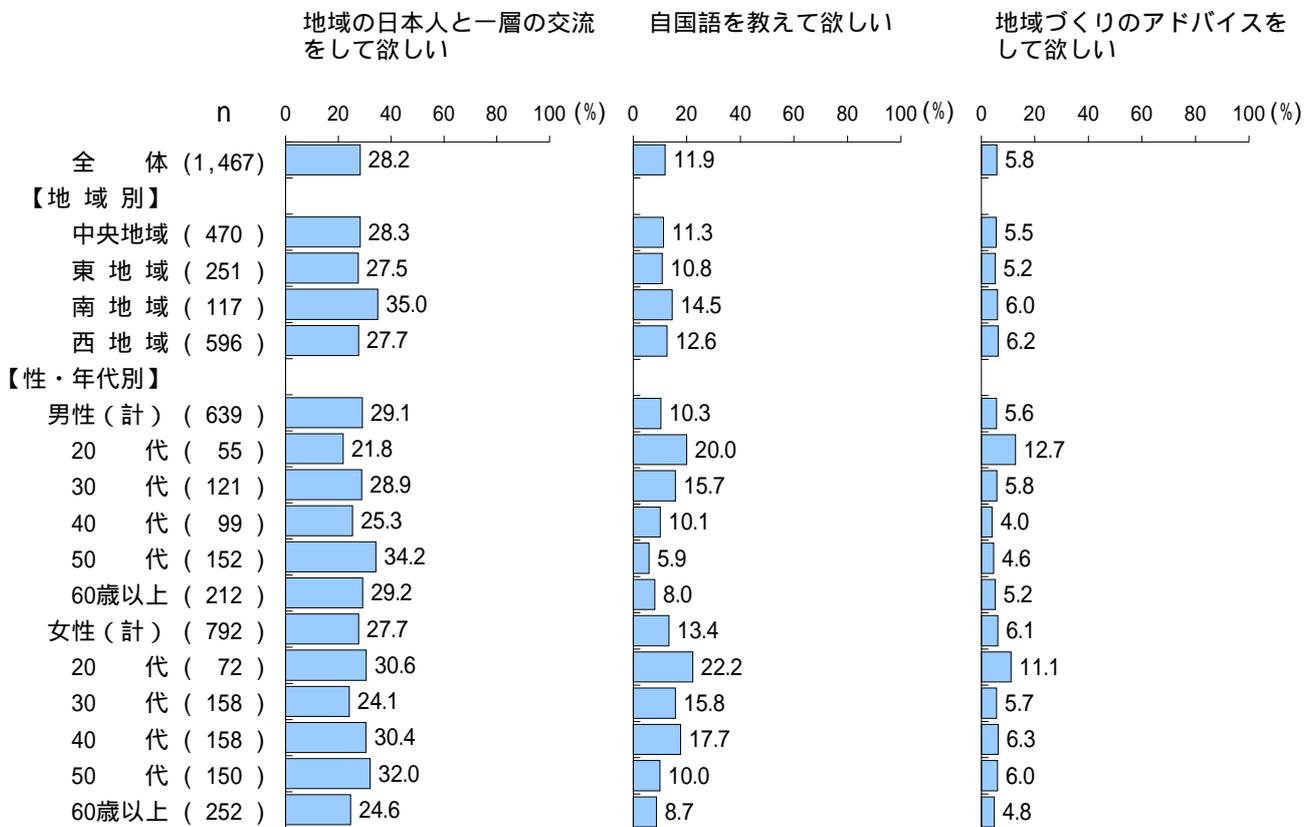
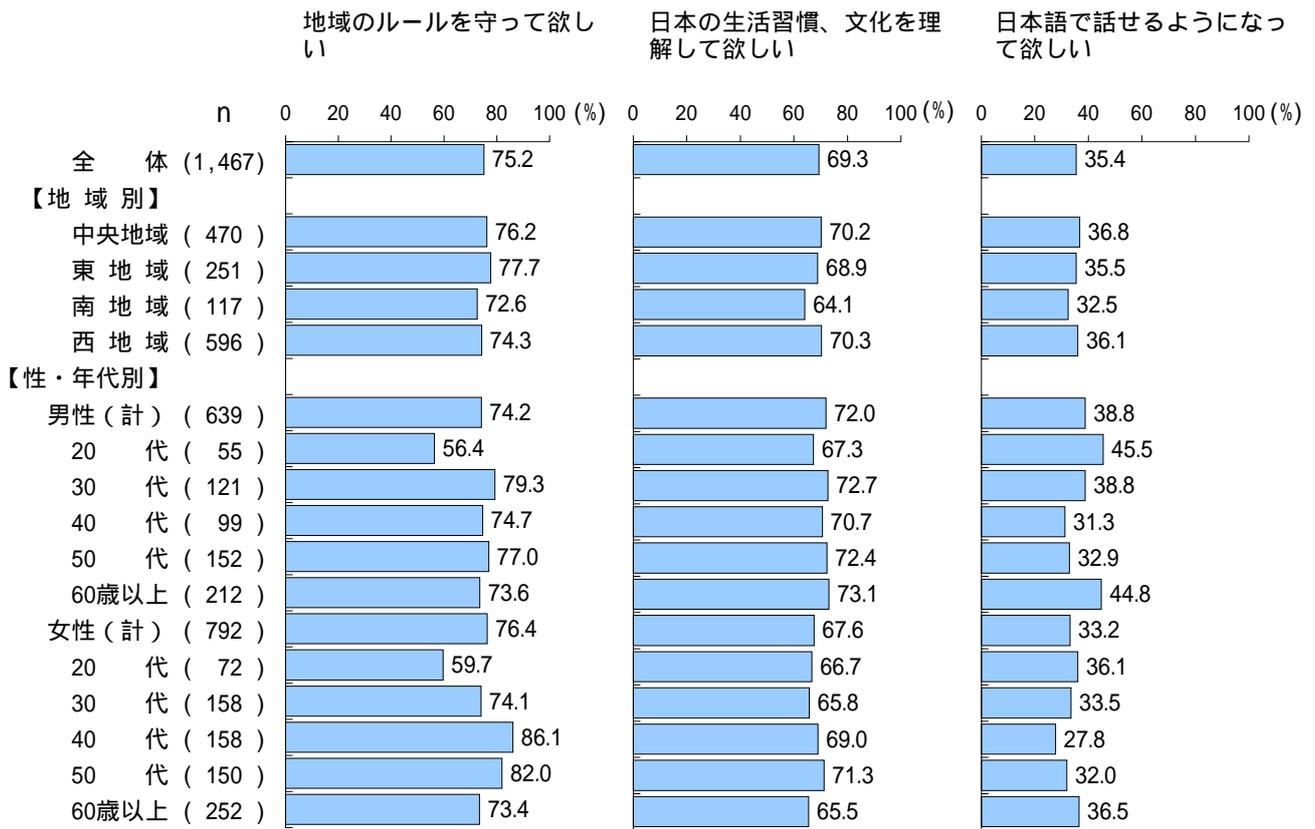
【地域別】

全体の上位3項目は大きな差がみられないが、“南地域”では他の地域に比べ若干低くなっている。また、「地域の日本人と一層の交流をして欲しい」は“南地域”(35.0%)が3割台半ばで他の地域に比べ高くなっている。(図表6-6)

【性・年代別】

「地域のルールを守って欲しい」は、男女とも20代以外の年代で7割を超えるが、20代では6割を下回る。「日本の生活習慣、文化を理解して欲しい」は、性や年代による差があまりみられず、「日本語で話せるようになって欲しい」は男性の20代(45.5%)と60歳以上(44.8%)で高く4割台半ばとなっている。「自国語を教えて欲しい」は、男女とも20代で高く2割以上となっている。(図表6-6)

<図表6 - 6> 外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むこと / 地域別、性・年代別

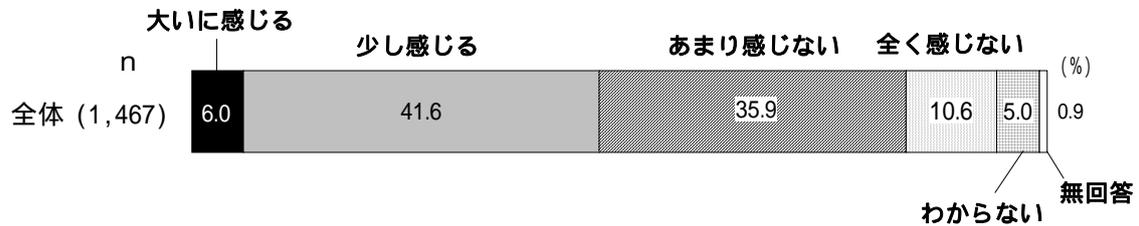


(4) 外国人への差別や偏見の意識

『感じる』と『感じない』がほぼ同数

問26 あなたは、外国人への差別や偏見の意識はありますか。(は1つ)

<図表6-7>外国人への差別や偏見の意識



外国人への差別や偏見の意識を聞いたところ、「大いに感じる」(6.0%)が少数ながらあり、「少し感じる」(41.6%)が4割を超え最も高い。これらを合わせた『感じる』(47.6%)は約5割となっている。一方、「あまり感じない」(35.9%)と「全く感じない」(10.6%)を合わせた『感じない』(46.5%)もほぼ同率である。(図表6-7)

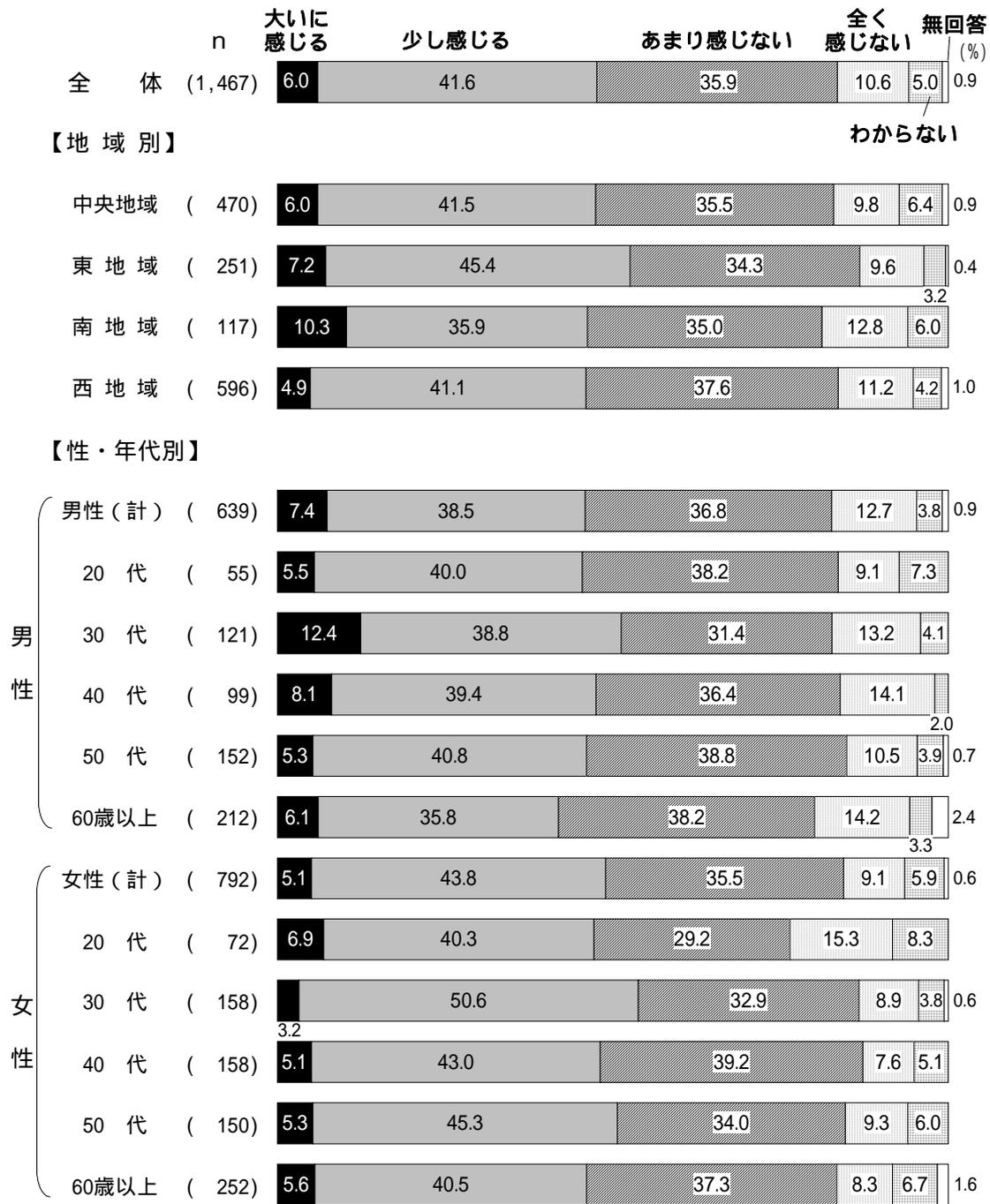
【地域別】

「大いに感じる」は“南地域”(10.3%)で1割となっている。“西地域”(4.9%)では他の地域に比べ低くなっている。『感じる』は“東地域”(52.6%)で5割を超え他の地域に比べて高くなっている。一方、『感じない』は“東地域”(43.9%)が他の地域に比べ低くなっている。(図表6-8)

【性・年代別】

『感じる』は男女とも30代が高く、特に男性では、「大いに感じる」(12.4%)が他の年代に比べ高くなっている。一方、『感じない』は、男性40代(50.5%)、男性60歳以上(52.4%)が5割を超え高くなっている。また、男女とも30代が低く、特に女性では約4割となっている。(図表6-8)

<図表6 - 8> 外国人への差別や偏見の意識 / 地域別、性・年代別



(5) 国際交流活動への参加意欲

「興味のある分野なら参加したい」と「あまり思わない」がそれぞれ4割前後

問27 国境を越えて広がる地球規模の課題の解決には、個人や団体、地域が世界各地とネットワークを構築し、その得意とする分野で交流や協力を展開することが重要になっています。

あなたは、今後の国際交流活動への参加意欲はありますか。(は1つ)

<図表6-9> 国際交流活動への参加意欲



国際交流活動への参加意欲を聞いたところ、「興味のある分野なら参加したい」(39.9%)が約4割だが、「あまり思わない」(42.9%)が4割を超えている。なお、「興味が無い」(16.2%)は1割台半ばとなっている。(図表6-9)

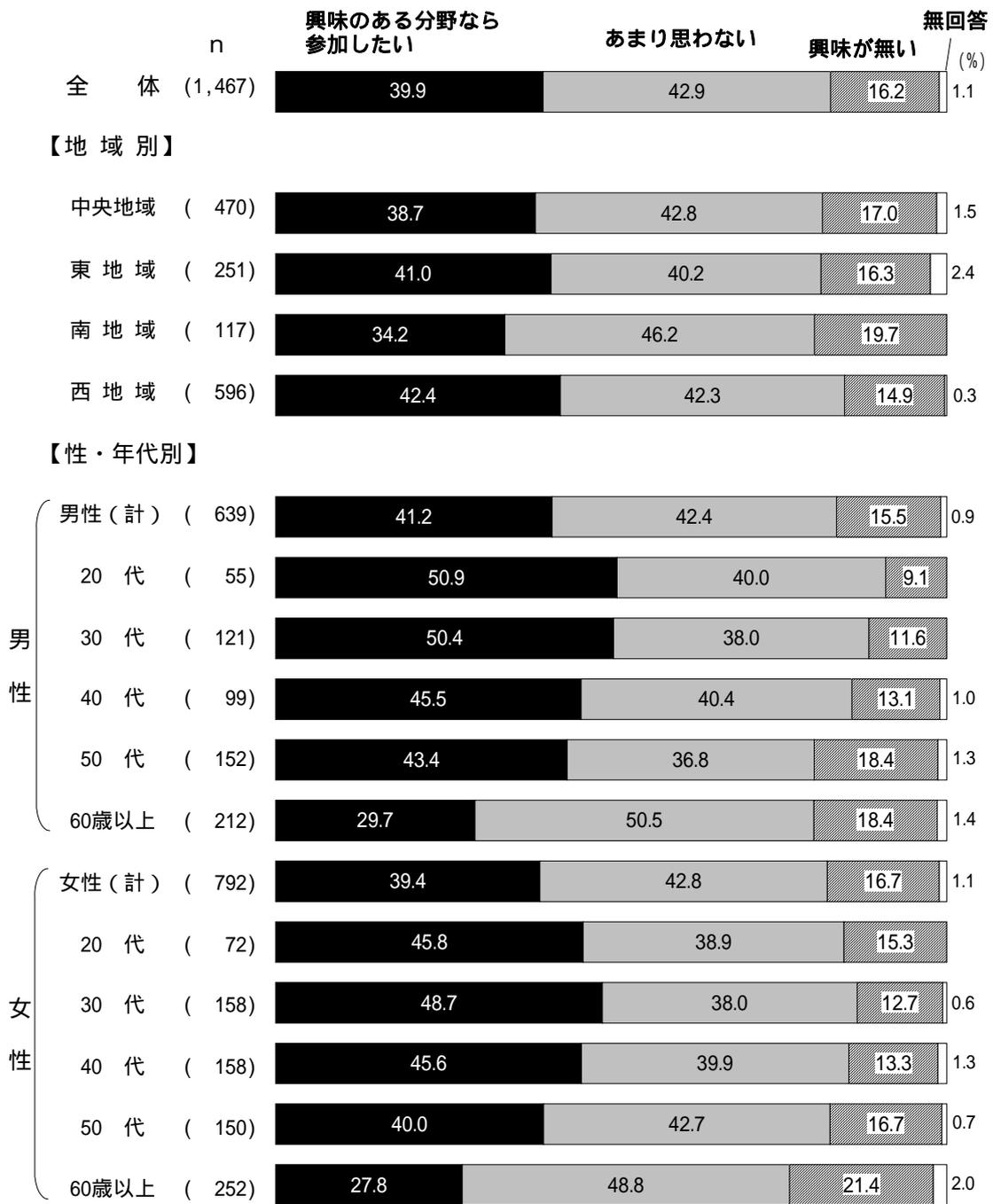
【地域別】

「興味のある分野なら参加したい」は、「東地域」(41.0%)と「西地域」(42.4%)で4割を超えるが、「南地域」(34.2%)では低くなっている。一方、「あまり思わない」は「南地域」(46.2%)が他の地域と比べて高くなっている。また、「興味が無い」は「南地域」(19.7%)が高くなっている。(図表6-10)

【性・年代別】

「興味のある分野なら参加したい」は、男性の20代(50.9%)と30代(50.4%)で5割と高くなっている。また、男性の60歳以上(29.7%)と女性の60歳以上(27.8%)は約3割で低くなっている。一方、「あまり思わない」は男性の60歳以上(50.5%)で5割となっている。(図表6-10)

<図表6 - 10> 国際交流活動への参加意欲 / 地域別、性・年代別



(6) 国際協力活動への参加意欲

「興味のある分野なら参加したい」と「あまり思わない」がそれぞれ4割前後

問28 今後の国際協力活動への参加意欲はありますか。(は1つ)

<図表6 - 11> 国際協力活動への参加意欲



国際協力活動への参加意欲を聞いたところ、国際交流活動同様、「興味のある分野なら参加したい」(39.1%)が約4割だが、「あまり思わない」(42.7%)が4割を超えわずかに上回る。なお、「興味が無い」(17.0%)は約2割となっている。(図表6 - 11)

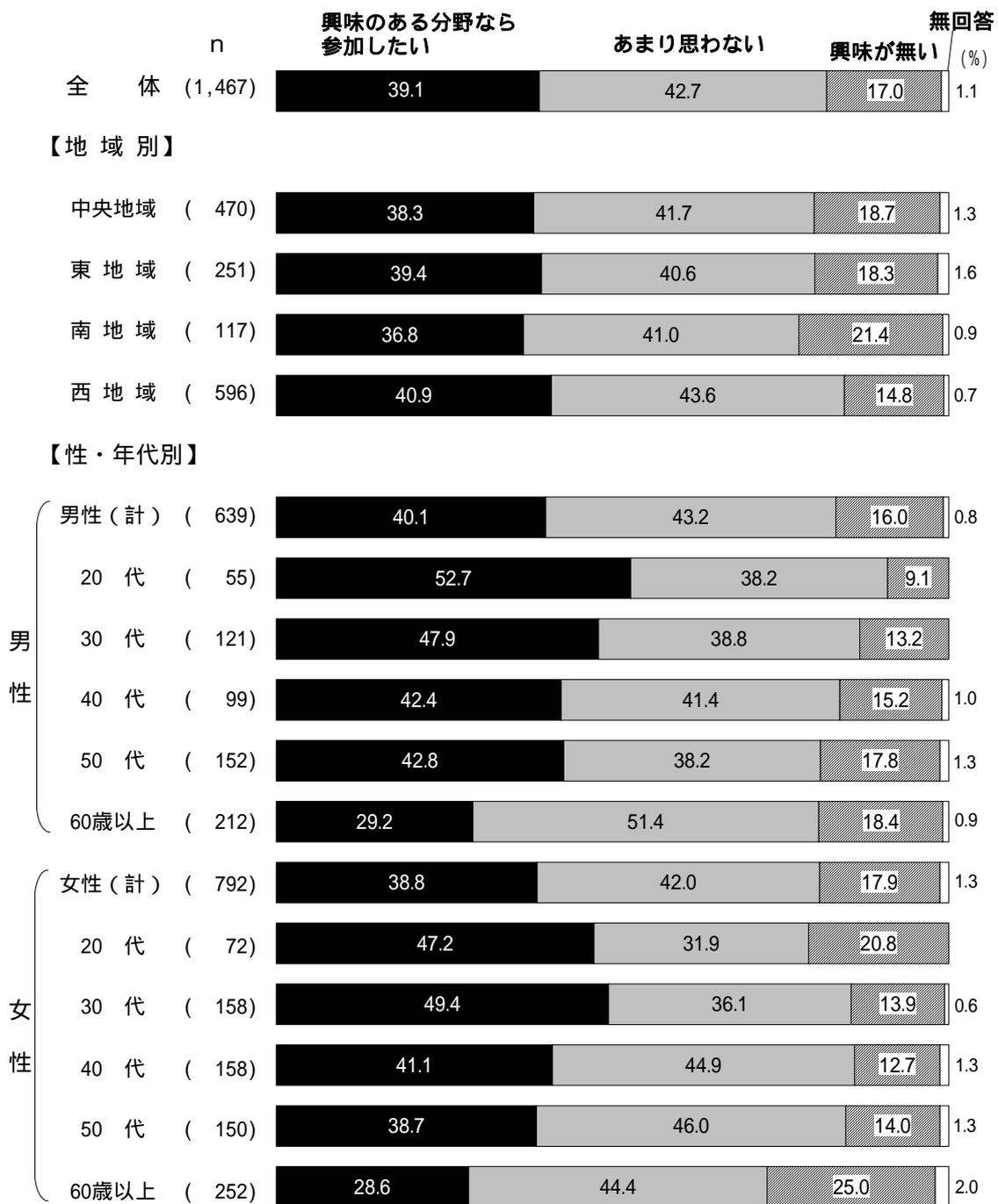
【地域別】

「興味のある分野なら参加したい」は“西地域”(40.9%)が4割で高くなっているが、地域による大きな差は見られない。一方、「興味が無い」では、“南地域”(21.4%)が2割を超える。(図表6 - 12)

【性・年代別】

「興味のある分野なら参加したい」は、男性の20代(52.7%)が5割を超え高くなっている。男性は20代を、女性は30代をピークに年代が上がるほど減少する傾向がみられ、60歳以上では3割を下回る。一方、「あまり思わない」は男性の60歳以上(51.4%)で5割を超えている。「興味が無い」は女性の60歳以上(25.0%)で特に高くなっている。(図表6 - 12)

<図表6 - 12> 国際協力活動への参加意欲 / 地域別、性・年代別



7 動物愛護について

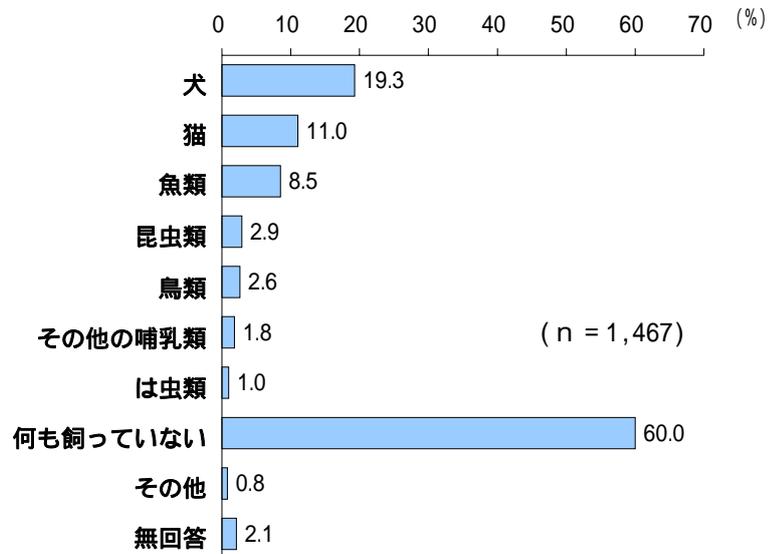
(1) ペットの有無

「犬」は約2割。「猫」と「魚類」が1割前後

問29 県では、動物愛護の啓発や動物の適正な取り扱いの普及等、動物愛護に係る業務を推進するうえで、県民の皆さんが動物（ペット）についてどのように考えているか知りたいと思います。

あなたはどのようなペットを飼っていますか。（はいくつでも）

<図表7 - 1> ペットの有無（複数回答）



飼っているペットをいくつでも選んでもらったところ、「何も飼っていない」(60.0%)が6割を占める。ペットを飼っている人の中では、「犬」(19.3%)が約2割で最も高く、「猫」(11.0%)と「魚類」(8.5%)が1割前後である。(図表7 - 1)

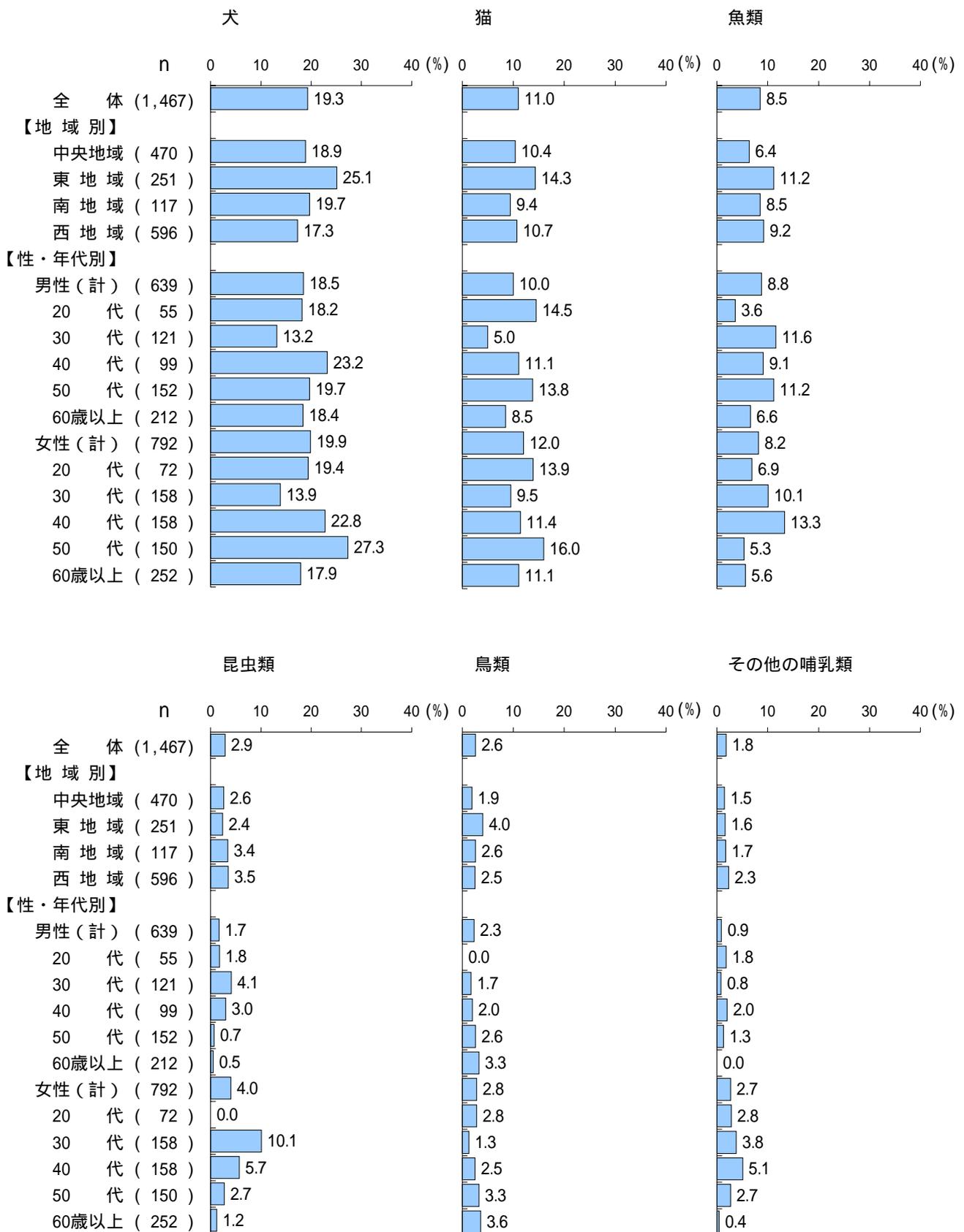
【地域別】

「犬」、「猫」、「魚類」の上位3項目を飼っている割合が最も高いのは、いずれも“東地域”である。(図表7 - 2)

【性・年代別】

「犬」は男性の40代(23.2%)、女性の40代(22.8%)と50代(27.3%)で2割を超え高くなっている。「猫」は男女とも20代と50代で高くなっており、1割台半ばである。(図表7 - 2)

<図表7 - 2> ペットの有無 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)



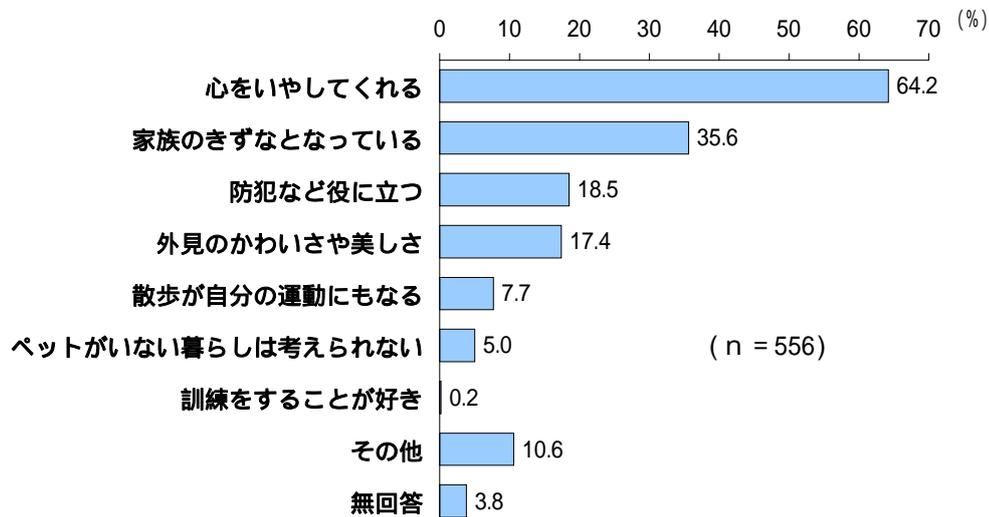
(1 - 1) ペットを飼っている理由

「心をいやしてくれる」が6割台半ば

(問29で「1」～「8」のいずれかをお答えの方に)

問29 - 1 あなたは、どういう理由でペットを飼っていますか。(は2つまで)

<図表7 - 3> ペットを飼っている理由(複数回答)



問29でペットを飼っていると回答した556人を対象に、飼っている理由を2つまで選んでもらったところ、「心をいやしてくれる」(64.2%)が6割台半ばで最も多かった。次いで、「家族のきずなとなっている」(35.6%)が3割台半ばで、「防犯など役に立つ」(18.5%)と「外見のかわいさや美しさ」(17.4%)が約2割となっている。(図表7 - 3)

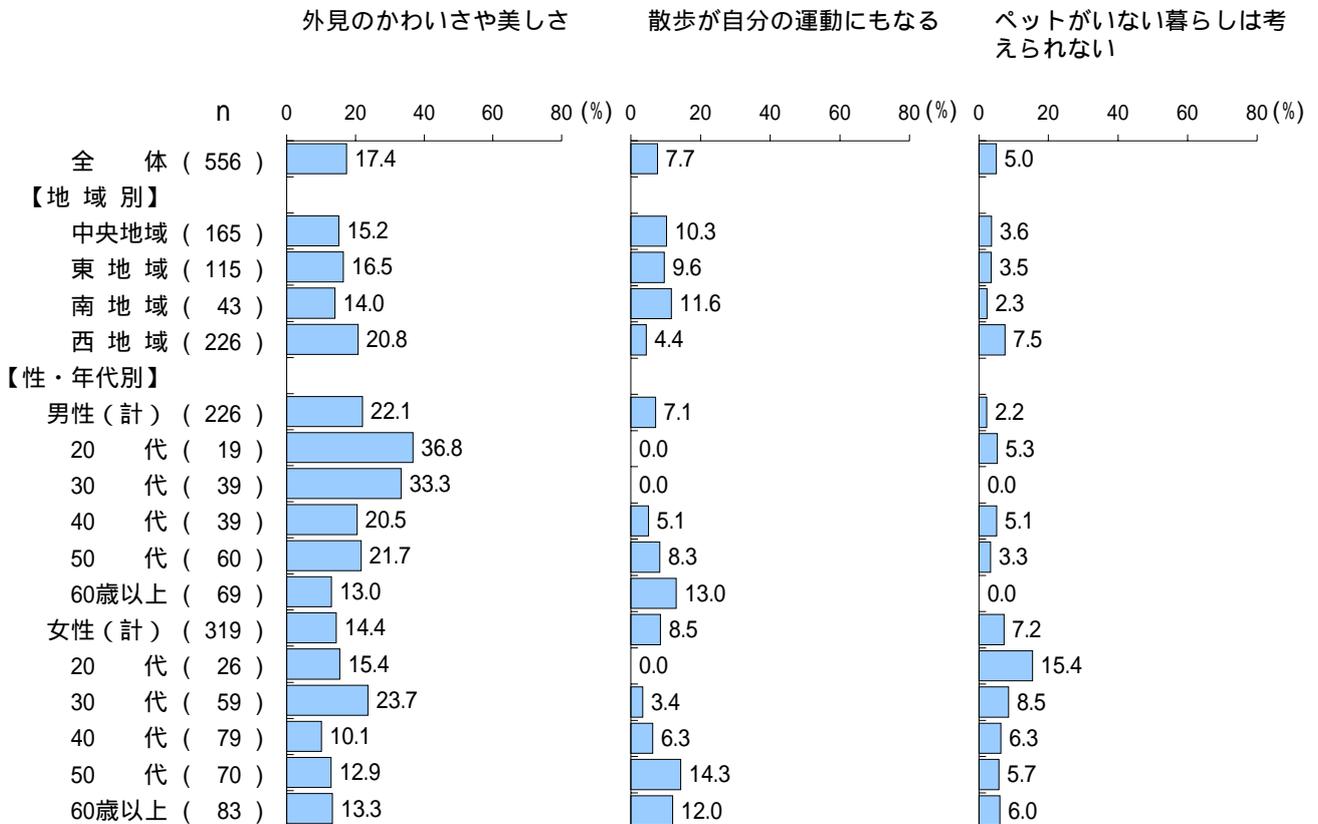
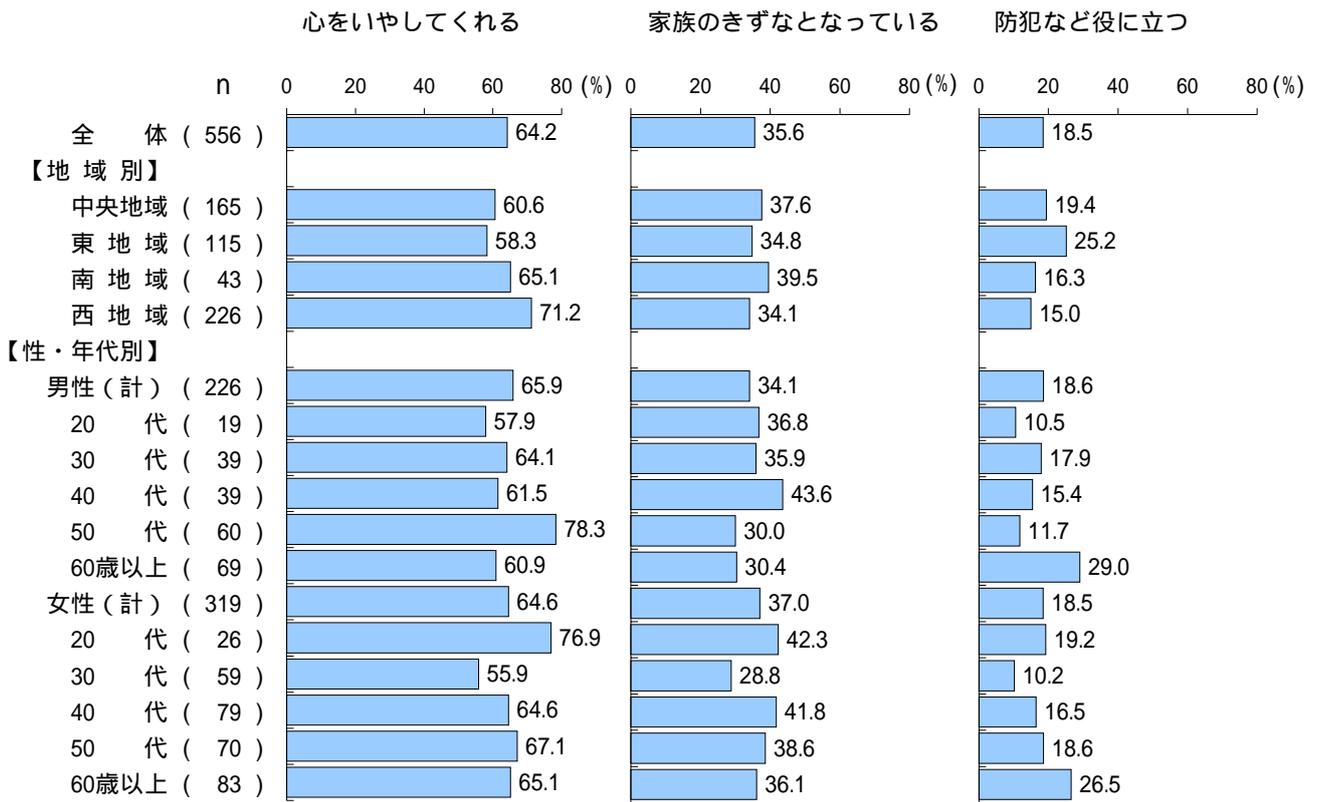
【地域別】

「心をいやしてくれる」は、「西地域」(71.2%)で7割を超え最も高く、「東地域」(58.3%)で約6割と低い。「家族のきずなとなっている」は「南地域」(39.5%)で約4割と最も高い。「防犯など役に立つ」は「東地域」(25.2%)で2割台半ばと最も高く、「西地域」(15.0%)で最も低い。(図表7 - 4)

【性・年代別】

「心をいやしてくれる」は、男性の50代(78.3%)、女性の20代(76.9%)で7割を超え、他の年代も5割を超えている。「家族のきずなとなっている」は、男性の40代(43.6%)、女性の20代(42.3%)で4割を超え、他の年代もおおむね3割を超えている。「防犯など役に立つ」は、男女とも60歳以上で2割を超え、他の年代も1割を超えている。「外見のかわいさや美しさ」は、男性は20代(36.8%)、30代(33.3%)で3割台半ば、女性は30代で(23.7%)で2割台半ば、他の年代も1割を超えている。(図表7 - 4)

<図表7 - 4> ペットを飼っている理由 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)



(1 - 2) 犬の飼い方

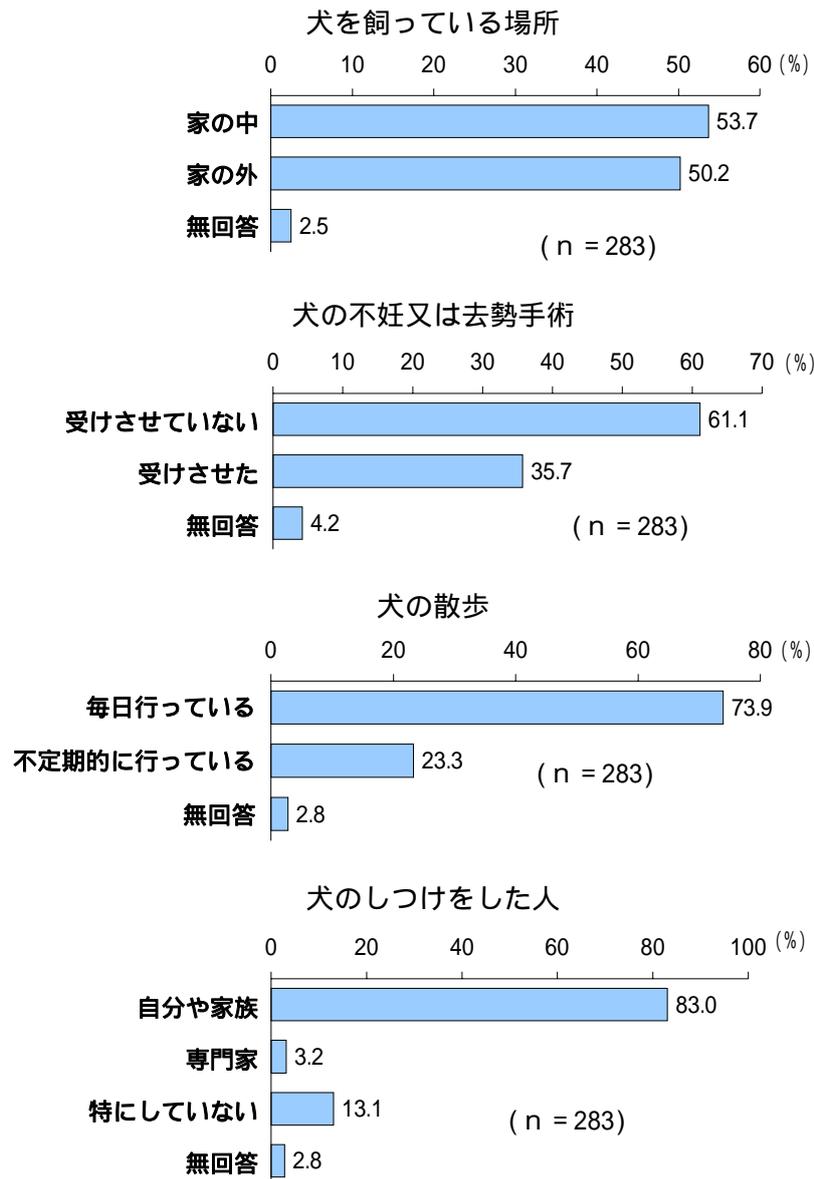
犬を飼っている場所は「家の中」が「家の外」よりやや多い

不妊又は去勢手術は「受けさせていない」、散歩は「毎日行っている」、しつけは「自分や家族」がした人が多数

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 2 犬をどのように飼っていますか。(はいくつでも)

<図表 7 - 5 > 犬の飼い方 (複数回答)



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、犬を飼っている場所は、「家の中」(53.7%) が「家の外」(50.2%) をわずかに上回っている。犬の不妊又は去勢手術は、「受けさせていない」(61.1%) が 6 割を超えている。犬の散歩は、「毎日行っている」(73.9%) が 7 割台半ばである。犬のしつけをした人は、「自分や家族」(83.0%) が 8 割台半ばとなっている。「特にしていない」(13.1%) が 1 割台半ばで、「専門家」(3.2%) は少数になっている。(図表 7 - 5)

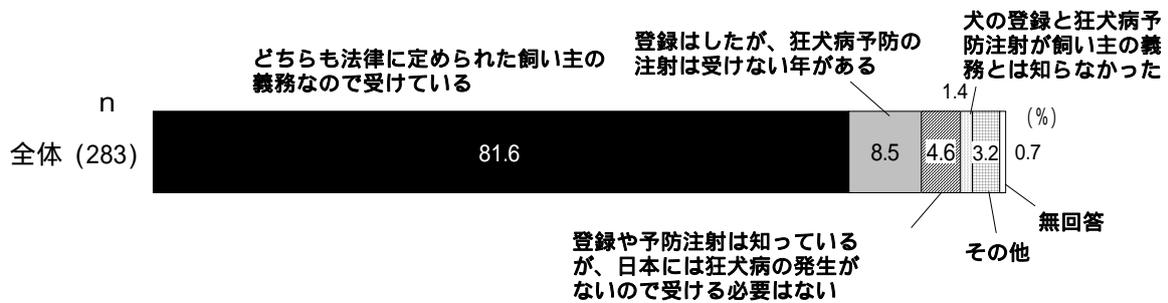
(1 - 3) 犬の登録や狂犬病予防注射の状況

「法律に定められた飼い主の義務なので受けている」が8割を超え最も多い

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 3 犬の登録や狂犬病予防注射はどうしていますか。(は1つ)

<図表 7 - 6 > 犬の登録や狂犬病予防注射の状況



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の登録や狂犬病予防注射の状況を聞いたところ、「どちらも法律に定められた飼い主の義務なので受けている」(81.6%) が 8 割を超え最も多い。一方、「登録はしたが、狂犬病予防の注射は受けない年がある」(8.5%)、「登録や予防注射は知っているが、日本には狂犬病の発生がないので受ける必要はない」(4.6%)、「犬の登録と狂犬病予防注射が飼い主の義務とは知らなかった」(1.4%) といった回答が少数ながらみられる。(図表 7 - 6)

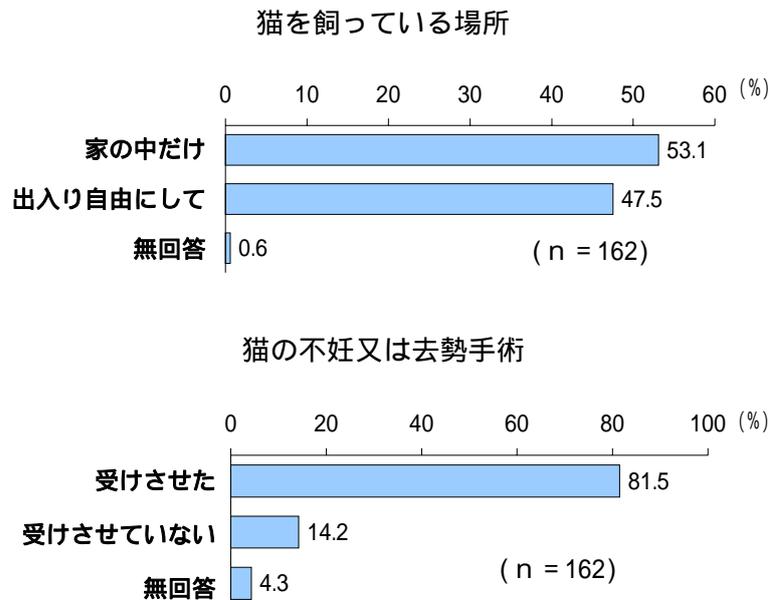
(1 - 4) 猫の飼い方

猫を飼っている場所は「家の中だけ」が5割台半ば、「出入り自由」は約5割
不妊又は去勢手術は「受けさせた」が8割を超える

(問29で「2 猫」とお答えの方に)

問29 - 4 猫は、どのように飼っていますか。(はいくつでも)

< 図表 7 - 7 > 猫の飼い方 (複数回答)



問 29 で猫を飼っていると回答した 162 人を対象に、猫の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、猫を飼っている場所は、「家の中だけ」(53.1%) が 5 割台半ばで、「出入り自由にして」(47.5%) は約 5 割となっている。猫の不妊または去勢手術は、「受けさせた」(81.5%) が 8 割を超え、「受けさせていない」(14.2%) が 1 割台半ばになっている。(図表 7 - 7)

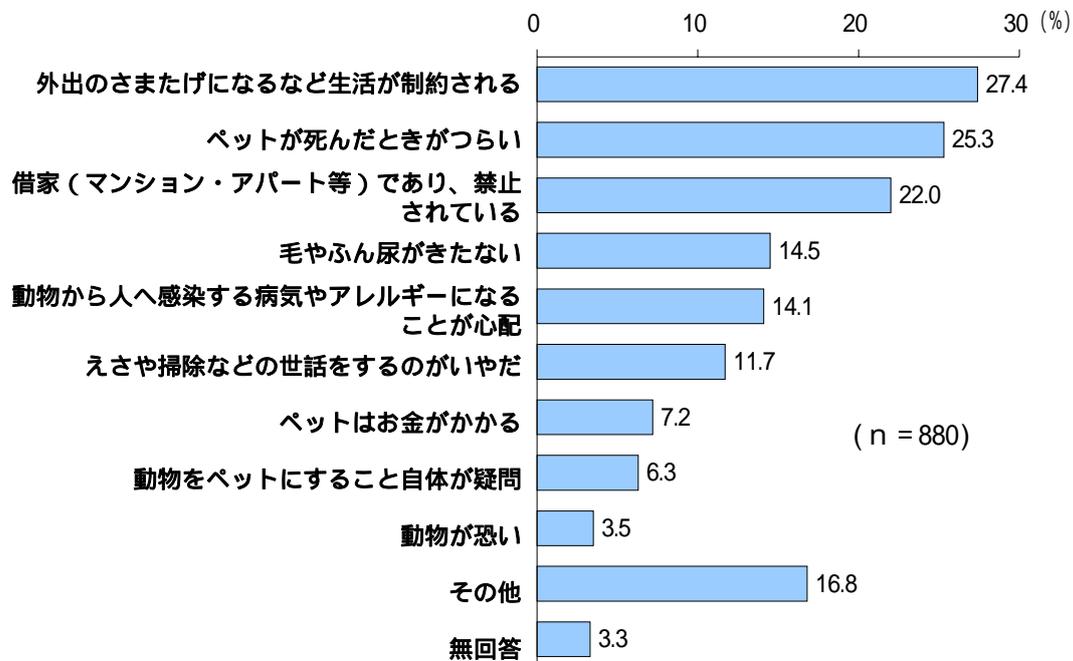
(1 - 5) ペットを飼っていない理由

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」が約 3 割で最も高い

(問29で「 9 何も飼っていない」とお答えの方に)

問29 - 5 あなたは、どういう理由でペットを飼っていないのですか。(は 2 つまで)

< 図表 7 - 8 > ペットを飼っていない理由 (複数回答)



問 29 でペットを「何も飼っていない」と回答した 880 人を対象に、飼っていない理由を 2 つまで選んでもらったところ、「外出のさまたげになるなど生活が制約される」(27.4%) が約 3 割で最も高くなっている。これに、「ペットが死んだときが辛い」(25.3%)、「借家 (マンション・アパート等) であり、禁止されている」(22.0%) が 2 割を超え続いている。(図表 7 - 8)

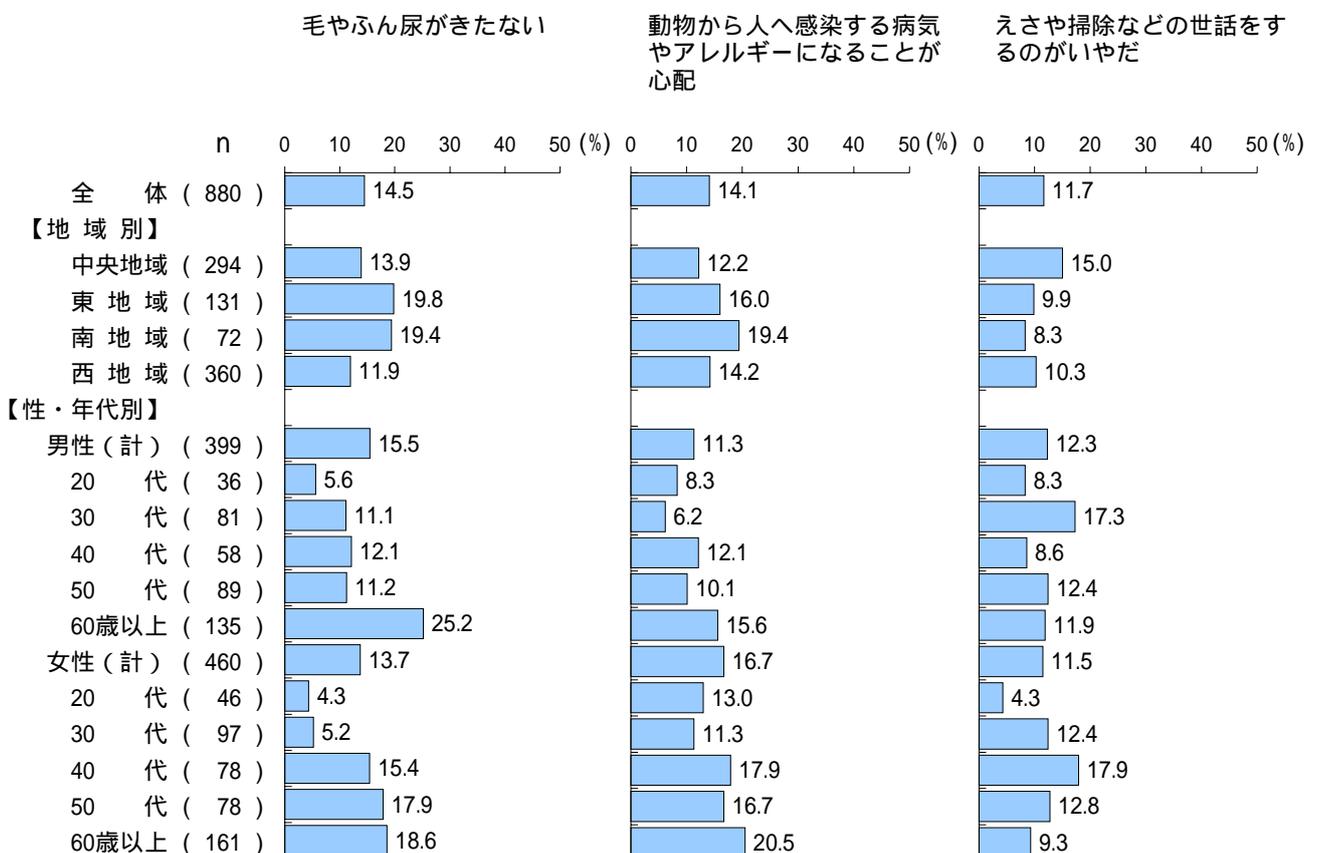
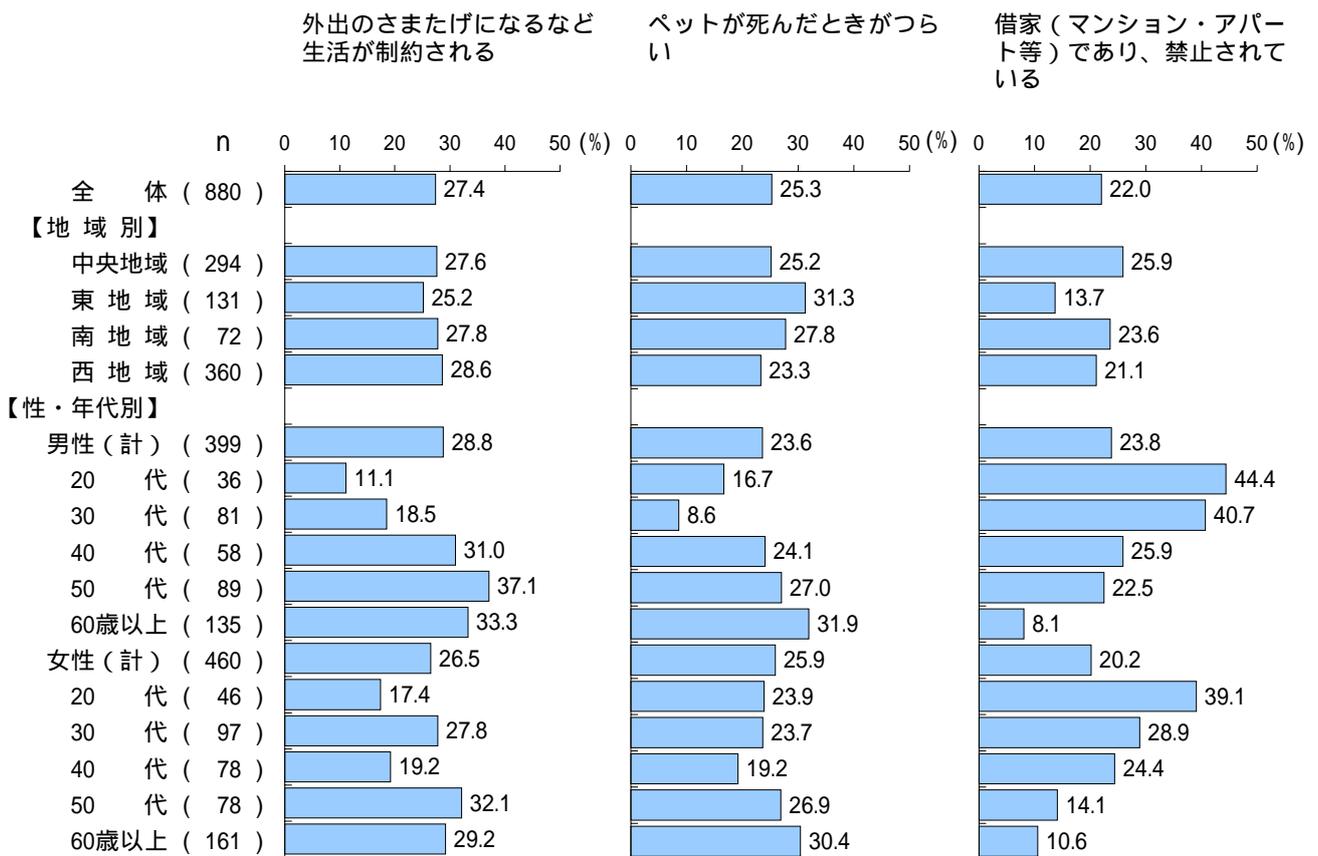
【地域別】

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、各地域とも 2 割台後半であり差はない。「ペットが死んだときが辛い」は「東地域」(31.3%) で 3 割を超え最も高く、「西地域」(23.3%) が最も低い。「借家 (マンション・アパート等) であり、禁止されている」は「中央地域」(25.9%) が最も高く、「東地域」(13.7%) が最も低い。「毛やふん尿がきたない」、「動物から人へ感染する病気やアレルギーになることが心配」は、「東地域」と「南地域」が他地域より高い。「えさや掃除などの世話をするのがいやだ」は、「中央地域」(15.0%) が最も高くなっている。(図表 7 - 9)

【性・年代別】

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、40 歳以上の男性及び女性の 50 代 (32.1%) で 3 割を超え、特に男性 50 代 (37.1%) では約 4 割で最も高い。「ペットが死んだときが辛い」は男女とも 50 歳以上で高くなっている。「借家 (マンション・アパート等) であり、禁止されている」は、低い年代ほど高くなっており、特に、男性の 20 代 (44.4%) と 30 代 (40.7%) では 4 割を超えている。(図表 7 - 9)

<図表7 - 9> ペットを飼っていない理由 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

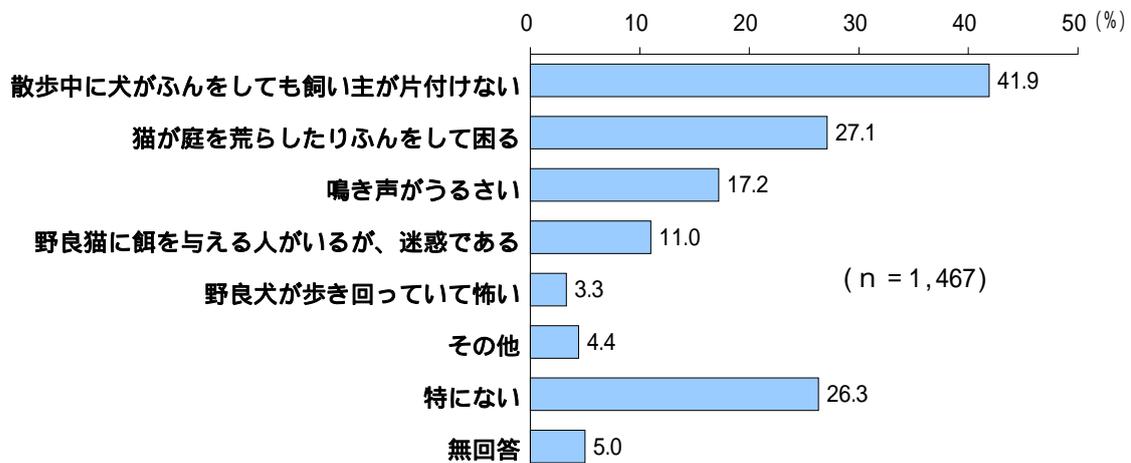


(2) 犬や猫による迷惑

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」が4割を超え最も高い

問30 あなたの周辺で犬や猫による生活への迷惑はありますか。(は2つまで)

<図表7-10> 犬や猫による迷惑(複数回答)



犬や猫による迷惑を2つまで選んでもらったところ、「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」(41.9%)が4割を超え最も高い。次いで、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」(27.1%)が約3割、「鳴き声がうるさい」(17.2%)が約2割などとなっている。(図表7-10)

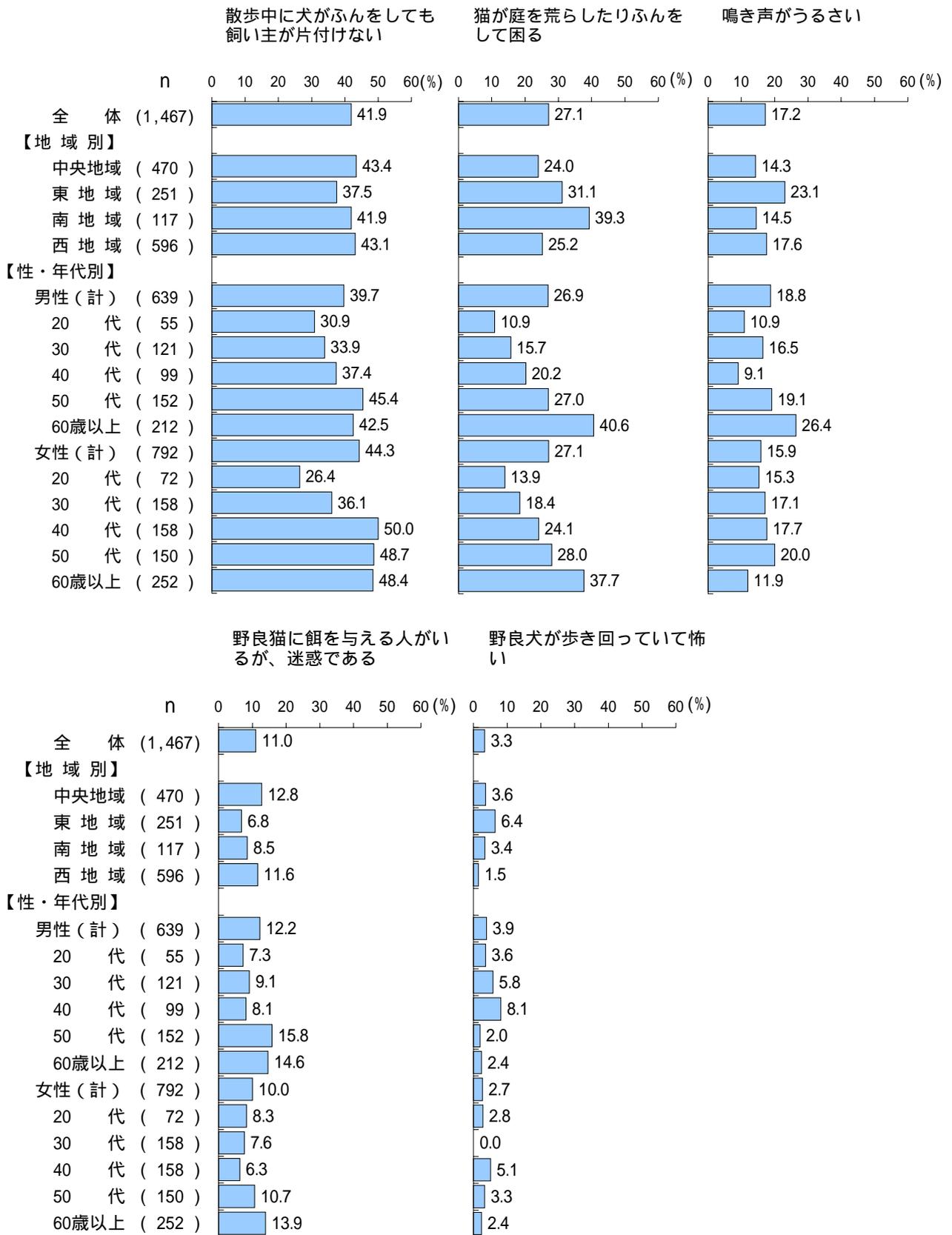
【地域別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は“東地域”(37.5%)を除く地域は4割を超えている。「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は“南地域”(39.3%)で約4割と他の地域に比べて高くなっている。また、「鳴き声がうるさい」は“東地域”(23.1%)が他地域に比べ高い。(図表7-11)

【性・年代別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は、男性の50歳以上及び女性の40歳以上で4割を超え高く、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は、男女とも年代が上がるほど増加し、60歳以上で4割前後となっている。また、「鳴き声がうるさい」は、男性の60歳以上(26.4%)、女性の50代(20.0%)で2割以上と高い。(図表7-11)

<図表7 - 11> 犬や猫による迷惑 / 地域別、性・年代別

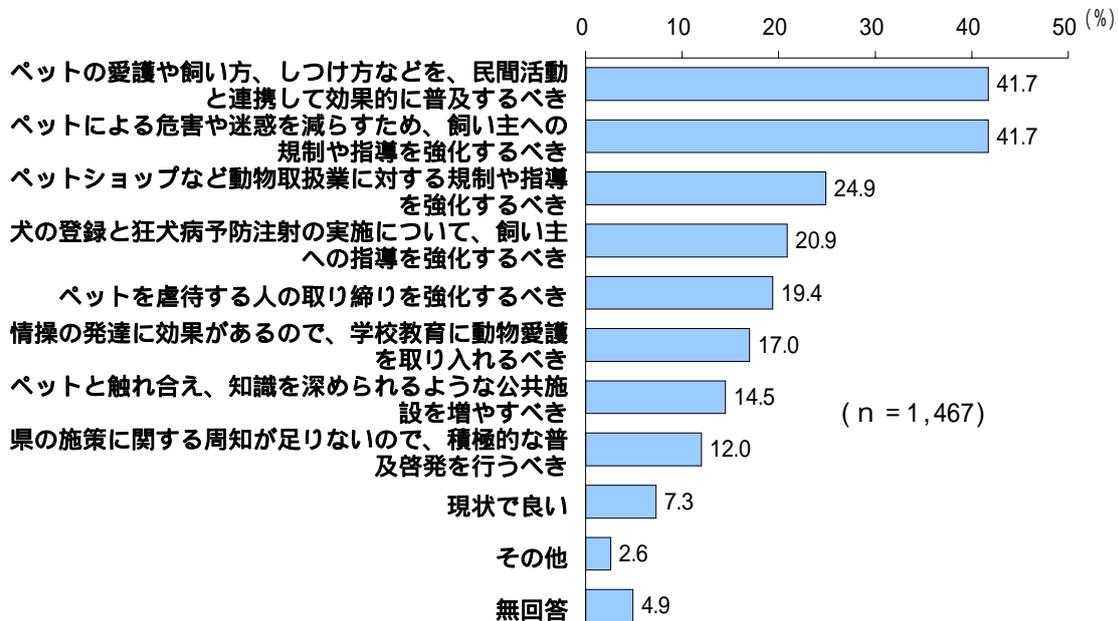


(3) ペット動物に関して行政が重点とすべきもの

「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」が4割を超える

問31 県のペット動物に関する行政は、何を重点とすべきと思いますか。(は3つまで)

<図表7-12> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの(複数回答)



ペット動物に関して行政が重点とすべきものを3つまで選んでもらったところ、「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」(ともに41.7%)が4割を超えている。次いで、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」(24.9%)が2割台半ばで、「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化するべき」(20.9%)と「ペットを虐待する人の取り締りを強化するべき」(19.4%)が2割前後となっている。(図表7-12)

【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」は、「東地域」(27.9%)と「西地域」(27.2%)で他地域より高くなっている。(図表7-13)

【性・年代別】

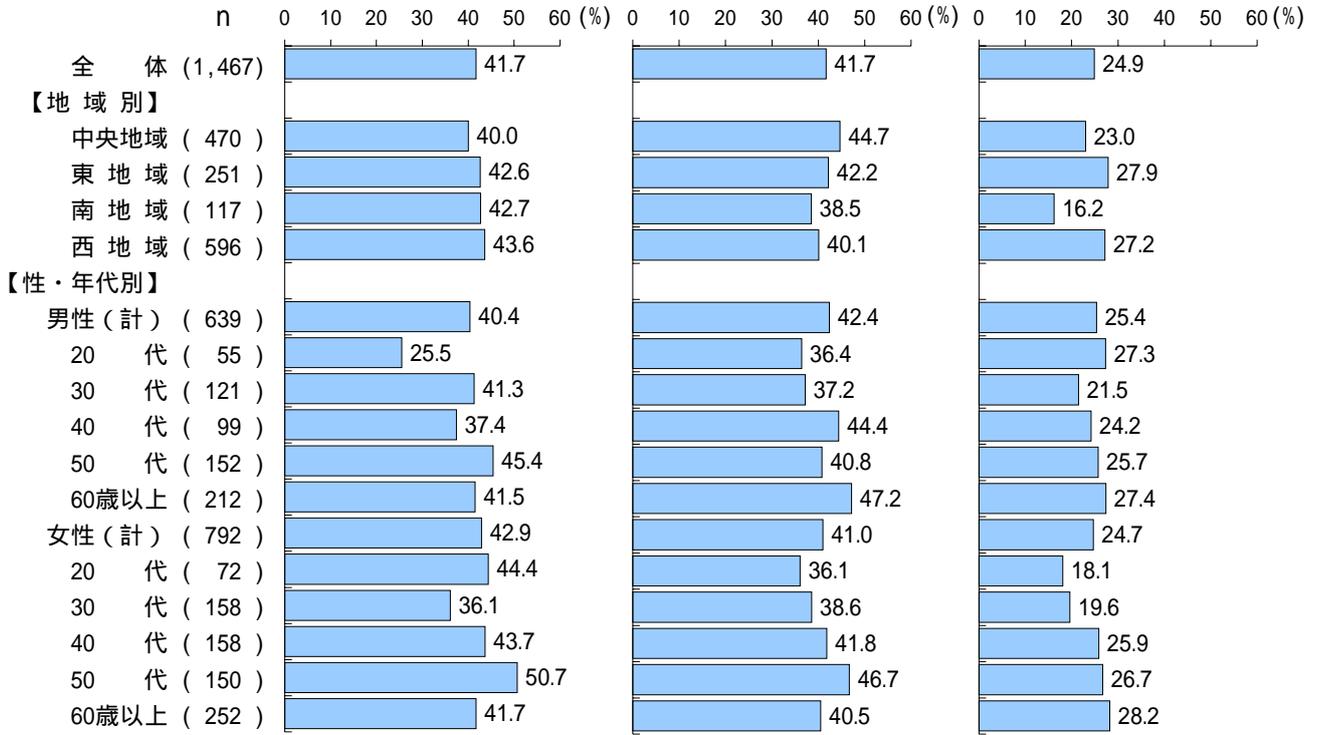
「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」は女性の50代(50.7%)で5割と最も高く、他の年代はおおむね4割前後だが、男性の20代(25.5%)のみ低くなっている。「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」は、男性の60歳以上(47.2%)と女性の50代(46.7%)で高く、他の年代はおおむね4割前後となっている。「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」は、女性の20代(18.1%)と30代(19.6%)で約2割だが、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化するべき」、「ペットを虐待する人の取り締りを強化するべき」は、男女の20代が2割台半ばから3割台半ばと目立って高くなっている。(図表7-13)

<図表7 - 13> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの / 地域別、性・年代別(上位6項目)

ペットの愛護や飼い方・しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき

ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき

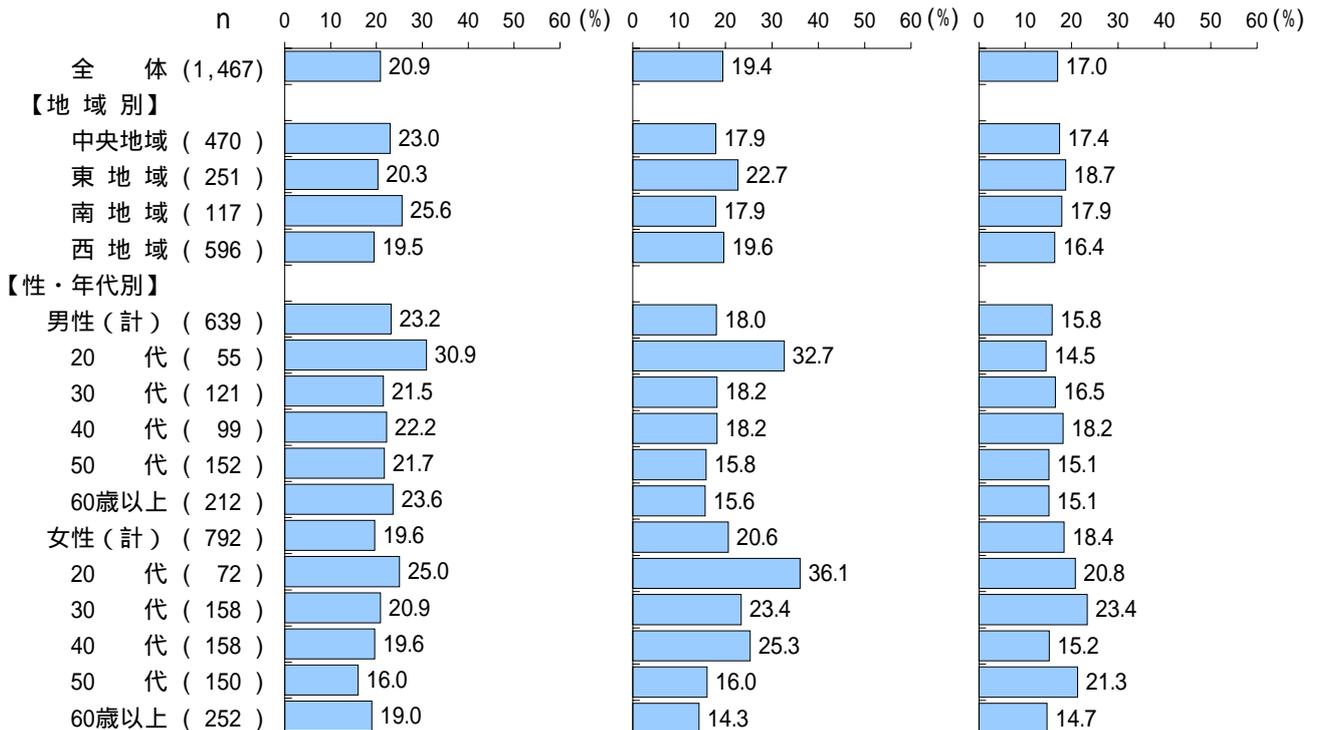
ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき



犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化すべき

ペットを虐待する人の取り締りを強化すべき

情操の発達に効果があるので、学校教育に動物愛護を取り入れるべき



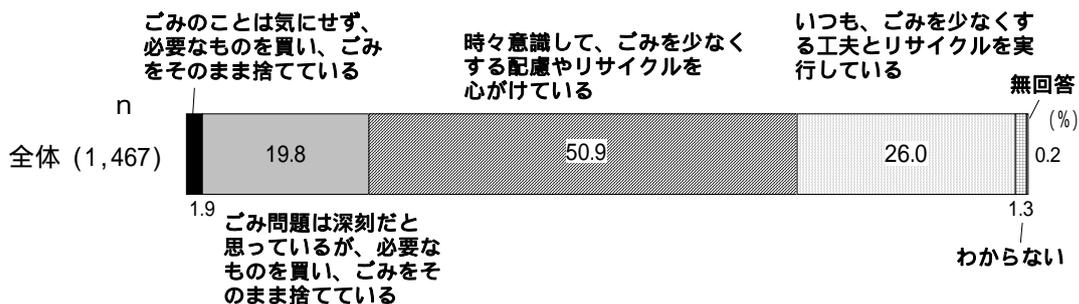
8 リサイクル等の推進について

(1) ごみやリサイクル問題のとらえ方

『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』が7割台半ば

問32 県では「千葉県資源循環型社会づくり計画」を策定し、ごみの減量、リサイクルの促進等により、環境への負荷を低減する社会づくりに取り組んでいます。あなたは、日頃の暮らしの中で、ごみやリサイクルの問題をどのようにとらえていますか。次の中から一番近いものを選んでください。(は1つ)

<図表8-1> ごみやリサイクル問題のとらえ方



ごみやリサイクル問題のとらえ方を聞いたところ、「ごみのことは気にせず、必要なものを買ひ、ごみをそのまま捨てている」(1.9%)と「ごみ問題は深刻だと思っているが、必要なものを買ひ、ごみをそのまま捨てている」(19.8%)を合わせた『ごみをそのまま捨てている』(21.7%)は2割を超える。一方、「時々意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている」(50.9%)が5割と最も多く、「いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している」(26.0%)と合わせた『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』(76.9%)は、7割台半ばで多数を占める。(図表8-1)

〔参考〕平成14年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『必要なものを買ひ、 ごみをそのまま捨て ている』	『ごみを少なくする配 慮や工夫をし、リサ イクルをしている』
平成14年度調査	2,102	20.0	78.0
今回調査	1,467	21.7	76.9

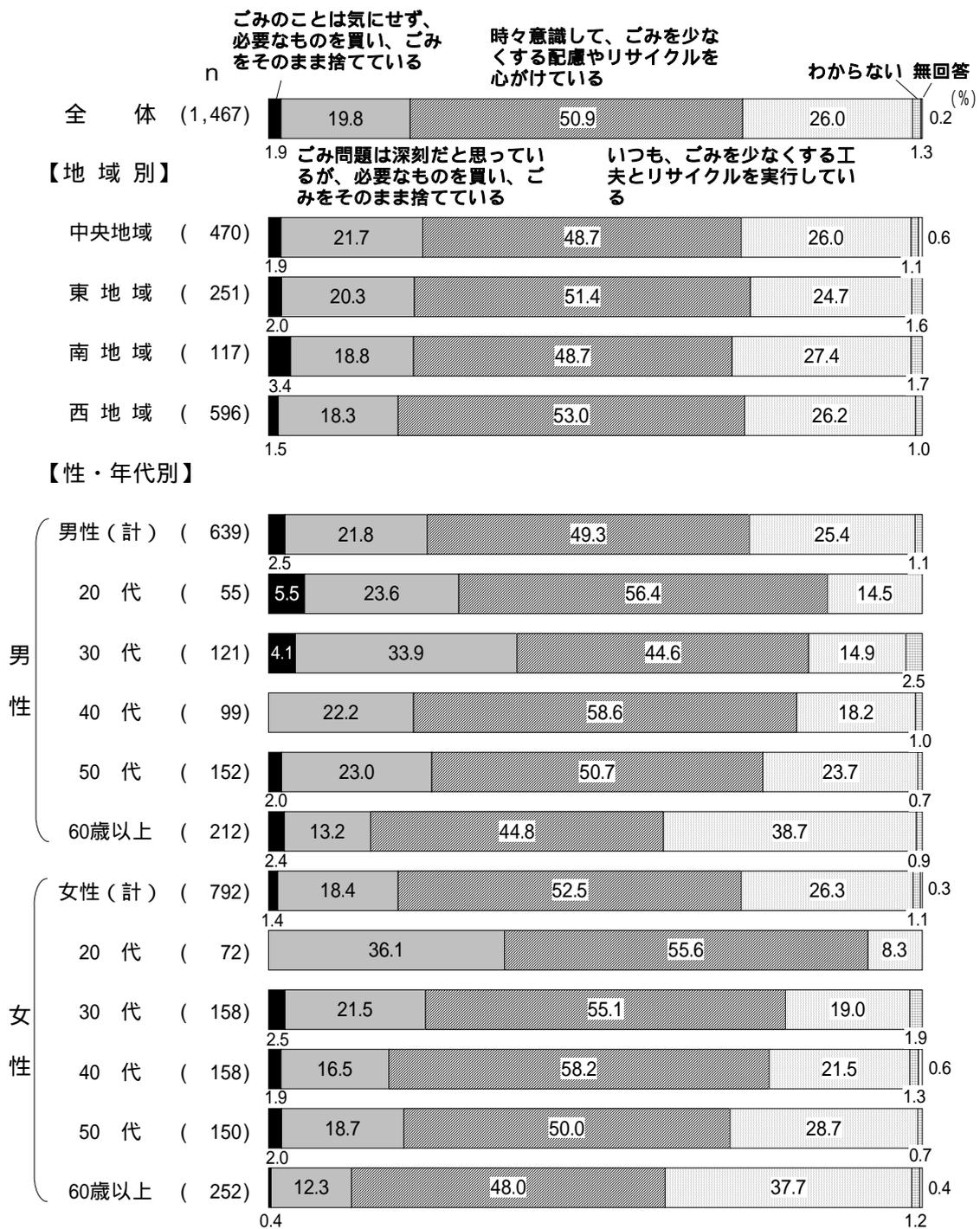
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表8-2)

【性・年代別】

『ごみをそのまま捨てている』が、男性の30代(38.0%)と女性の20代(36.1%)で3割を超え高くなっている。そのため、『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』は、男性の30代(59.5%)と女性の20代(63.9%)は6割前後にとどまる。なお、『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』は、男女ともに60歳以上で8割台半ばと高くなっている。(図表8-2)

<図表8 - 2> ごみやリサイクル問題のとらえ方 / 地域別、性・年代別

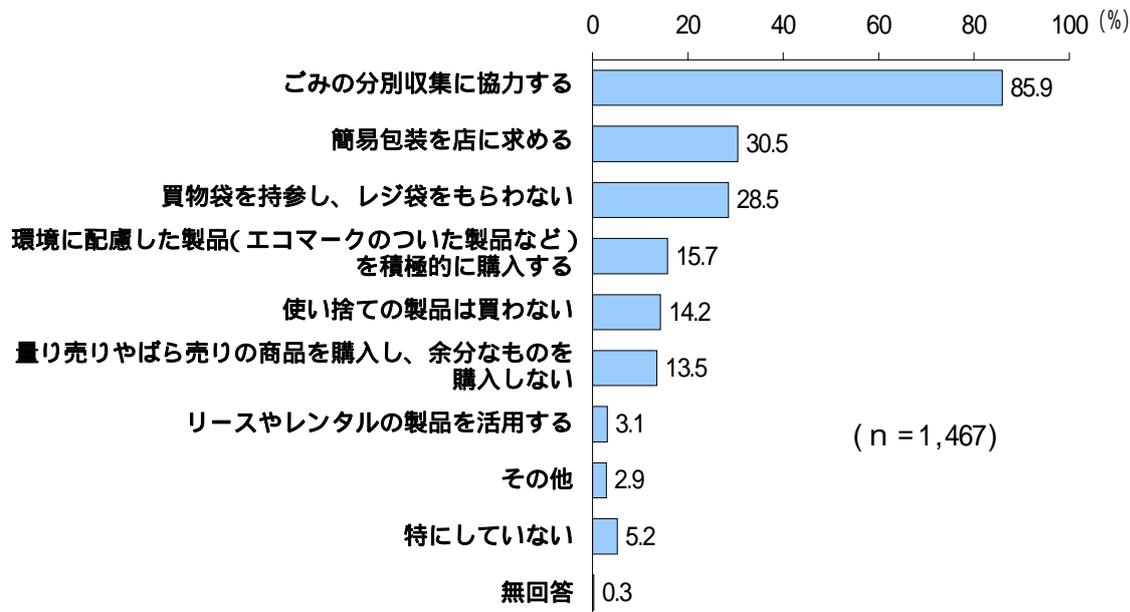


(2) ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること

「ごみの分別収集に協力する」が8割台半ばで突出

問33 あなたは、日頃の暮らしの中で、ごみを減らしたりリサイクルするために、何か取り組みを行っていますか。次の中からあなたが心がけていることを選んでください。
(はいいくつでも)

<図表8-3> ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること(複数回答)



ごみを減らしたりリサイクルするために取り組んでいることをいくつでも選んでもらったところ、「ごみの分別収集に協力する」(85.9%)が8割台半ばで最も高い。次いで、「簡易包装を店に求める」(30.5%)と「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」(28.5%)が3割前後となっている。(図表8-3)

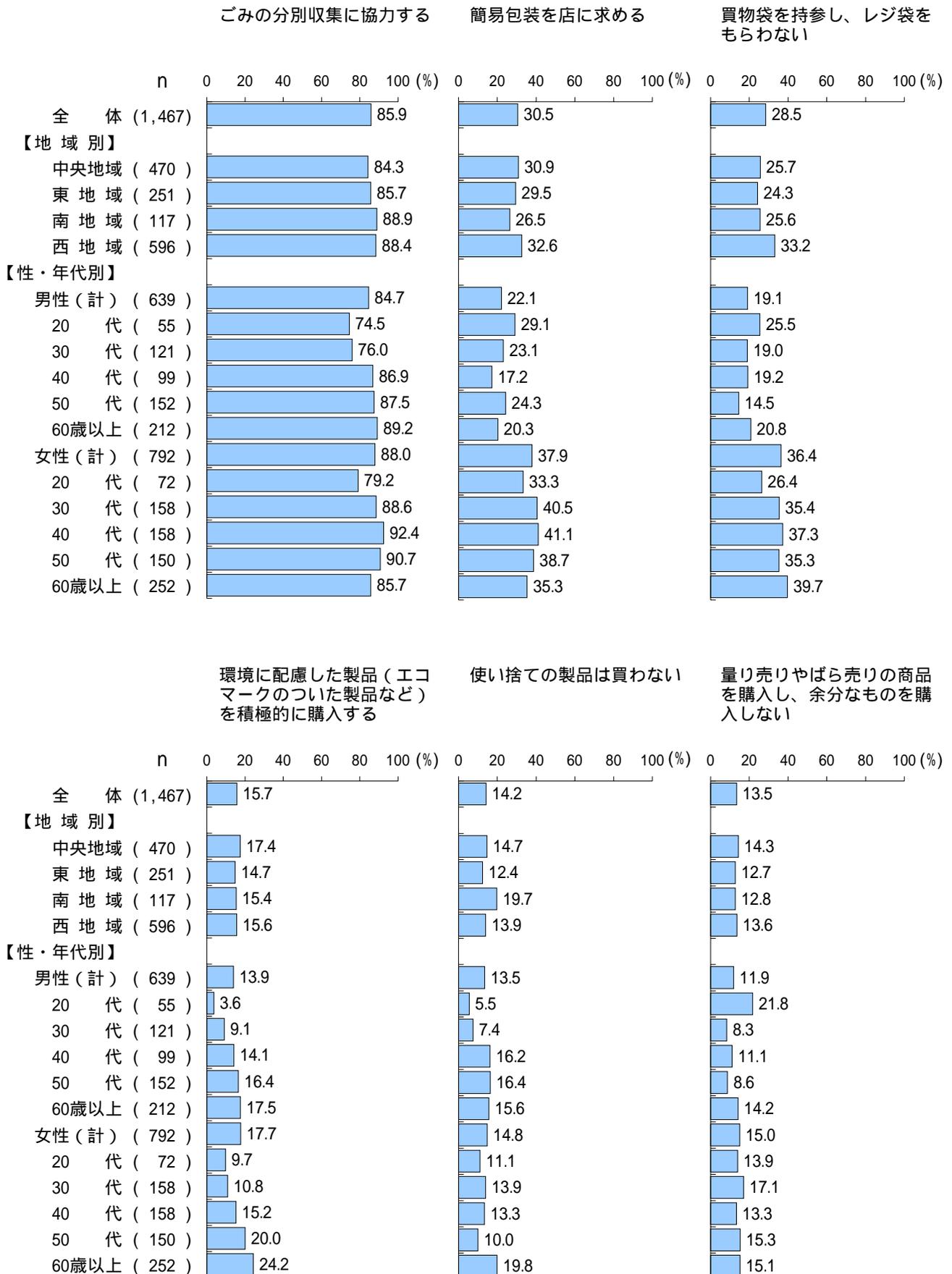
【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「簡易包装を店に求める」と「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」は、「西地域」で3割を超え最も高い。(図表8-4)

【性・年代別】

「ごみの分別収集に協力する」は男性の40歳以上、女性の30歳以上が8割を大幅に超え、男性の20代(74.5%)と30代(76.0%)、女性20代(79.2%)では8割を下回っている。「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」は、女性の各年代に比べて男性は全体的に低い。「環境に配慮した製品(エコマークのついた製品など)を積極的に購入する」は、男女とも年代が上がるほど増加している。(図表8-4)

<図表8 - 4> ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

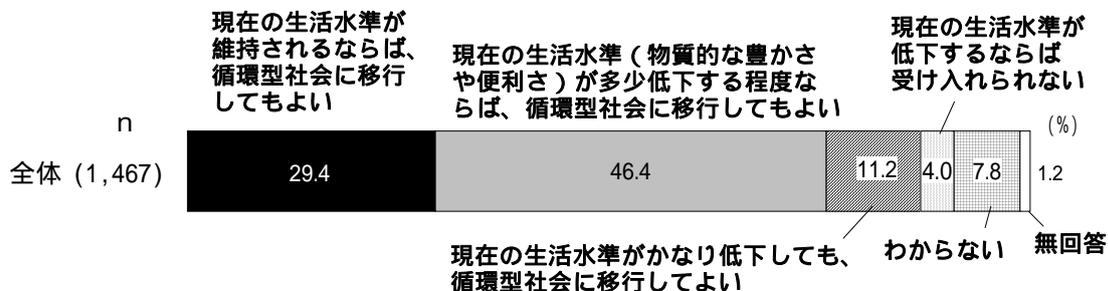


(3) 生活水準と循環型社会

「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」が4割台半ば

問34 ごみ問題を解決するためには、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から、ごみを減らしリサイクルを進めることで環境への負荷を減らす「循環型社会」に変えていく必要があります。あなたはこれについてどのように思いますか。(は1つ)

< 図表 8 - 5 > 生活水準と循環型社会



生活水準と循環型社会について聞いたところ、「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」(29.4%)が約3割となっている。また、「現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」(46.4%)が4割台半ばで、「現在の生活水準がかなり低下しても、循環型社会に移行してよい」(11.2%)が1割を超える。(図表8-5)

〔参考〕平成14年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」	「現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」	「現在の生活水準がかなり低下しても、循環型社会に移行してよい」	「現在の生活水準が低下するならば、受け入れられない」
平成14年度調査	2,102	46.2	36.2	7.6	3.4
今回調査	1,467	29.4	46.4	11.2	4.0

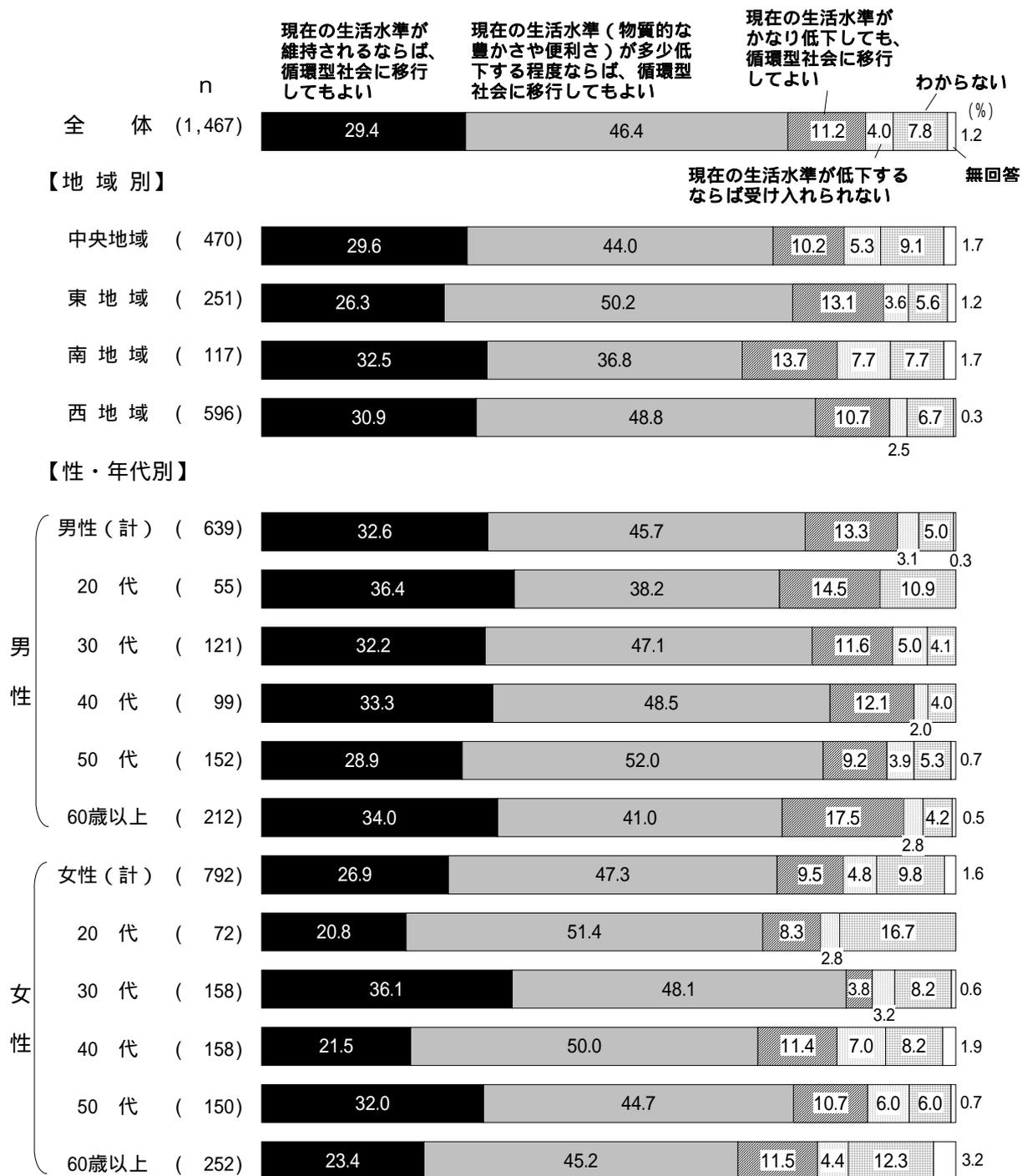
【地域別】

「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」は、「東地域」(50.2%)と「西地域」(48.8%)が他の2地域に比べて高くなっている。(図表8-6)

【性・年代別】

「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」は、男性の方が女性よりも高くなる傾向にあるが、30代、50代では逆転している。「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」は、男性の50代(52.0%)と女性の20代(51.4%)、40代(50.0%)が5割以上となっている。(図表8-6)

<図表8 - 6> 生活水準と循環型社会 / 地域別、性・年代別

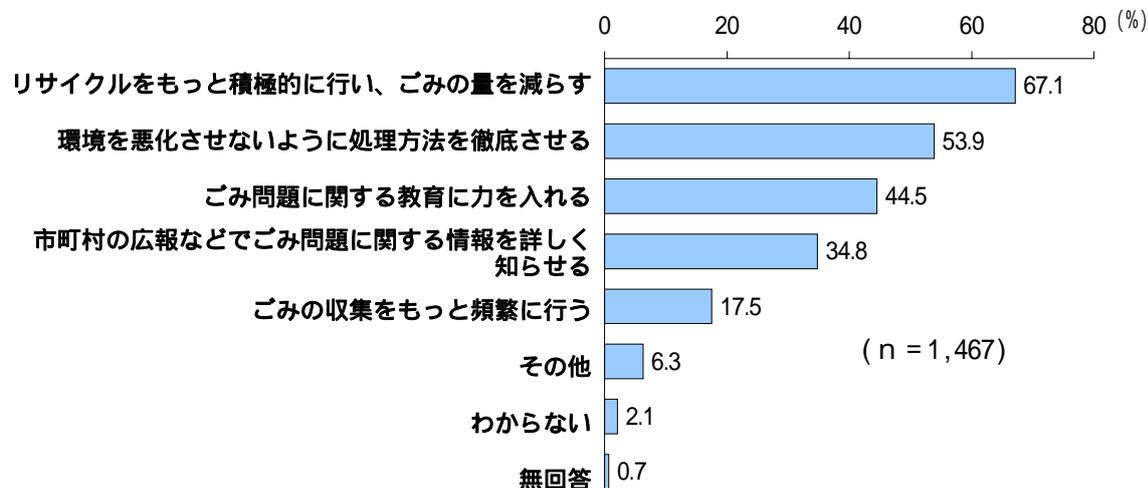


(4) 今後のごみ問題に関して望むこと

「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」が約7割

問35 今後のごみ問題に関して、どのようなことを望みますか。(はいくつでも)

<図表8-7> 今後のごみ問題に関して望むこと(複数回答)



今後のごみ問題に関して望むことをいくつか選んでもらったところ、「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」(67.1%)が約7割で最も高く、次いで、「環境を悪化させないように処理方法を徹底させる」(53.9%)が5割台半ばとなっている。このほか、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」(44.5%)が4割台半ばで、「市町村の広報などでごみ問題に関する情報を詳しく知らせる」(34.8%)が3割台半ばとなっている。(図表8-7)

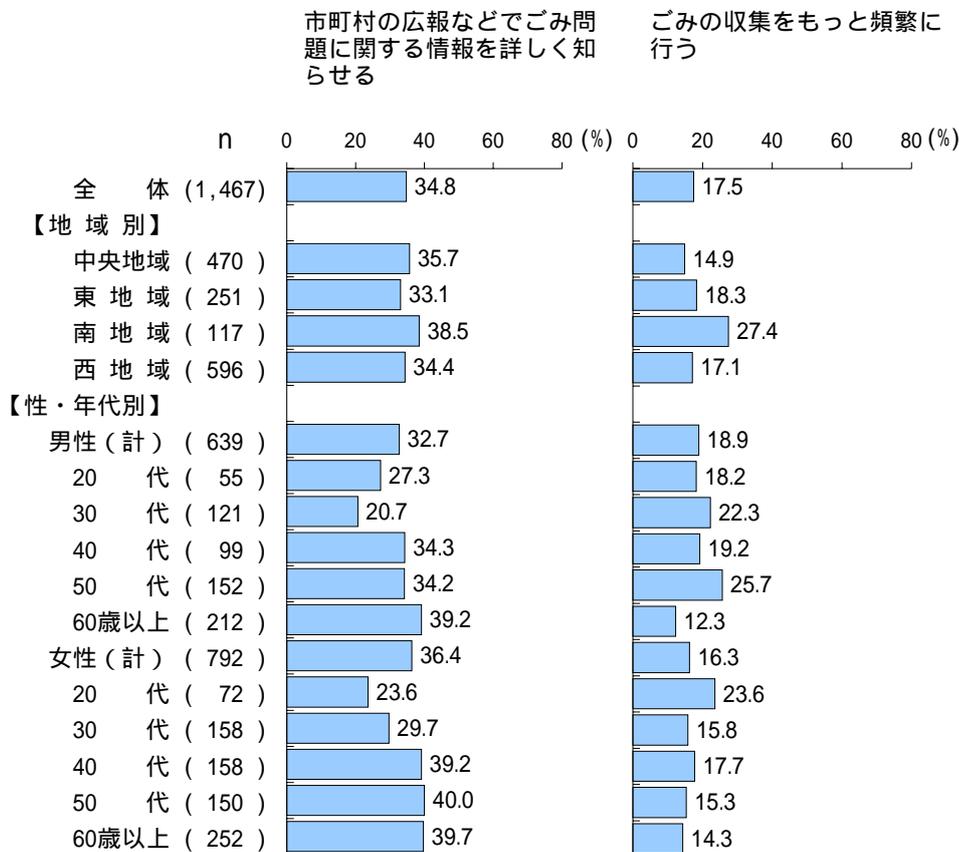
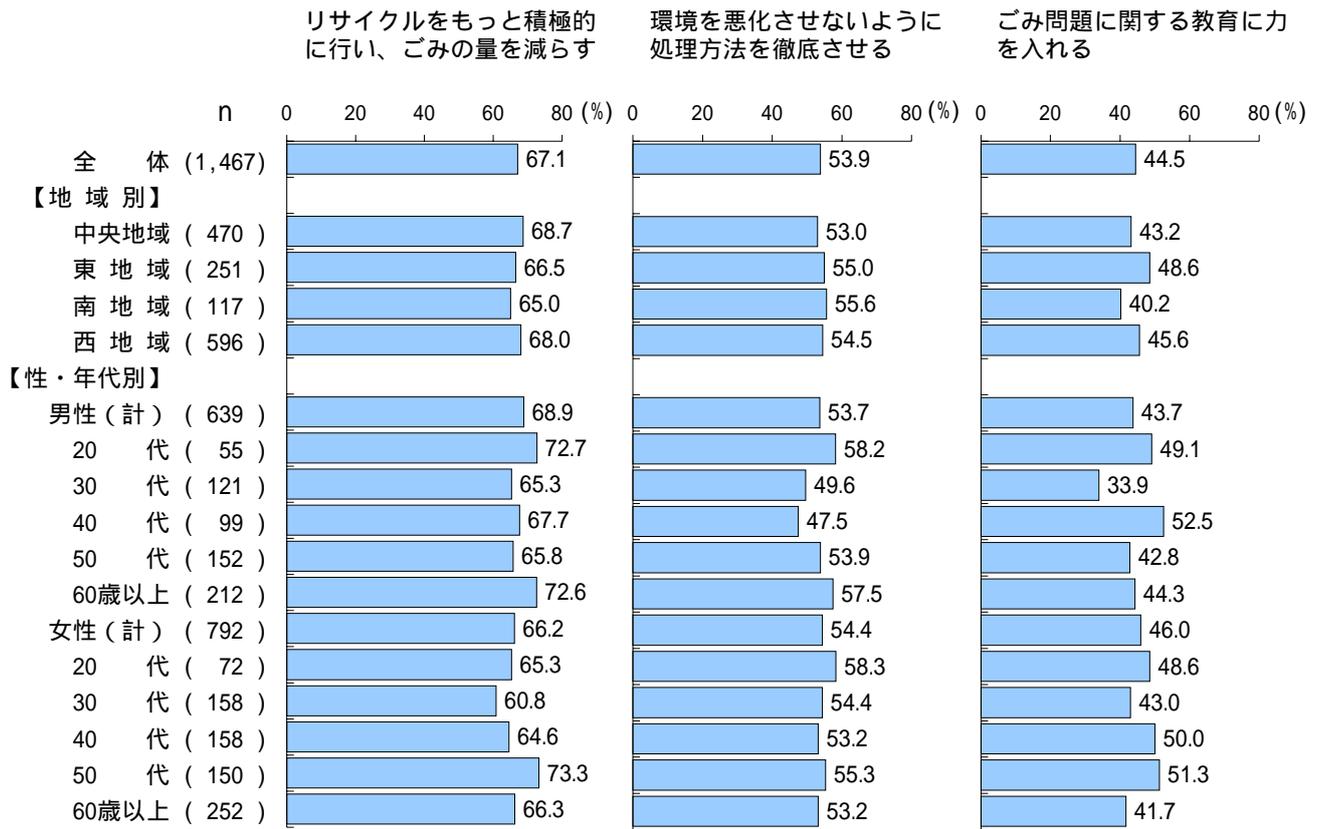
【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」は“東地域”(48.6%)で約5割と他地域より高くなっている。「市町村の広報などでごみ問題に関する情報を詳しく知らせる」と「ごみの収集をもっと頻繁に行う」は、“南地域”が他の地域に比べて高くなっている。(図表8-8)

【性・年代別】

「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」は各年代とも6割を超えており、特に、男性の20代(72.7%)と60歳以上(72.6%)、女性の50代(73.3%)で7割を超え高くなっている。「環境を悪化させないように処理方法を徹底させる」は、男女ともに20代で高くなっており約6割である。また、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」は、男性の30代(33.9%)が3割台半ばにとどまり低いが、特に、男性の40代(52.5%)と女性の40~50代は5割以上で高くなっている。(図表8-8)

<図表8 - 8> 今後のごみ問題に関して望むこと / 地域別、性・年代別

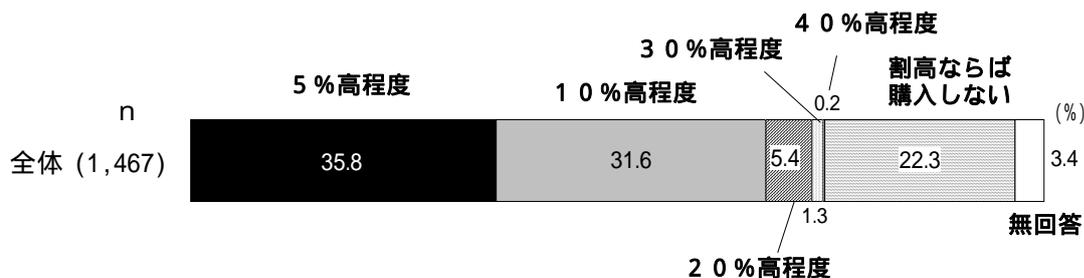


(5) 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲

「5%高程度」か「10%高程度」が3割台で並ぶが、一方「割高ならば購入しない」が2割を超える

問36 環境に配慮した製品が一般の製品と比べて割高な場合、あなたは、一般の製品より何%高程度までであれば購入しますか。次の中からあなたの考えに一番近いものを選んでください。(は1つ)

<図表8-9> 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲



環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲を聞いたところ、「5%高程度」(35.8%)が3割台半ばで最も多く、次いで「10%高程度」(31.6%)が3割を超えている。一方で「割高ならば購入しない」(22.3%)が2割を超えている。(図表8-9)

【地域別】

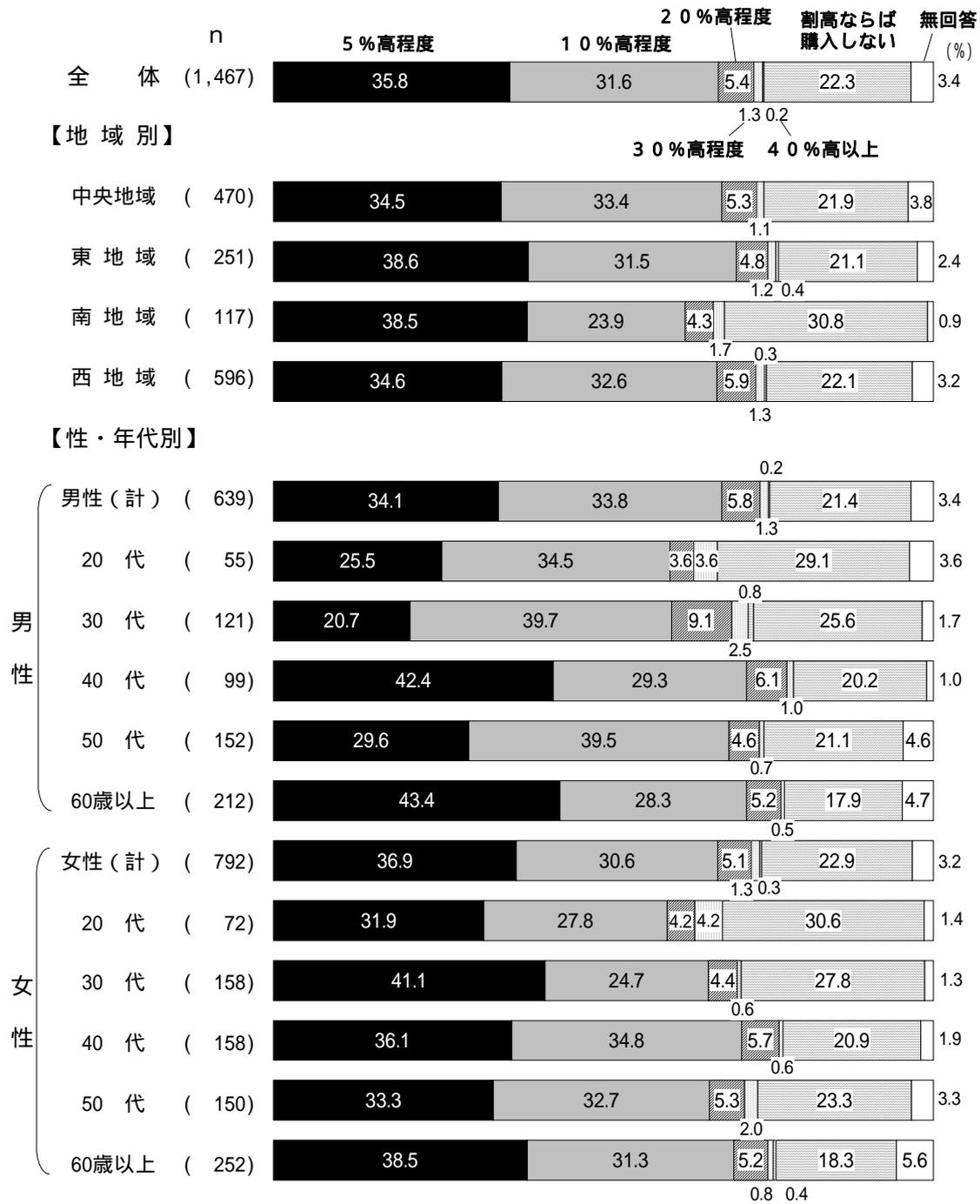
いずれの地域でも「5%高程度」は多くを占めており、特に、「東地域」(38.6%)と「南地域」(38.5%)は約4割となっている。「10%高程度」は、「中央地域」(33.4%)、「西地域」(32.6%)、「東地域」(31.5%)が3割を超えている。「割高ならば購入しない」は、「南地域」(30.8%)が最も高く3割となっている。(図表8-10)

【性・年代別】

男性では、40代と60歳以上は「5%高程度」の方が「10%高程度」よりも多く4割を超えているが、他の年代では「10%高程度」の方が多い。また、「割高ならば購入しない」は、20代(29.1%)が約3割となっており、おおむね年代が上がるほど減少している。

一方、女性では、いずれの年代でも「5%高程度」の方が「10%高程度」よりも多く、中でも、30代は4割を超える。また、「割高ならば購入しない」は20代(30.6%)が3割で、男性と同様に、おおむね年代が上がるほど減少する傾向がみられる。(図表8-10)

<図表8 - 10> 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲 / 地域別、性・年代別



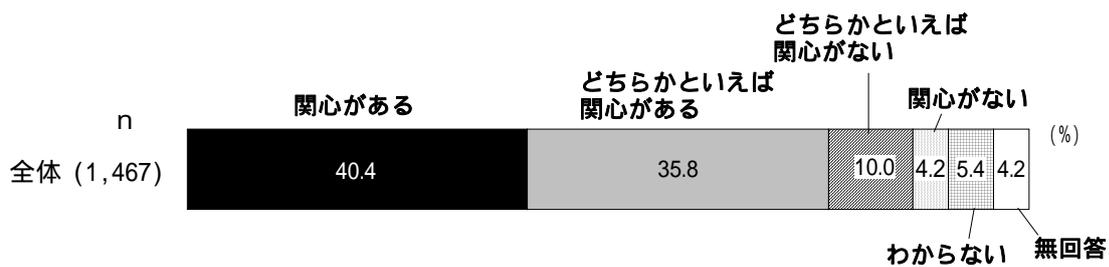
9 食育の推進について

(1) 「食育」の関心度

『関心をもっている人』が7割台半ば

問37 県では、県民一人ひとりが子どもの頃から、「食」に関する知識と何をどれくらい食べたらいかなど「食」を選択する力を身に付けて健全な食生活を送るため、食育の推進に取り組んでいます。あなたは「食育」に関心がありますか。(は1つ)

<図表9 - 1> 「食育」の関心度



「食育」の関心度を聞いたところ、「関心がある」(40.4%)が4割で最も多く、「どちらかといえば関心がある」(35.8%)を合わせると、『関心をもっている人』(76.2%)は7割台半ばとなっている。逆に、「どちらかといえば関心がない」(10.0%)と「関心がない」(4.2%)を合わせて、『関心をもっていない人』(14.2%)は1割台半ばである。(図表9 - 1)

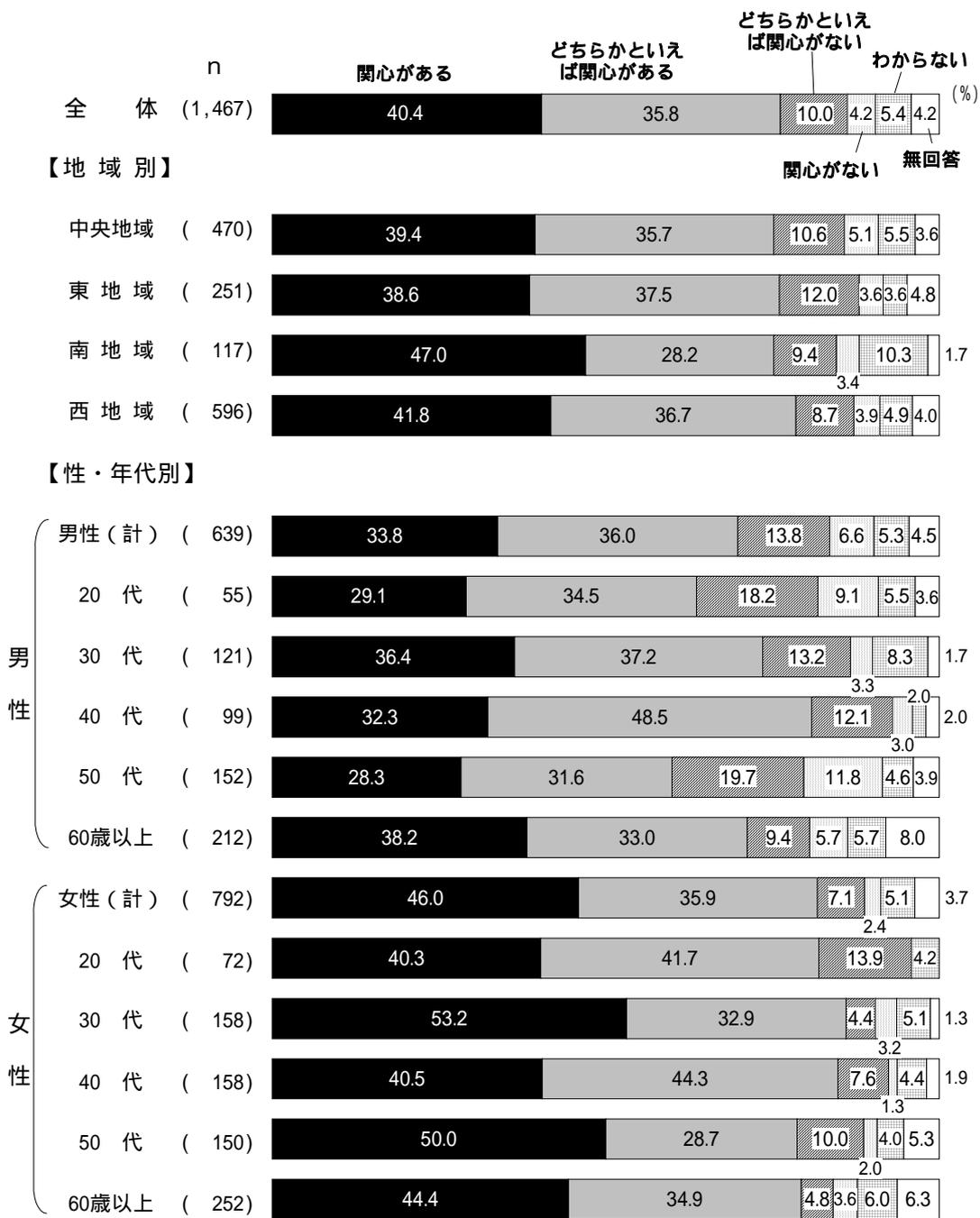
【地域別】

「関心がある」は“南地域”(47.0%)が約5割で他の地域に比べて最も高くなっている。しかし、『関心をもっている人』としてみると、いずれの地域も7割台半ばでほぼ並ぶ。(図表9 - 2)

【性・年代別】

関心度は全般的に女性の方が男性よりも高く、特に、「関心がある」は女性の30代(53.2%)と50代(50.0%)で5割以上となっている。『関心をもっている人』としてみた場合、男性では40代(80.8%)で、女性では20~40代及び女性(計)でも8割を超える。一方、男性(計)では、約7割である。(図表9 - 2)

<図表9 - 2> 「食育」の関心度 / 地域別、性・年代別



(1 - 1) 「食育」に関心があると思う理由

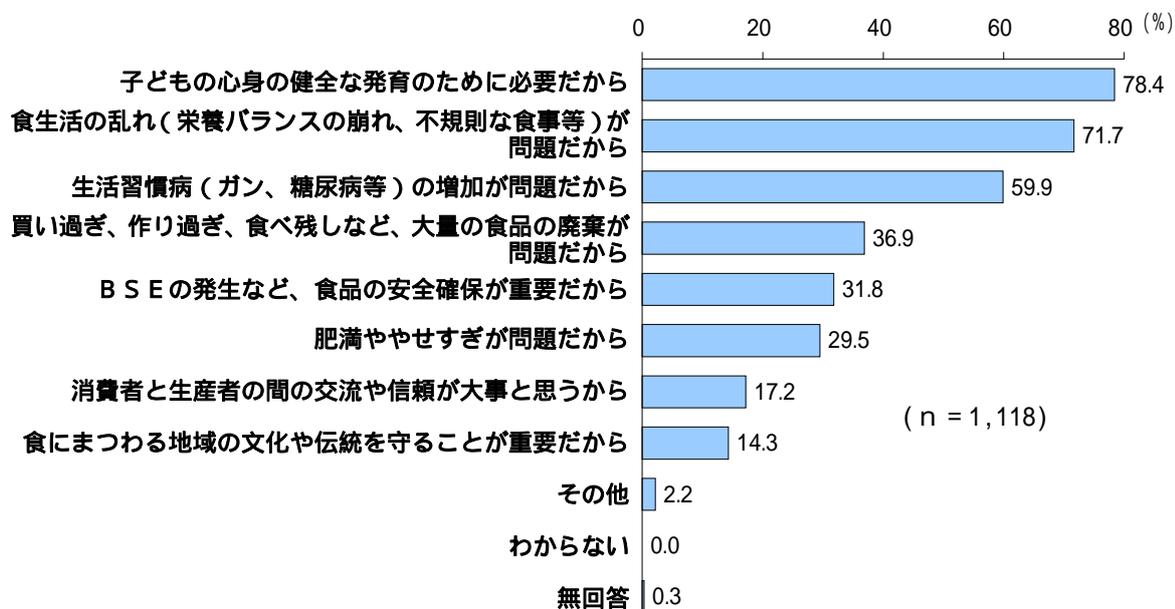
「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約 8 割

(問37で「1」か「2」とお答えの方に)

問37 - 1 あなたが「食育」に関心があると思う理由について、お聞かせください。

(はいくつでも)

< 図表 9 - 3 > 「食育」に関心があると思う理由 (複数回答)



問 37 で「関心がある」か「どちらかといえば関心がある」と回答した 1,118 人を対象に、その理由をいくつか選んでもらったところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(78.4%) が約 8 割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題だから」(71.7%) が 7 割を超える。また、「生活習慣病の増加が問題だから」(59.9%) が約 6 割である。(図表 9 - 3)

【地域別】

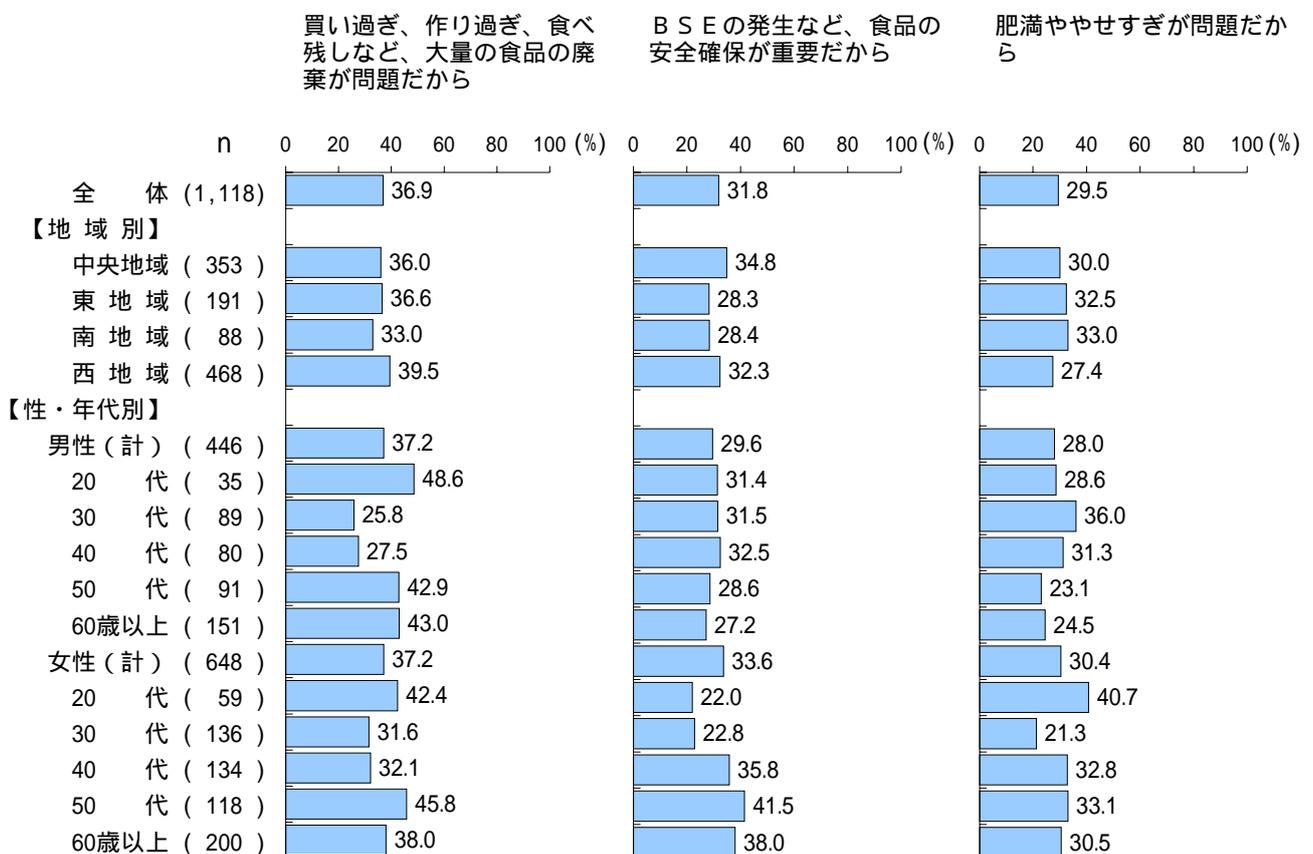
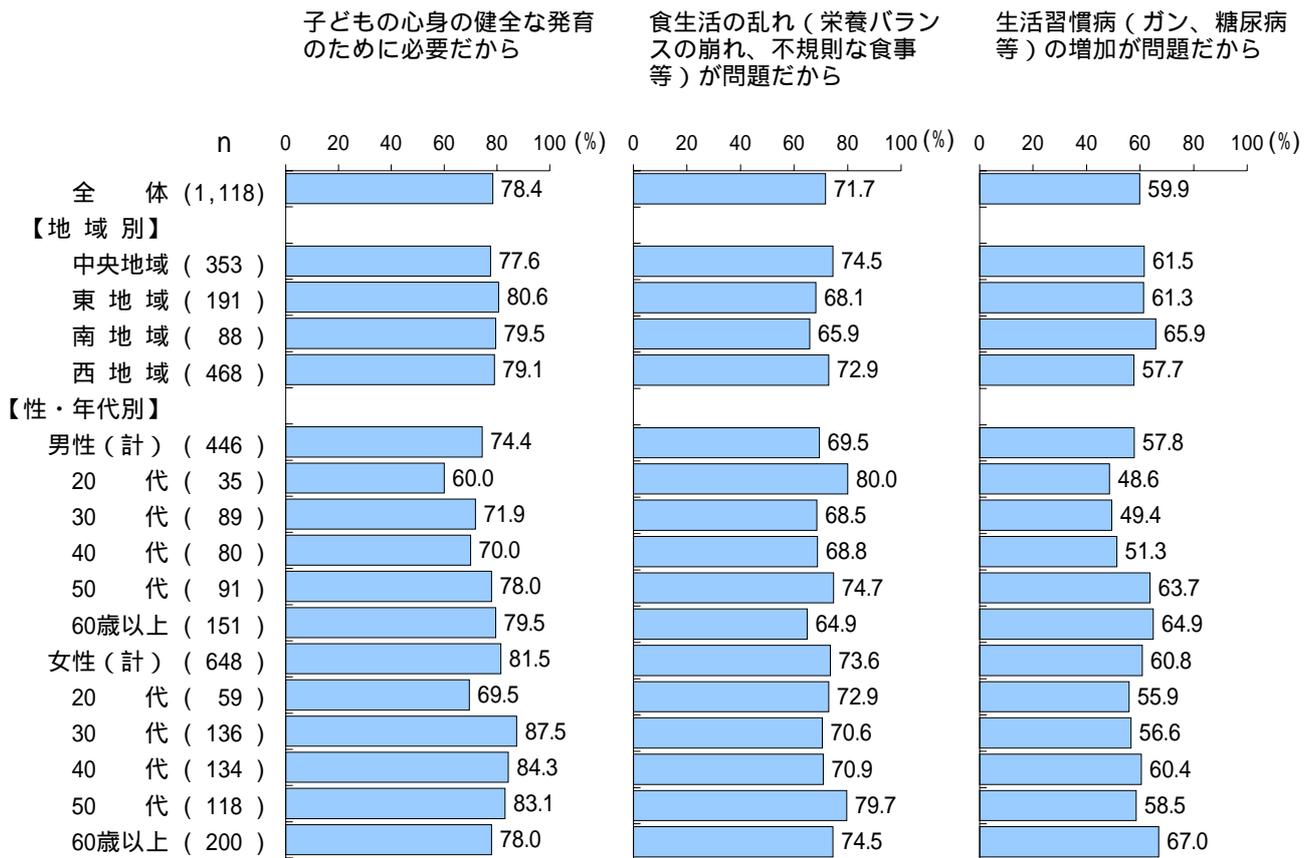
上位 6 項目の順位について、地域による大きな違いはみられなかった。

「食生活の乱れが問題だから」は、「中央地域」(74.5%) と「西地域」(72.9%) が 7 割を超え比較的高くなっている。「生活習慣病の増加が問題だから」は、「南地域」(65.9%) が 6 割台半ばで他の地域に比べて最も高い。「BSE の発生など、食品の安全確保が重要だから」は、「中央地域」(34.8%) と「西地域」(32.3%) で 3 割を超え他の地域に比べ高くなっている。(図表 9 - 4)

【性・年代別】

「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、男女ともに 20 代で低く、男性ではおおむね年代が上がるほど増加する一方で、女性では 30 代 (87.5%) をピークにそれ以降年代が上がるほど減少している。「食生活の乱れが問題だから」は、男性の 20 代 (80.0%) と女性の 50 代 (79.7%) で 8 割前後となっている。また、「生活習慣病の増加が問題だから」は、男性の 50 歳以上と女性の 60 歳以上 (67.0%) で 6 割台半ばである。このほか、「買い過ぎ、作り過ぎ、食べ残し等、大量の食品の廃棄が問題だから」は、男性の 20 代 (48.6%) が約 5 割、女性の 50 代 (45.8%) が 4 割台半ばで、「BSE の発生など、食品の安全確保が重要だから」は、女性の 40 歳以上が 3 割台半ばで、「肥満ややせすぎが問題だから」は、男性では 30 代 (36.0%) が最も高く、女性では 20 代 (40.7%) で 4 割となっている。(図表 9 - 4)

<図表9 - 4> 「食育」に関心があると思う理由／地域別、性・年代別（上位6項目）



(2) 食育に関する活動や行動

活動や行動を『している』は4割台半ば。一方、『していない』は約5割

問38 あなたは、食育に関する活動や行動をしていますか。(は1つ)

<図表9 - 5> 食育に関する活動や行動



食育に関する活動や行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.8%)は少数ながら、「できるだけするようにしている」(39.1%)が最も多く、これらを合わせると、『している』(43.9%)は4割台半ばとなっている。逆に、「あまりしていない」(19.4%)と「していない」(29.4%)を合わせて、『していない』(48.8%)は約5割である。(図表9 - 5)

【地域別】

全体として、地域による大きな違いはみられないものの、『している』が“西地域”(41.9%)で他の地域に比べて低い。そのため、この地域は、『していない』(50.1%)が5割で、他の地域に比べて高くなっている。(図表9 - 6)

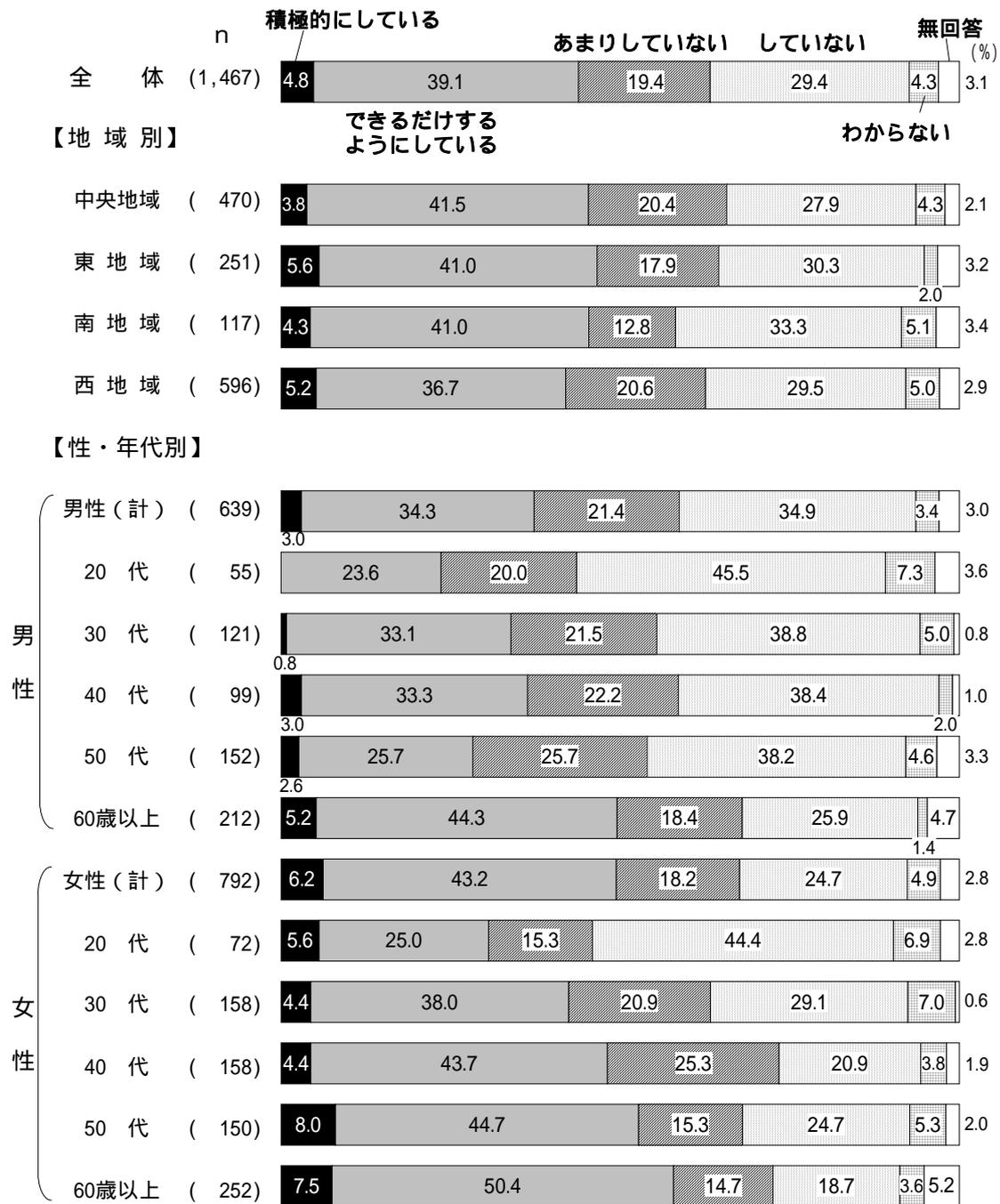
【性・年代別】

『している』は、男性(計)(37.3%)が約4割に対して、女性(計)(49.4%)では約5割で性別による大きな違いがみられた。

男性では、『している』は、20代(23.6%)が最も低く、60歳以上(49.5%)が約5割で最も高くなっている。逆に、『していない』が20~50代で6割を超えている。

一方、女性では、『している』は、20代(30.6%)が最も低く、年代が上がるほど増加し、50歳以上で5割を超える。『していない』は20代(59.7%)で約6割である。(図表9 - 6)

<図表9 - 6> 食育に関する活動や行動 / 地域別、性・年代別

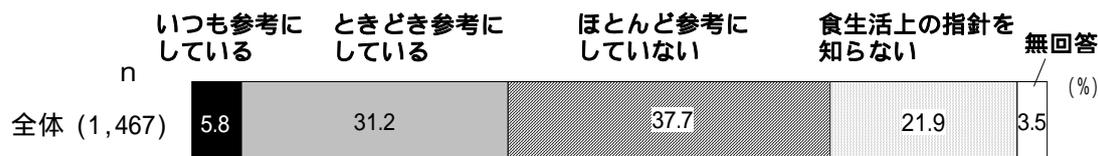


(3) 食生活上の指針等を参考にする程度

『参考にしている』と「ほとんど参考にしていない」がほぼ同じで約4割

問39 食生活上の指針として国が策定した、1日にとる食事の望ましい組み合わせやおおよその量をイラストで示した「食事バランスガイド」や何をどれだけ、どのように食べたらいのかの実践目標を示した「食生活指針」、エネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示す「日本人の食事摂取基準」等があります。あなたは、食生活を送るうえでこれらの指針等の何かを参考にしていますか。(は1つ)

<図表9 - 7> 食生活上の指針等を参考にする程度



食生活上の指針等を参考にする程度を聞いたところ、「いつも参考にしている」(5.8%)は少数ながら、「ときどき参考にしている」(31.2%)が3割を超え、これらを合わせると『参考にしている』(37.0%)は約4割となっている。しかしながら、「ほとんど参考にしていない」(37.7%)も約4割で多く、「食生活上の指針を知らない」(21.9%)との回答も2割を超え、これらを合わせると『参考にしていない』(59.6%)は約6割である。(図表9 - 7)

【地域別】

『参考にしている』は“南地域”(40.2%)で4割と、他の地域に比べて最も高くなっている。(図表9 - 8)

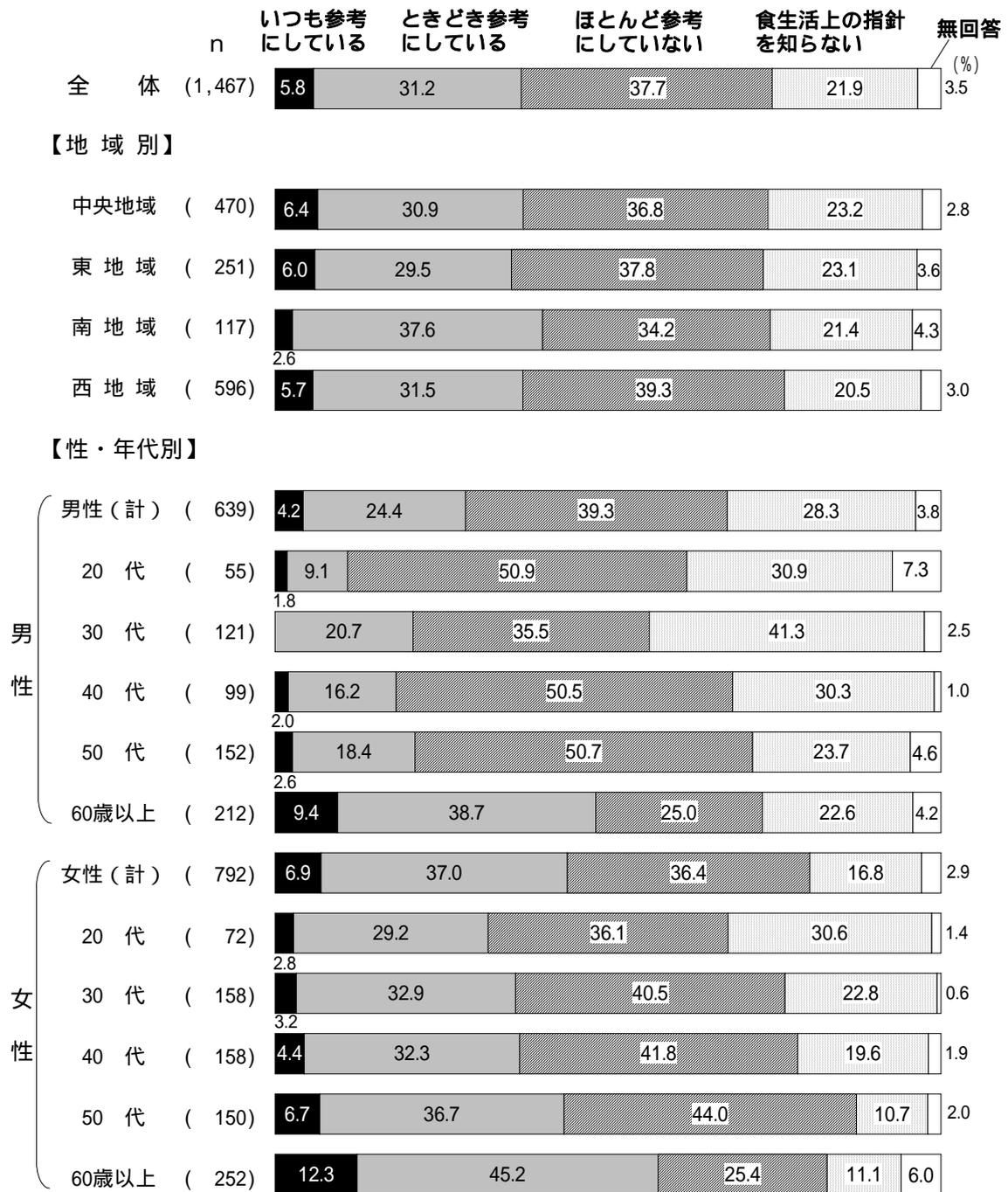
【性・年代別】

『参考にしている』は、男性(計)(28.6%)が約3割に対して、女性(計)(43.9%)では4割台半ばと性別による大きな違いがみられた。また、「食生活上の指針を知らない」は、男性(計)(28.3%)が約3割に対して、女性(計)(16.8%)では1割台半ばと大きな違いがみられた。

男性では、『参考にしている』は20代(10.9%)で1割、30~50代で2割前後と低くなっているが、60歳以上(48.1%)では約5割となっている。「ほとんど参考にしていない」は、20代(50.9%)と40~50代で5割、また、「食生活上の指針を知らない」は30代(41.3%)で4割を超えている。

一方、女性では、『参考にしている』は年代が上がるほど増加して60歳以上(57.5%)で約6割となる。「ほとんど参考にしていない」が30~50代で4割台となっている一方で、20代は「食生活上の指針を知らない」(30.6%)が3割となっている。(図表9 - 8)

< 図表 9 - 8 > 食生活上の指針等を参考にする程度 / 地域別、性・年代別

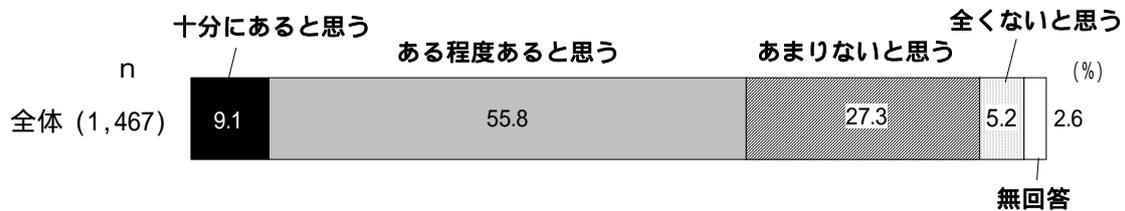


(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

『あると思う』が6割台半ば

問40 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(は1つ)

<図表9 - 9> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識



健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識を聞いたところ、「十分にあると思う」(9.1%)は約1割で、「ある程度あると思う」(55.8%)は5割台半ばで最も多くなっている。これらを合わせると、『あると思う』(64.9%)は6割台半ばとなっている。一方、「あまりないと思う」(27.3%)と「全くないと思う」(5.2%)を合わせて、『ないと思う』(32.5%)は3割を超える。(図表9 - 9)

【地域別】

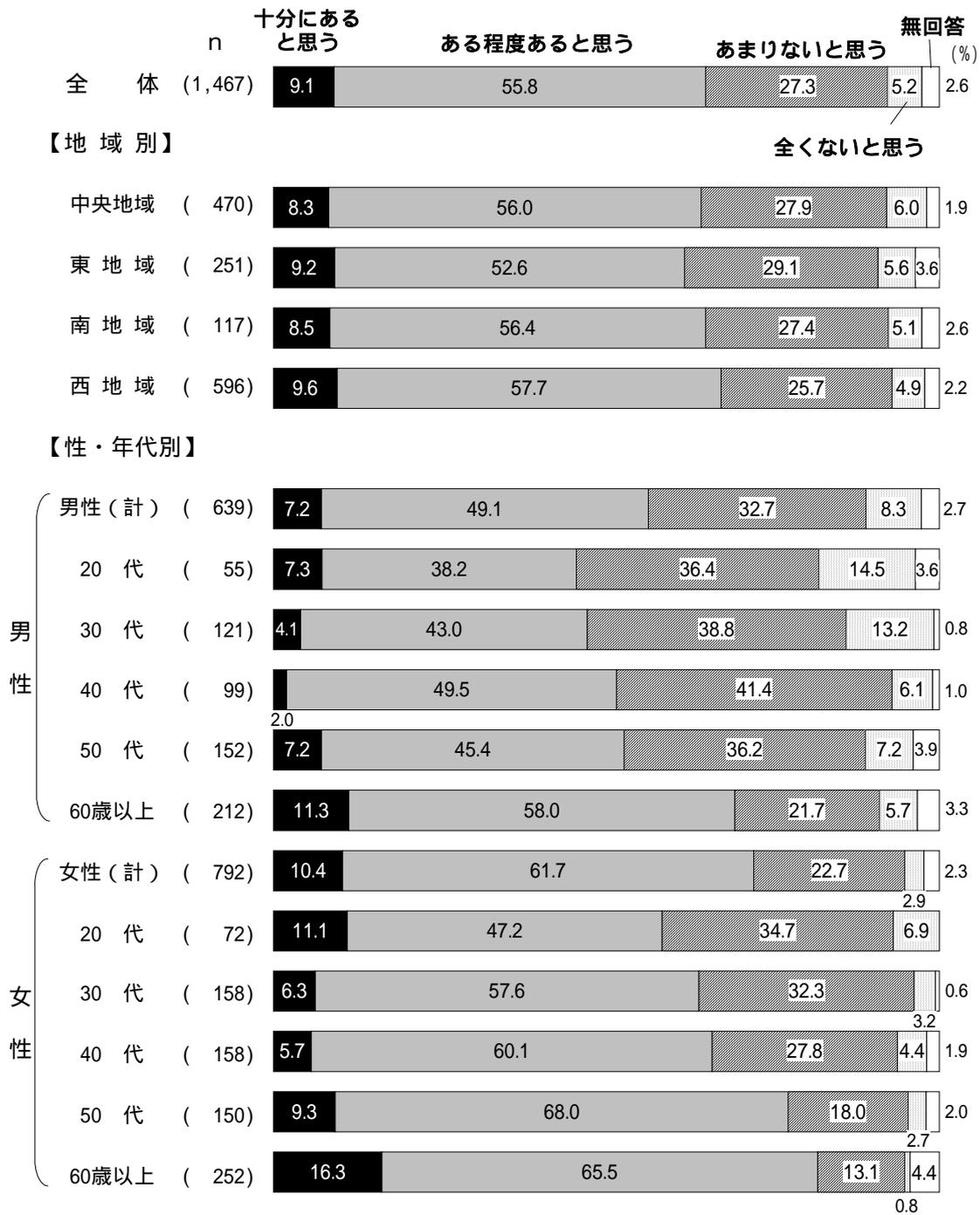
『あると思う』は“西地域”(67.3%)が約7割で他の地域に比べて最も高い。(図表9 - 10)

【性・年代別】

『あると思う』は、男性(計)(56.3%)が5割半ばに対して、女性(計)(72.1%)では7割を超え性別による大きな違いがみられた。

『あると思う』は、男女ともに年代が上がるほど増加しており、男性の60歳以上(69.3%)で約7割、女性の50代(77.3%)と女性の60歳以上(81.8%)で8割前後となる。(図表9 - 10)

<図表9 - 10> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識 / 地域別、性・年代別



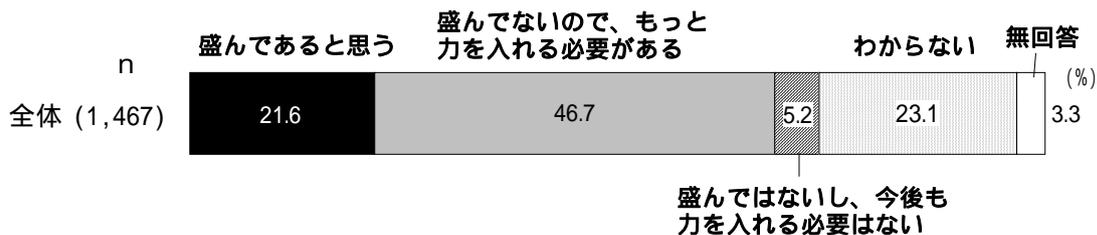
10 美しい景観づくりと観光振興による地域活性化について

(1) 千葉県の観光の現状

「盛んであると思う」が2割を超えるにとどまり、「もっと力を入れる必要がある」が4割台半ば

問41 県では、「住む人も、訪れる人も和み、元気になれる」観光立県の実現に向け、地域自らが自然や歴史などの地域の特性を生かしながら観光地づくりを進めていくこととしています。あなたは千葉県の観光は盛んであると思いますか。(は1つ)

< 図表10 - 1 > 千葉県の観光の現状



千葉県の観光の現状を聞いたところ、「盛んであると思う」(21.6%)が2割を超えるにとどまるのに対して、「盛んでないのに、もっと力を入れる必要がある」(46.7%)が4割台半ばと最も多くなっている。(図表10 - 1)

【地域別】

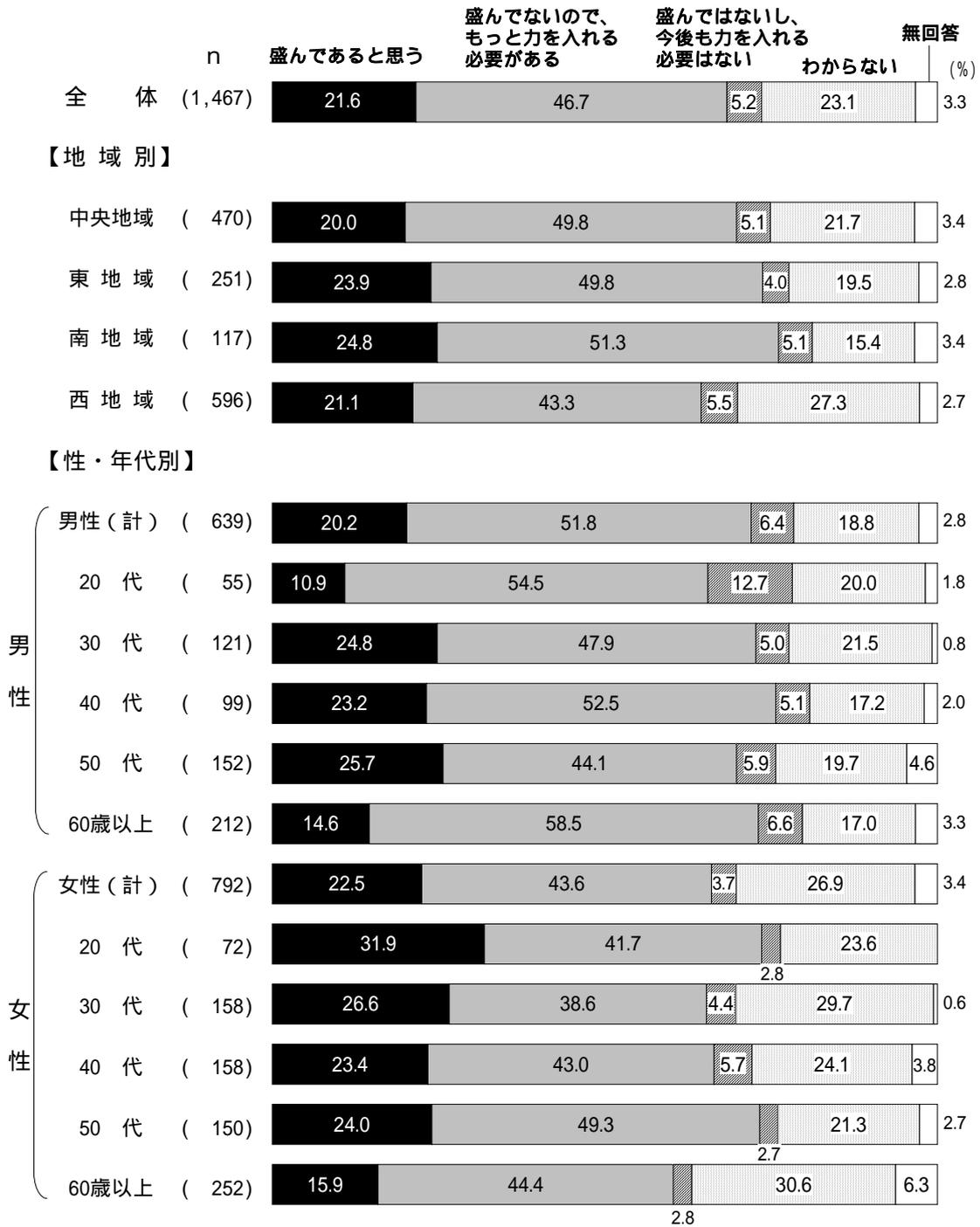
「盛んであると思う」は地域による大きな差はみられないものの、「盛んでないのに、もっと力を入れる必要がある」は、“南地域”(51.3%)が最も高く、次いで“中央地域”、“東地域”(ともに49.8%)、“西地域”(43.3%)となっている。(図表10 - 2)

【性・年代別】

男性では、「盛んであると思う」は50代(25.7%)が最も高く、20代(10.9%)と60歳以上(14.6%)が1割を超えるにとどまり低くなっている。「盛んでないのに、もっと力を入れる必要がある」は20代(54.5%)、40代(52.5%)と60歳以上(58.5%)で5割を超え、その他の年代も4割を超えている。

一方、女性では、「盛んであると思う」が20代(31.9%)で3割を超え最も高く、それ以降は、おおむね年代が上がるほど低くなっている。「盛んでないのに、もっと力を入れる必要がある」は50代(49.3%)が最も高く、他の年代は4割前後となっている。(図表10 - 2)

<図表10 - 2 > 千葉県観光の現状 / 地域別、性・年代別

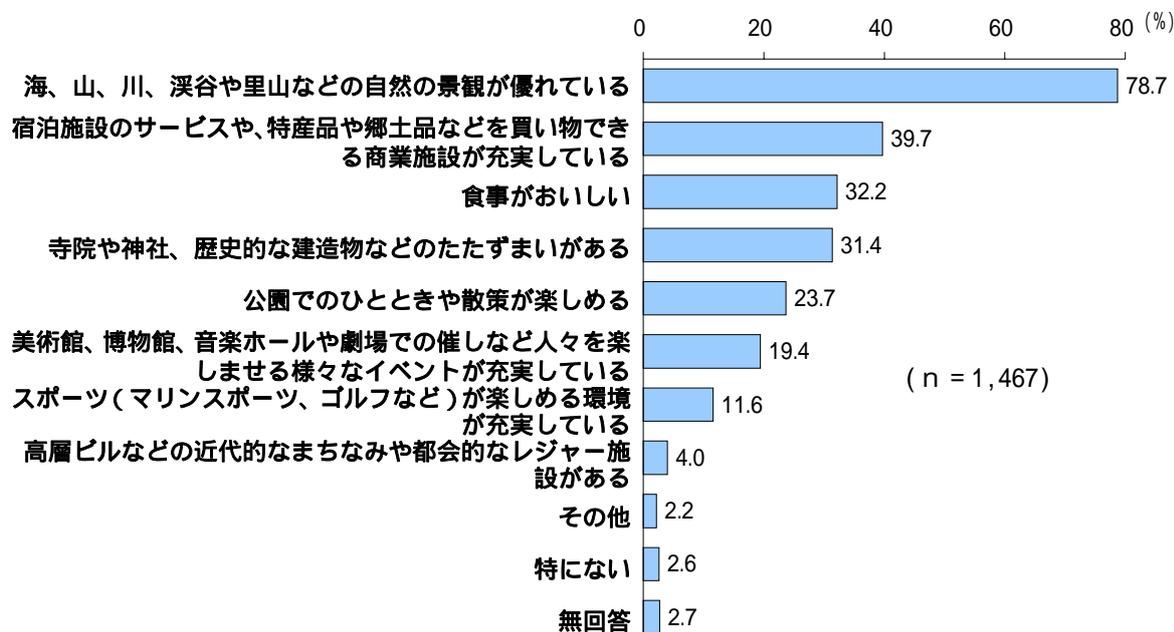


(2) 観光地に求める魅力

「海、山、川、渓谷や里山などの自然の景観が優れている」が約8割で突出

問42 あなたが求める観光地の魅力とは、どのようなものですか。(は3つまで)

<図表10 - 3> 観光地に求める魅力(複数回答)



観光地に求める魅力を3つまで選んでもらったところ、「海、山、川、渓谷や里山などの自然の景観が優れている」(78.7%)が約8割で最も高い。続く、「宿泊施設のサービスや、特産品や郷土品などを買物できる商業施設が充実している」(39.7%)は約4割、「食事がおいしい」(32.2%)と「寺院や神社、歴史的な建造物などのたたずまいがある」(31.4%)が3割を超えている。(図表10 - 3)

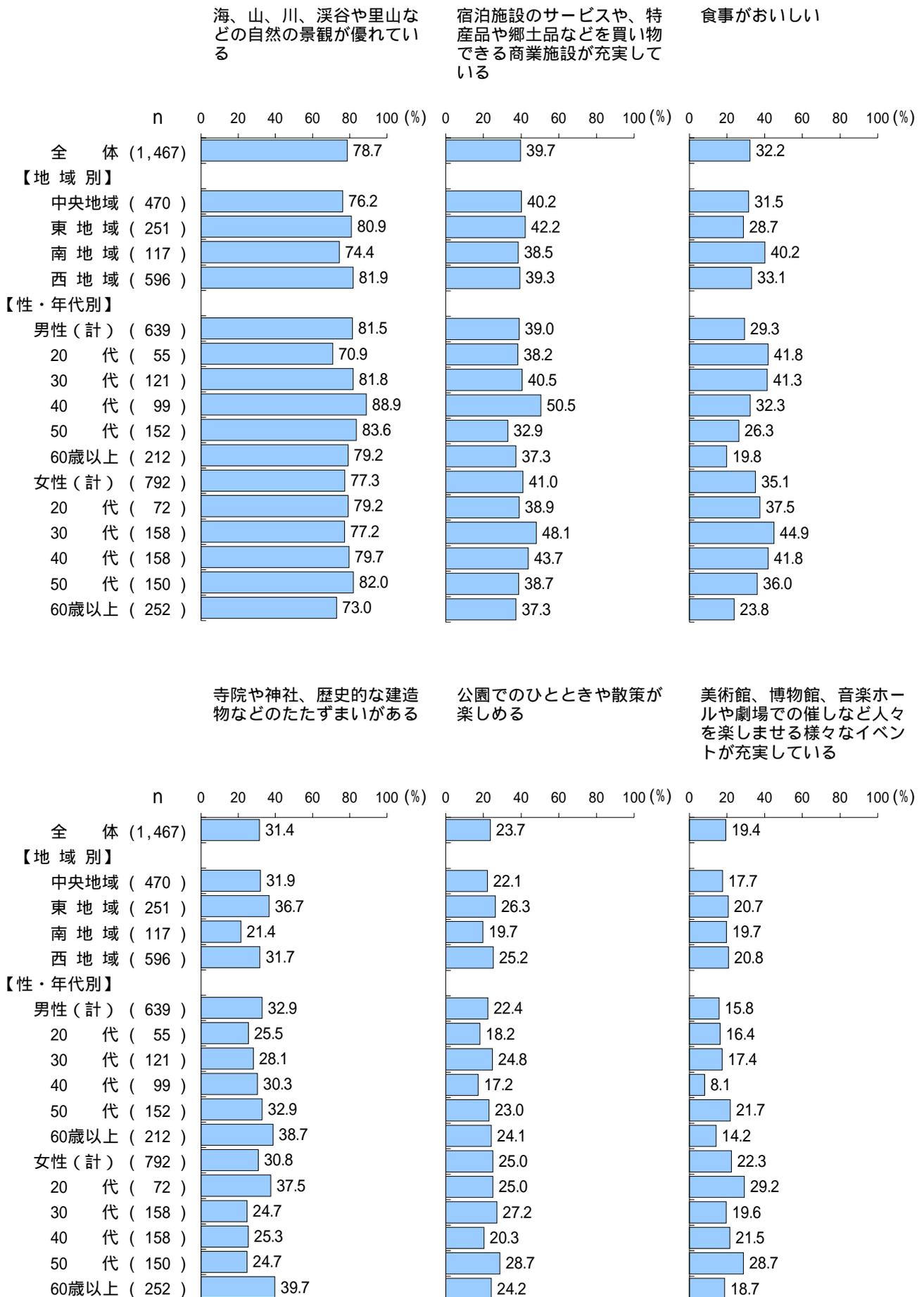
【地域別】

「海、山、川、渓谷や里山などの自然の景観が優れている」は、「西地域」(81.9%)と「東地域」(80.9%)が8割を超え他地域より高くなっている。「宿泊施設のサービスや、特産品や郷土品などを買物できる商業施設が充実している」の地域差はあまりない。「食事がおいしい」では、「南地域」(40.2%)で4割と他の地域より高くなっている。「寺院や神社、歴史的な建造物などのたたずまいがある」は、「東地域」(36.7%)が最も高く、「南地域」(21.4%)が最も低い。(図表10 - 4)

【性・年代別】

「海、山、川、渓谷や里山などの自然の景観が優れている」は、男性の40代(88.9%)が約9割と高いが、他の年代も7割を超えている。「宿泊施設サービスや特産品等を買物できる商業施設が充実している」は、男性の40代(50.5%)が5割を超え高いが、他の年代も3割を超えている。また、「食事がおいしい」は男性の20~30代と女性の30~40代で4割を超え高くなっている。「寺院や神社、歴史的な建造物などのたたずまいがある」は、男性の60歳以上(38.7%)、女性の20代(37.5%)、60歳以上(39.7%)が約4割と高くなっている。(図表10 - 4)

<図表10 - 4 > 観光地に求める魅力 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

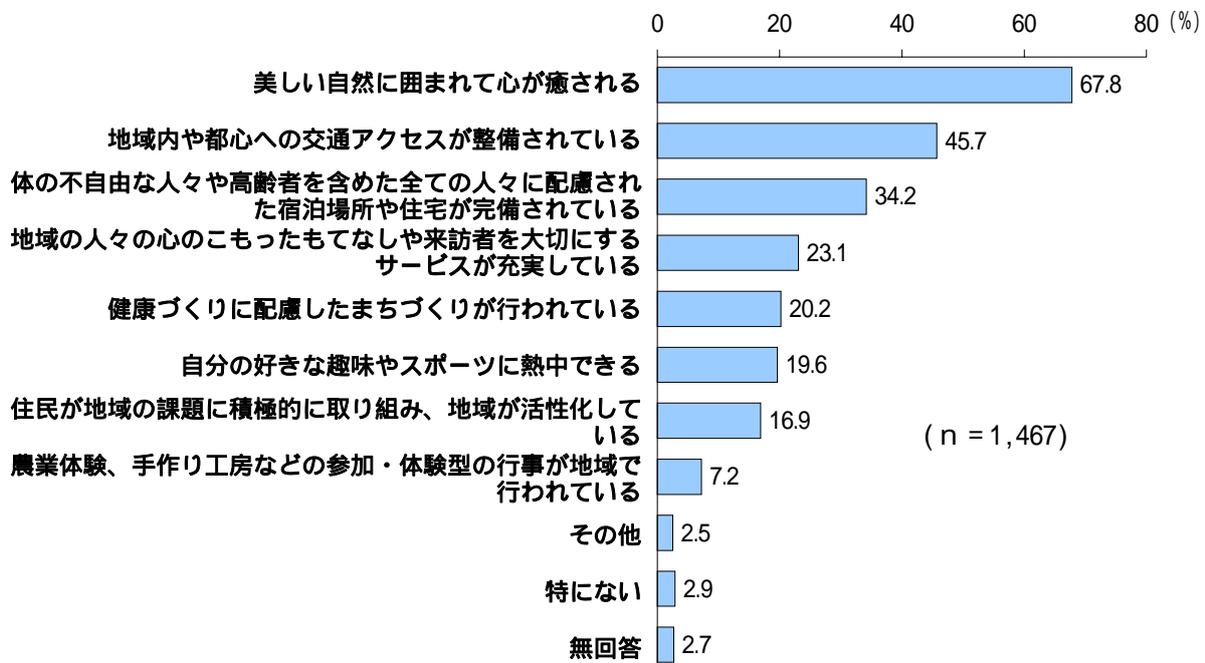


(3) 長い間滞在したり永住したいところ

「美しい自然に囲まれて心が癒される」が約7割

問43 あなたが長い間滞在したり、住みたいと考えるところは、どのようなところですか。
(は3つまで)

<図表10-5> 長い間滞在したり永住したいところ(複数回答)



長い間滞在したり永住したいところを3つまで選んでもらったところ、「美しい自然に囲まれて心が癒される」(67.8%)が約7割で最も高く、次いで、「地域内や都心への交通アクセスが整備されている」(45.7%)が4割台半ばで、「体の不自由な人々や高齢者を含めた全ての人々に配慮された宿泊場所や住宅が完備されている」(34.2%)が3割台半ばになっている。(図表10-5)

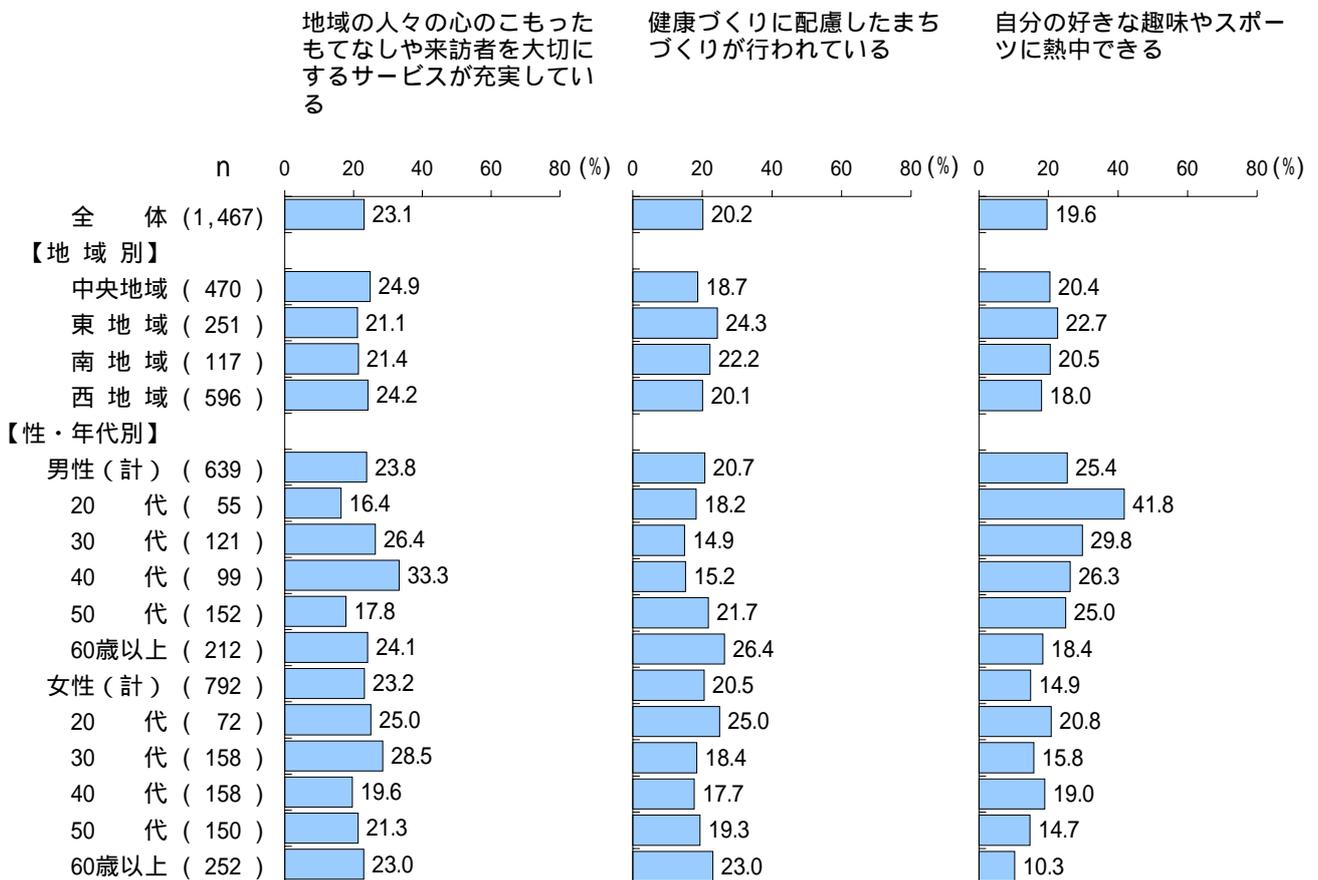
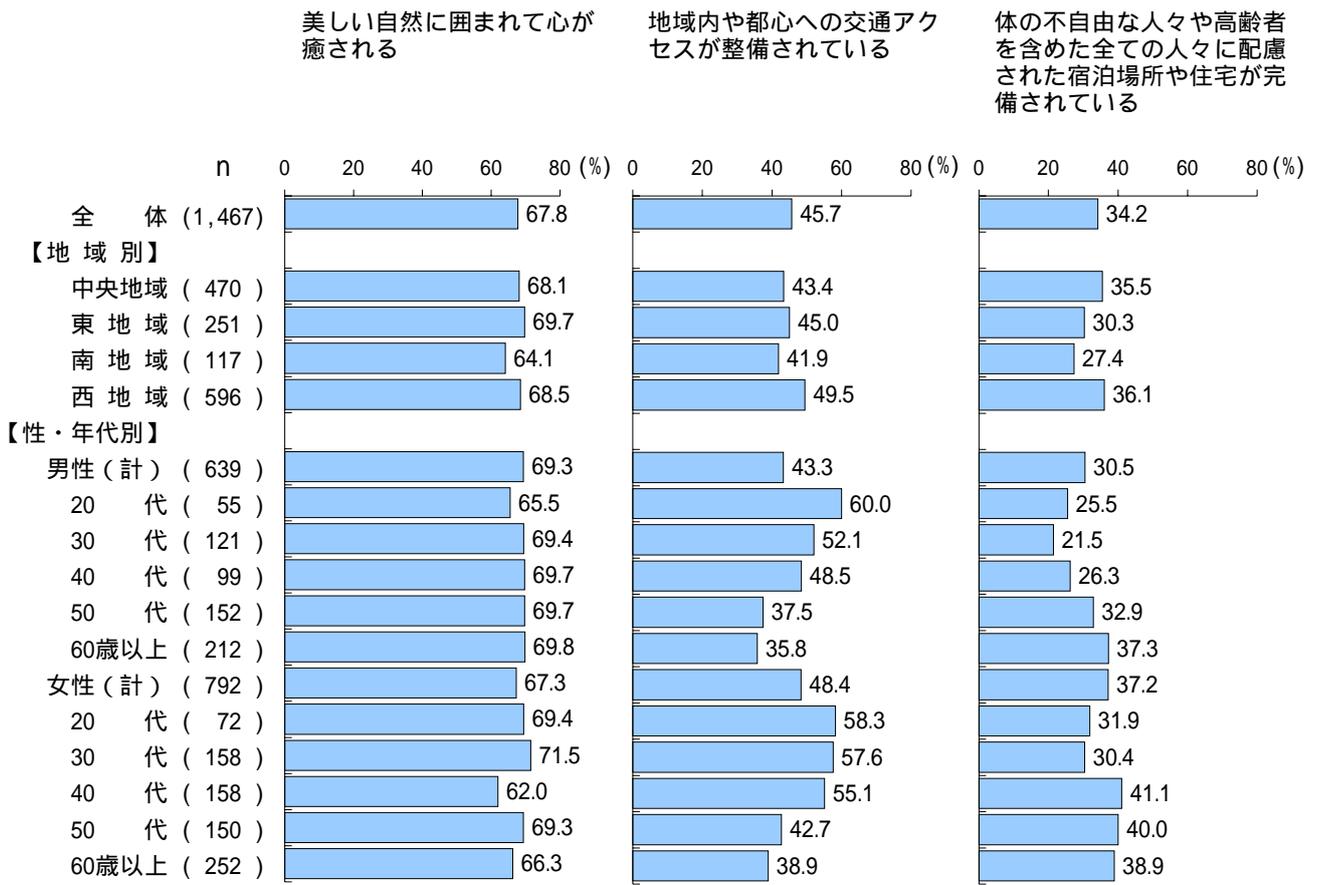
【地域別】

「美しい自然に囲まれて心が癒される」は、「南地域」(64.1%)が多少低いものの、他地域は約7割でほとんど差がない。「地域内や都心への交通アクセスが整備されている」は、「西地域」(49.5%)が最も高く、「南地域」(41.9%)が最も低い。「体の不自由な人々や高齢者を含めた全ての人々に配慮された宿泊場所や住宅が完備されている」は、「西地域」(36.1%)が最も高く、「南地域」(27.4%)が最も低い。(図表10-6)

【性・年代別】

「美しい自然に囲まれて心が癒される」は各年代とも6割を超えているが、その中で、女性の40代(62.0%)が多少低くなっている。「地域内や都心への交通アクセスが整備されている」は、男性の20代(60.0%)と女性の20~30代で6割前後となっているが、男女ともに年代が上がるほど低下している。「体の不自由な人々や高齢者を含めた全ての人々に配慮された宿泊場所や住宅が完備されている」は、男性の60代(37.3%)と女性の40歳以上で4割前後と高いが、男性の20~40代は2割台と低くなっている。(図表10-6)

<図表10 - 6 > 長い間滞在したり永住したいところ / 地域別、性・年代別 (上位6項目)

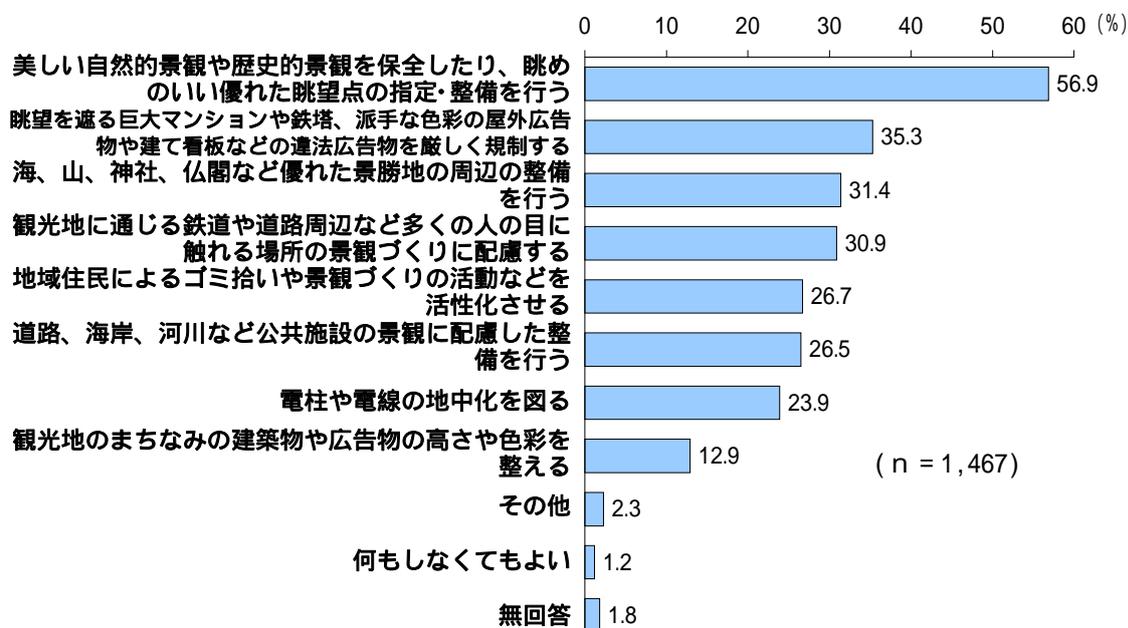


(4) 県内の観光地が活性化するために必要な景観づくり

「美しい自然的景観の保全や優れた眺望点の指定・整備を行う」が5割台半ば

問44 観光の魅力の柱の一つは美しい景観であると言われていますが、県内の観光地がより一層活性化するためには、どのような景観づくりに努めればよいとお考えですか。
(は3つまで)

< 図表10 - 7 > 県内の観光地が活性化するために必要な景観づくり (複数回答)



県内の観光地が活性化するために必要な景観づくりを3つまで選んでもらったところ、「美しい自然的景観や歴史的景観を保全したり、眺めのいい優れた眺望点の指定・整備を行う」(56.9%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「眺望を遮る巨大マンションや鉄塔、派手な色彩の屋外広告物や建て看板などの違法広告物を厳しく規制する」(35.3%)、「海、山、神社、仏閣など優れた景勝地の周辺の整備を行う」(31.4%)、「観光地に通じる鉄道や道路周辺など多くの人の目に触れる場所の景観づくりに配慮する」(30.9%)の3項目が3割台となっている。(図表10 - 7)

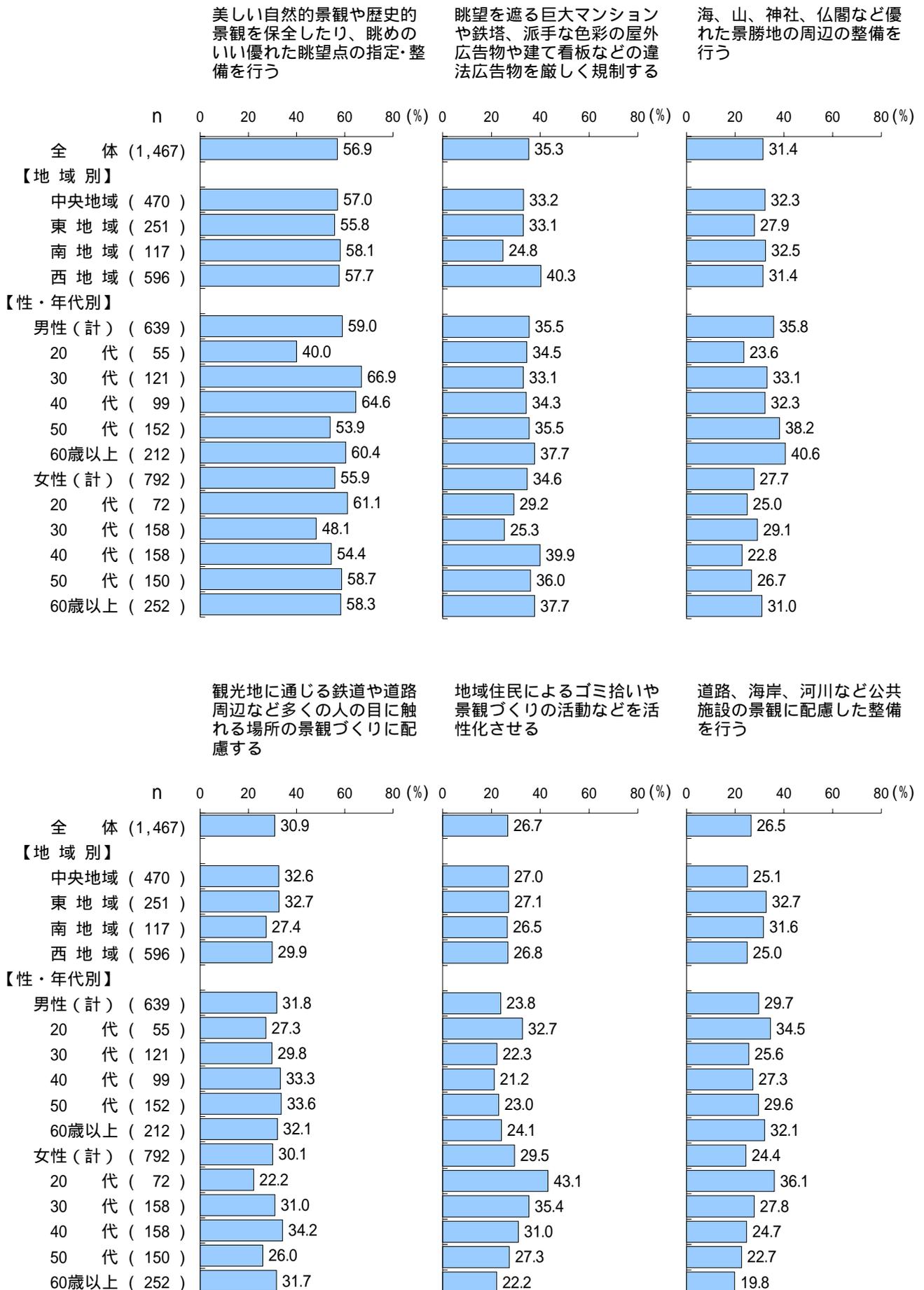
【地域別】

「美しい自然的景観や歴史的景観を保全したり、眺めのいい優れた眺望点の指定・整備を行う」は、地域差はほとんどみられない。「眺望を遮る巨大マンションや鉄塔、派手な色彩の屋外広告物や建て看板などの違法広告物を厳しく規制する」は、「西地域」(40.3%)が4割で最も高く、「南地域」(24.8%)は最も低くなっている。(図表10 - 8)

【性・年代別】

「美しい自然的景観や歴史的景観を保全したり、眺めのいい優れた眺望点の指定・整備を行う」は、男性の30~40代と60歳以上(60.4%)、女性の20代(61.1%)で6割を超え高く、「眺望を遮る巨大マンションや鉄塔、派手な色彩の屋外広告物や建て看板などの違法広告物を厳しく規制する」は、女性の20~30代が多少低いものの、他の年代は3割を超えており、「海、山、神社、仏閣など優れた景勝地の周辺の整備を行う」は、男性でおおむね年代が上がるほど増加し、50歳以上で4割前後であり、女性はおおむね2割台となっている。(図表10 - 8)

<図表10 - 8> 県内の観光地が活性化するために必要な景観づくり / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

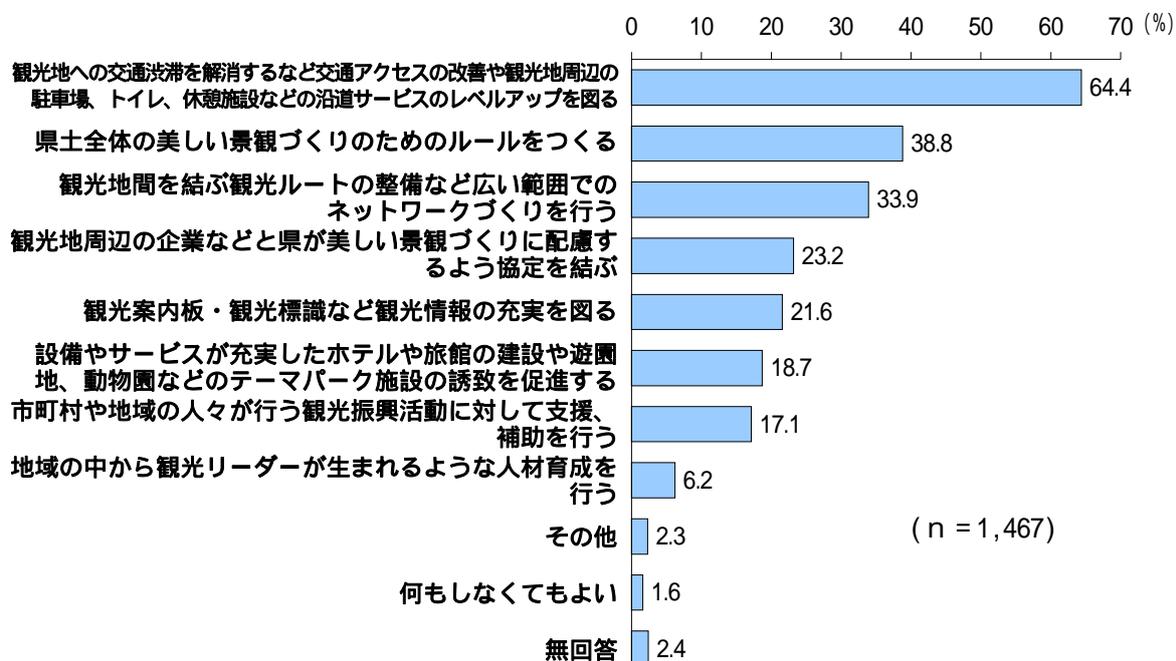


(5) 誰もが楽しめる観光地づくりをするために必要なこと

「交通アクセスの改善や沿道サービスのレベルアップを図る」が6割台半ば

問45 県は、誰もが楽しめる観光地づくりをするためにどのようなことをすればよいとお考えですか。(は3つまで)

<図表10 - 9> 誰もが楽しめる観光地づくりをするために必要なこと(複数回答)



誰もが楽しめる観光地づくりをするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「観光地への交通渋滞を解消するなど交通アクセスの改善や観光地周辺の駐車場、トイレ、休憩施設などの沿道サービスのレベルアップを図る」(64.4%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「県土全体の美しい景観づくりのためのルールをつくる」(38.8%)と「観光地間を結ぶ観光ルートの整備など広い範囲でのネットワークづくりを行う」(33.9%)が3割台である。(図表10 - 9)

【地域別】

「観光地への交通渋滞を解消するなど交通アクセスの改善や観光地周辺の駐車場、トイレ、休憩施設などの沿道サービスのレベルアップを図る」は「南地域」(59.8%)で約6割にとどまるが、他地域は6割台半ばである。「県土全体の美しい景観づくりのためのルールをつくる」は、「西地域」(41.8%)と「東地域」(39.8%)で4割前後と高い。「観光地間を結ぶ観光ルートの整備など広い範囲でのネットワークづくりを行う」は、「西地域」(36.2%)、「東地域」(35.1%)、「中央地域」(33.8%)が高く、「南地域」(25.6%)と差がある。(図表10 - 10)

【性・年代別】

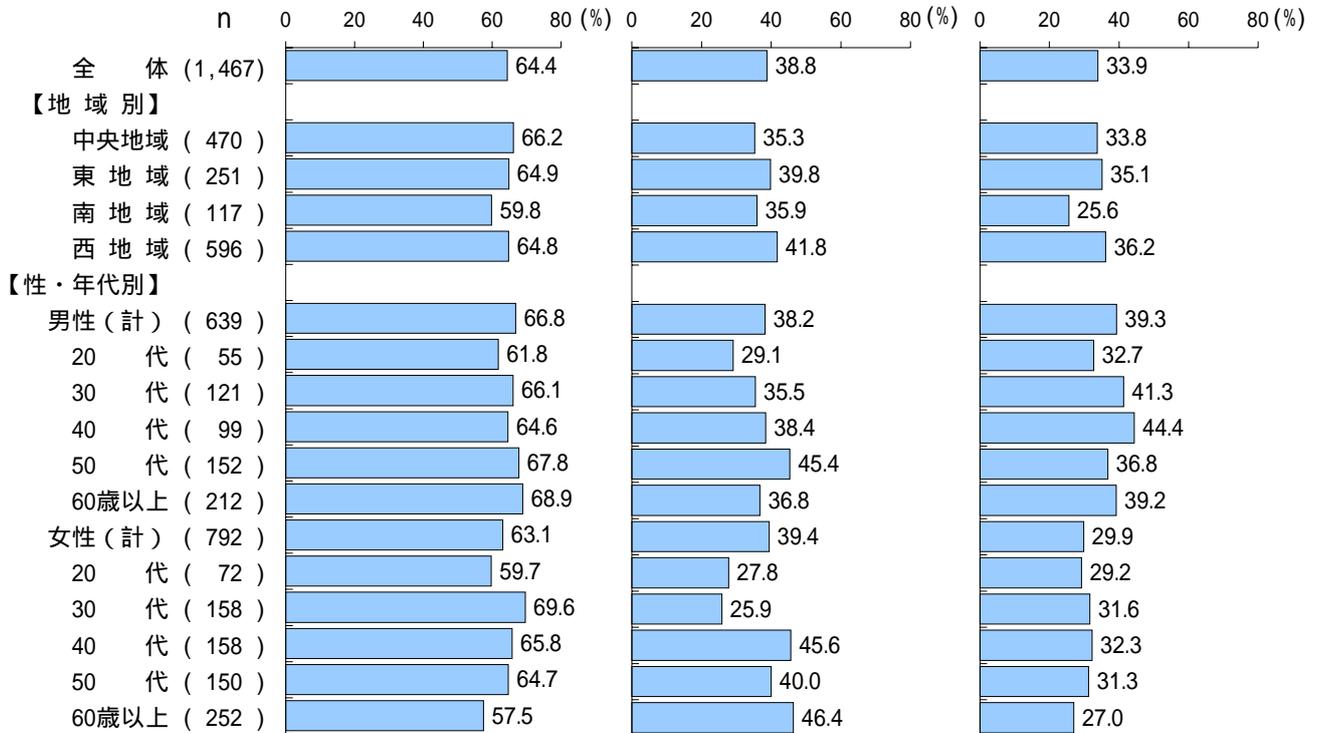
「観光地への交通渋滞を解消するなど交通アクセスの改善や観光地周辺の駐車場、トイレ、休憩施設などの沿道サービスのレベルアップを図る」は、男性の60歳以上(68.9%)と女性の30代(69.6%)は約7割で高くなっているが、他の年代もおおむね6割台となっている。「県土全体の美しい景観づくりのためのルールをつくる」は、男性の50代(45.4%)、女性の40歳以上で4割を超えている。「観光地間を結ぶ観光ルートの整備など広い範囲でのネットワークづくりを行う」は、男性の30~40代で4割を超えている。(図表10 - 10)

<図表10 - 10> 誰もが楽しめる観光地づくりをするために必要なこと / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

観光地への交通渋滞を解消するなど交通アクセスの改善や観光地周辺の駐車場、トイレ、休憩施設などの沿道サービスのレベルアップを図る

県土全体の美しい景観づくりのためのルールをつくる

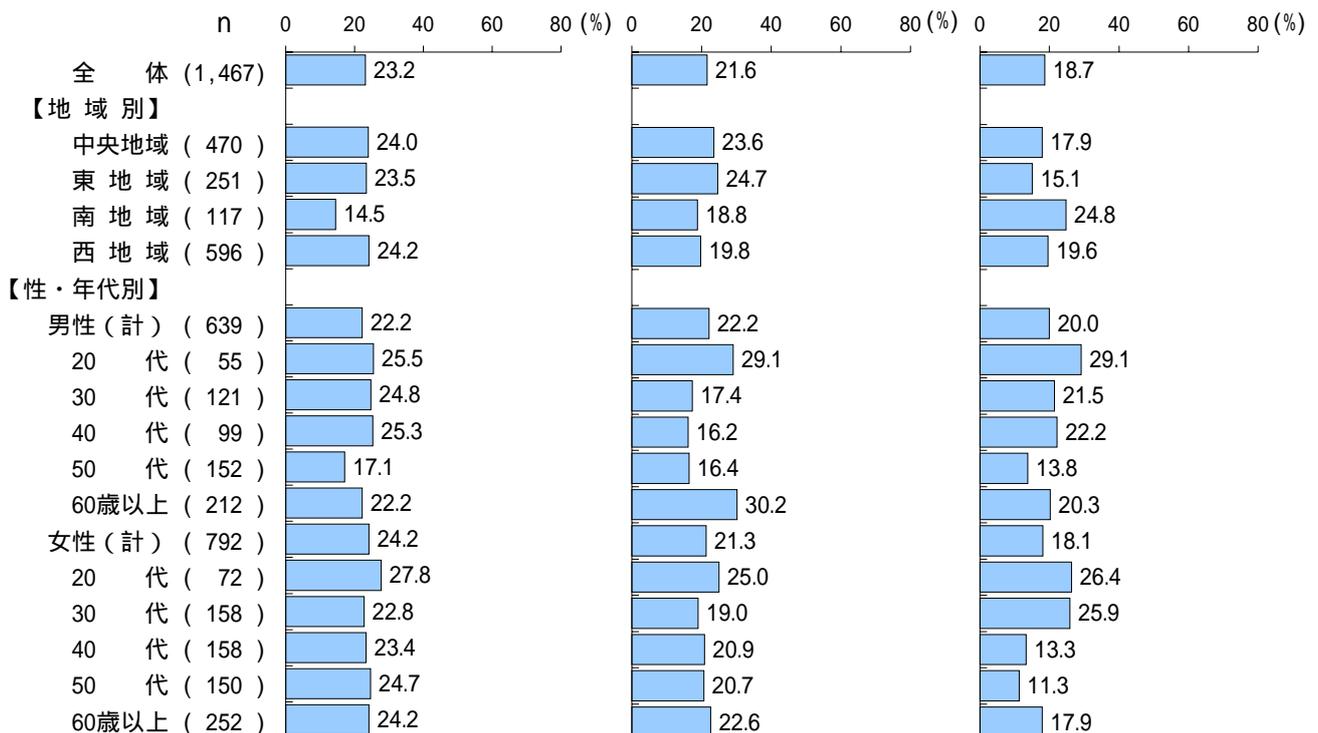
観光地間を結ぶ観光ルートの整備など広い範囲でのネットワークづくりを行う



観光地周辺の企業などと県が美しい景観づくりに配慮するよう協定を結ぶ

観光案内板・観光標識など観光情報の充実を図る

設備やサービスが充実したホテルや旅館の建設や遊園地、動物園などのテーマパーク施設の誘致を促進する



11 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況

『多くなったと感じる』が6割を超える

問46 およそ5年前に比べて、あなたの住んでいる地域における犯罪の発生状況についてどう感じますか。(は1つ)

<図表11 - 1> 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況



5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況を聞いたところ、「非常に多くなったと感じる」(15.7%)と最も多い「多くなったと感じる」(46.4%)を合わせると、『多くなったと感じる』(62.1%)は6割を超える。他方で、「変わらない」(22.0%)が2割を超えるものの、「少なくなったと感じる」(1.8%)と「非常に少なくなったと感じる」(0.3%)を合わせた『少なくなったと感じる』(2.1%)は低い。(図表11 - 1)

〔参考〕平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n	『多くなったと感じる』	『少なくなったと感じる』
全体			
平成13年度調査	1,468	60.7	1.7
今回調査	1,467	62.1	2.1

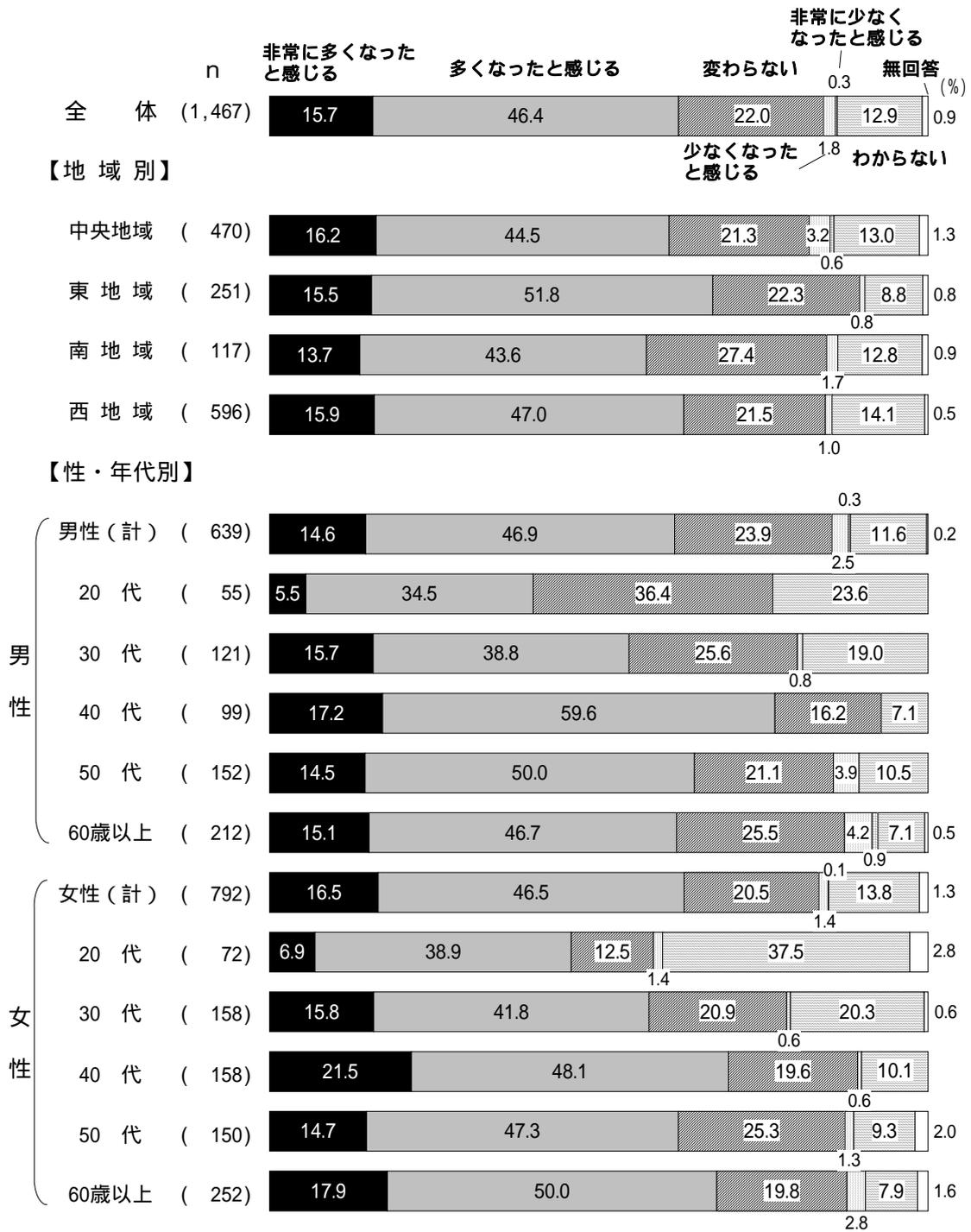
【地域別】

「非常に多くなったと感じる」は地域による大きな違いはみられないが、「多くなったと感じる」を含めた『多くなったと感じる』としてみると、“東地域”(67.3%)が約7割で最も高くなっており、“南地域”(57.3%)が最も低い。一方で、「変わらない」は“南地域”(27.4%)で約3割となっており、最も高い。(図表11 - 2)

【性・年代別】

『多くなったと感じる』は、男性の40代(76.8%)で7割台半ば、女性の40代(69.6%)と60歳以上(67.9%)で約7割と高くなっている。低いのは男女の20代で4割台となっている。なお、「変わらない」は、男性の20代(36.4%)で最も高く、最も低いのは女性の20代(12.5%)となっている。(図表11 - 2)

<図表11 - 2> 5年前と比べた居住地域の犯罪発生状況 / 地域別、性・年代別

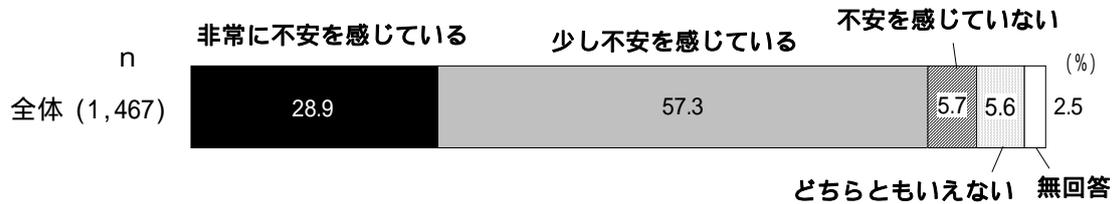


(2) 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度

『不安を感じている』は8割台半ば

問47 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が犯罪に巻き込まれる危険性について、どの程度不安を感じていますか。(は1つ)

<図表11-3> 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度



犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度を聞いたところ、「非常に不安を感じている」(28.9%)が約3割で、最も多い「少し不安を感じている」(57.3%)を合わせると、『不安を感じている』(86.2%)は8割台半ばとなっている。一方、「不安を感じていない」(5.7%)は低い。(図表11-3)

〔参考〕平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『不安を感じている』	「不安を感じていない」
平成13年度調査	1,468	85.0	10.3
今回調査	1,467	86.2	5.7

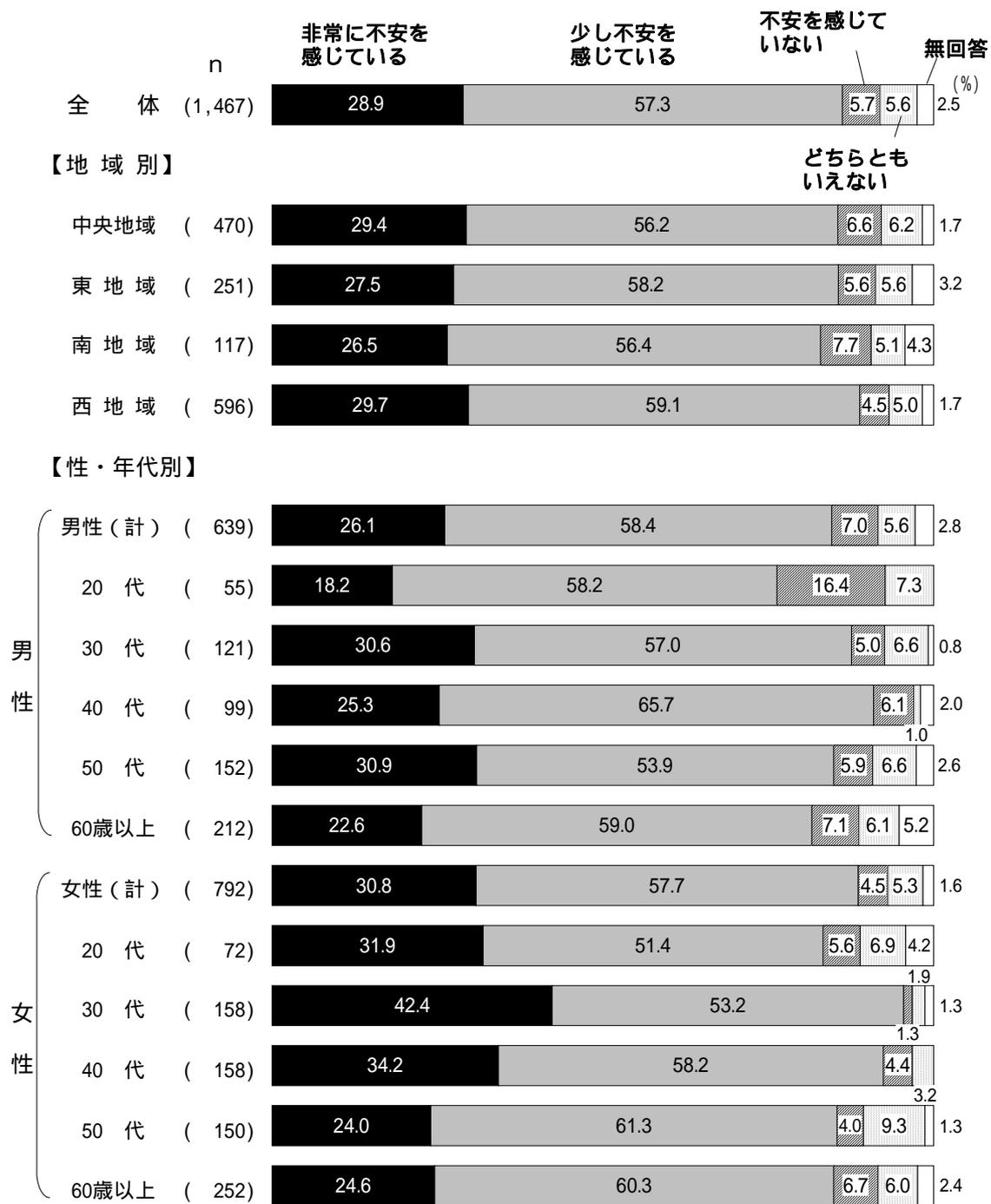
【地域別】

『不安を感じている』は“西地域”(88.8%)で約9割と最も高くなっている。最も低いのは“南地域”(82.9%)である。(図表11-4)

【性・年代別】

「非常に不安を感じている」は、女性の30代(42.4%)で4割を超え高くなっている。「少し不安を感じている」を含めた『不安を感じている』としてみると、男性の40代(91.0%)、女性の30~40代で9割を超えている。最も低いのは男性の20代(76.4%)である。(図表11-4)

<図表11 - 4 > 犯罪に巻き込まれる危険性に対する不安の程度 / 地域別、性・年代別



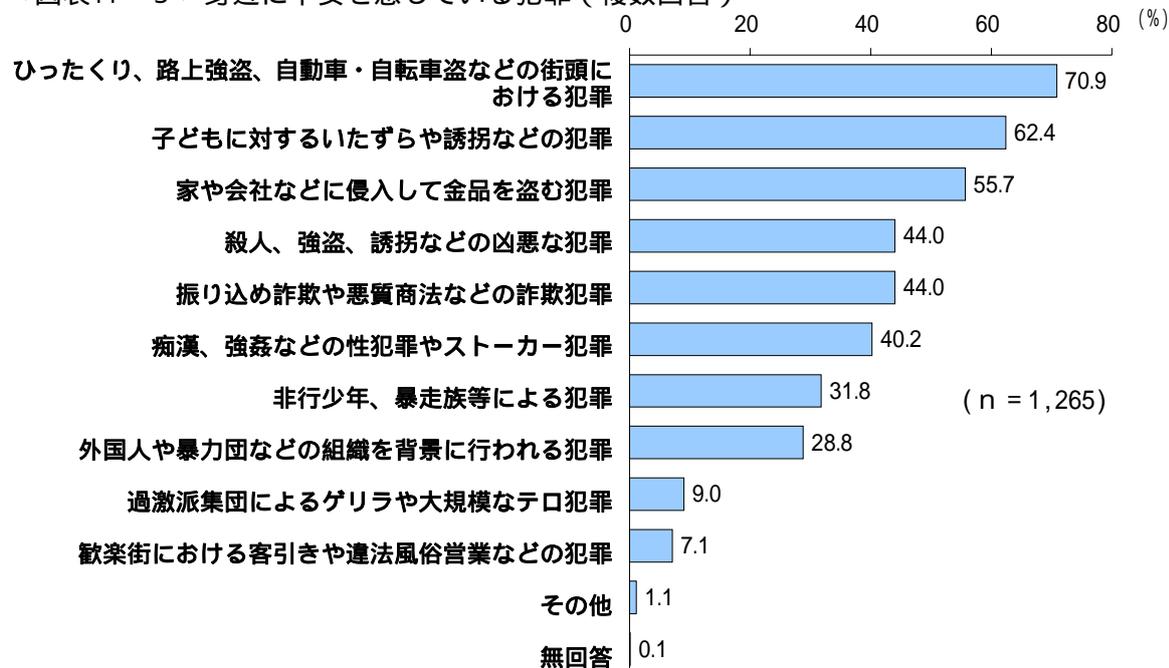
(2 - 1) 身近に不安を感じている犯罪

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」が7割

(問47で「1」か「2」とお答えの方に)

問47 - 1 あなたが身近で不安を感じている犯罪は何ですか。(はいくつでも)

<図表11 - 5> 身近に不安を感じている犯罪 (複数回答)



問47で「非常に不安を感じている」か「少し不安を感じている」と回答した1,265人を対象に、身近に不安を感じている犯罪をいくつでも選んでもらったところ、「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」(70.9%)が7割で最も高くなっている。次いで、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(62.4%)が6割を超え、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(55.7%)が5割台半ばとなっている。(図表11 - 5)

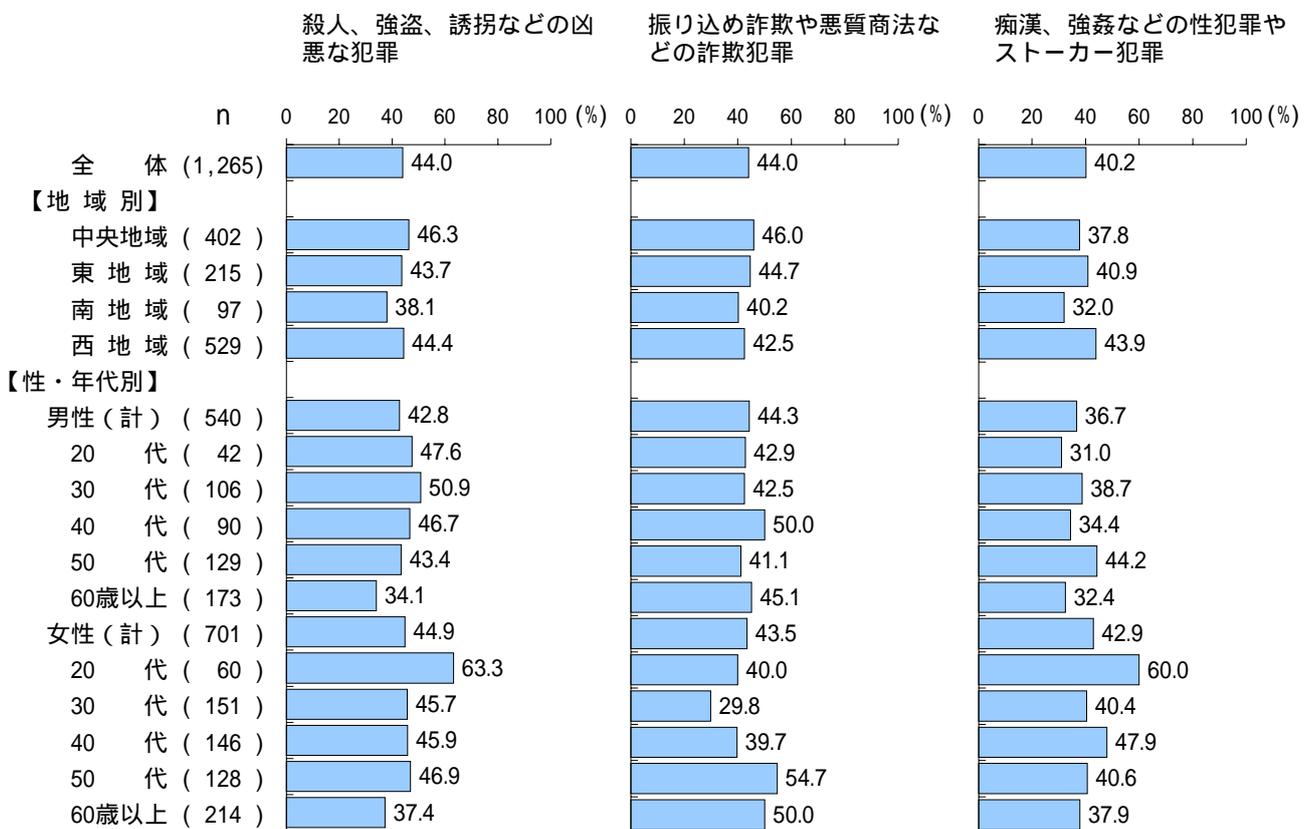
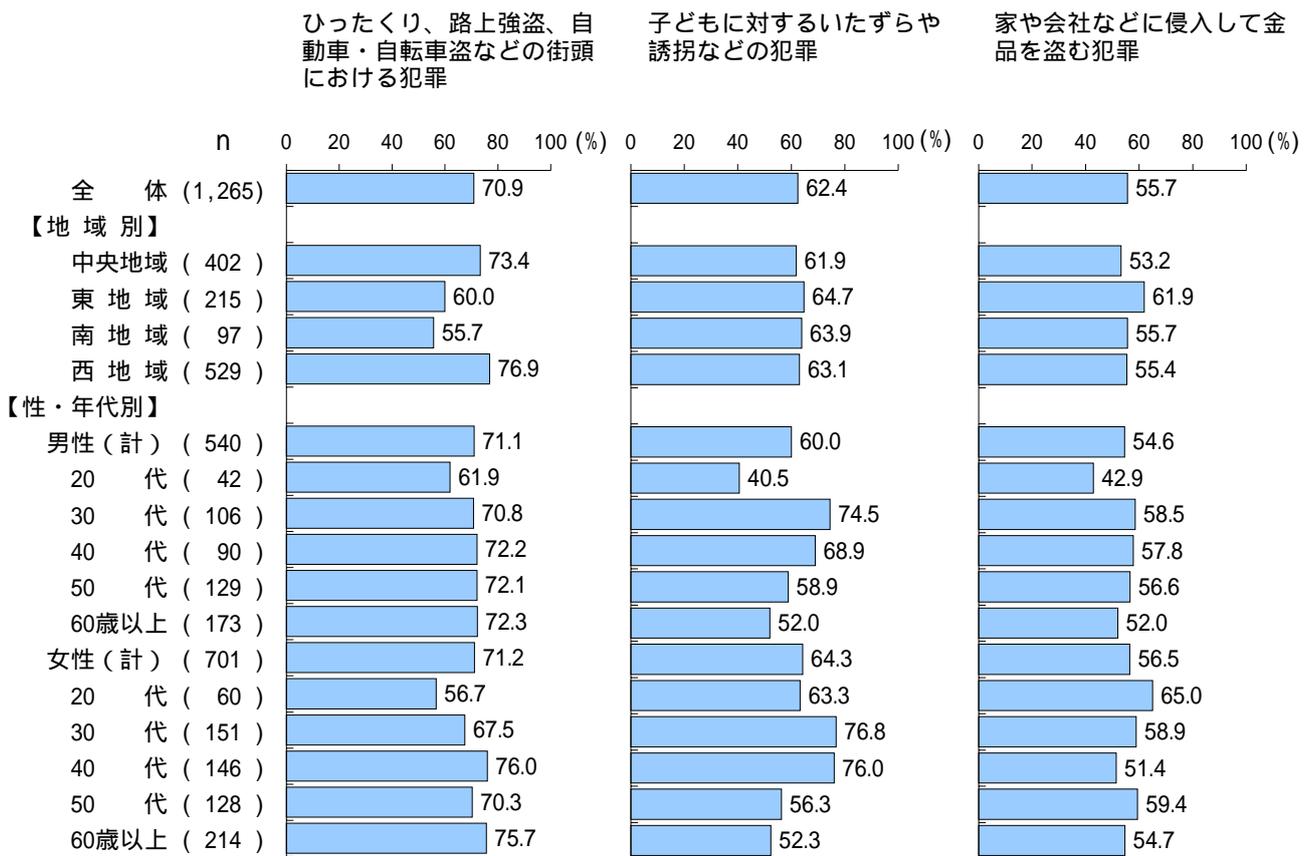
【地域別】

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」は、“西地域”(76.9%)と“中央地域”(73.4%)で7割台半ばとなっており、“南地域”(55.7%)が最も低い。「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は地域による大きな違いはみられない。「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は、“東地域”(61.9%)で6割を超えて最も高い。(図表11 - 6)

【性・年代別】

「ひったくり、路上強盗、自動車・自転車盗などの街頭における犯罪」は20代を除き他の年代はおおむね7割を上回っている。「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は、男性の30代(74.5%)、女性の30~40代で7割台半ばとなっているが、他は年代により差が大きい。「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は、女性の20代(65.0%)が最も高く、他の年代はおおむね5割台となっている。(図表11 - 6)

<図表11 - 6 > 身近に不安を感じている犯罪 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

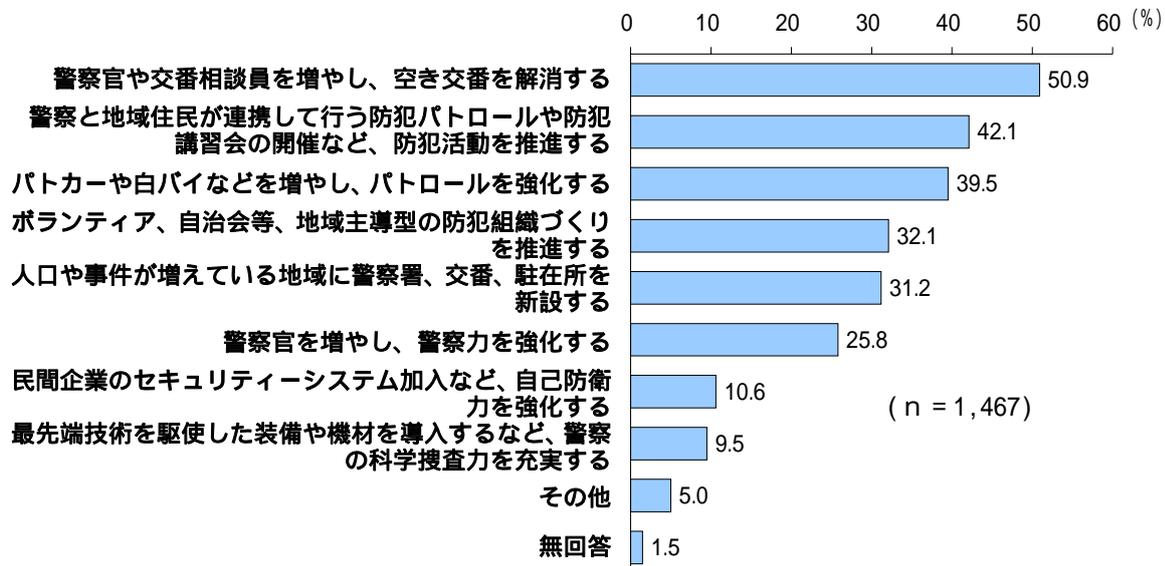


(3) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」が5割

問48 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が重要だと思いますか。(は3つまで)

<図表11 - 7> 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと(複数回答)



安全で安心できる生活を守っていくために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」(50.9%)が5割で最も高く、次いで、「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」(42.1%)、「パトカーや白バイを増やし、パトロールを強化する」(39.5%)となっている。(図表11 - 7)

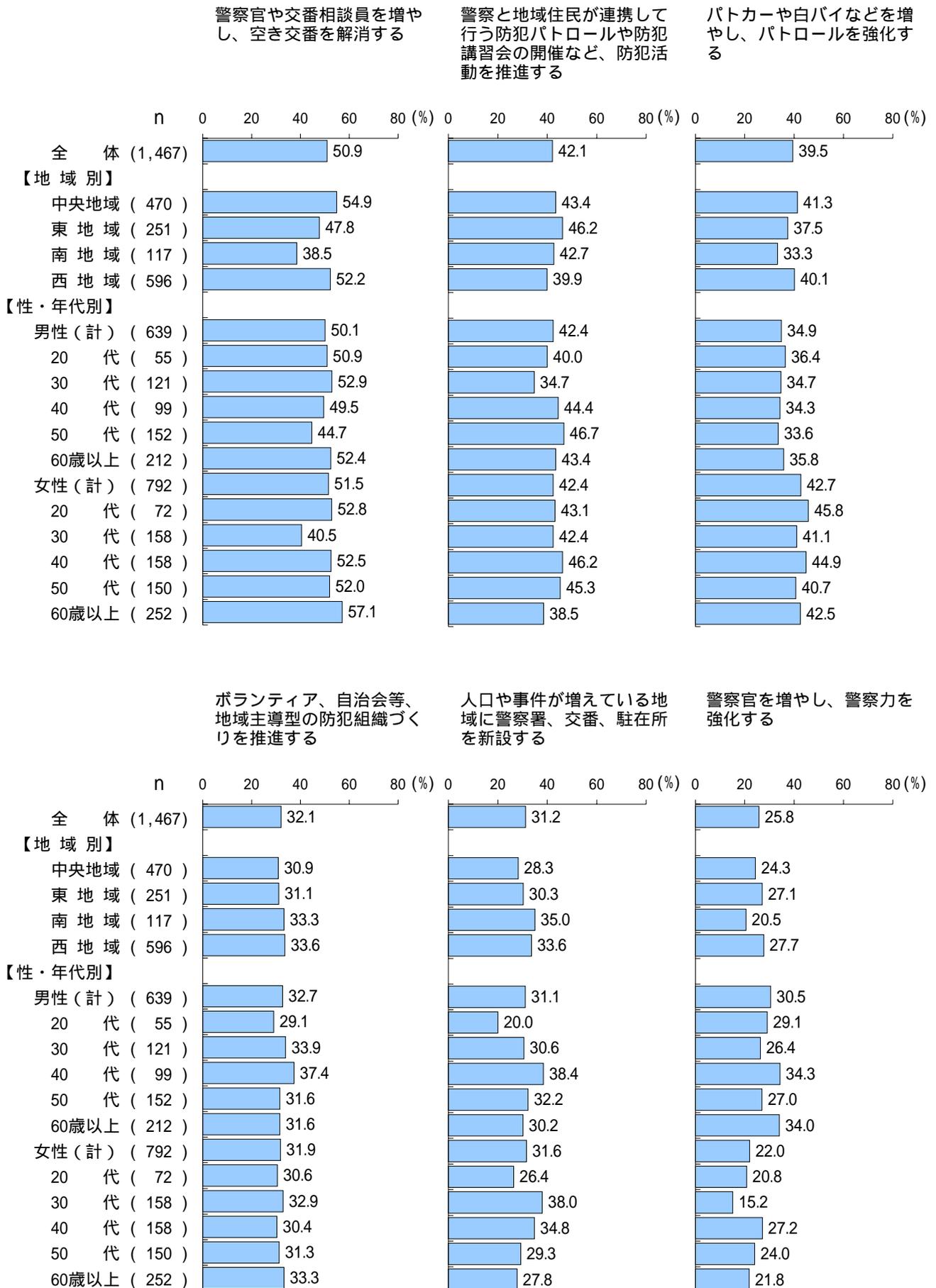
【地域別】

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」は、「中央地域」(54.9%)と「西地域」(52.2%)で5割を超え、「南地域」(38.5%)が最も低い。「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」は、「東地域」(46.2%)が最も高く、「西地域」(39.9%)が最も低い。「パトカーや白バイを増やし、パトロールを強化する」は「中央地域」(41.3%)、「西地域」(40.1%)で4割を超え、「南地域」(33.3%)が最も低い。(図表11 - 8)

【性・年代別】

「警察官や交番相談員を増やし、空き交番を解消する」は、女性の60歳以上(57.1%)が約6割で最も高く、男性の40代(49.5%)、50代(44.7%)、女性の30代(40.5%)を除く他の年代は5割台となっている。「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」は、男女ともに40~50代で4割台半ばと高くなっているが、男性の30代(34.7%)、女性の60歳以上(38.5%)を除く他の年代も4割台となっている。「パトカーや白バイを増やし、パトロールを強化する」は女性が各年代とも4割を超えているが、男性は各年代とも3割を超えている。(図表11 - 8)

<図表11 - 8> 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

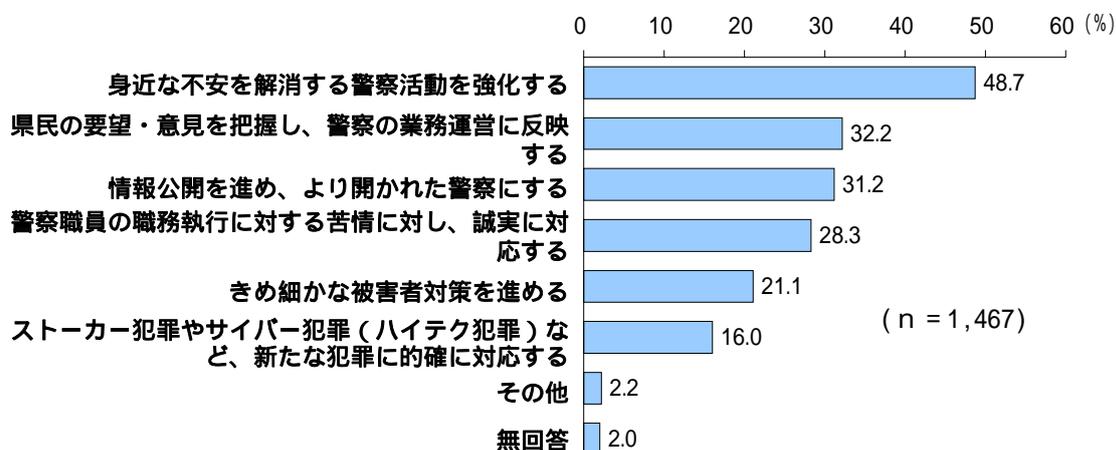


(4) 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」が約5割

問49 あなたは、千葉県警が県民の視点に立った活動を推進するために取り組んでいる施策について、特に必要であると思うものは何ですか。(は2つまで)

<図表11-9> 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策(複数回答)



県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策を2つまで選んでもらったところ、「身近な不安を解消する警察活動を強化する」(48.7%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」(32.2%)、「情報公開を進め、より開かれた警察にする」(31.2%)、「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」(28.3%)となっている。(図表11-9)

〔参考〕平成13年度の同様の項目による調査結果との比較

	n 全体	第1位	第2位	第3位
平成13年度調査	1,468	身近な不安を解消する警察活動を強化する (44.9)	県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する (40.0)	情報公開を進め、より開かれた警察にする (32.4)
今回調査	1,467	身近な不安を解消する警察活動を強化する (48.7)	県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する (32.2)	情報公開を進め、より開かれた警察にする (31.2)

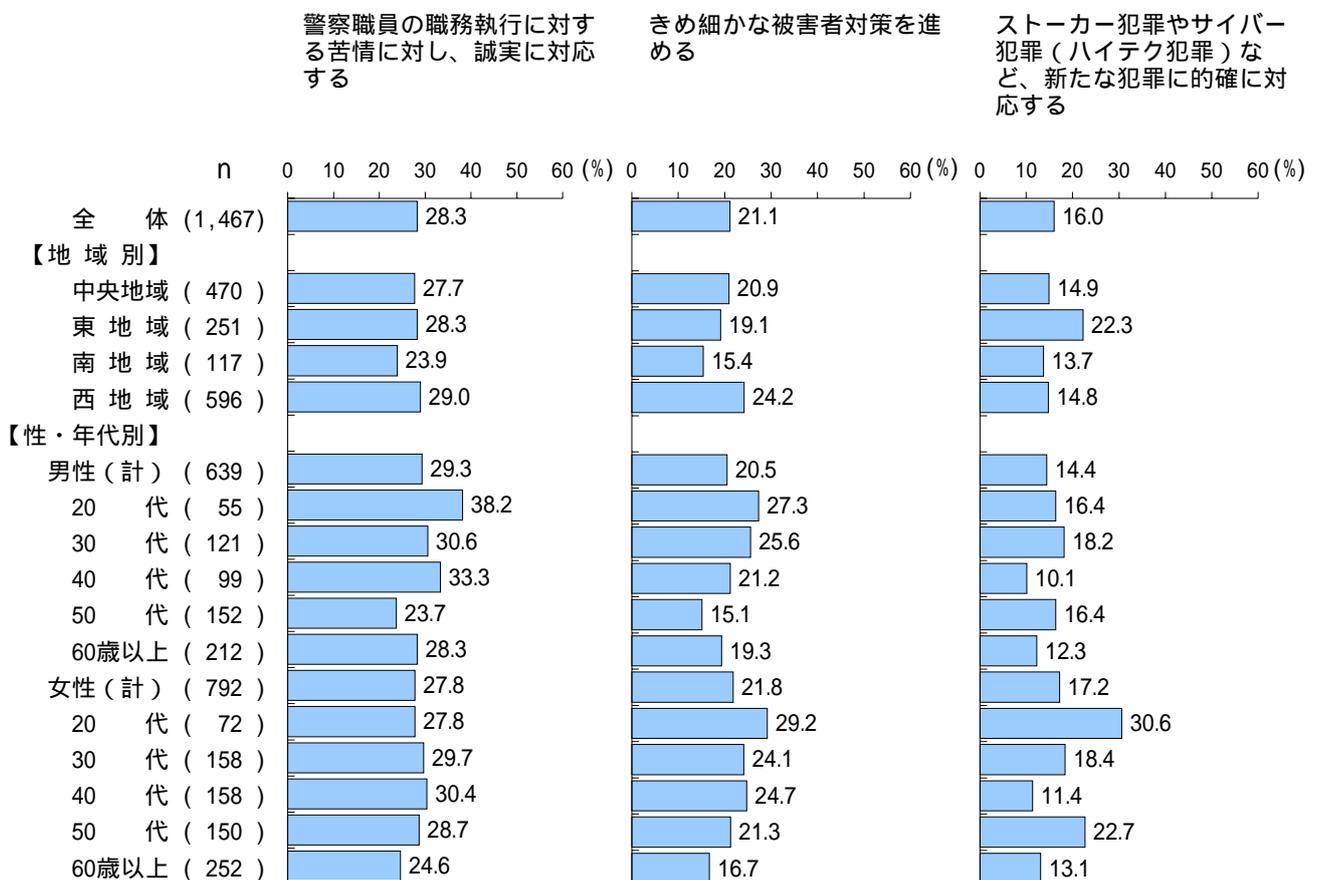
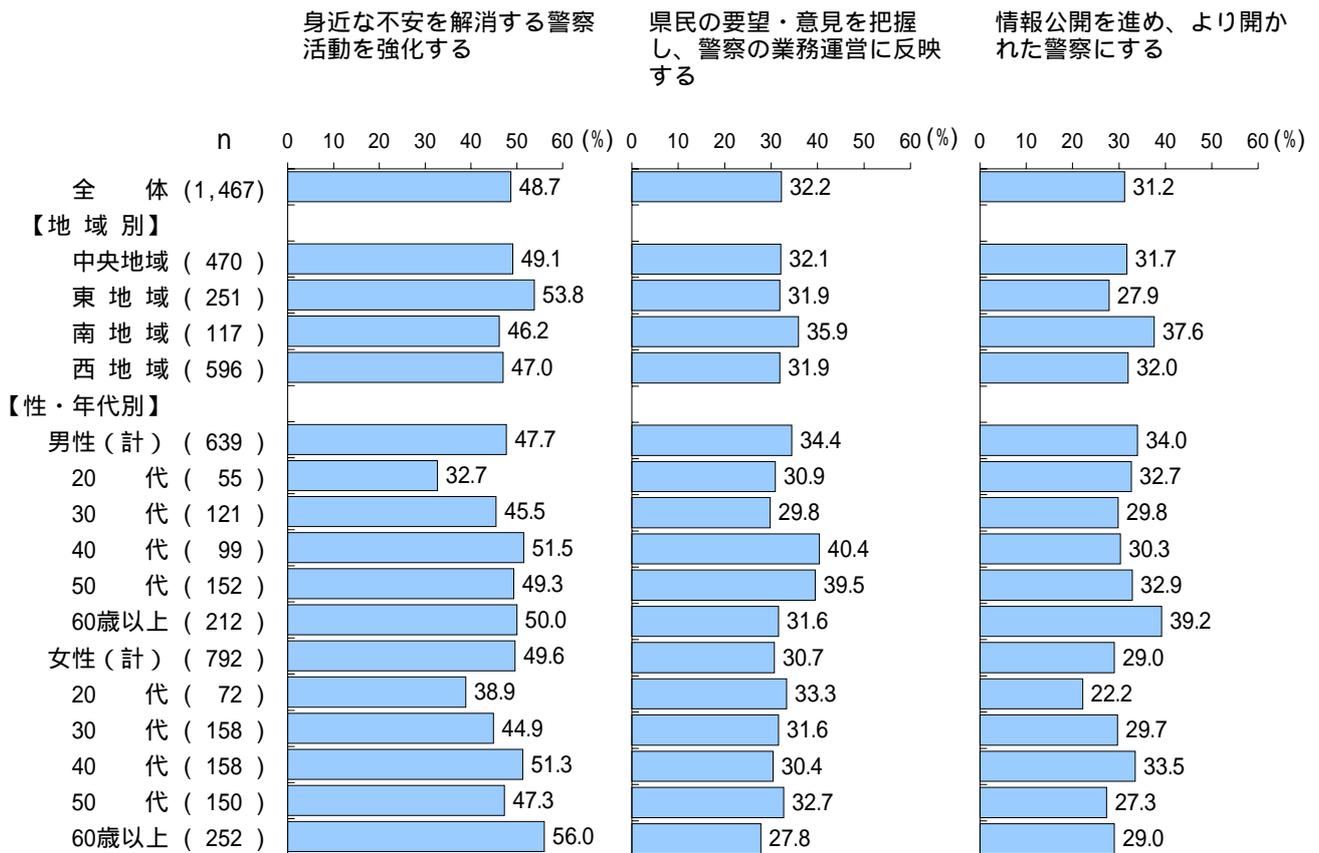
【地域別】

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」は、“東地域”(53.8%)で5割台半ばと最も高く、“南地域”(46.2%)が最も低い。「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」と「情報公開を進め、より開かれた警察にする」は、“南地域”(35.9%)が3割台半ばで最も高い。「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」は、“西地域”(29.0%)が最も高く、“南地域”(23.9%)が最も低い。(図表11-10)

【性・年代別】

「身近な不安を解消する警察活動を強化する」は、男女ともに20代、30代が多少低いものの40歳以上は5割前後である。「県民の要望・意見を把握し、警察の業務運営に反映する」は男性の40～50代で約4割と高く、男女ともに他の年代は3割前後である。「情報公開を進め、より開かれた警察にする」は、男性の60歳以上(39.2%)が約4割で最も高く、女性の20代(22.2%)を除く他の年代は3割前後となっている。また、「警察職員の職務執行に対する苦情に対し、誠実に対応する」は、男性の20代(38.2%)が約4割で最も高く、男性の50代(23.7%)、女性の60歳以上(24.6%)を除く他の年代は3割前後となっている。(図表11-10)

<図表11 - 10> 県民の視点に立った活動を推進するために必要な施策 / 地域別、性・年代別



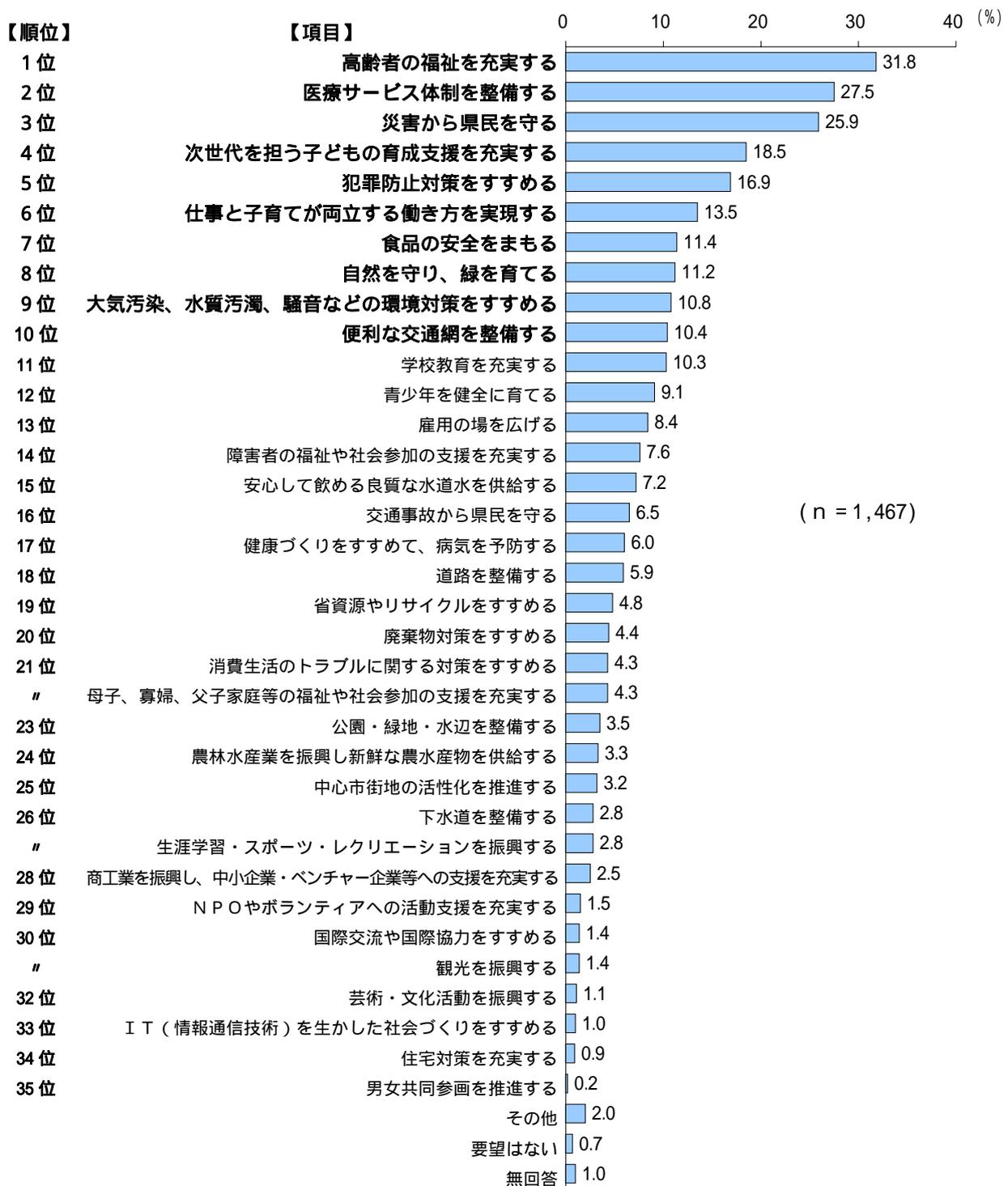
12 県政への要望

(1) 県政への要望

第1位「高齢者の福祉を充実する」が3割を超える

問50 県政全般について、今後あなたが特に力をいれてほしいと思われることを、次の中から選んでください。(は3つまで)

<図表12-1> 県政への要望(複数回答)



県政への要望を3つまで選んでもらったところ、「高齢者の福祉を充実する」(31.8%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「医療サービス体制を整備する」(27.5%)と「災害から県民を守る」(25.9%)が2割台半ばを超える。続いて「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」(18.5%)と「犯罪防止対策をすすめる」(16.9%)が1割台後半となっている。(図表12-1)

【参考】平成15年以降の同様の項目による調査結果との比較(上位10項目の推移)

県政の要望に関しては継続して行ってきた設問であるが、前回の調査時に項目の見直しが行われ、回答に当たっての前提条件が変更された。そのため、厳密な意味で以前の調査との連続性はないが、参考までにこれまでの調査の推移を掲載する。(図表12-2)

【地域別】

いずれの地域においても「高齢者の福祉を充実する」が第1位になっているが、“南地域”では「災害から県民を守る」も同率で第1位となっている。「医療サービス体制を整備する」が“中央地域”(29.4%)と“東地域”(29.1%)で第2位であり、“南地域”(25.6%)や“西地域”(26.0%)に比べて高い比率となっている。また、全体の上位5位には入っていない「雇用の場を広げる」が“南地域”(16.2%)で第5位となっている。(図表12-3~4)

【性別、性・年代別】

性別では、男女ともに「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「災害から県民を守る」、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」が上位4位までを占めている。なお、男性では「犯罪防止対策をすすめる」(18.0%)が「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」と同率の第4位である。また、女性では「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」(17.2%)が第5位である一方、この項目は男性の上位10位には入っていない。このほか、男性では「便利な交通網を整備する」が第7位、「青少年を健全に育てる」が第9位となっているが、女性の上位10位までには入っておらず、逆に、女性では「学校教育を充実する」が第8位であるが、男性の上位10位には入っていない。

「高齢者の福祉を充実する」は男性の20代及び50歳以上と女性の40代及び60歳以上で第1位となっており、特に女性60歳以上(47.2%)は約5割である。「災害から県民を守る」は、女性の30代を除いたいずれの年代でも上位5項目に入っており、女性20代では第1位となっている。その一方で、女性の30代では、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」と「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」が第1位であるなど、年齢による特徴がみられる。(図表12-3~4)

【今回の調査結果の特徴】

これまでの調査結果等を踏まえた今回調査の主な特徴は、以下のとおりである。

1. 「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「災害から県民を守る」(平成16年以前の調査項目としては、「高齢化社会対策」、「保健・医療対策」、「防災対策」におおむね該当)に対し、各層からの広範かつ根強い要望がある。

「高齢者の福祉を充実する」

- ・ 例年第 1 位である。(14年連続第1位。)
- ・ 前回の調査では“中央地域”のみ第 1 位だったが、今回の調査では全ての地域で第 1 位。
- ・ 今回の調査では、男性の30代を除けば、いずれの層でも上位 5 位以内。

「医療サービス体制を整備する」

- ・ これまでも高い順位にあったが、今回順位を一つ上げて第 2 位となった。
- ・ 例年、男性よりも女性の方が順位は高い傾向にある。
- ・ これまで、女性の30代ではおおむね第 1 位となっていたが、今回の調査では、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」と「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」に順位を逆転された。

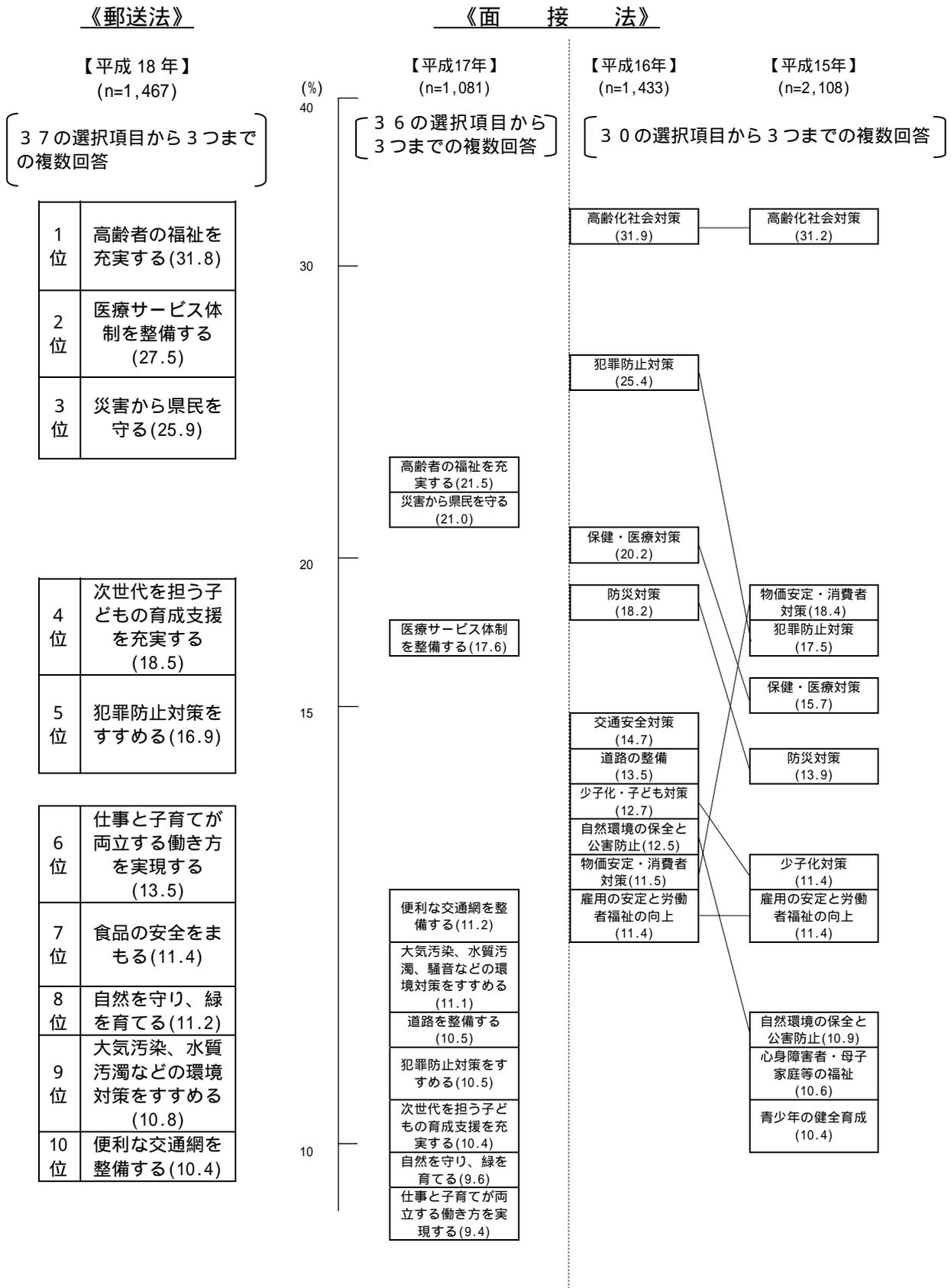
「災害から県民を守る」

- ・ 平成 7 年度に起きた『阪神・淡路大震災』をはじめ、大きな災害の被害が伝えられると順位が上がる傾向にある。
- ・ 近年の調査では順位を上げつつあり、昨年は「高齢者の福祉を充実する」に次いで第 2 位で、今回は第 3 位だった。
- ・ 今回の調査では、女性の30代を除けば、いずれの層でも上位 5 位以内。

2 . 30～40代を中心とした層からの、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」や「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」(平成16年以前の調査項目としては、「少子化・子ども対策」や「少子化対策」、「雇用の安定と労働者福祉の向上」におおむね該当)に対する要望順位が上昇した。

- ・ 両方の項目とも、これまで全体では上位 5 位以降の順位だったが、今回の調査では第 4 位と第 6 位にそれぞれ順位を上げた。
- ・ 地域による大きな違いはみられず、男性よりも女性の方が順位は高い傾向にある。
- ・ 30代では男女ともに「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」が第 1 位。そして、女性の30代において顕著であるが、「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」が「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」と同率で第 1 位である。

<図表12 - 2> 県政への要望 / 上位 10 項目の推移



<図表12 - 3 > 県政への要望（上位1位～5位）/ 地域別、性別、性・年代別

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,467	高齢者の福祉を充実する (31.8)	医療サービス体制を整備する (27.5)	災害から県民を守る (25.9)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.5)	犯罪防止対策をすすめる (16.9)
【地域別】						
中央地域	470	高齢者の福祉を充実する (30.6)	医療サービス体制を整備する (29.4)	災害から県民を守る (25.3)	犯罪防止対策をすすめる (18.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.3)
東地域	251	高齢者の福祉を充実する (33.5)	医療サービス体制を整備する (29.1)	災害から県民を守る (23.5)	犯罪防止対策をすすめる (19.5)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (15.9)
南地域	117	災害から県民を守る / 高齢者の福祉を充実する (28.2)	医療サービス体制を整備する (25.6)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.9)	雇用の場を広げる (16.2)	
西地域	596	高齢者の福祉を充実する (33.1)	災害から県民を守る (26.8)	医療サービス体制を整備する (26.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (20.5)	犯罪防止対策をすすめる (15.9)
【性別】						
男性(計)	693	高齢者の福祉を充実する (29.7)	災害から県民を守る (26.3)	医療サービス体制を整備する (25.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 犯罪防止対策をすすめる (18.0)	
女性(計)	792	高齢者の福祉を充実する (33.6)	医療サービス体制を整備する (29.0)	災害から県民を守る (25.4)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.3)	仕事と子育てが両立する働き方を実現する (17.2)
【性・年代別】						
男性20代	55	高齢者の福祉を充実する / 犯罪防止対策をすすめる (23.6)	災害から県民を守る (21.8)	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる (20.0)	便利な交通網を整備する (16.4)	
30代	121	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (28.9)	医療サービス体制を整備する (23.1)	災害から県民を守る (22.3)	犯罪防止対策をすすめる (21.5)	仕事と子育てが両立する働き方を実現する (18.2)
40代	99	医療サービス体制を整備する (27.3)	災害から県民を守る / 犯罪防止対策をすすめる (23.2)	高齢者の福祉を充実する (22.2)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.2)	
50代	152	高齢者の福祉を充実する (30.3)	災害から県民を守る (27.0)	医療サービス体制を整備する (23.7)	自然を守り、緑を育てる (19.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 犯罪防止対策をすすめる (15.8)
60歳以上	212	高齢者の福祉を充実する (44.8)	災害から県民を守る / 医療サービス体制を整備する (30.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 犯罪防止対策をすすめる (13.7)		
女性20代	72	災害から県民を守る (34.7)	犯罪防止対策をすすめる (30.6)	医療サービス体制を整備する / 仕事と子育てが両立する働き方を実現する (25.0)	高齢者の福祉を充実する (19.4)	
30代	158	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 仕事と子育てが両立する働き方を実現する (35.4)	医療サービス体制を整備する (26.6)	学校教育を充実する (19.6)	高齢者の福祉を充実する (19.0)	
40代	158	高齢者の福祉を充実する / 医療サービス体制を整備する (32.3)	犯罪防止対策をすすめる (22.8)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (22.2)	災害から県民を守る (20.3)	
50代	150	医療サービス体制を整備する (38.0)	高齢者の福祉を充実する (34.7)	災害から県民を守る (26.7)	雇用の場を広げる (15.3)	食品の安全をまもる (14.7)
60歳以上	252	高齢者の福祉を充実する (47.2)	災害から県民を守る (31.3)	医療サービス体制を整備する (24.6)	食品の安全をまもる (18.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (14.7)

<図表12 - 4 > 県政への要望（上位6位～10位）/ 地域別、性別、性・年代別

	n	6位	7位	8位	9位	10位
全 体	1,467	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（13.5）	食品の安全をまもる（11.4）	自然を守り、緑を育てる（11.2）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（10.8）	便利な交通網を整備する（10.4）
【地域別】						
中央地域	470	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（12.6）	食品の安全をまもる（11.7）	自然を守り、緑を育てる（11.5）	便利な交通網を整備する / 大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（10.4）	
東 地 域	251	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（14.7）	便利な交通網を整備する（11.2）	青少年を健全に育てる（10.4）	自然を守り、緑を育てる（9.2）	食品の安全をまもる / 大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（8.8）
南 地 域	117	食品の安全をまもる（12.8）	仕事と子育てが両立する働き方を実現する / 学校教育を充実する（12.0）		犯罪防止対策をすすめる（10.3）	中心市街地の活性化を推進する / 障害者の福祉や社会参加の支援を充実する / 青少年を健全に育てる / 自然を守り、緑を育てる（9.4）
西 地 域	596	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（14.4）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（13.3）	自然を守り、緑を育てる（11.7）	食品の安全をまもる（11.6）	学校教育を充実する（11.2）
【性別】						
男 性	693	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（12.2）	便利な交通網を整備する / 自然を守り、緑を育てる（11.9）		青少年を健全に育てる（9.9）	食品の安全をまもる（9.5）
女 性	792	犯罪防止対策をすすめる（15.9）	食品の安全をまもる（12.8）	学校教育を充実する（11.7）	自然を守り、緑を育てる（10.4）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（9.8）
【性・年代別】						
男性20代	55	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 医療サービス体制を整備する / 自然を守り、緑を育てる（14.5）		仕事と子育てが両立する働き方を実現する（12.7）	食品の安全をまもる / 青少年を健全に育てる / 省資源やリサイクルをすすめる / 道路を整備する（10.9）	
30代	121	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（13.2）	高齢者の福祉を充実する（11.6）	便利な交通網を整備する / 自然を守り、緑を育てる（10.7）		公園・緑地・水辺を整備する（9.9）
40代	99	学校教育を充実する（18.2）	雇用の場を広げる（14.1）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（13.1）	便利な交通網を整備する / 自然を守り、緑を育てる（12.1）	
50代	152	---	便利な交通網を整備する / 雇用の場を広げる（13.8）		大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（11.8）	道路を整備する（10.5）
60歳以上	212	青少年を健全に育てる（13.2）	食品の安全をまもる（11.8）	交通事故から県民を守る（10.4）	便利な交通網を整備する（9.9）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる / 仕事と子育てが両立する働き方を実現する（9.4）
女性20代	72	障害者の福祉や社会参加の支援を充実する（15.3）	便利な交通網を整備する / 自然を守り、緑を育てる（13.9）		省資源やリサイクルをすすめる（12.5）	次世代を担う子どもの育成支援を充実する / 公園・緑地・水辺を整備する（11.1）
30代	158	犯罪防止対策をすすめる（15.8）	災害から県民を守る（15.2）	自然を守り、緑を育てる（13.9）	便利な交通網を整備する（10.8）	食品の安全をまもる（10.1）
40代	158	学校教育を充実する（18.4）	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（13.3）	青少年を健全に育てる（12.0）	障害者の福祉や社会参加の支援を充実する（11.4）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（10.8）
50代	150	仕事と子育てが両立する働き方を実現する（14.0）	大気汚染、水質汚濁などの環境対策をすすめる（13.3）	犯罪防止対策をすすめる（12.7）	障害者の福祉や社会参加の支援を充実する（11.3）	自然を守り、緑を育てる（10.7）
60歳以上	252	健康づくりをすすめて、病気を予防する（13.9）	安心して飲める良質な水道水を供給する（12.7）	青少年を健全に育てる（10.7）	犯罪防止対策をすすめる（9.5）	便利な交通網を整備する / 自然を守り、緑を育てる（8.3）

(1 - 1) 各政策への具体的な要望

具体的な要望を、表の左側より問50でご回答いただいた番号(要望)を探し出していただき、その上で、表の右側(=網掛け部分)から、最も要望する項目を選んでください。
(はそれぞれ1つ)

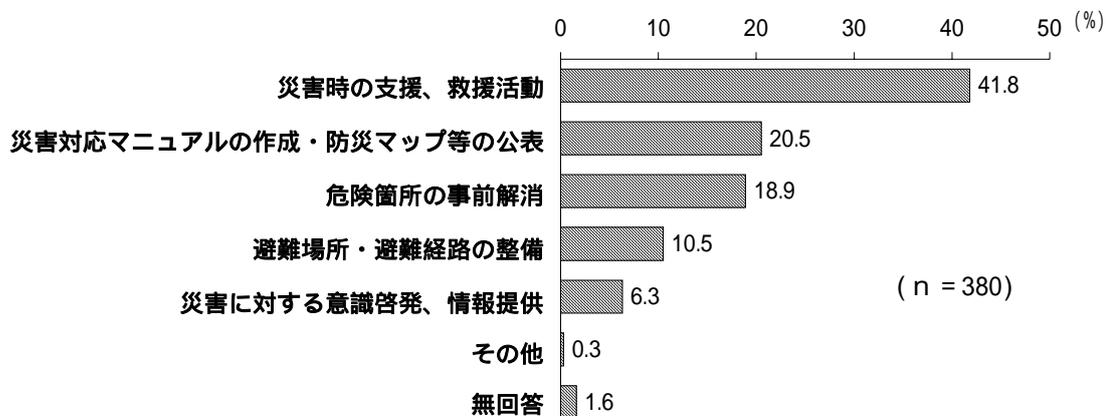
問50で県政への要望を3つまでたずね、その選んだ要望に関して、それぞれ具体的にどのようなことを望んでいるかを聞いた。

ここからは、それぞれの結果を図示していくが、問50の回答状況次第では、nの値が少なくなるものもあり、その場合は参考ということを示す。

1 災害から県民を守る

「災害時の支援、救援活動」(41.8%)が4割を超え最も高く、「災害対応マニュアルの作成・防災マップ等の公表」(20.5%)と「危険箇所の事前解消」(18.9%)が2割前後で続く。(図表12-5)

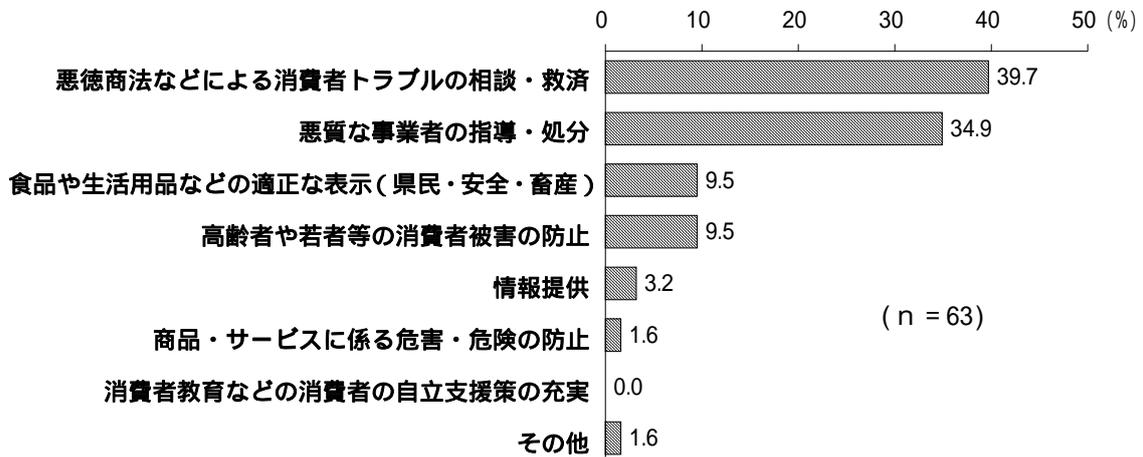
<図表12-5> 災害から県民を守る



2 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる

「悪徳商法などによる消費者トラブルの相談・救済」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで、「悪質な事業者の指導・処分」(34.9%)が3割台半ばで、これら上位2項目が突出している。(図表12-6)

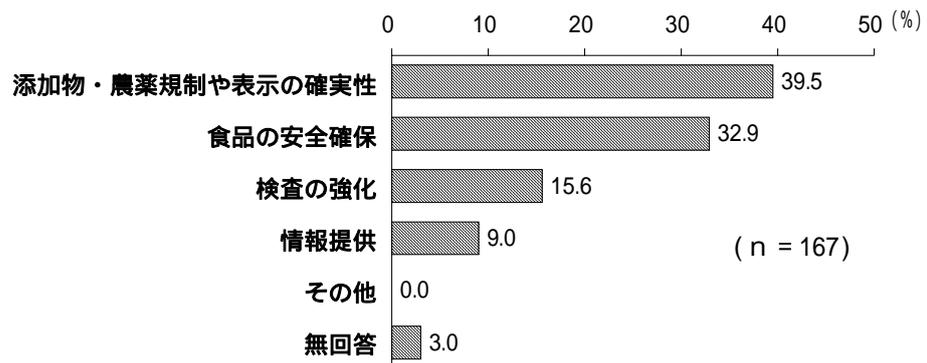
<図表12-6> 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる



3 食品の安全をまもる

「添加物・農薬規制や表示の確実性」(39.5%)が約4割で最も高く、次いで、「食品の安全確保」(32.9%)が3割を超え、これら上位2項目が突出している。(図表12-7)

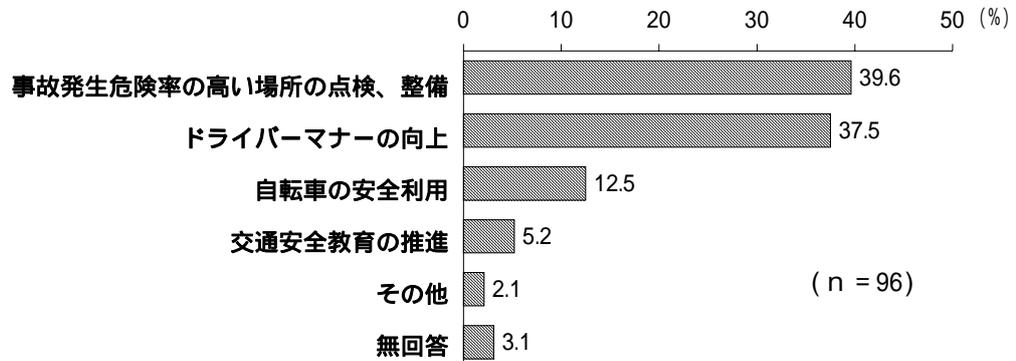
<図表12-7> 食品の安全をまもる



4 交通事故から県民を守る

「事故発生危険率の高い場所の点検、整備」(39.6%)と「ドライバーマナーの向上」(37.5%)が約4割で突出。(図表12-8)

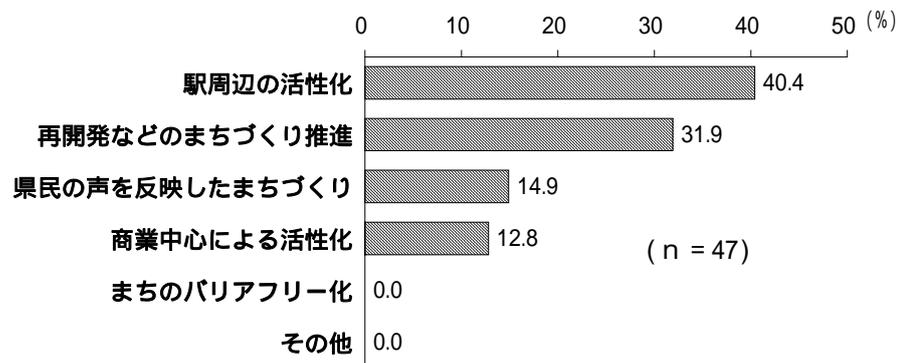
<図表12-8> 交通事故から県民を守る



5 中心市街地の活性化を推進する

「駅周辺の活性化」(40.4%)が4割で最も高く、次いで、「再開発などのまちづくり推進」(31.9%)が3割を超える。(図表12-9)

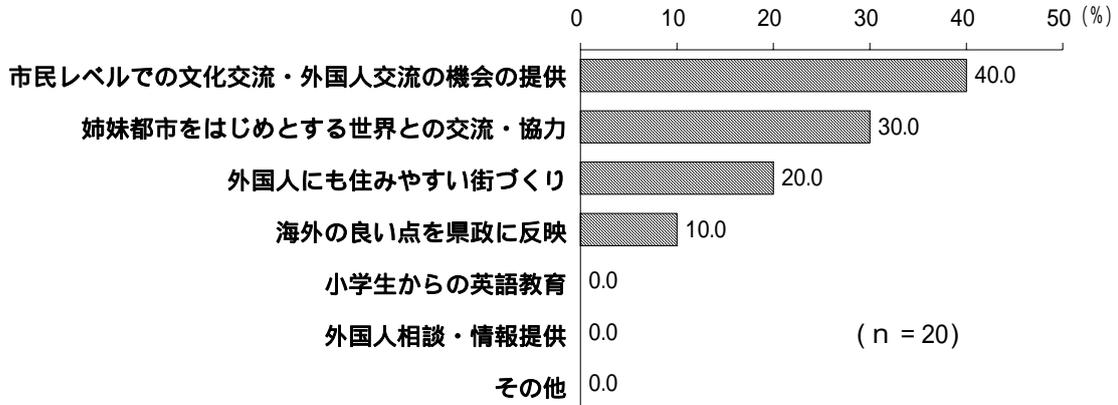
<図表12-9> 中心市街地の活性化を推進する



6 国際交流や国際協力をすすめる

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12 - 10)

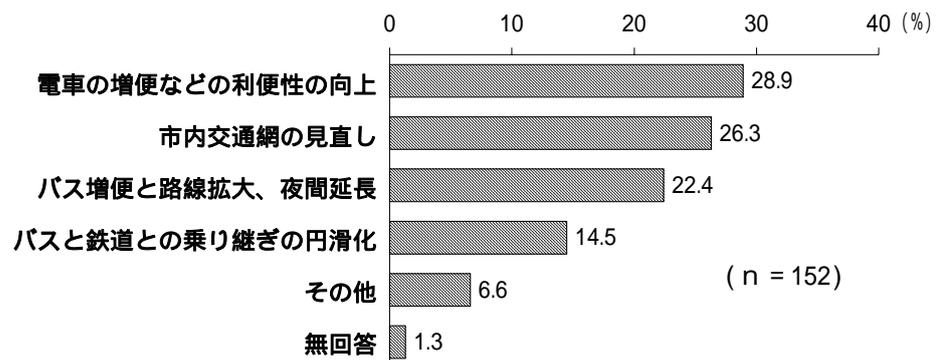
<図表12 - 10> 国際交流や国際協力をすすめる



7 便利な交通網を整備する

「電車の増便などの利便性の向上」(28.9%)が約3割で最も高く、次いで、「市内交通網の見直し」(26.3%)が2割台半ばとなっている。また、「バス増便と路線拡大、夜間延長」(22.4%)も2割を超える。(図表12 - 11)

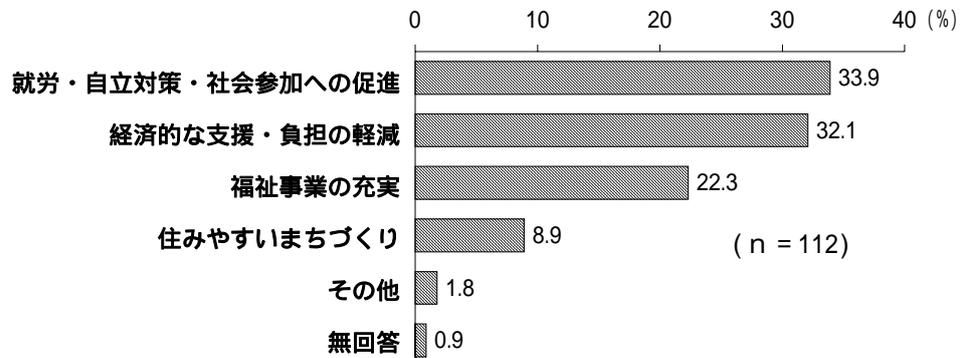
<図表12 - 11> 便利な交通網を整備する



8 障害者の福祉や社会参加の支援を充実する

「就労・自立対策・社会参加への促進」(33.9%)が3割台半ばで最も高く、僅差で「経済的な支援・負担の軽減」(32.1%)が続く。また、「福祉事業の充実」(22.3%)が2割を超える。(図表12-12)

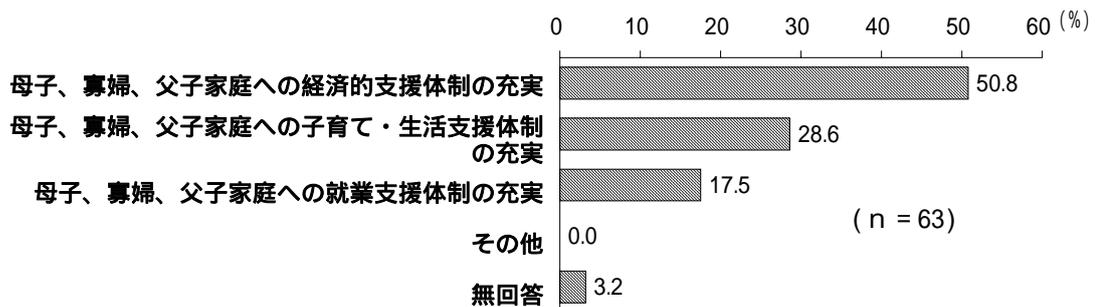
<図表12-12> 障害者の福祉や社会参加の支援を充実する



9 母子、寡婦、父子家庭等の福祉や社会参加の支援を充実する

「母子、寡婦、父子家庭への経済的支援体制の充実」(50.8%)が5割で最も高くなっている。次いで、「母子、寡婦、父子家庭への子育て・生活支援体制の充実」(28.6%)は約3割である。(図表12-13)

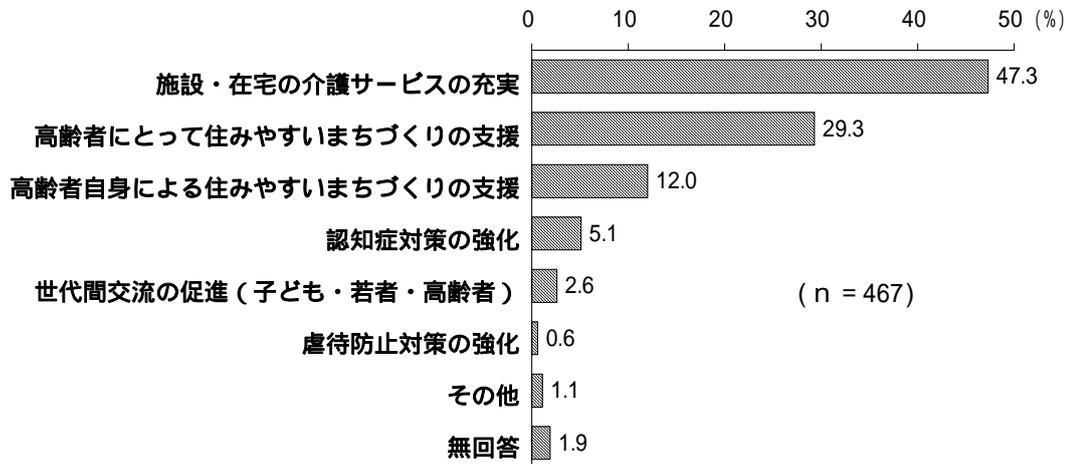
<図表12-13> 母子、寡婦、父子家庭等の福祉や社会参加の支援を充実する



10 高齢者の福祉を充実する

「施設・在宅の介護サービスの充実」(47.3%)が約5割で最も高く、次いで、「高齢者にとって住みやすいまちづくりの支援」(29.3%)が約3割となっている。(図表12-14)

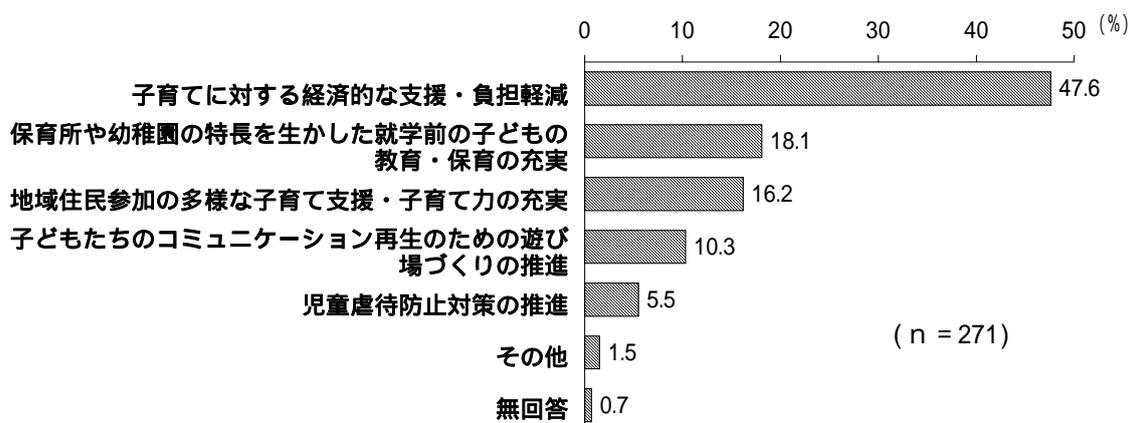
<図表12-14> 高齢者の福祉を充実する



11 次世代を担う子どもの育成支援を充実する

「子育てに対する経済的な支援・負担軽減」(47.6%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「保育所や幼稚園の特長を生かした就学前の子どもへの教育・保育の充実」(18.1%)が約2割、僅差で「地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実」(16.2%)が1割台半ばとなっている。(図表12-15)

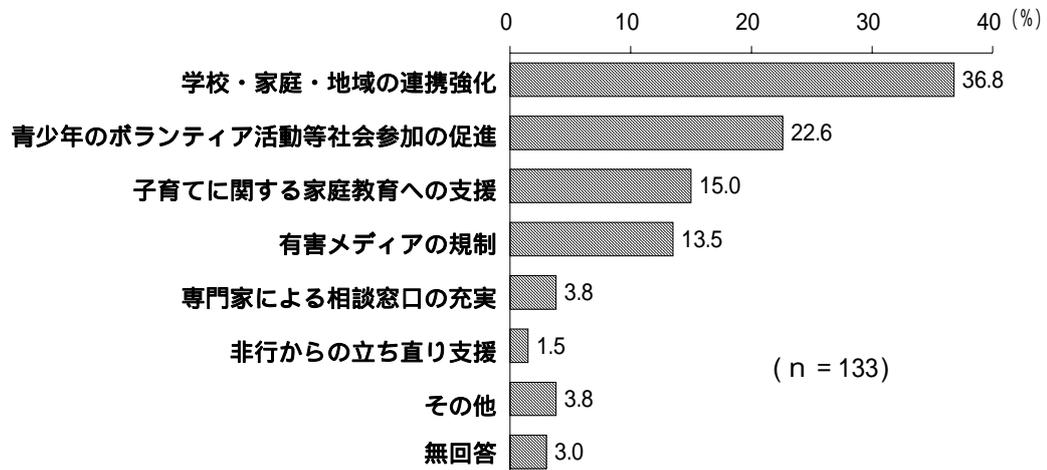
<図表12-15> 次世代を担う子どもの育成支援を充実する



12 青少年を健全に育てる

「学校・家庭・地域の連携強化」(36.8%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「青少年のボランティア活動等社会参加の促進」(22.6%)が2割を超える。(図表12-16)

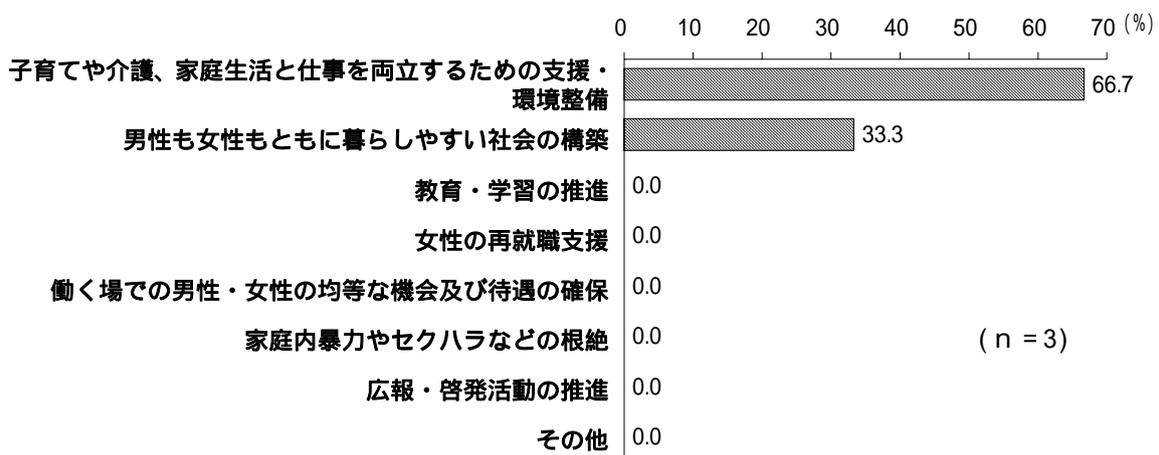
<図表12-16> 青少年を健全に育てる



13 男女共同参画を推進する

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12-17)

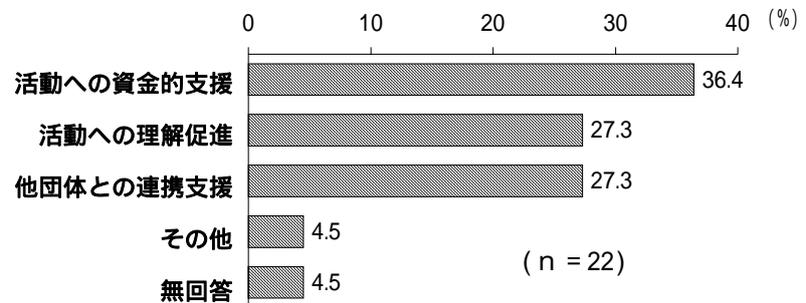
<図表12-17> 男女共同参画を推進する



14 NPOやボランティアへの活動支援を充実する

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12 - 18)

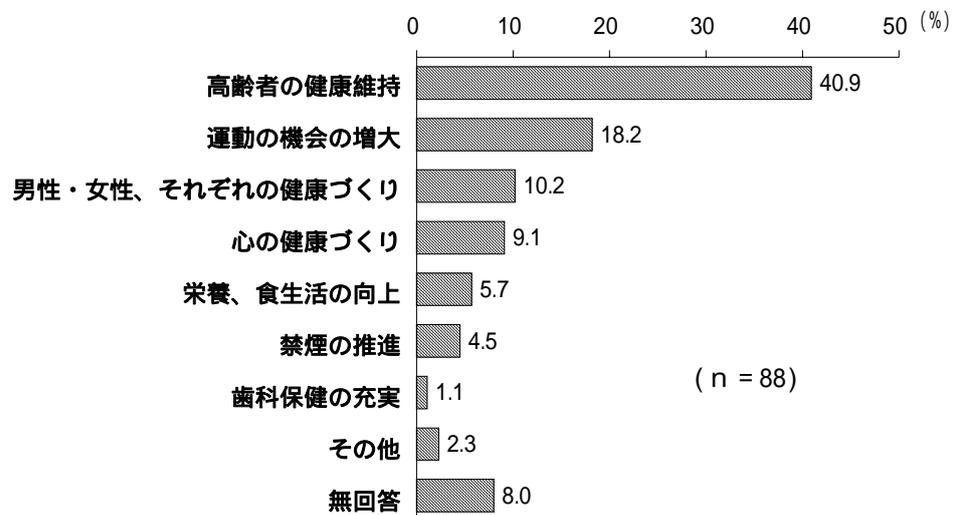
<図表12 - 18> NPOやボランティアへの活動支援を充実する



15 健康づくりをすすめて、病気を予防する

「高齢者の健康維持」(40.9%)が4割で最も高い。次いで、「運動の機会の増大」(18.2%)が約2割である。(図表12 - 19)

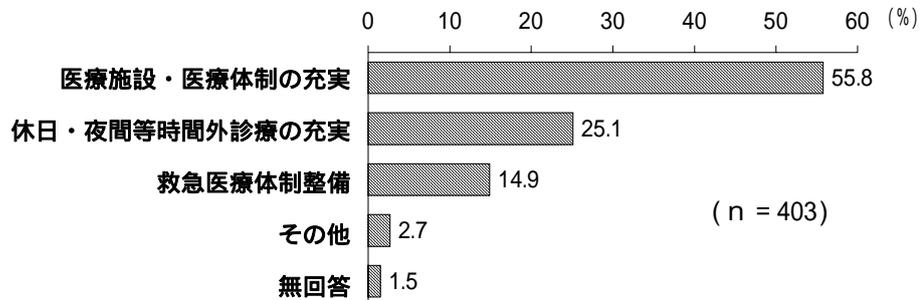
<図表12 - 19> 健康づくりをすすめて、病気を予防する



16 医療サービス体制を整備する

「医療施設・医療体制の充実」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「休日・夜間等時間外診療の充実」(25.1%)が2割台半ばとなっている。(図表12-20)

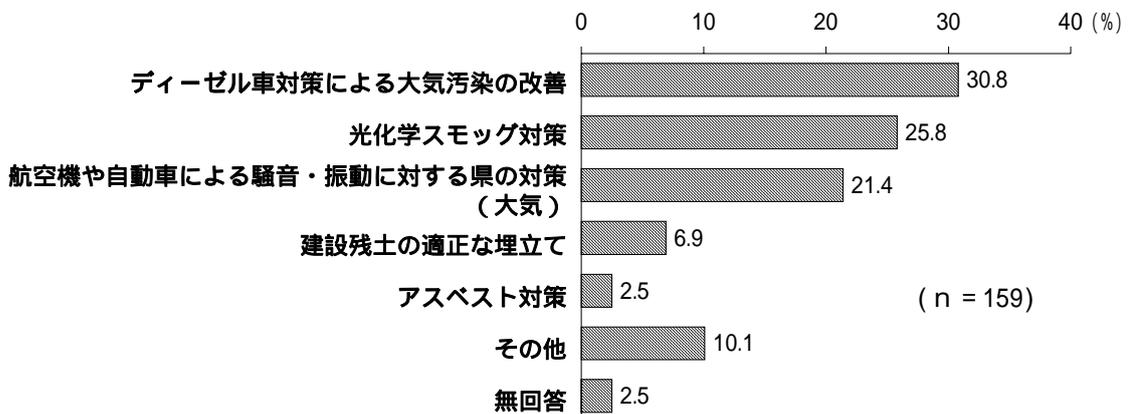
<図表12-20> 医療サービス体制を整備する



17 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる

「ディーゼル車対策による大気汚染の改善」(30.8%)が3割で最も高くなっている。次いで、「光化学スモッグ対策」(25.8%)が2割台半ばで、「航空機や自動車による騒音・振動に対する県の対策(大気)」(21.4%)も2割を超える。(図表12-21)

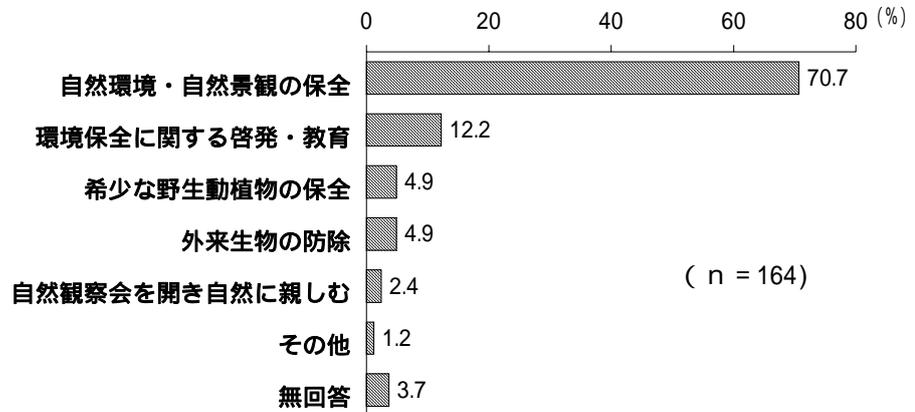
<図表12-21> 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる



18 自然を守り、緑を育てる

「自然環境・自然景観の保全」(70.7%)が7割で最も高くなっている。(図表12-22)

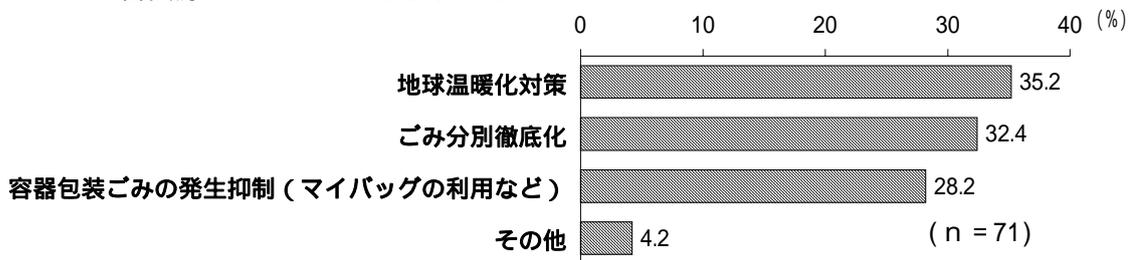
<図表12-22> 自然を守り、緑を育てる



19 省資源やリサイクルをすすめる

「地球温暖化対策」(35.2%)が3割台半ばで、僅差で「ごみ分別徹底化」(32.4%)が続く。「容器包装ごみの発生抑制(マイバグの利用など)」(28.2%)は約3割である。(図表12-23)

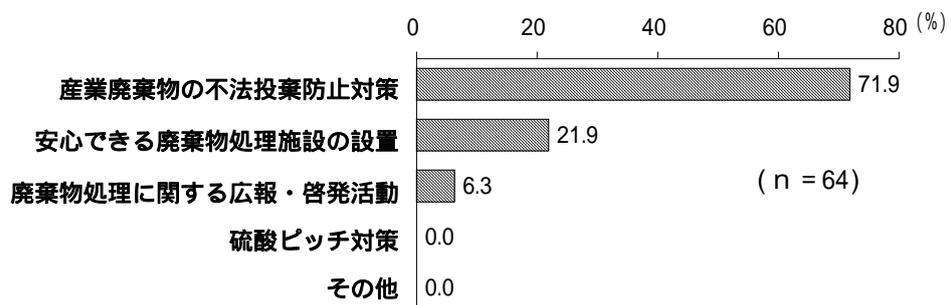
<図表12-23> 省資源やリサイクルをすすめる



20 廃棄物対策をすすめる

「産業廃棄物の不法投棄防止対策」(71.9%)が7割を超え最も高い。(図表12-24)

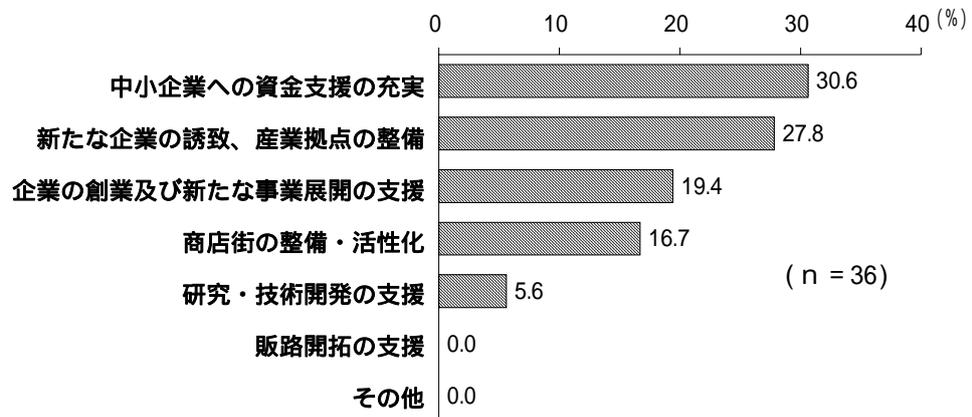
<図表12-24> 廃棄物対策をすすめる



21 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する

「中小企業への資金支援の充実」(30.6%)が3割で最も高く、僅差で「新たな企業の誘致、産業拠点の整備」(27.8%)が続く。このほか、「企業の創業及び新たな事業展開の支援」(19.4%)が約2割である。(図表12-25)

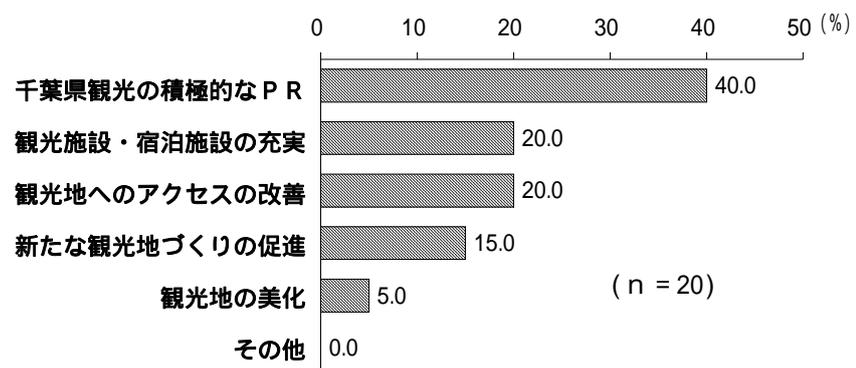
<図表12-25> 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する



22 観光を振興する

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12-26)

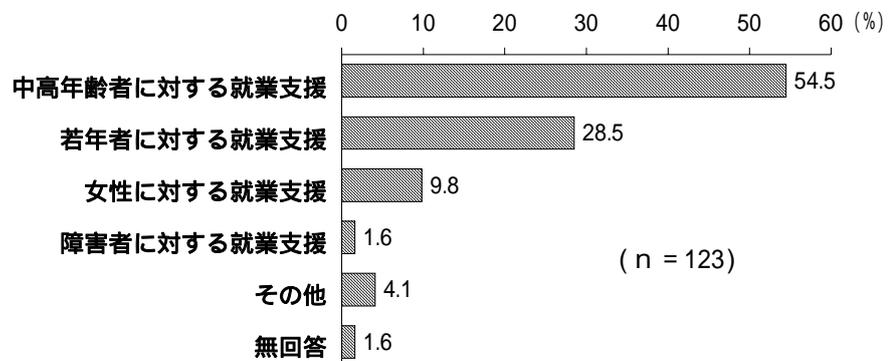
<図表12-26> 観光を振興する



23 雇用の場を広げる

「中高年齢者に対する就業支援」(54.5%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「若年者に対する就業支援」(28.5%)が約3割である。(図表12-27)

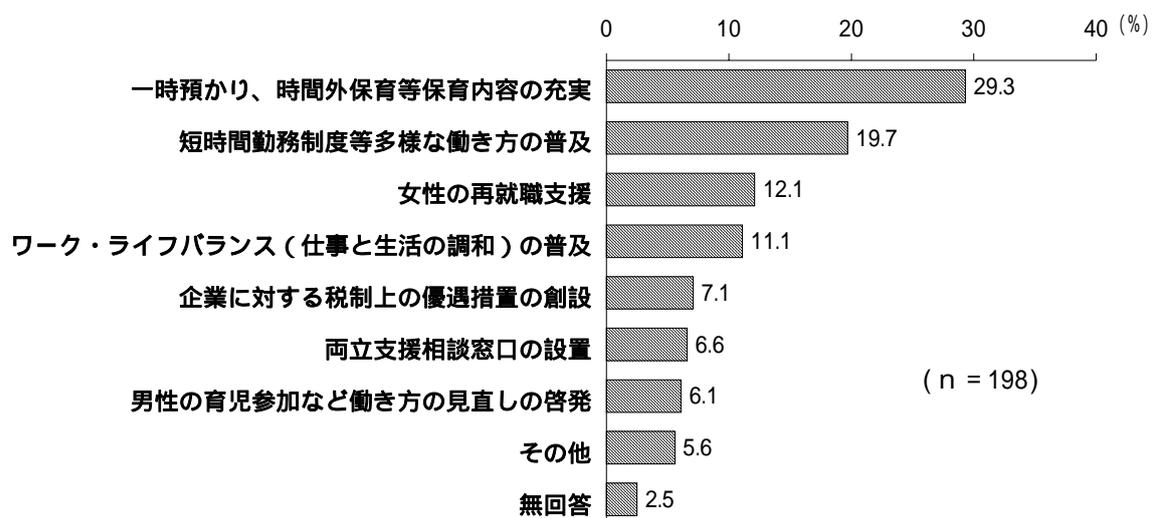
<図表12-27> 雇用の場を広げる



24 仕事と子育てが両立する働き方を実現する

「一時預かり、時間外保育等保育内容の充実」(29.3%)が約3割で最も高く、次いで、「短時間勤務制度等多様な働き方の普及」(19.7%)が約2割である。(図表12-28)

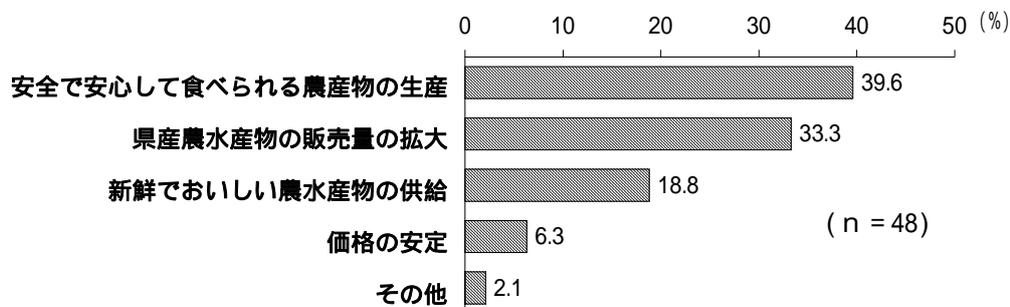
<図表12-28> 仕事と子育てが両立する働き方を実現する



25 農林水産業を振興し新鮮な農水産物を供給する

「安全で安心して食べられる農産物の生産」(39.6%)が約4割で最も高く、次いで、「県産農水産物の販売量の拡大」(33.3%)が3割台半ばとなっている。また、「新鮮でおいしい農水産物の供給」(18.8%)が約2割である。(図表12-29)

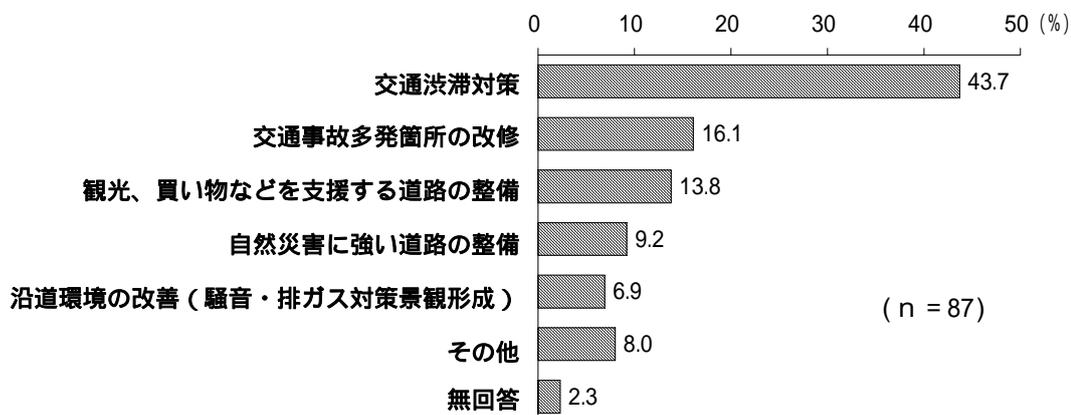
<図表12-29> 農林水産業を振興し新鮮な農水産物を供給する



26 道路を整備する

「交通渋滞対策」(43.7%)が4割台半ばで最も高い。(図表12-30)

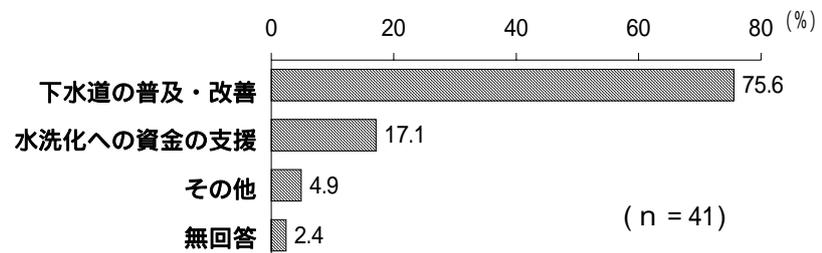
<図表12-30> 道路を整備する



27 下水道を整備する

「下水道の普及・改善」(75.6%)が7割台半ばで最も高い。(図表12-31)

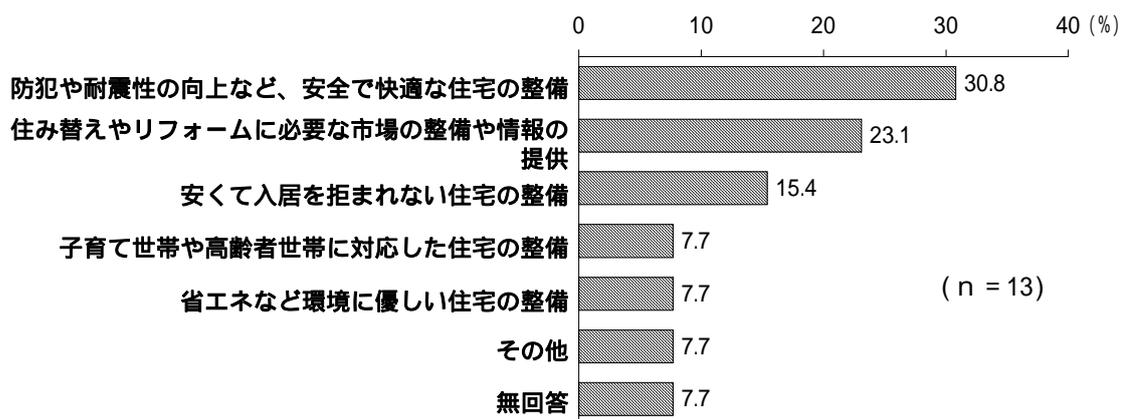
<図表12-31> 下水道を整備する



28 住宅対策を充実する

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12-32)

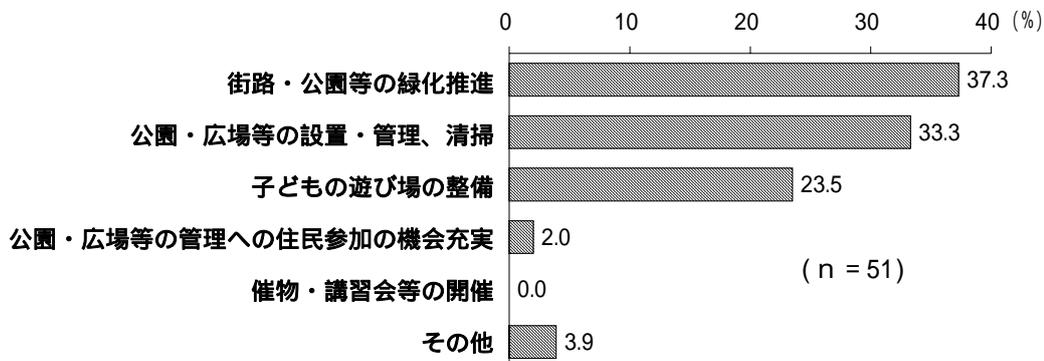
<図表12-32> 住宅対策を充実する



29 公園・緑地・水辺を整備する

「街路・公園等の緑化推進」(37.3%)が約4割で最も高く、次いで、「公園・広場等の設置・管理、清掃」(33.3%)が3割台半ばとなっている。また、「子どもの遊び場の整備」(23.5%)が2割台半ばとなっている。(図表12-33)

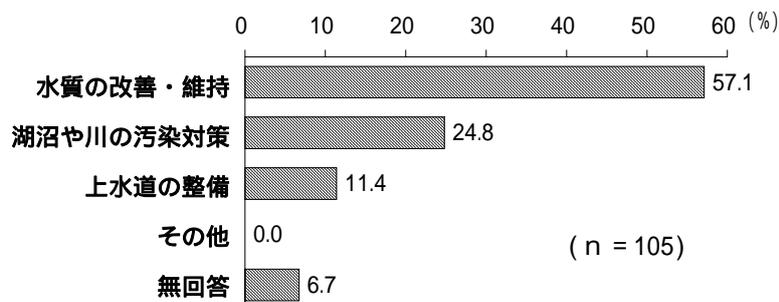
<図表12-33> 公園・緑地・水辺を整備する



30 安心して飲める良質な水道水を供給する

「水質の改善・維持」(57.1%)が約6割で最も高く、次いで、「湖沼や川の汚染対策」(24.8%)が2割台半ばとなっている。(図表12-34)

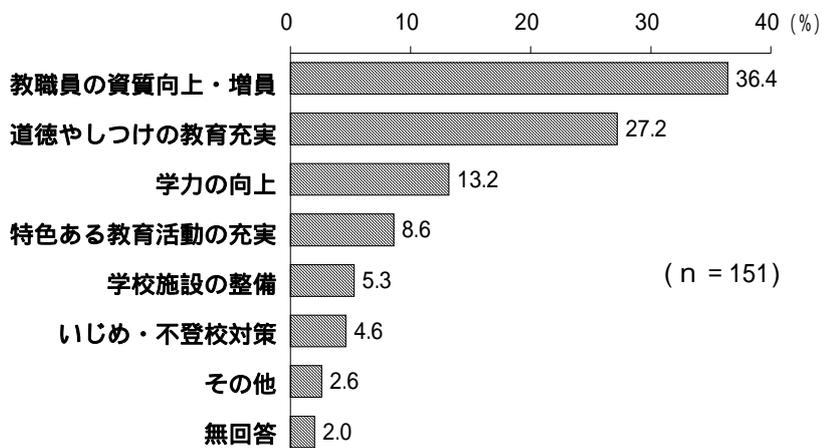
<図表12-34> 安心して飲める良質な水道水を供給する



31 学校教育を充実する

「教職員の資質向上・増員」(36.4%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「道徳やしつけの教育充実」(27.2%)が約3割となっている。(図表12-35)

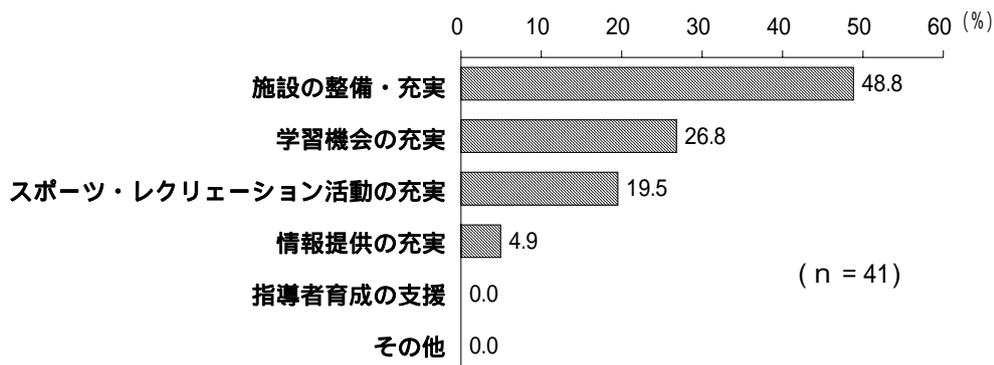
<図表12-35> 学校教育を充実する



32 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する

「施設の整備・充実」(48.8%)が約5割で最も高く、次いで、「学習機会の充実」(26.8%)が2割台半ばとなっている。(図表12-36)

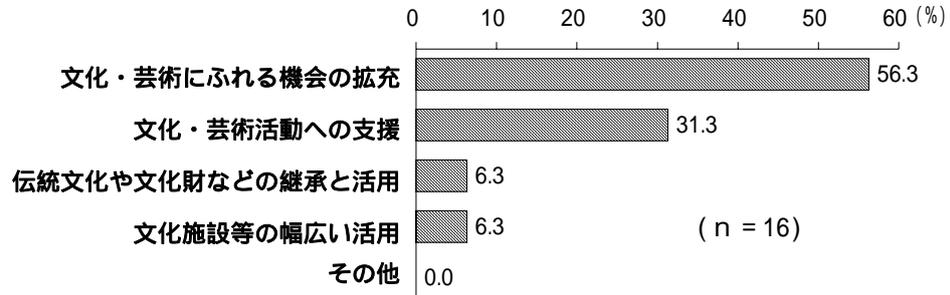
<図表12-36> 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する



33 芸術・文化活動を振興する

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。(図表12-37)

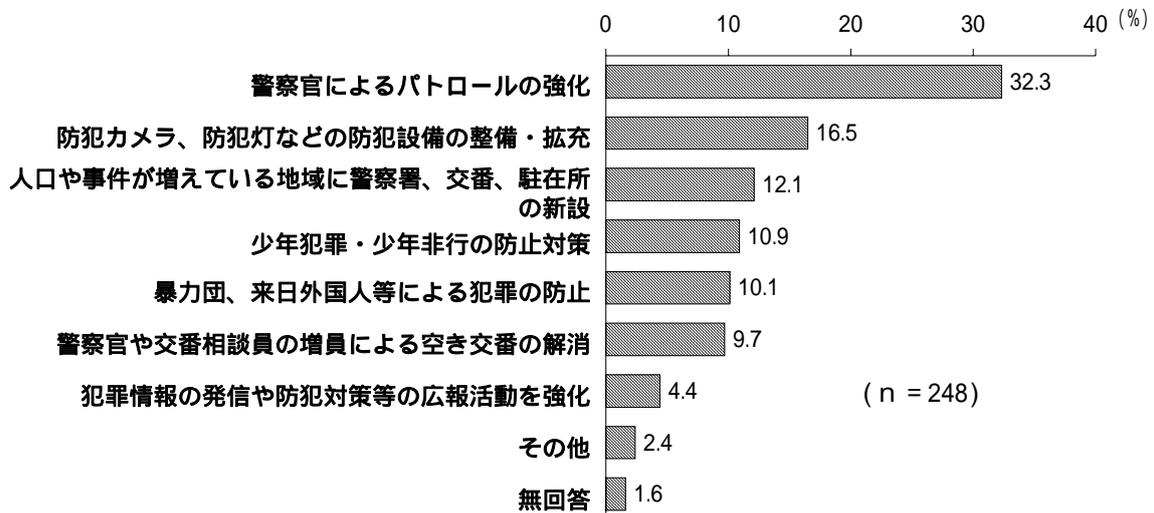
<図表12-37> 芸術・文化活動を振興する



34 犯罪防止対策をすすめる

「警察官によるパトロールの強化」(32.3%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「防犯カメラ、防犯灯などの防犯設備の整備・拡充」(16.5%)が1割台半ばで、「人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所の新設」(12.1%)が1割を超える。(図表12-38)

<図表12-38> 犯罪防止対策をすすめる



35 IT（情報通信技術）を生かした社会づくりをすすめる

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。（図表12 - 39）

<図表12 - 39> IT（情報通信技術）を生かした社会づくりをすすめる

